

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄							備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更							
フリガナ設置者	ガッコウホコジシキョウガクエン 学校法人 行吉学園							
フリガナ大学の名称	コウベジョウシダガク 神戸女子大学 (Kobe Women's University)							
大学本部の位置	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号							
大学の目的	建学の精神「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」に基づき、自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育成する。							
新設学部等の目的	近年、様々な心理的問題を抱えた人々に対するカウンセリングや心理療法、心理検査、地域支援などに対する需要が高まり、それらを行える臨床心理の専門家の育成が求められるようになった。また、情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究し、社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる人材が求められている。これらの時代的要請に応えるために、神戸女子大学では、文学部国際教養学科を基礎学部等とするとともに文学部教育学科心理学コースを廃止し、その教育課程を発展的改組して心理学部心理学科を設置し、収容定員を変更する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	家政学部 【Faculty of Home Economics】	年	人	年次人	人		年月 第年次	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号
	家政学科 【Department of Home Economics】	4	80	—	320	学士 (家政学) 【Bachelor of Science in Home Economics】	昭和41年4月 第1年次	
	管理栄養士養成課程 【Dietician Training Course】	4	150	3年次 10	620	学士 (栄養学) 【Bachelor of Science in Nutrition】	昭和43年4月 第1年次	同上
	文学部 【Faculty of Literature】							
	日本語日本文学科 【Department of Japanese】	4	60	—	240	学士 (日本語日本文学) 【Bachelor of Arts in Japanese】	平成18年4月 第1年次	同上
	英語英米文学科 【Department of English】	4	60	—	240	学士 (英語英米文学) 【Bachelor of Arts in English】	平成18年4月 第1年次	同上
	国際教養学科 【Global-Local Studies Department】	4	60	—	240	学士 (国際教養学) 【Bachelor of Arts in Global Local Studies】	平成30年4月 第1年次	同上
	史学科 【Department of History】	4	60	—	240	学士 (歴史学) 【Bachelor of Arts in History】	昭和44年4月 第1年次	同上
	教育学科 【Department of Education】	4	165	—	660	学士 (教育学) 【Bachelor of Arts in Education】	昭和44年4月 第1年次	同上
健康福祉学部 【Faculty of Health and Welfare】								
社会福祉学科 【Department of Social Welfare】	4	80	—	320	学士 (社会福祉学) 【Bachelor of Arts in Social Welfare】	平成18年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号	

	健康スポーツ栄養学科 【Department of Health, Sports and Nutrition】	4	80	—	320	学士 (栄養学) 【Bachelor of Science in Nutrition】	平成21年4月 第1年次	同上	令和3年4月届出予定	
	看護学部 【Faculty of Nursing】 看護学科 【Department of Nursing】	4	90	—	360	学士 (看護学) 【Bachelor of Nursing】	平成27年4月 第1年次	同上		
	心理学部 【Faculty of Psychology】 心理学科 【Department of Psychology】	4	80 (0)	—	320 (0)	学士 (心理学) 【Bachelor of Psychology】	令和4年4月 第1年次	同上		
	計		965 (885)	3年次 10	3,880 (3,560)					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設	家政学部 家政学科		人	人	人	人	人	人	
				6 (6)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (11)	4 (4)	9 (9)
		管理栄養士養成課程		9 (11)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (21)	8 (8)	21 (21)
		文学部	日本語日本文学科	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	12 (12)
		英語英米文学科		3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	15 (15)
		国際教養学科		4 (4)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	17 (17)
		史学科		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)
		教育学科		16 (17)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	27 (28)	2 (2)	103 (103)
		健康福祉学部	社会福祉学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	2 (2)	13 (13)
		健康スポーツ栄養学科		6 (7)	4 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (13)	3 (3)	18 (18)
		看護学部	看護学科	11 (11)	5 (5)	6 (6)	15 (15)	37 (37)	0 (3)	22 (22)
		心理学部	心理学科	7 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	11 (9)	2 (2)	76 (76)
計		80 (82)	45 (47)	17 (17)	17 (17)	159 (163)	21 (24)	— (—)		
既 設 分	なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
	計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		80 (82)	45 (47)	17 (17)	17 (17)	159 (163)	21 (24)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		人		人		人			
			84 (84)		56 (56)		140 (140)			
	技 術 職 員		3 (3)		10 (10)		13 (13)			
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		15 (15)		17 (17)			
そ の 他 の 職 員		2 (2)		11 (11)		13 (13)				
計		91 (91)		92 (92)		183 (183)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	神戸女子短期大 学（収容定員 480人、必要面 積4,800㎡）と 共用					
	校 舎 敷 地	60,601.00㎡	4,174.00㎡	17,849.56㎡	82,624.56㎡						
	運 動 場 用 地	9,999.00㎡	0.00㎡	6,675.28㎡	16,674.28㎡						
	小 計	70,600.00㎡	4,174.00㎡	24,524.84㎡	99,298.84㎡						
	そ の 他	62,789.12㎡	0.00㎡	0.00㎡	62,789.12㎡						
合 計	133,389.12㎡	4,174.00㎡	24,524.84㎡	162,087.96㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	神戸女子短期大 学（収容定員 480人、必要面 積5,450㎡）と 共用					
		48,443.29㎡ (48,443.29㎡)	7,085.46㎡ (7,085.46㎡)	21,253.33㎡ (21,253.33㎡)	76,782.08㎡ (76,782.08㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	51室	38室	71室	7室 (補助職員0人)	2室 (補助職員1人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体					
		大学全体		187 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
		大学全体	285,768 [57,072] (285,768 [57,072])	5,205 [2,655] (5,205 [2,655])	2,135 [2,132] (2,135 [2,132])	3,512 (3,512)	7,762 (7,762)	19 (19)			
	計	285,768 [57,072] (285,768 [57,072])	5,205 [2,655] (5,205 [2,655])	2,135 [2,132] (2,135 [2,132])	3,512 (3,512)	7,762 (7,762)	19 (19)				
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体				
		8,049.23㎡	701席	410,000冊							
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体			
		5,794.54㎡	テニスコート5面								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コスト含 む)を含む	
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—	—		
		共同研究費等		43,386千円	43,386千円	43,386千円	43,386千円	—	—		
		図書購入費	55,840千円	55,840千円	55,840千円	55,840千円	55,840千円	—	—		
	設備購入費	106,905千円	106,905千円	106,905千円	106,905千円	106,905千円	—	—			
	学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			家政学部(家政学 科) 家政学部(管理栄 養士養成課程) 文学部(日本語日 本文学科, 英語英 米文学科, 国際教 養学科, 史学科) 文学部(教育学科) 健康福祉学部(社 会福祉学科) 健康福祉学部(健 康スポーツ栄養学 科) 看護学部(看護学 科) 心理学部(心理学 科)
		1,410千円		1,200千円	1,200千円	1,200千円	—	—			
		1,450千円		1,250千円	1,250千円	1,250千円	—	—			
		1,300千円		1,070千円	1,070千円	1,070千円	—	—			
		1,370千円		1,150千円	1,150千円	1,150千円	—	—			
1,370千円		1,180千円	1,180千円	1,180千円	—	—					
1,430千円		1,220千円	1,220千円	1,220千円	—	—					
1,900千円		1,650千円	1,650千円	1,650千円	—	—					
1,370千円		1,150千円	1,150千円	1,150千円	—	—					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等								

既設大学等の状況	大学の名称		神戸女子大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	家政学部	年	人	年次人	人						
	家政学科	4	80	—	320	学士 (家政学)	1.01 1.10	昭和41年度	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号	令和3年度入学定員増(20)	
	管理栄養士養成課程	4	150	3年次10	620	学士 (栄養学)	0.96	昭和43年度			
	文学部						1.11				
	日本語日本文学科	4	60	—	240	学士 (日本語日本文学)	1.11	平成18年度			
	英語英米文学科	4	60	—	240	学士 (英語英米文学)	1.10	平成18年度			
	国際教養学科	4	60	—	180	学士 (国際教養学)	1.41	平成30年度			
	史学科	4	60	—	240	学士 (歴史学)	1.07	昭和44年度			
	教育学科	4	165	—	660	学士 (教育学)	1.05	昭和44年度			
	健康福祉学部						0.93		兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号		令和元年度入学定員増(10)
	社会福祉学科	4	80	—	320	学士 (社会福祉学)	0.89	平成18年度			
	健康スポーツ栄養学科	4	80	—	320	学士 (栄養学)	0.97	平成21年度			
	看護学部						1.04				
	看護学科	4	90	—	350	学士 (看護学)	1.04	平成27年度			
既設大学等の状況	大学の名称		神戸女子大学大学院								所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	家政学研究科 (博士前期課程)	年	人	年次人	人		倍				
	食物栄養学専攻	2	8	—	16	修士 (食物栄養学)	0.50	昭和59年度	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号		
	生活造形学専攻	2	6	—	12	修士 (生活造形学)	0.00	平成7年度			
	(博士後期課程)										
	食物栄養学専攻	3	2	—	6	博士 (食物栄養学)	0.00	平成元年度			
	生活造形学専攻	3	2	—	6	博士 (生活造形学)	0.16	平成9年度			
	文学研究科 (博士前期課程)										
	日本文学専攻	2	4	—	8	修士 (日本文学)	0.00	昭和61年度			
	英文学専攻	2	4	—	8	修士 (英文学)	0.00	昭和61年度			
	日本史学専攻	2	4	—	8	修士 (日本史学)	0.25	昭和61年度			
	教育学専攻	2	4	—	8	修士 (教育学)	0.25	昭和62年度			
	(博士後期課程)										
	日本文学専攻	3	2	—	6	博士 (日本文学)	0.00	平成5年度			
	英文学専攻	3	2	—	6	博士 (英文学)	0.16	平成4年度			
日本史学専攻	3	2	—	6	博士 (日本史学)	0.00	平成3年度				
教育学専攻	3	2	—	6	博士 (教育学)	0.33	平成元年度				
健康栄養学研究科 (修士課程)											
健康栄養学専攻	2	4	—	8	修士 (健康栄養学)	1.00	平成28年度	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号			
看護学研究科 (博士前期課程)											
看護学専攻	2	8	—	16	修士 (看護学)	0.99	令和元年度				
(博士後期課程)											
看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	1.33	令和元年度				
附属施設の概要	名称：ハワイセミナーハウス 目的：国際交流の推進 所在地：1720 YOUNG St., Honolulu, Hawaii, 96826 U.S.A 設置年月：平成元年6月14日 規模等：土地683.65㎡、建物1,074.67㎡										

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(心理学部心理学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
基幹科目	基礎 I	1前		2		○								兼1		
	基礎 II	1後		2		○								兼1		
	基礎 III	2後		2		○								兼1		
	女性 I	1前		2		○								兼1		
女性	女性 II	1後		2		○								兼1		
	女性 III	1前		2		○								兼5 オムニバス		
	女性 IV	1後		2		○								兼1		
	地域	神戸学	1前		2		○							兼3 オムニバス		
	地域学習	1通		2			○			1						
	小計 (9科目)	—	0	18	0		—			1	0	0	0	0	兼12	
語学科目 (世界の言語)	英語	英語 I-1	1前	1				○							兼2	
		英語 I-2	1後	1				○							兼2	
		英語 II-1	2前		1			○							兼4	
		英語 II-2	2後		1			○							兼3	
		外国語コミュニケーション I	3前		1			○							兼3	
		外国語コミュニケーション II	3後		1			○							兼3	
		教養英語 I-1	1前		1			○							兼2	
		教養英語 I-2	1後		1			○							兼2	
		教養英語 II-1	2前		1			○							兼2	
		教養英語 II-2	2後		1			○							兼2	
	初習言語		ドイツ語 I-1	1前		1			○							兼1
			ドイツ語 I-2	1後		1			○							兼1
			フランス語 I-1	1前		1			○							兼1
			フランス語 I-2	1後		1			○							兼1
			フランス語会話 I	2後		1			○							兼1
			フランス語講読 I	2前		1			○							兼1
		中国語 I-1	1前		1			○							兼1	
		中国語 I-2	1後		1			○							兼1	
		中国語会話 I	2後		1			○							兼1	
		中国語講読 I	2前		1			○							兼1	
		朝鮮語 I-1	1前		1			○							兼2	
		朝鮮語 I-2	1後		1			○							兼2	
		朝鮮語会話 I	2後		1			○							兼1	
		朝鮮語講読 I	2前		1			○							兼1	
		イタリア語 I-1	1前		1			○							兼1	
		イタリア語 I-2	1後		1			○							兼1	
	イタリア語会話 I	2後		1			○							兼1		
	イタリア語講読 I	2前		1			○							兼1		
	小計 (28科目)	—	2	26	0		—			0	0	0	0	0	兼15	
情報科目	情報 I	1前	2					○		1		1				
	情報 II	1後	2					○		1		1				
	小計 (2科目)	—	4	0	0		—			1	0	1	0	0		
ウェルネス科目	基礎トレーニング	1前	1					○							兼1	
	スポーツと健康の科学	2前	2				○								兼1	
	スポーツ実技 I-1 (球技)	1後		1				○							兼1	
	スポーツ実技 I (バドミントン)	1後又は2前		1				○							兼1	
	スポーツ実技 II (バレーボール)	1後又は2前		1				○							兼1	
	スポーツ実技 III (卓球)	1後又は2前		1				○							兼1	
	スポーツ実技 IV (テニス)	1後又は2前		1				○							兼1	
	スポーツ実技 V (学外)	1後又は2前		1				○							兼3	
小計 (8科目)	—	3	6	0		—			0	0	0	0	0	兼5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教養科目	人 と 思 想	哲学	1前	2		○										兼1
		宗教	1前	2		○										兼1
	人 間 心 理 と 行 動	心理学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		心とからだの健康	1後	2		○										兼2 オムニバス
	言 葉 と 文 学	言葉と文学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅱ	1後	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅲ	1後	2		○										兼1
		手話Ⅰ	1前	2		○										兼1
		手話Ⅱ	1後	2		○										兼1
	歴 史	歴史Ⅰ	1前	2		○										兼1
		歴史Ⅱ	1後	2		○										兼1
		歴史Ⅲ	1後	2		○										兼1
	現 代 社 会	日本国憲法	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅰ	1後	2		○				1						兼1
		現代社会Ⅱ	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅲ	1後	2		○										兼1
		現代社会Ⅳ	1後	2		○										兼1
	数 学	数学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		数学Ⅱ	1後	2		○										兼1
	環 境 と 自 然	自然と環境Ⅰ	1後	2		○										兼1
		自然と環境Ⅱ	1前	2		○										兼1
	芸 術	芸術Ⅰ	1前	2		○										兼1
		芸術Ⅱ	1前	2		○										兼1
	衣 ・ 食 ・ 住	衣・食・住Ⅰ	1前	2		○										兼1
		衣・食・住Ⅱ	1後	2		○										兼5 オムニバス
	教 養 総 合	教養総合Ⅰ	1前	2		○										兼2
		教養総合Ⅱ	1後	2		○										兼3
		小計(28科目)	—	0	56	0		—			1	0	0	0	0	兼29
演 習 科 目	教養演習Ⅰ	1後	2				○								兼2 共同	
	教養演習Ⅱ	2前	2				○								兼2 共同	
	小計(2科目)	—	0	4	0		—			0	0	0	0	0	兼2	
専 門 科 目	心 理 学 基 幹 科 目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○			1						
		心理学概論Ⅱ	1後	2			○			1						
		社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	1前	2			○				1					
		神経・生理心理学	1後	2			○									兼1
		知覚・認知心理学	1後	2			○				1					兼1
		教育・学校心理学	1後	2			○									
		産業・組織心理学	1後	2			○				1					
		学習・言語心理学	2前	2			○					1				
		発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	2前	2			○					1				
		人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	2前	2			○									兼1
		心理学研究法	2前	2			○						1			
		心理学統計法	2前	2			○					1				
		臨床心理学概論	2後	2			○				1					
		感情・人格心理学	2後	2			○									兼1
	小計(14科目)	—	28	0	0		—			4	2	1	1	0	兼4	
心 理 学 演 習 科 目	心理学基礎演習	1前	2				○			7	2	1	1			
	心理学実験演習Ⅰ	1後	2				○				1		1	1	共同	
	心理学実験演習Ⅱ	2前	2				○						1	1	兼1	
	上級心理学実験演習Ⅰ	3前	2				○				1			1		
	上級心理学実験演習Ⅱ	3後	2				○						1	1		
	心理学研究総合演習Ⅰ	3前	2				○			7	1	1				
	心理学研究総合演習Ⅱ	3後	2				○			7	1	1				
	専門セミナーⅠ	3前	2				○			7	2	1	1			
	専門セミナーⅡ	3後	2				○			7	2	1	1			
	心理演習	3後	2				○			2	1				共同	
	卒業研究Ⅰ	4前	4				○			7	2	1	1			
卒業研究Ⅱ	4後	4				○			7	2	1	1				
小計(12科目)	—	22	6	0		—			7	2	1	1	1	兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	心の脳科学	2後		2		○			1							
	公認心理師の職責	2後		2		○										兼1
	発達心理学B (乳幼児期・児童期)	2後		2		○										兼1
	障がい児・障がい者心理学 (障害者・障害児心理学)	2後		2		○			1							
	心理学的支援法	3前		2		○				1						
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)	3前		2		○						1				
	精神医学 (精神疾患とその治療)	3前		2		○			1							
	カウンセリング	3前		2		○			1							
	心理的アセスメント	3前		2		○										兼1
	健康・医療心理学	3後		2		○										兼1
	心理検査法実習	3後		1				○		1				1		
	関係行政論	4前		2		○										兼1
	司法・犯罪心理学	4前		2		○										兼1
	臨床心理実習Ⅰ	4前		1				○	3	1		1	1	1		共同
	臨床心理実習Ⅱ	4後		1				○	3	1		1	1	1		共同
	福祉心理学	4後		2		○										兼1
	サービスデザイン心理学	2後		2		○										兼1
	行動経済学概論	2後		2		○			1							
	産業カウンセリング	3前		2		○										兼1
	経営組織論	3前		2		○			1							
	心理調査概論	3前		2		○			1							
	消費者心理学	3後		2		○			1							
	ビジネスコミュニケーション	3後		2		○										兼1
	プロモーションの心理学	3後		2		○										兼1
	ブランドと人間行動	4前		2		○										兼1
	交渉の心理学	4後		2		○										兼1
	メディア心理学Ⅰ	2後		2		○			1							
	メディア心理学Ⅱ	3前		2		○			1							
	メディア倫理	2後		2		○			1							
	メディアと人間行動	3前		2		○										兼2
	認知システム論	3後		2		○										兼1
	メディアとデザインの心理学	4前		2		○										兼2
	広告心理学	4後		2		○			1							兼2
小計 (33科目)		—	0	63	0			—	6	1	0	1	1		兼12	
関連科目	データサイエンス入門	1前		2		○						1				
	コンピュータネットワーク	1後		2		○						1		1		
	プログラミング	2前		2		○			1							
	女性とビジネス	2後		2		○									兼1	
	多変量解析	2後		2		○									兼1	
	経営学概論	3前		2		○			1							
	マーケティング	3前		2		○									兼1	
	ITビジネス	3後		2		○			1							
人間行動ビッグデータ解析	3後		2		○						1					
小計 (9科目)		—	0	18	0			—	2	0	1	0	1		兼2	
合計 (145科目)		—	59	197	0			—	7	2	1	1	2		兼76	
学位又は称号		学士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
全学共通教養科目20単位以上、専門科目80単位以上、全学共通教養科目又は専門科目を24単位以上、合計124単位を修得すること。 なお、全学共通教養科目については、語学科目 (世界の言語) のうち「英語Ⅰ-1」、「英語Ⅰ-2」を含む6単位以上、またウェルネス科目は3単位以上とする。 (履修科目の登録の上限：46単位 (年間))								1 学年の学期区分			2期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業時間			90分					

学校法人吉学園 設置認可等に関わる組織の移行表

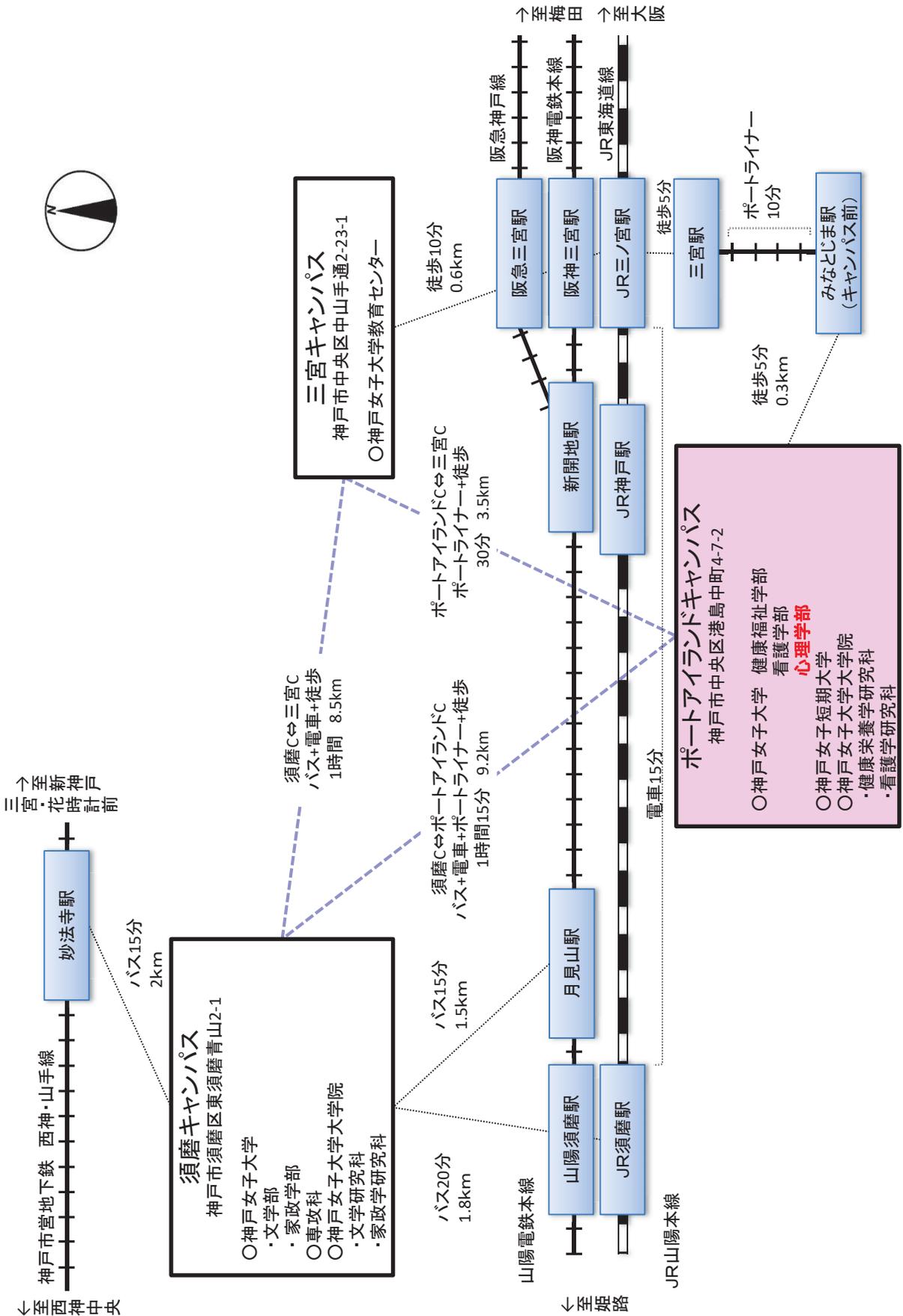
令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸女子大学				神戸女子大学				
家政学部				家政学部				
家政学科	80	—	320	家政学科	80	—	320	
管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	管理栄養士養成課程	150	3年次 10	620	
文学部				文学部				
日本語日本文学科	60	—	240	日本語日本文学科	60	—	240	
英語英米文学科	60	—	240	英語英米文学科	60	—	240	
国際教養学科	60	—	240	国際教養学科	60	—	240	
史学科	60	—	240	史学科	60	—	240	
教育学科	165	—	660	教育学科	165	—	660	
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	—	320	社会福祉学科	80	—	320	
健康スポーツ栄養学科	80	—	320	健康スポーツ栄養学科	80	—	320	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	90	—	360	
心理学部				心理学部				
				心理学科	80	—	320	学部の設置（届出）
計	885	3年次 10	3560	計	965	3年次 10	3880	
神戸女子大学大学院				神戸女子大学大学院				
家政学研究科				家政学研究科				
食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	食物栄養学専攻 (M)	8	—	16	
食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	食物栄養学専攻 (D)	2	—	6	
生活造形学専攻 (M)	6	—	12	生活造形学専攻 (M)	6	—	12	
生活造形学専攻 (D)	2	—	6	生活造形学専攻 (D)	2	—	6	
文学研究科				文学研究科				
日本文学専攻 (M)	4	—	8	日本文学専攻 (M)	4	—	8	
日本文学専攻 (D)	2	—	6	日本文学専攻 (D)	2	—	6	
英文学専攻 (M)	4	—	8	英文学専攻 (M)	4	—	8	
英文学専攻 (D)	2	—	6	英文学専攻 (D)	2	—	6	
日本史学専攻 (M)	4	—	8	日本史学専攻 (M)	4	—	8	
日本史学専攻 (D)	2	—	6	日本史学専攻 (D)	2	—	6	
教育学専攻 (M)	4	—	8	教育学専攻 (M)	4	—	8	
教育学専攻 (D)	2	—	6	教育学専攻 (D)	2	—	6	
健康栄養学研究科				健康栄養学研究科				
健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	健康栄養学専攻 (M)	4	—	8	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻 (M)	8	—	16	看護学専攻 (M)	8	—	16	
看護学専攻 (D)	3	—	9	看護学専攻 (D)	3	—	9	
計	57		129	計	57		129	
神戸女子短期大学				神戸女子短期大学				
総合生活学科	100	—	200	総合生活学科	100	—	200	
食物栄養学科	60	—	120	食物栄養学科	60	—	120	
幼児教育学科	80	—	160	幼児教育学科	80	—	160	
計	240		480	計	240		480	

①都道府県内における位置関係の図面



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）を使用したものである。
（承認番号 平19総使、第82号）

②最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



③校舎、運動場等の配置図

ポートアイランドキャンパス



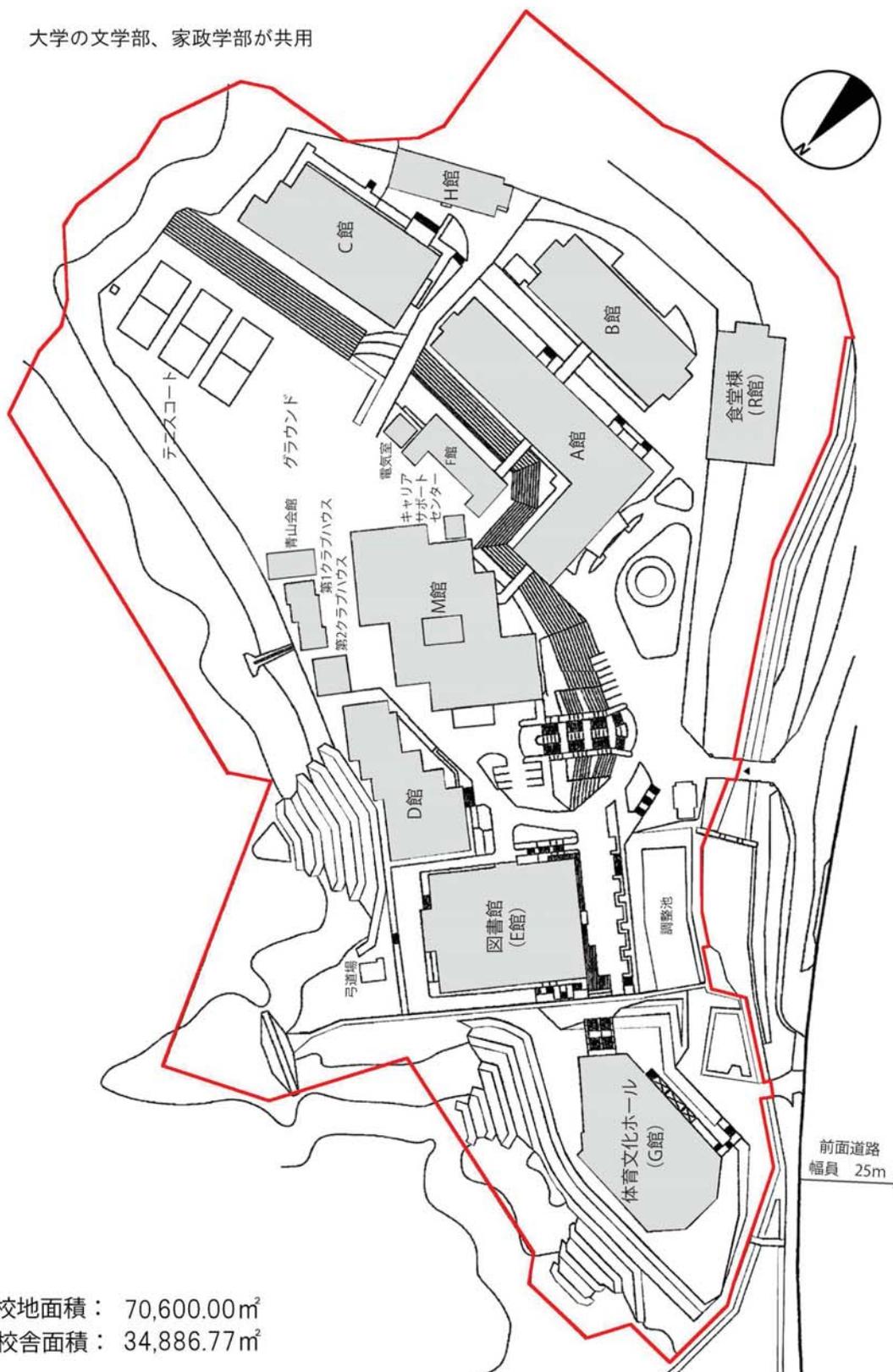
ポートアイランドキャンパス

大学の健康福祉学部、看護学部、心理学部
及び短期大学が共用

校地面積：24,524.84㎡
校舎面積：34,809.85㎡

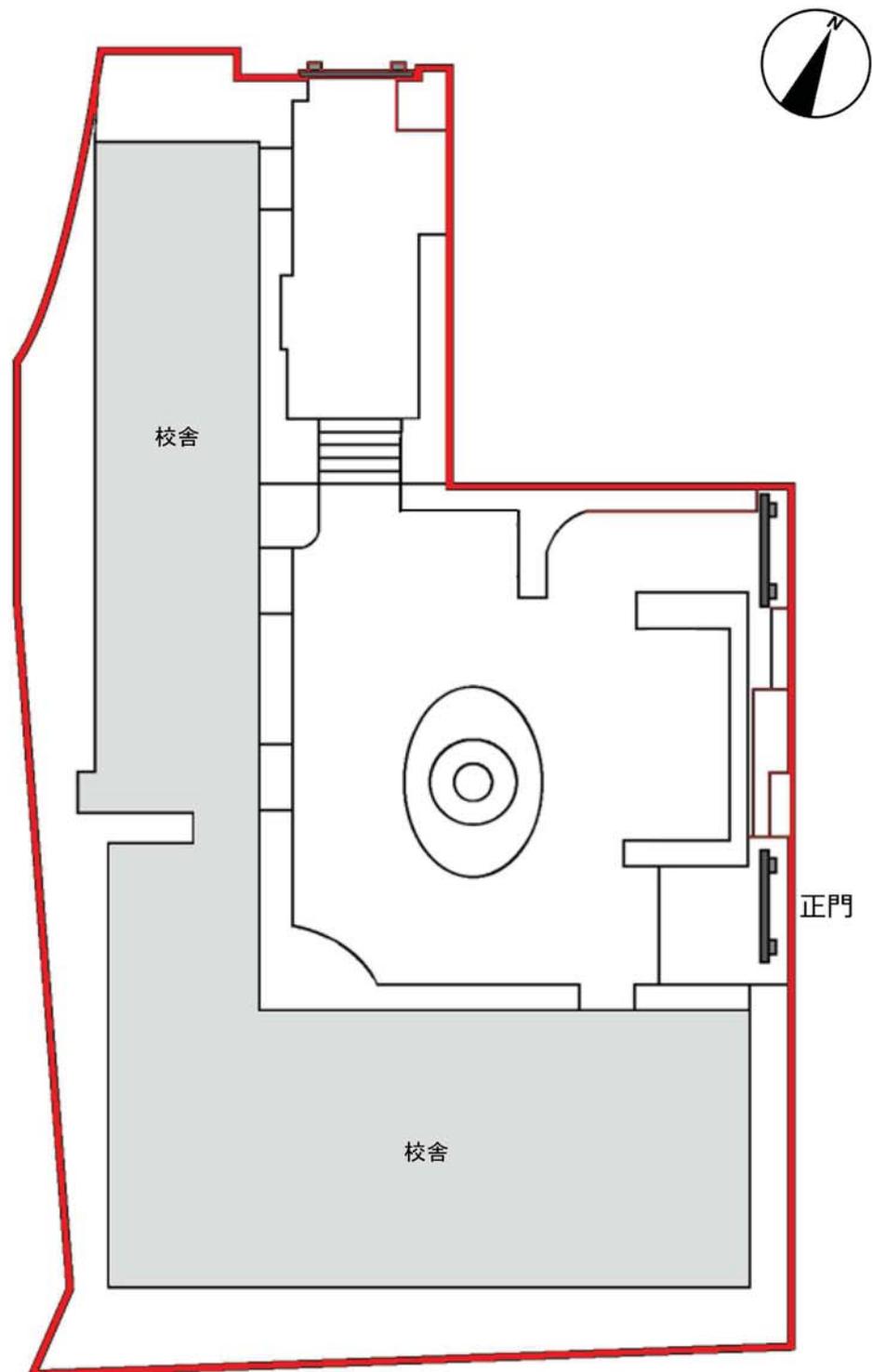
③校舎、運動場等の配置図 須磨キャンパス

大学の文学部、家政学部が共用



校地面積： 70,600.00㎡
校舎面積： 34,886.77㎡

③校舎、運動場等の配置図
三宮キャンパス



校地面積：4174.00㎡
校舎面積：7085.46㎡

神戸女子大学学則(案)

第1章 目 的

第1条 本学は教育基本法及び学校教育法による大学教育を施し、もって清純高潔にして有能な女子を育成することを目的とする。

2 教育と学術研究の成果を通じて、世界の平和と人類の福祉及び地域社会に貢献する。

3 本学の設置する学部、学科又は課程における人材の育成に関する目的その他教育研究の目的については別に定める。

第1条の2 本学の教育研究水準の向上をはかり、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は、別に定める。

第2章 学部、学科、収容定員及び修業年限

第2条 本学において設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	3 年 次 編入学定員	収容定員
文 学 部	日本語日本文学科	405名 60名		1,620名 240名
	英語英米文学科	60名		240名
	国際教養学科	60名		240名
	史学科	60名		240名
	教育学科	165名		660名
	健康福祉学部	社会福祉学科	160名 80名	
	健康スポーツ栄養学科	80名		320名
家政学部	家政学科	230名 80名	10名	940名 320名
	管理栄養士養成課程	150名	10名	620名
	看護学部	看護学科	90名 90名	
心理学部	心理学科	80名 80名		320名 320名

2 本学の健康福祉学部社会福祉学科に、介護福祉士養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

3 本学の文学部教育学科に、保育士養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

4 本学の家政学部管理栄養士養成課程に、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成課程を置く。この養成課程の履修細則は、別に定める。

5 本学の家政学部管理栄養士養成課程のクラス数は1学年4クラス、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科のクラス数は1学年2クラスとする。

第3条 本学の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 第9条及び第10条の規定により編入学及び再入学を許可された者の修業年限及び在学年数については、別に定める。

第3条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

第3条の3 本学に専攻科を置く。

2 専攻科に関する規程は、別に定める。

第3章 学年、学期及び休業日

第4条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から原則として同年9月30日まで

後期 原則として10月1日から翌年3月31日まで

第5条の2 授業を行う期間は、試験等の期間を含め、年間35週にわたることを原則とする。

第6条 休業日は次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 日曜日及び土曜日

(3) 本学創立記念日 11月11日

(4) 春季、夏季及び冬季休業日に関しては、別に定める本学の学年暦による。

2 必要がある場合、前項の休業日を変更し、授業を行うことがある。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学、編入学、再入学、転学部・転学科、休学、退学及び除籍

第7条 入学の時期は学年の初めとする。

第8条 本学に入学できる者は、女子に限り、次の各号の何れかに該当し、本学の入学者選考に合格した者とする。

(1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者又は大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者

(7) その他大学において相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第9条 本学に編入学を志願する者がある場合は、欠員のある場合に限り選考を行い、相当年次に編入学を許可することができる。

第9条の2 本学に在学する者で、他の学部に転学部・転学科を願い出る者がある時、又は当該学部内の他の学科に転学科を願い出る者がある時は、選考の上、これを許可することができる。

2 転学部及び転学科の取扱いについては、別に定める規則によるものとする。

第10条 本学を中途退学した者、又は除籍された者で、再び同一の学部、学科に入学を志願する者がある時は、第8条の規定にかかわらず、選考の上相当年次に再入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年次については、学長が決定する。

第11条 入学志願者は、所定の入学願書に要項を記入し、出身学校長の作成した最終年次の調査書と入学検定料を添えて提出しなければならない。

第12条 入学を許可された者は、誓約書、宣誓書、保証書と入学金その他学納金を添えて所定の期限内に納入しなければならない。

第13条 保証人は父母又はこれに準ずる者でなければならない。

第14条 学生並びに保証人が住所、氏名を変更し、又はその資格を喪失した場合は、その事由を書いて届出なければならない。

第15条 疾病その他やむを得ない事情により休学しようとする者は、所定の手続きにより

- 学長に願い出て、許可を受けなければならない。
- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。
- 第16条 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。
- 2 休学の期間は、第3条第2項の在学年数に算入しない。
- 3 休学に関するその他の事項は、別に定める。
- 第17条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。
- 2 復学に関するその他の事項は、別に定める。
- 第18条 退学しようとする者は、所定の手続きにより願い出て学長の許可を受けなければならない。
- 2 退学に関するその他の事項は、別に定める。
- 第19条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。なお、除籍に関するその他の事項は別に定める。
- (1) 第3条第2項に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第16条第1項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
 - (3) 授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
 - (4) 長期間にわたり行方不明の者

第5章 教育課程及び履修方法

- 第20条 授業科目を分けて全学共通教養科目及び専門科目とする。
- 2 授業科目の種類、単位数等は別記のとおりとする。
- 3 別記に掲げる科目のほか、臨時に授業科目を開設することがある。この科目の種類、取扱い、単位数等は開設の時に定める。
- 第21条 前条に定めるもののほか、教職に関する科目及び学芸員等に関する科目を置く。
- 2 授業科目の種類、単位数等は別記のとおりとする。
- 第22条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、演習については、教育上必要があると認める場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認める場合には、45時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 第22条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 第23条 学生は、毎学年度の初めに開講表によって、履修しようとする授業科目を学長に届出なければならない。

第24条 他学部の科目を履修しようとする者は、所属学部長を経てその学部長の許可を受けなければならない。

第25条 教育上有益と認めるときは、他の大学(外国の大学を含む。)との協定に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることがある。

第25条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目について修得したものとみなすことができる。

第25条の3 教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、単位を与えることができる。

第25条の4 第25条から前条までの規定により履修した授業科目について修得した単位は、合わせて60単位を超えない範囲内で本学において修得したものとみなすことができる。

第25条の5 編入学を許可された者が、本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した単位は、教育上有益と認めるときは、一定の範囲で、本学の当該学科・当該課程において修得したものとみなすことができる。

第25条の6 転学部・転学科で入学を許可された者の既修得単位は、教育上有益と認めるときは、一定の範囲で、当該学科・当該課程において修得したものとみなすことができる。

第25条の7 編入学を許可された者の単位認定については、別に定める「編入学に関する単位認定等取扱い規程」によるものとする。

第26条 単位修得の認定は筆記試験、レポート試験、実験・実習、課題・作品提出、受講態度等担当教員が授業計画書(シラバス)に示した方法により総合的に行って評価した最終評価による。

第27条 (削除)

第28条 授業科目を履修しその最終評価に合格した者には、所定の単位を与える。

第29条 成績評価は100点を最高とし、60点以上を合格とする。評価は秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とする。

第6章 卒業等

第30条 本学を卒業するためには、第3条に規定する修業年限以上在学し、124単位以上を修得しなければならない。

第31条 本学に第3条に規定する修業年限以上在学し、所定の単位数を修得した者には、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して学位記を授与する。

第32条 前条による卒業者に、学士の学位を授与する。

2 前項の学士の学位に付与する専攻分野の名称については、学位規程の定めるところによる。

第33条 本学において取得することができる資格及び免許状の種類は次のとおりとする。

文 学 部

日本語日本文学科

中学校教諭一種免許状(国語)
高等学校教諭一種免許状(国語)

英語英米文学科

司書 学校図書館司書教諭
中学校教諭一種免許状(英語)
高等学校教諭一種免許状(英語)
司書 学校図書館司書教諭

国際教養学科

中学校教諭一種免許状(英語)
高等学校教諭一種免許状(英語)
中学校教諭一種免許状(社会)
司書 学校図書館司書教諭

史 学 科

国際ボランティア実務士
中学校教諭一種免許状(社会)
高等学校教諭一種免許状(地理歴史)

教育学科	学芸員 司書 学校図書館司書教諭 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状（英語） 保育士 レクリエーション・インストラクター 司書 学校図書館司書教諭
健康福祉学部 社会福祉学科	社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格等 精神保健福祉士受験資格 介護福祉士受験資格
健康スポーツ栄養学科	中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 栄養士 栄養教諭二種免許状
家政学部 家政学科	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 司書 学校図書館司書教諭
管理栄養士養成課程	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 栄養教諭一種免許状 栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く） 食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く） フードスペシャリスト受験資格
看護学部 看護学科	養護教諭一種免許状 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格 受胎調節実地指導員資格

- 2 前項に定める社会福祉士受験資格取得にかかる履修細則は別に定める。
- 3 第1項に定める精神保健福祉士受験資格取得にかかる履修細則は別に定める。
- 4 第1項に定める保健師国家試験受験資格取得にかかる履修細則は別に定める。
- 5 第1項に定める助産師国家試験受験資格取得にかかる履修細則は別に定める。

第7章 入学検定料及び学納金

第34条 入学検定料は、35,000円とする。ただし、大学入学共通テストを利用する場合の入学検定料は15,000円とする。また、併願出願、同時出願した場合は検定料割引制度が適用される。

第34条の2 学納金は、入学金、授業料、教育・施設充実費、実習費とし、別表1に定める額とする。ただし、

- (1) 本学、神戸女子短期大学、神戸女子大学瀬戸短期大学を卒業後、他学科、課程に入学する者の入学金は半額とする。
- (2) 本学を中途退学した者、又は除籍された者が再び本学に入学する場合の入学金は、修業年限が2年以下となる場合に限り半額とする。
- (3) 学長が特に必要と認めた場合は、学納金を減額又は免除することができる。

第35条 授業料及び教育・施設充実費（以下「授業料等」という。）は、前・後期に分けて

所定の期日までに納入しなければならない。

2 実習費は、実習時期に応じて納入するものとする。

第36条 学期の途中で退学した者の当該学期分の授業料等は徴収する。

2 停学期間中の授業料等は徴収する。

第37条 休学を許可され、または命じられた者については、休学した月から復学した月の前月までの授業料等を4分の3免除する。

第38条 学期の中途において復学した者は、復学した月から当該学期末までの授業料等を復学した月に納入しなければならない。

第38条の2 編入学又は再入学した者の授業料等については、編入又は再入学した当該学年の授業料等の額とする。

2 神戸女子短期大学から編入学した者の入学金については、編入した当該学年の額を適用し、これを半額免除する。

第39条 納入した入学検定料、入学金、授業料等は、一切返還しない。

第8章 教 職 員 組 織

第40条 本学に学長、学部長、教授、准教授、助教、助手、事務職員を置く。

2 本学に前項のほか、副学長、講師、技術職員及びその他必要な職員を置くことができる。

第9章 教 授 会

第41条 本学に全学教授会及び学部教授会を置く。

第42条 全学教授会は、学長、副学長、教授、准教授、助教、講師をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて職員の出席を求めることがある。

3 全学教授会は、教育研究に関することについて、学長の求めに応じ、意見を述べるものとする。

4 全学教授会は、学長が必要と認めたとき、これを招集する。

5 全学教授会に関する規程は、別に定める。

第43条 学部教授会は、学部長、教授、准教授、助教、講師をもって組織する。

2 学部教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学部教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

3 学部教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する次に掲げる事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(1) 授業に関する事項

(2) 学生の褒賞に関する事項

(3) 学生の試験に関する事項

(4) 学生の厚生・補導に関する事項

(5) 科目等履修生、聴講生、研究生、単位互換生及び外国人留学生に関する事項

(6) 諸規程の制定及び改廃に関する事項

(7) その他の教育・研究に関する重要な事項

4 学部教授会に関する規程は別に定める。

第44条 削除

第10章 科目等履修生、聴講生、研究生、単位互換生及び外国人留学生

第45条 本学に科目等履修生制度を設ける。

- 第45条の2 本学に研究生制度を設ける。
2 研究生の取扱いについては別に定める規程によるものとする。
- 第45条の3 本学に単位互換生制度を設ける。
2 単位互換生の取扱いについては別に定める規程によるものとする。
- 第46条 本学の授業科目の履修を希望する者は、本学の入学資格（本則第8条）に基づいて選考し、本学の授業にさしつかえのない範囲においてこれを許可する。
- 第47条 科目等履修生を志願する者は、本学所定の願書に要項を記入の上、履修検定料を添え願書を提出して学長の許可を得なければならない。
2 前項により履修を許可された者は、履修科目について別に定める授業料を納入しなければならない。
- 第48条 科目等履修生として許可した者には科目等履修生証を交付する。
- 第49条 科目等履修生に関するその他の規程は別に定める。
- 第49条の2 本学の授業科目の聴講を願い出る者がある時は、これを聴講生として許可することができる。
2 その他の聴講生に関する事項は、科目等履修生規程に準ずる。ただし、授業料は、科目等履修生の2分の1とする。
- 第50条 次の各号の一に該当する場合は、履修許可を取り消すことがある。
(1) 正当な理由なくして出欠常なき場合
(2) 他の学生に迷惑を及ぼす場合
- 第51条 科目等履修生に対し、試験の上単位を与えることができる。
- 第52条 科目等履修生に関するその他の事項は本則を準用する。
- 第53条 本学に委託生及び外国人留学生制度を置く。
2 外国人留学生に関する規程は別に定める。

第11章 図 書 館

- 第54条 本学に図書館を置く。
2 図書館に関する規程は別に定める。

第12章 厚 生 施 設

- 第55条 本学に学生寮及び保健室を置く。
2 学生寮及び保健室の規程は別に定める。

第13章 賞 罰

- 第56条 人物、学業ともに優秀であって、技術卓越な者は、これを褒賞することがある。
- 第57条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する言動がある者に対しては、学長がこれを懲戒する。
2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。
(1) 学業劣等若しくは疾病により成業の見込みがないと認められた者
(2) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
(3) 正当な理由なく出欠席が定まらない者
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
4 懲戒に関するその他の事項は、別に定める。

附 則
この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則
この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第1条 この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第33条中央学科の高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民）の取得については平成2年度入学生から適用する。

(期限付入学定員)

第2条 この学則の施行日から平成12年3月31日までの9年間の各学部各学科の定員については、第2条に定める定員にかかわらず、次のとおりとする。

学部	学 科	入 学 定 員
文 学 部		500名
	文 学 科	200名
	(国文学専攻)	(100名)
	(英文学専攻)	(100名)
	史 学 科	100名
家 政 学 部	教 育 学 科	200名
		200名
	家 政 学 科	120名
	管理栄養士養成課程	80名

附 則

(施行期日)

第1条 この学則は、平成3年9月19日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成4年5月14日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年5月12日から施行し、平成7年度入学生から適用する。

(授業料の改訂)

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

第1条 この学則は平成8年4月1日から施行する。

(期限付入学定員)

第2条 附則18第2条に定める表中、文学部「500名」とあるのを「450名」に、「教育学科200名」を「150名」に改める。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、第34条の2の規定は、平成10年度入学生から適用する。

附 則

(施行期日)

第1条 この学則は、平成12年4月1日から施行する。

(期限付入学定員)

第2条 この学則の施行日から平成17年3月31日までの5年間の各学部各学科の入学定員については、第2条に定める入学定員にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
文 学 部		573名	561名	549名	537名	525名
	文 学 科	180名	175名	170名	165名	160名
	(国文学専攻)	(88名)	(86名)	(84名)	(82名)	(80名)
	(英文学専攻)	(92名)	(89名)	(86名)	(83名)	(80名)
	史 学 科	88名	86名	84名	82名	80名
	教 育 学 科	185名	180名	175名	170名	165名
社 会 福 祉 学 科	120名	120名	120名	120名	120名	
家 政 学 部		244名	238名	232名	226名	220名
	家 政 学 科	144名	138名	132名	126名	120名
	管理栄養士養成課程	100名	100名	100名	100名	100名

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

第1条 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成20年3月31日までの4年間の各学部学科の収容定員については、第2条に定める収容定員にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	16年度	17年度	18年度	19年度
文学部	文 学 科	2,100名	2,100名	2,100名	2,100名
	(国文学専攻)	640名	640名	640名	640名
	(英文学専攻)	(320名)	(320名)	(320名)	(320名)
	史 学 科	320名	320名	320名	320名
	教育学科	660名	660名	660名	660名
	社会福祉学科	480名	480名	480名	480名
家政学部	家政学科	880名	880名	900名	920名
	管理栄養士養成課程	440名	400名	360名	320名
		440名	480名	540名	600名

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

第1条 この学則は、平成18年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成22年3月31日までの4年間の各学部学科の収容定員については、第2条に定める収容定員にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	18年度	19年度	20年度	21年度
文学部	文 学 科	1,940名	1,780名	1,620名	1,460名
	(国文学専攻)	480名	320名	160名	0名
	(英文学専攻)	(240名)	(160名)	(80名)	(0名)
	(英文学専攻)	(240名)	(160名)	(80名)	(0名)
	日本語日本文学科	60名	120名	180名	240名
	英語英米文学科	40名	80名	120名	160名
	神戸国際教養学科	40名	80名	120名	160名
	史 学 科	300名	280名	260名	240名
	教育学科	660名	660名	660名	660名
	社会福祉学科	360名	240名	120名	0名
健康福祉学部	健康福祉学科	160名	320名	480名	640名
		160名	320名	480名	640名
家政学部	家政学科	900名	920名	920名	920名
	管理栄養士養成課程	360名	320名	320名	320名
		540名	600名	600名	600名

以下の履修細則はこの学則の施行日から平成22年3月31日までの4年間は、次のとおりとする。

2 本学の健康福祉学部健康福祉学科に、健康・介護福祉コースを置き、介護福祉士養成課程とする。この養成課程の履修細則は、別に定める。

3 本学の健康福祉学部健康福祉学科に、子ども家庭福祉コースを置き、保育士養成課程とする。この養成課程の履修細則は、別に定める。

第3条 この学則の施行日から平成21年3月31日までの3年間の文学部各学科・専攻において取得することができる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、次のとおりとする。

文 学 部	
文学科国文学専攻	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 司書 学校図書館司書教諭
日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 司書 学校図書館司書教諭
文学科英文学専攻	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 司書 学校図書館司書教諭
英語英米文学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 司書 学校図書館司書教諭
史 学 科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 学芸員
教育学科	司書 学校図書館司書教諭 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 社会教育主事（補） 保育士（平成18年度以降入学生） レクリエーション・インストラクター
社会福祉学科	司書 学校図書館司書教諭 高等学校教諭一種免許状（福祉） 社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格等 福祉レクリエーション・ワーカー 精神保健福祉士受験資格 保育士
健康福祉学部	
健康福祉学科	高等学校教諭一種免許状（福祉） 社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格等 福祉レクリエーション・ワーカー 精神保健福祉士受験資格 保育士 介護福祉士受験資格 園芸療法士
家 政 学 部	
家政学科	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 栄養士 司書 学校図書館司書教諭 フードスペシャリスト受験資格
管理栄養士養成課程	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 栄養教諭一種免許状 栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く） 食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く） 学校図書館司書教諭 フードスペシャリスト受験資格

別表1（第34条の2）学納金

入 学 金		350,000円
授 業 料（年額）		800,000円
教育・施設充実費 （年額）	文学部 文学科・史学科	200,000円
	教育学科・社会福祉学科	220,000円
	家政学部 家政学科 家政課程	260,000円
	” 栄養課程	280,000円
	管理栄養士養成課程	300,000円
実 習 費 （学外実習費）	博物館実習 史 学 科	10,000円
	教育実習 教 育 学 科	40,000円
	” 他 学 科	(高校) 20,000円 (中学) 30,000円
	社会福祉実習 社会福祉学科	50,000円
	栄養実習（1カ所） 栄 養 課 程	10,000円
	”（3カ所）管理栄養士養成課程	35,000円

別表1（第34条の2）学納金

平成16年4月1日より施行

入 学 金		350,000円
授 業 料（年額）		800,000円
教育・施設充実費 （年額）	文学部 文学科・史学科	200,000円
	教育学科・社会福祉学科	220,000円
	家政学部 家政学科 家政課程	260,000円
	” 栄養課程	280,000円
	管理栄養士養成課程	300,000円
実 習 費 （学外実習費）	博物館実習 史 学 科	10,000円
	教育実習 教 育 学 科	40,000円
	” 他 学 科	(高校) 20,000円 (中学) 30,000円
	介護等体験	10,000円
	精神保健福祉援助実習 社会福祉学科	50,000円
	保育士実習 社会福祉学科	50,000円
	社会福祉実習 社会福祉学科	50,000円
	栄養実習（1カ所） 栄 養 課 程	10,000円
	”（3カ所）管理栄養士養成課程	35,000円

別表1（第34条の2）学納金

平成17年4月1日より施行

入 学 金		350,000円
授 業 料（年額）		800,000円
教育・施設充実費 （年額）	文学部 文学科・史学科	200,000円
	教育学科・社会福祉学科	220,000円
	家政学部 家政学科 家政課程	260,000円
	” 栄養課程	280,000円
	管理栄養士養成課程	300,000円

実習費 (学外実習費)	博物館実習	史学科		10,000円
	教育実習	教育学科		40,000円
	〃	他学科	(高校)	20,000円
			(中学)	30,000円
	介護等体験			10,000円
	精神保健福祉援助実習	社会福祉学科		50,000円
	保育士実習	社会福祉学科		50,000円
	社会福祉実習	社会福祉学科		50,000円
	栄養実習(1ヵ所)	栄養課程		10,000円
〃(3ヵ所)	管理栄養士養成課程		35,000円	

別表1(第34条の2)学納金

平成18年4月1日より施行

入学金			350,000円
授業料(年額)			800,000円
教育・施設充実費 (年額)	文学部	日本語日本文学科 英語英米文学科 神戸国際教養学科 史学科	200,000円
	文学部	教育学科	220,000円
	健康福祉学部	健康福祉学科	220,000円
	家政学部	家政学科 家政課程	260,000円
		管理栄養士養成課程	300,000円
実習費 (学外実習費)	博物館実習	史学科	10,000円
	教育実習	教育学科	40,000円
	〃	その他の学科	(高校) 20,000円 (中学) 30,000円
	栄養教育実習	管理栄養士養成課程	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験		10,000円
	精神保健福祉援助実習	健康福祉学科	50,000円
	保育士実習	教育学科 健康福祉学科	50,000円
	社会福祉実習	健康福祉学科	50,000円
	介護福祉実習	健康福祉学科	100,000円
	臨地実習	管理栄養士養成課程	35,000円

上記、栄養教育実習は、平成17年度入学生が4回生時(平成20年度)以降より適用
なお、別表1(第34条の2)に併せて、平成21年3月31日までの3年間は、下記別表2が併用される。

別表2(第34条の2)

教育・施設充実費 (年額)	文学部	文学科(国文学専攻・英文学専攻)	200,000円
	文学部	社会福祉学科	220,000円
実習費 (学外実習費)	精神保健福祉援助実習	社会福祉学科	50,000円
	保育士実習	社会福祉学科	50,000円
	社会福祉実習	社会福祉学科	50,000円

上記別表2に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成22年3月31日までの3年間の各学科・専攻において取得することができる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、次のとおりとする。

文 学 部

文学科国文学専攻

中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
司書 学校図書館司書教諭

日本語日本文学科

中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
司書 学校図書館司書教諭

文学科英文学専攻

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

英語英米文学科

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

神戸国際教養学科

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

史 学 科

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

教 育 学 科

学芸員
司書 学校図書館司書教諭

小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
社会教育主事（補）

保育士
レクリエーション・インストラクター
司書 学校図書館司書教諭

社会福祉学科

高等学校教諭一種免許状（福祉）
社会福祉士受験資格
社会福祉主事任用資格等

福祉レクリエーション・ワーカー
精神保健福祉士受験資格
保育士

健康福祉学部

健康福祉学科

高等学校教諭一種免許状（福祉）
社会福祉士受験資格
社会福祉主事任用資格等

福祉レクリエーション・ワーカー
精神保健福祉士受験資格
保育士

介護福祉士受験資格
園芸療法士

家政学部

家政学科

中学校教諭一種免許状（家庭）
高等学校教諭一種免許状（家庭）

管理栄養士養成課程

司書 学校図書館司書教諭
中学校教諭一種免許状（家庭）
高等学校教諭一種免許状（家庭）
栄養教諭一種免許状
栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く）
食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く）
学校図書館司書教諭
フードスペシャリスト受験資格

附 則

第1条 この学則は、平成20年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成23年3月31日までの3年間の各学科・専攻において取得することができる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、次のとおりとする。

文 学 部

文学科国文学専攻

中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
司書 学校図書館司書教諭

日本語日本文学科

中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
司書 学校図書館司書教諭

文学科英文学専攻

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

英語英米文学科

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

神戸国際教養学科

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）
司書 学校図書館司書教諭

史 学 科

中学校教諭一種免許状（社会）
国際ボランティア実務士
高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
学芸員
司書 学校図書館司書教諭

教育学科

小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
社会教育主事（補）
保育士
レクリエーション・インストラクター

社会福祉学科

司書 学校図書館司書教諭
高等学校教諭一種免許状（福祉）
社会福祉士受験資格
社会福祉主事任用資格等
福祉レクリエーション・ワーカー
精神保健福祉士受験資格 保育士

健康福祉学部

健康福祉学科

高等学校教諭一種免許状（福祉）
 社会福祉士受験資格
 社会福祉主事任用資格等
 福祉レクリエーション・ワーカー
 精神保健福祉士受験資格
 保育士
 介護福祉士受験資格
 園芸療法士

家政学部

家政学科

中学校教諭一種免許状（家庭）
 高等学校教諭一種免許状（家庭）
 司書 学校図書館司書教諭

管理栄養士養成課程

中学校教諭一種免許状（家庭）
 高等学校教諭一種免許状（家庭）
 栄養教諭一種免許状
 栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く）
 食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く）
 学校図書館司書教諭
 フードスペシャリスト受験資格

附 則

第1条 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成25年3月31日までの4年間の各学部学科の収容定員については、第2条に定める収容定員にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	21年度	22年度	23年度	24年度
文 学 部	日本語日本文学科	1,480名	1,500名	1,520名	1,540名
	英語英米文学科	240名	240名	240名	240名
	神戸国際教養学科	180名	200名	220名	240名
	史 学 科	160名	160名	160名	160名
	教育学科	240名	240名	240名	240名
		660名	660名	660名	660名
健康福祉学部	健康福祉学科	620名	600名	580名	560名
	社会福祉学科	480名	320名	160名	0名
	健康スポーツ栄養学科	80名	160名	240名	320名
		60名	120名	180名	240名
家政学部	家政学科	920名	920名	920名	920名
	家政学科	320名	320名	320名	320名
	管理栄養士養成課程	600名	600名	600名	600名

第3条 この学則の施行日から平成24年3月31日までの3年間の健康福祉学部各学科において取得することができる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、この学則の次のとおりとする。

文 学 部

日本語日本文学科

中学校教諭一種免許状（国語）
 高等学校教諭一種免許状（国語）

英語英米文学科

司書 学校図書館司書教諭
 中学校教諭一種免許状（英語）
 高等学校教諭一種免許状（英語）
 司書 学校図書館司書教諭

神戸国際教養学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（社会） 司書 学校図書館司書教諭 国際ボランティア実務士
史学科	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 学芸員
教育学科	司書 学校図書館司書教諭 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状 保育士 レクリエーション・インストラクター 司書 学校図書館司書教諭
健康福祉学部	
健康福祉学科	高等学校教諭一種免許状（福祉） 社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格等 福祉レクリエーション・ワーカー 精神保健福祉士受験資格 保育士 介護福祉士 園芸療法士
社会福祉学科	社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格等 精神保健福祉士受験資格 介護福祉士受験資格
健康スポーツ栄養学科	栄養士 栄養教諭二種免許状 フードスペシャリスト受験資格
家政学部	
家政学科	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 司書 学校図書館司書教諭
管理栄養士養成課程	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭） 栄養教諭一種免許状 栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く） 食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く） 学校図書館司書教諭 フードスペシャリスト受験資格

別表1（第34条の2）学納金

平成21年4月1日より施行

入学金		350,000円
授業料（年額）		800,000円
教育・施設充実費 （年額）	文学部 日本語日本文学科 英語英米文学科 神戸国際教養学科 史学科	200,000円
	文学部 教育学科	220,000円

	健康福祉学部 社会福祉学科	220,000円
	健康スポーツ栄養学科	280,000円
	家政学部 家政学科	260,000円
	管理栄養士養成課程	300,000円
実習費 (学外実習費)	博物館実習 史学科	10,000円
	教育実習 教育学科	40,000円
	〃 その他の学科	(高校) 20,000円 (中学) 30,000円
	栄養教育実習 管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験	10,000円
	精神保健福祉援助実習 社会福祉学科	50,000円
	保育士実習 教育学科	50,000円
	相談援助実習 社会福祉学科	50,000円
	介護福祉実習 社会福祉学科	100,000円
	(栄養)校外実習 健康スポーツ栄養学科	10,000円
	臨地実習 管理栄養士養成課程	35,000円

なお、別表1（第34条の2）に併せて、平成24年3月31日までの3年間は、健康福祉学部については、下記別表2が併用される。

別表2(第34条の2)

教育・施設充実費 (年額)	健康福祉学部 健康福祉学科	220,000円
実習費 (学外実習費)	精神保健福祉援助実習 健康福祉学科	50,000円
	保育士実習 健康福祉学科	50,000円
	社会福祉実習 健康福祉学科	50,000円

上記別表2に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、平成22年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から平成25年3月31日までの3年間の家政学部管理栄養士養成課程において取得することができる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、次のとおりとする。

家 政 学 部

管理栄養士養成課程

中学校教諭一種免許状（家庭）
 高等学校教諭一種免許状（家庭）
 栄養教諭一種免許状
 栄養士、管理栄養士受験資格、食品衛生管理者任用資格（編入学生を除く）
 食品衛生監視員任用資格（編入学生を除く）
 学校図書館司書教諭
 フードスペシャリスト受験資格

附 則

第1条 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

別表1（第34条の2）学納金

平成24年4月1日より施行

入 学 金		350,000円
授 業 料（年額）		800,000円
教育・施設充実費 （年額）	文学部 日本語日本文学科 英語英米文学科 神戸国際教養学科 史学科	200,000円
	文学部 教育学科	220,000円
	健康福祉学部 社会福祉学科 健康スポーツ栄養学科	220,000円 280,000円
	家政学部 家政学科	260,000円
	管理栄養士養成課程	300,000円
実 習 費 （学外実習費）	博物館実習 史 学 科	10,000円
	教育実習 教 育 学 科	40,000円
	〃 その他の学科	(高校) 20,000円 (中学) 30,000円
	栄養教育実習 管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験	10,000円
	保育士実習 教育学科	50,000円
	相談援助実習 社会福祉学科	50,000円
	精神保健福祉援助実習 社会福祉学科	※56,000円
	介護福祉実習 社会福祉学科	100,000円
	(栄養) 校外実習 健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
	臨地実習 管理栄養士養成課程	35,000円

※「相談援助実習」を修得した場合には、「精神保健福祉援助実習」の実習費は50,000円とする。

なお、※部分に関しては、平成24年度入学生から対象とする。
上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。

附 則

第1条 この学則は、平成26年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生の成績評価は、100点を最高とし、60点以上を合格とする。評価は優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とする。

附 則

第1条 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。

第3条 別表1（34条の2）学納金 「臨地実習 管理栄養士養成課程」の実習費は、平成27年度以前入学生は、従前どおり、35,000円とする。

別表1 (第34条の2) 学納金

平成27年4月1日より施行

入 学 金		350,000円	
授 業 料 (年額)	文学部		
	家政学部	800,000円	
	健康福祉学部		
	看護学部	1,000,000円	
教育・施設充実費 (年額)	文学部	日本語日本文学科 英語英米文学科 神戸国際教養学科 史学科	200,000円
	文学部	教育学科	220,000円
	健康福祉学部	社会福祉学科	220,000円
		健康スポーツ栄養学科	280,000円
	家政学部	家政学科	260,000円
		管理栄養士養成課程	300,000円
	看護学部	看護学科	550,000円 (2年次以降 650,000円)
実 習 費 (学外実習費)	博物館実習	史 学 科	10,000円
	教育実習	教 育 学 科	40,000円
	〃	その他の学科	(1週間当たり) 10,000円
	養護実習	看 護 学 科	(1週間当たり) 10,000円
	栄養教育実習	管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験		10,000円
	保育士実習	教育学科	50,000円
	相談援助実習	社会福祉学科	50,000円
	精神保健福祉援助実習	社会福祉学科	※56,000円
	介護福祉実習	社会福祉学科	100,000円
	(栄養) 校外実習	健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円
			(実習Ⅱ) 10,000円
	臨地実習	管理栄養士養成課程	60,000円
	〃	看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円

※「相談援助実習」を修得した場合にあっては、「精神保健福祉援助実習」の実習費は50,000円とする。

なお、※部分に関しては、平成24年度入学生から対象とする。

上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。

別表1 (第34条の2) 学納金

平成28年4月1日より施行

入 学 金	文学部	
	家政学部	250,000円
	健康福祉学部	
	看護学部	350,000円
授 業 料 (年額)	文学部	
	家政学部	850,000円
	健康福祉学部	

教育・施設充実費 (年額)	看護学部		1,000,000円
	文学部	日本語日本文学科 英語英米文学科 神戸国際教養学科 史学科	200,000円 (2年次以降 220,000円)
	文学部	教育学科	270,000円 (2年次以降 300,000円)
	健康福祉学部	社会福祉学科 健康スポーツ栄養学科	270,000円 (2年次以降 330,000円) 330,000円 (2年次以降 370,000円)
	家政学部	家政学科 管理栄養士養成課程	310,000円 (2年次以降 350,000円) 350,000円 (2年次以降 400,000円)
	看護学部	看護学科	550,000円 (2年次以降 650,000円)
実 習 費 (学外実習費)	博物館実習	史 学 科	10,000円
	教育実習	教 育 学 科	40,000円
	〃	その他の学科	(1週間当たり) 10,000円
	養護実習	看 護 学 科	(1週間当たり) 10,000円
	栄養教育実習	管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験		10,000円
	保育士実習	教育学科	50,000円
	相談援助実習	社会福祉学科	50,000円
	精神保健福祉援助実習	社会福祉学科	※56,000円
	介護福祉実習	社会福祉学科	100,000円
	(栄養) 校外実習	健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
	臨地実習	管理栄養士養成課程	60,000円
	〃	看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円

※「相談援助実習」を修得した場合にあっては、「精神保健福祉援助実習」の実習費は50,000円とする。

上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、平成29年4月1日から施行する。

第2条 第34条の入学検定料については、平成29年度入学試験から適用する

第3条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。

第4条 この学則の施行日から平成33年3月31日までの4年間の各学部学科の収容定員については、第2条に定める収容定員にかかわらず、次のとおりとする。

学 部	学 科	29年度	30年度	31年度	32年度
文学部	日本語日本文学科	1,540名	1,540名	1,540名	1,540名
	英語英米文学科	240名	240名	240名	240名
	神戸国際教養学科	240名	240名	240名	240名
	史学科	160名	160名	160名	160名
	教育学科	240名	240名	240名	240名
健康福祉学部	社会福祉学科	660名	660名	660名	660名
	健康スポーツ栄養学科	580名	600名	620名	640名
		320名	320名	320名	320名
家政学部	家政学科	260名	280名	300名	320名
	管理栄養士養成課程	920名	920名	930名	940名
		320名	320名	320名	320名
看護学部	家政学科	600名	600名	610名	620名
	管理栄養士養成課程	240名	320名	320名	320名
看護学部	看護学科	240名	320名	320名	320名
	看護学科	240名	320名	320名	320名

附 則

第1条 この学則は、平成30年4月1日から施行する。(学科名称の変更に係る経過措置等)

第2条 神戸国際教養学科は、改正後の学則第2条、第33条、及び第34条の2に定める別表1の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科から在籍しなくなるまでの間存続するものとし、その間在籍する者においては従前のおりとする。

別表1 (第34条の2) 学納金

平成30年4月1日より施行

入 学 金	文学部		
	家政学部 健康福祉学部 看護学部		250,000円
授 業 料 (年額)	文学部		
	家政学部 健康福祉学部 看護学部		350,000円
			850,000円
教育・施設充実費 (年額)	文学部	日本語日本文学科 英語英米文学科 国際教養学科 史学科	200,000円 (2年次以降 220,000円)
	文学部	教育学科	270,000円 (2年次以降 300,000円)
	健康福祉学部	社会福祉学科 健康スポーツ栄養学科	270,000円 (2年次以降 330,000円) 330,000円 (2年次以降 370,000円)
	家政学部	家政学科 管理栄養士養成課程	310,000円 (2年次以降 350,000円) 350,000円 (2年次以降 400,000円)
	看護学部	看護学科	550,000円 (2年次以降 650,000円)

実習費 (学外実習費)	博物館実習	史学科	10,000円
	教育実習	教育学科	40,000円
	〃	その他の学科	(1週間当たり) 10,000円
	養護実習	看護学科	(1週間当たり) 10,000円
	栄養教育実習	管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(小・中学校) 10,000円
	介護等体験		10,000円
	保育士実習	教育学科	50,000円
	相談援助実習	社会福祉学科	50,000円
	精神保健福祉援助実習	社会福祉学科	※56,000円
	介護福祉実習	社会福祉学科	100,000円
	(栄養) 校外実習	健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
	臨地実習	管理栄養士養成課程	60,000円
	〃	看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円

※「相談援助実習」を修得した場合にあつては、「精神保健福祉援助実習」の実習費は50,000円とする。

上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

第3条 この学則の施行日から、平成34年3月31日までの4年間、文学部国際教養学科及び神戸国際教養学科の入学定員及び収容定員については、本文第2条の規定にかかわらず次のとおりとする。

学科	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
神戸国際教養学科	0名	120名	0名	80名	0名	40名	0名	0名
国際教養学科	40名	40名	40名	80名	40名	120名	40名	160名

附 則

第1条 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行日から、平成34年3月31日までの3年間、看護学部看護学科の収容定員については、本文第2条の規定にかかわらず次のとおりとする。

学科	平成31年度	平成32年度	平成33年度
	収容定員	収容定員	収容定員
看護学科	330名	340名	350名

附 則

第1条 この学則は、令和2年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。ただし、平成31年度に入学した学生の改正前の表「文学部 教育学科」に規定する授業科目「小学校基礎演習」及び「幼児教育基礎演習」については、改正後の表「文学部教育学科 教育課程」の「コース発展科目群」に規定する同授業科目の履修方法を適用する。

第3条 この学則の施行日から令和5年3月31日までの3年間の文学部教育学科及び健康福祉学部健康スポーツ栄養学科において取得できる資格及び免許状の種類は、第33条に定める資格及び免許状の種類にかかわらず、次のとおりとする。

文学部
教育学科

小学校教諭一種免許状
幼稚園教諭一種免許状
保育士
レクリエーション・インストラクター
司書 学校図書館司書教諭

健康福祉学部

健康スポーツ栄養学科

栄養士
栄養教諭二種免許状
フードスペシャリスト受験資格

別表1（第34条の2）学納金

令和2年4月1日より施行

入学金	文学部 家政学部 健康福祉学部	250,000円
	看護学部	350,000円
授業料（年額）	文学部 家政学部 健康福祉学部	850,000円
	看護学部	1,000,000円
教育・施設充実費（年額）	文学部 日本語日本文学科 英語英米文学科 国際教養学科 史学科	200,000円 (2年次以降 220,000円)
	文学部 教育学科	270,000円 (2年次以降 300,000円)
	健康福祉学部 社会福祉学科 健康スポーツ栄養学科	270,000円 (2年次以降 330,000円)
		330,000円 (2年次以降 370,000円)
	家政学部 家政学科 管理栄養士養成課程	310,000円 (2年次以降 350,000円)
		350,000円 (2年次以降 400,000円)
看護学部 看護学科	550,000円 (2年次以降 650,000円)	
実習費 (学外実習費)	博物館実習 史学科	5,000円
	教育実習 教育学科	(幼免) (※1) 8,000円 (小免) (※1) 8,000円 (中免) (※1) 8,000円

〃	その他の学科	(※1) 8,000円
養護実習 看護学科		(※1) 8,000円
栄養教育実習 管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科		(※1) 8,000円
介護等体験		10,000円
保育士実習 教育学科		50,000円
相談援助実習 社会福祉学科		50,000円
精神保健福祉援助実習 社会福祉学科		(※2) 56,000円
介護福祉実習 社会福祉学科		100,000円
(栄養) 校外実習 健康スポーツ栄養学科		(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
臨地実習 管理栄養士養成課程		60,000円
〃	看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円

※1 実習委託先への「実習委託費」の支払いがある場合は、「5,000円/週」を基本額とし別途徴収する。

※2 「相談援助実習」を修得した場合にあっては、「精神保健福祉援助実習」の実習費は50,000円とする。

上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

附 則

第1条 この学則は、令和3年4月1日から施行する。

第2条 この学則の施行前に在学する学生については、なお、従前の例による。ただし、第34条に規定する入学検定料は、令和2年度から適用する。

第3条 この学則の施行日から、令和7年3月31日までの4年間、文学部国際教養学科の入学定員及び収容定員については、本文第2条の規定にかかわらず次のとおりとする。

学 部	学 科	3年度	4年度	5年度	6年度
文学部		1,560名	1,580名	1,600名	1,620名
	日本語日文学科	240名	240名	240名	240名
	英語英米文学科	240名	240名	240名	240名
	国際教養学科	180名	200名	220名	240名
	史 学 科	240名	240名	240名	240名
	教育学科	660名	660名	660名	660名

別表1 (第34条の2) 学納金

令和3年4月1日より施行

入学金	文学部 家政学部 健康福祉学部	250,000円
	看護学部	350,000円
授業料 (年額)	文学部 家政学部 健康福祉学部	850,000円

	看護学部	1,000,000円
教育・施設 充実費（年額）	文学部 日本語日本文学科 英語英米文学科 国際教養学科 史学科	200,000円 (2年次以降 220,000円)
	文学部 教育学科	270,000円 (2年次以降 300,000円)
	健康福祉学部 社会福祉学科 健康スポーツ栄養学科	270,000円 (2年次以降 330,000円) 330,000円 (2年次以降 370,000円)
	家政学部 家政学科 管理栄養士養成課程	310,000円 (2年次以降 350,000円) 350,000円 (2年次以降 400,000円)
	看護学部 看護学科	550,000円 (2年次以降 650,000円)
実習費 (学外実習費)	博物館実習 史学科	5,000円
	教育実習 教育学科	(幼免) (※1) 8,000円 (小免) (※1) 8,000円 (中免) (※1) 8,000円
	〃 その他の学科	(※1) 8,000円
	養護実習 看護学科	(※1) 8,000円
	栄養教育実習 管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科	(※1) 8,000円
	介護等体験	10,000円
	保育士実習 教育学科	50,000円
	社会福祉士実習 社会福祉学科	(※2) 65,000円
	精神保健福祉士実習 社会福祉学科	56,000円
	介護福祉士実習 社会福祉学科	100,000円
	(栄養) 校外実習 健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
	臨地実習 管理栄養士養成課程	60,000円
	〃 看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円
	<p>※1 実習委託先への「実習委託費」の支払いがある場合は、「5,000円/週」を基本額とし別途徴収する。</p> <p>※2 「ソーシャルワーク実習Ⅲ」又は「介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）」若しくは「介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）」の履修者については、「社会福祉士実習」の実習費は50,000円とする。</p> <p>上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。</p>	

附 則

第1条 この学則は、令和4年4月1日から施行する。

別表1（第34条の2）学納金

令和4年4月1日より施行

入学金	文学部 家政学部 健康福祉学部 心理学部	250,000円	
	看護学部	350,000円	
授業料（年額）	文学部 家政学部 健康福祉学部 心理学部	850,000円	
	看護学部	1,000,000円	
	文学部	日本語日本文学科 英語英米文学科 国際教養学科 史学科 200,000円 (2年次以降 220,000円)	
	文学部	教育学科 270,000円 (2年次以降 300,000円)	
教育・施設 充実費（年額）	健康福祉学部	社会福祉学科 270,000円 (2年次以降 330,000円)	
		健康スポーツ栄養学科 330,000円 (2年次以降 370,000円)	
	家政学部	家政学科 310,000円 (2年次以降 350,000円)	
		管理栄養士養成課程 350,000円 (2年次以降 400,000円)	
	看護学部	看護学科 550,000円 (2年次以降 650,000円)	
	心理学部	心理学科 270,000円 (2年次以降 300,000円)	
	実習費 （学外実習費）	博物館実習 史学科	5,000円
		教育実習 教育学科	(幼免) (※1) 8,000円 (小免) (※1) 8,000円 (中免) (※1) 8,000円
		〃	その他の学科 (※1) 8,000円
		養護実習	看護学科 (※1) 8,000円
栄養教育実習 管理栄養士養成課程 健康スポーツ栄養学科		(※1) 8,000円	
介護等体験		10,000円	
保育士実習 教育学科		50,000円	
社会福祉士実習 社会福祉学科		(※2) 65,000円	
精神保健福祉士実習		56,000円	

社会福祉学科	
介護福祉士実習 社会福祉学科	100,000円
(栄養) 校外実習 健康スポーツ栄養学科	(実習Ⅰ) 10,000円 (実習Ⅱ) 10,000円
臨地実習 管理栄養士養成課程	60,000円
〃 看護学科	(保健師) 50,000円 (助産師) 300,000円

※1 実習委託先への「実習委託費」の支払いがある場合は、「5,000円/週」を基本額とし別途徴収する。

※2 「ソーシャルワーク実習Ⅲ」又は「介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）」若しくは「介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）」の履修者については、「社会福祉士実習」の実習費は50,000円とする。

上記別表1に示した費用の他に、教材費等の実費を別途徴収することがある。

全学共通教養科目（文学部・家政学部） 令和3年度以降入学生用

区分	授業科目	単 位				備考	区分	授業科目	単 位				備考
		必修	選必	選択	自由				必修	選必	選択	自由	
基幹科目	基礎 I 基礎 II 基礎 III 基礎 IV			2 2 2 2			ウエルネス科目	基礎トレーニング スポーツと健康の科学 スポーツ実技 I (バドミントン) スポーツ実技 II (バレーボール) スポーツ実技 III (卓球) スポーツ実技 IV (テニス) スポーツ実技 V (学外)			1 2 1 1 1 1 1		
	女性 I 女性 II 女性 III 女性 IV			2 2 2 2									
	地域 神戸学 地域学習			2 2									
語学科目（世界の言語）	英語 I-1 英語 I-2 英語 II-1 英語 II-2 外国語コミュニケーション I 外国語コミュニケーション II 教養英語 I-1 教養英語 I-2 教養英語 II-1 教養英語 II-2 教養英語 III-1 教養英語 III-2		1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			人と思想	哲学 思想 宗教			2 2 2		
	ドイツ語 I-1 ドイツ語 I-2 ドイツ語 I (速習) ドイツ語 II (速習) ドイツ語会話 I ドイツ語会話 II ドイツ語講読 I ドイツ語講読 II		1 1 2	2 1 1 1 1			人間と行動心理	心理学 I 心理学 II 心とからだの健康			2 2 2		
	フランス語 I-1 フランス語 I-2 フランス語 I (速習) フランス語 II (速習) フランス語会話 I フランス語会話 II フランス語講読 I フランス語講読 II		1 1 2	2 1 1 1 1			言葉と文学	言葉と文学 I 言葉と文学 II 言葉と文学 III 言葉と文学 IV			2 2 2 2		
	中国語 I-1 中国語 I-2 中国語 I (速習) 中国語 II (速習) 中国語会話 I 中国語会話 II 中国語講読 I 中国語講読 II 中国語 III-1 中国語 III-2		1 1 2	2 1 1 1 1 1 1 1			歴史	歴史 I 歴史 II 歴史 III			2 2 2		
	朝鮮語 I-1 朝鮮語 I-2 朝鮮語 I (速習) 朝鮮語 II (速習) 朝鮮語会話 I 朝鮮語会話 II 朝鮮語講読 I 朝鮮語講読 II 朝鮮語 III-1 朝鮮語 III-2		1 1 2	2 1 1 1 1 1 1 1			現代社会	日本国憲法 現代社会 I 現代社会 II 現代社会 III 現代社会 IV 現代社会 V			2 2 2 2 2		
	イタリア語 I-1 イタリア語 I-2 イタリア語 I (速習) イタリア語 II (速習) イタリア語会話 I イタリア語会話 II イタリア語講読 I イタリア語講読 II		1 1 2	2 1 1 1 1 1			数学	数学 I 数学 II			2 2		
	情報 I 情報 II			2 2			自然と環境	自然と環境 I 自然と環境 II 自然と環境 III 自然と環境 IV			2 2 2 2		
							芸術	芸術 I 芸術 II 芸術 III			2 2 2		
							衣・食・住	衣・食・住 I 衣・食・住 II			2 2		
							教養総合科目	教養総合 I 教養総合 II			2 2		
							演習科目	教養演習 I 教養演習 II			2 2		
							全学共通教養科目の卒業要件単位数は、各学部・学科において別に定める。						

全学共通教養科目（健康福祉学部） 令和3年度以降入学生用

区分	授業科目	単 位				備考	区分	授業科目	単 位				備考	
		必修	選必	選択	自由				必修	選必	選択	自由		
基幹科目	基礎 I 基礎 II 基礎 III			2 2 2			人と思想 哲学 宗教			2 2				
	女性 I 女性 II 女性 III 女性 IV			2 2 2 2				理人 と間 行の 動心			2 2			
	地域 神戸学 地域学習			2 2					言葉と文学 言葉と文学 I 言葉と文学 II 言葉と文学 III 手話 I 手話 II			2 2 2 2 2		
語学科目（世界の言語）	英語 I-1 英語 I-2 英語 II-1 英語 II-2 外国語コミュニケーション I 外国語コミュニケーション II 教養英語 I-1 教養英語 I-2 教養英語 II-1 教養英語 II-2		1 1				一般科目			歴史 歴史 I 歴史 II 歴史 III			2 2 2	
	ドイツ語 I-1 ドイツ語 I-2		1 1			現代社会 日本国憲法 現代社会 I 現代社会 II 現代社会 III 現代社会 IV 現代社会 V						2 2 2 2 2		
		フランス語 I-1 フランス語 I-2 フランス語会話 I フランス語講読 I		1 1					数学 数学 I 数学 II				2 2	
			初習言語 中国語 I-1 中国語 I-2 中国語会話 I 中国語講読 I 朝鮮語 I-1 朝鮮語 I-2 朝鮮語会話 I 朝鮮語講読 I イタリア語 I-1 イタリア語 I-2 イタリア語会話 I イタリア語講読 I		1 1						自然と環境 自然と環境 I 自然と環境 II			2 2
	芸術 芸術 I 芸術 II				1 1			衣・食・住 衣・食・住 I 衣・食・住 II				2 2		
		教養総合科目 教養総合 I 教養総合 II				1 1						2 2		
	情報 I 情報 II					2 2			演習科目 教養演習 I 教養演習 II			2 2		
	ウェルネス科目 基礎トレーニング スポーツと健康の科学 スポーツ実技 I-1 (球技) スポーツ実技 I (バドミントン) スポーツ実技 II (バレーボール) スポーツ実技 III (卓球) スポーツ実技 IV (テニス) スポーツ実技 V (学外)				1 2 1 1 1 1 1			全学共通教養科目の卒業要件単位数は、各学部・学科において別に定める。						

全学共通教養科目（看護学部） 令和3年度以降入学生用

区分	授業科目	単 位				備考	区分	授業科目	単 位				備考
		必修	選択	必選択	自由				必修	選択	必選択	自由	
基幹科目	基礎 I 基礎 II 基礎 III			2 2 2			人 と 思 想 哲 学 宗 教			2 2			
	女性 I 女性 II 女性 III 女性 IV			2 2 2 2			理 人 と 間 行 の 動 心 心 と か ら だ の 健 康			2 2			
	地域 神戸学 地域学習			2 2			言 葉 と 文 学 言 葉 と 文 学 I 言 葉 と 文 学 II 言 葉 と 文 学 III 手 話 I 手 話 II			2 2 2 2 2			
語学科目（世界の言語）	英語 I-1 英語 I-2 英語 II-1 英語 II-2 外国語コミュニケーション I 外国語コミュニケーション II 教養英語 I-1 教養英語 I-2 教養英語 II-1 教養英語 II-2			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			一 般 科 目 歴 史 歴 史 I 歴 史 II 歴 史 III			2 2 2 2			
	ドイツ語 I-1 ドイツ語 I-2			1 1			現 代 社 会 日 本 国 憲 法 現 代 社 会 I 現 代 社 会 II 現 代 社 会 III 現 代 社 会 IV 現 代 社 会 V			2 2 2 2 2			
	フランス語 I-1 フランス語 I-2 フランス語会話 I フランス語講読 I			1 1 1 1			数 学 数 学 I 数 学 II			2 2			
	中国語 I-1 中国語 I-2 中国語会話 I 中国語講読 I			1 1 1 1			自 然 と 環 境 自 然 と 環 境 I 自 然 と 環 境 II			2 2			
	朝鮮語 I-1 朝鮮語 I-2 朝鮮語会話 I 朝鮮語講読 I			1 1 1 1			芸 術 芸 術 I 芸 術 II			2 2			
	イタリア語 I-1 イタリア語 I-2 イタリア語会話 I イタリア語講読 I			1 1 1 1			衣 ・ 食 ・ 住 衣 ・ 食 ・ 住 I 衣 ・ 食 ・ 住 II			2 2			
	情報 I 情報 II			2 2			教 養 総 合 科 目 教 養 総 合 I 教 養 総 合 II			2 2			
	基礎トレーニング スポーツと健康の科学 スポーツ実技 I (バドミントン) スポーツ実技 II (バレーボール) スポーツ実技 III (卓球) スポーツ実技 IV (テニス) スポーツ実技 V (学外)			1 2 1 1 1 1 1			全学共通教養科目の卒業要件単位数は、各学部・学科において別に定める。						

全学共通教養科目（心理学部） 令和4年度以降入学生用

区分	授業科目	単 位				備考	区分	授業科目	単 位				備考
		必修	選択	自由	自由				必修	選択	自由	自由	
基幹科目	基礎 I 基礎 II 基礎 III			2 2 2			人と思想 理人 と間の 動心	哲学 宗教			2 2		
	女性 I 女性 II 女性 III 女性 IV			2 2 2 2				心理学 I 心とからだの健康			2 2		
	地域 神戸学 地域学習			2 2				言葉と文学 I 言葉と文学 II 言葉と文学 III 手話 I 手話 II			2 2 2 2 2		
語学科目（世界の言語）	英語 I-1 英語 I-2 英語 II-1 英語 II-2 外国語コミュニケーション I 外国語コミュニケーション II 教養英語 I-1 教養英語 I-2 教養英語 II-1 教養英語 II-2	1 1			1 1 1 1 1 1 1 1		一般科目	歴史 I 歴史 II 歴史 III			2 2 2		
	ドイツ語 I-1 ドイツ語 I-2		1 1					現代社会 日本国憲法 現代社会 I 現代社会 II 現代社会 III 現代社会 IV 現代社会 V			2 2 2 2 2 2		
	フランス語 I-1 フランス語 I-2 フランス語会話 I フランス語講読 I		1 1		1 1			数学 数学 I 数学 II			2 2		
	中国語 I-1 中国語 I-2 中国語会話 I 中国語講読 I		1 1		1 1			自然と環境 自然と環境 I 自然と環境 II			2 2		
	朝鮮語 I-1 朝鮮語 I-2 朝鮮語会話 I 朝鮮語講読 I		1 1		1 1			芸術 芸術 I 芸術 II			2 2		
	イタリア語 I-1 イタリア語 I-2 イタリア語会話 I イタリア語講読 I		1 1		1 1			衣・食・住 衣・食・住 I 衣・食・住 II			2 2		
	初習言語							教養総合科目 教養総合 I 教養総合 II			2 2		
	情報科目	情報 I 情報 II	2 2					演習科目 教養演習 I 教養演習 II			2 2		
	ウェルネス科目	基礎トレーニング スポーツと健康の科学	1 2						全学共通教養科目の卒業要件単位数は、各学部・学科において別に定める。				
		スポーツ実技 I-1 (球技) スポーツ実技 I (バドミントン) スポーツ実技 II (バレーボール) スポーツ実技 III (卓球) スポーツ実技 IV (テニス) スポーツ実技 V (学外)				1 1 1 1 1 1							

全学共通教養科目 学科別卒業要件単位数
(令和4年度以降入学生用)

区分	文 学 部							家政学部	
	日本語日本文学科	英語英米文学科	国際教養学科	史学科	教育学科			家政学科	管理栄養士養成課程
					初等教育コース	義務教育コース	幼児教育コース		
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	初習言語の中から1言語以上選択で2単位以上	英語 I-1、英語 I-2で2単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	初習言語の中から1言語以上選択で2単位以上と外国語コミュニケーション I、II 各1単位で合計4単位以上	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で8単位以上	英語のみで(英語 I-1, I-2必須)6単位以上
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 8単位以内	上限8単位	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 2単位以上8単位以内
情報科目			「情報 I」の2単位						
語学科目 (世界の言語)・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数	24単位	24単位	5単位	24単位	15単位	15単位	15単位	24単位	14単位

区分	健康福祉学部		看護学部	心理学部
	社会福祉学科	健康スポーツ栄養学科	看護学科	心理学科
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	英語のみで(英語 I-1, I-2必須)6単位以上	英語のみで6単位以上	全ての言語の中から(英語 I-1, I-2必須)6単位以上
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含み 3単位以上	基礎トレーニング1単位を含み 1単位以上	基礎トレーニング1単位、スポーツと健康の科学2単位を含み3単位以上
情報科目				情報 I、情報 II の4単位
語学科目 (世界の言語)・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数	16単位	16単位	20単位	20単位

文学部日本語日本文学科 (平成30年度以降入学生用)

学部学科名	区分	授業科目	単 位				備考		
			必修	選必	選択	自由			
文学部 日本語 日本文学科 中一種 国語 高一種 国語	共通必修科目	日本文学概論Ⅰ	2				音声学・文章表現を含む。日本語教員養成講座 日本語教員養成講座		
		日本文学概論Ⅱ	2						
		日本語学概論Ⅰ	2						
		日本語学概論Ⅱ	2						
		基礎演習	2						
		日本語日本文学入門Ⅰ	2						
		日本語日本文学入門Ⅱ	2						
		日本語日本文学演習Ⅰ－ⅰ	2						
		日本語日本文学演習Ⅰ－ⅱ	2						
		日本語日本文学演習Ⅱ－ⅰ	2						
		日本語日本文学演習Ⅱ－ⅱ	2						
		<古典文学>							
		日本文学史Ⅰ				2			
		日本文学史Ⅱ				2			
	古典文学講読Ⅰ				2				
	古典文学講読Ⅱ				2				
	古典文学特講Ⅰ				2				
	古典文学特講Ⅱ				2				
	<近現代文学>								
	日本文学史Ⅲ				2				
	日本文学史Ⅳ				2				
	近現代文学講読Ⅰ				2				
	近現代文学講読Ⅱ				2				
	近現代文学特講Ⅰ				2				
	近現代文学特講Ⅱ				2				
	選 択 科 目								
	コー ス 選 択 科 目	日本文学コース	芸能史Ⅰ			2			
			芸能史Ⅱ			2			
			古典芸能講読Ⅰ			2			
			古典芸能講読Ⅱ			2			
古典芸能特講Ⅰ					2				
古典芸能特講Ⅱ					2				
日本語コース		<コミュニケーション/日本語教育>							
		言語学概論Ⅰ			2	日本語教員養成講座			
		言語学概論Ⅱ			2	日本語教員養成講座			
		日本語教育特講Ⅰ			2	日本語教員養成講座			
日本語教育特講Ⅱ			2	日本語教員養成講座					
コミュニケーション特講Ⅰ			2						
コミュニケーション特講Ⅱ			2	日本語教員養成講座					
<日本語学>									
日本語文法Ⅰ			2	日本語教員養成講座					
日本語文法Ⅱ			2	日本語教員養成講座					

授業科目の概要

授 業 科 目 の 概 要	コ ー ス 選 択 科 目	日 本 語 コ ー ス	日本語学講読Ⅰ			2		
			日本語学講読Ⅱ			2		
			日本語史Ⅰ			2		日本語教員養成講座
			日本語史Ⅱ			2		日本語教員養成講座
	選 択 科 目		日本語表現Ⅰ			2		
			日本語表現Ⅱ			2		
			中国文学講読Ⅰ			2		中高必修
			中国文学講読Ⅱ			2		中高必修
			中国文学史Ⅰ			2		
			中国文学史Ⅱ			2		
			社会言語学			2		日本語教員養成講座
			文献資料学			2		
			国語科指導法Ⅰ			2		中高必修
			国語科指導法Ⅱ			2		中高必修
			書道			2		中免必修
			日本語教授法Ⅰ－ⅰ			2		日本語教員養成講座
			日本語教授法Ⅰ－ⅱ			2		日本語教員養成講座
	日本語教授法Ⅱ－ⅰ			2		日本語教員養成講座		
	日本語教授法Ⅱ－ⅱ			2		日本語教員養成講座		
	日本語実習			2		日本語教員養成講座		
		卒業論文		8				
		合 計				7 2 単位以上必修		

文学部英語英米文学科 (令和3年度以降入学生用)

学部学科名	授業科目	単位				備考
		必修	選必	選択	自由	
文学部	<学科共通科目>					
英語英米文学科	Speaking & Listening I	1				中高必修
	Speaking & Listening II	1				中高必修
	Reading I	1				中高必修
	Reading II	1				中高必修
	Basic Writing I	1				中高必修
	Basic Writing II	1				中高必修
	発音トレーニングA		1			} 1科目選択必修
	発音トレーニングB		1			
	英語文法論A		2			} 1科目選択必修
	英語文法論B		2			
	Oral Presentation I	1				
	Oral Presentation II	1				
	Intermediate Writing I	1				
	Intermediate Writing II	1				
	Oral Presentation III	1				中高必修
	Oral Presentation IV	1				中高必修
	Advanced English Seminar I	2				中高必修
	Advanced English Seminar II	2				中高必修
	TOEIC Training I	1				
	TOEIC Training II	1				
	TOEIC Training III	1				
	TOEIC Training IV	1				
	English for Careers I			2		
	English for Careers II			2		
	基礎セミナー I	2				演習系
	基礎セミナー II	2				
	プレセミナーA		2			} 2科目選択必修
	プレセミナーB		2			
	プレセミナーC		2			
	プレセミナーD		2			
	プレセミナーH		2			
	文化・文学・語学セミナー I	2				
	文化・文学・語学セミナー II	2				
	卒業論文セミナー	8				
	<コース選択科目>					英語学・教育系
	<英語学・英語教育コース>					
	英語学入門 I			2		中高必修
	英語学入門 II			2		中高必修
	英語史 I			2		
	英語史 II			2		

授業科目の概要

英語科指導法Ⅰ			2	中高必修
英語科指導法Ⅱ			2	中高必修
英語科指導法Ⅲ			2	中免必修高免選択
英語科指導法Ⅳ			2	中免必修高免選択
英語学特殊講義Ⅰ			2	
英語学特殊講義Ⅱ			2	
英語科教育総合演習			2	
Practical Cross-Cultural Communication			2	
児童英語教育入門Ⅰ			2	
児童英語教育入門Ⅱ			2	
英語学研究			2	
児童英語教育研究			2	
＜英米文学・文化コース＞				文化・文学系
英文学入門Ⅰ			2	
英文学入門Ⅱ			2	
米文学入門Ⅰ			2	
米文学入門Ⅱ			2	
英文学史Ⅰ			2	
英文学史Ⅱ			2	
米文学史Ⅰ			2	
米文学史Ⅱ			2	
英米文学作品研究Ⅰ			2	
英米文学作品研究Ⅱ			2	
翻訳演習Ⅰ			2	
翻訳演習Ⅱ			2	
イギリス文化研究			2	中高必修
アメリカ文化研究			2	中高必修
Media EnglishⅠ			2	
Media EnglishⅡ			2	
英語圏文学Ⅰ			2	中高必修
英語圏文学Ⅱ			2	中高必修
エアライン英語Ⅰ			2	
エアライン英語Ⅱ			2	
合計			7 2 単位以上必修	

文学部国際教養学科 (令和2年度以降入学生用)

	学部学科名	授業科目	単 位				備考
			必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	文学部 国際教養学科	< G C P (Global Communication Program) > (20単位以上必修)					
		Intensive English I A	1				
		Intensive English I B	1				
		Intensive English II A	1				
		Intensive English II B	1				
		Follow-up English I	1				
		Follow-up English II	1				
		Public Speaking&Report Writing I	1				
		Public Speaking&Report Writing II	1				
		実践英語 I	1				
		実践英語 II	1				
		国際コミュニケーション演習 I		1			中高 (英語) 必修
		国際コミュニケーション演習 II		1			
		観光英語 I		1			4単位以上 必修
		観光英語 II		1			
		ビジネス英語 I		1			
		ビジネス英語 II		1			
		アジアの言語A-I (中国語)		2			同一言語で 4単位以上 必修
		アジアの言語B-I (韓国・朝鮮語)		2			
		アジアの言語A-II (中国語)		2			
		アジアの言語B-II (韓国・朝鮮語)		2			
		アジアの言語A-III (中国語)		1			同一言語で 2単位以上必修
		アジアの言語B-III (韓国・朝鮮語)		1			
		アジアの言語A-IV (中国語)		1			
		アジアの言語B-IV (韓国・朝鮮語)		1			
		< G L S P 入門 (Global-Local Studies Program) > (10単位必修)					
		グローバル・ローカル入門	2				
		グローバル・ローカル技法	2				
グローバル・ローカル基礎 I	2						
グローバル・ローカル基礎 II	2						
グローバル・ローカル基礎 III	2						
< G L S P 専門基礎 > (8単位以上必修)							
人権思想の系譜		2			中免 (社会) 必修		
ジェンダー論		2			中免 (社会) 選択		
多文化共生論		2			中高 (英語) 必修		
世界の民族と宗教		2			中免 (社会) 必修		
経営学総論		2			中免 (社会) 選択必修		
世界の環境問題		2					
地域協働論		2					
< G L S P 専門 > (22単位以上必修)							
神戸と防災学				2			

授 業 科 目 の 概 要	国際金融論			2		中免（社会）選択必修	
	貿易・投資論			2		中免（社会）選択必修	
	国際企業経営研究			2		中免（社会）選択必修	
	ビジネス情報処理演習			2			
	ビジネスデータ分析演習			2			
	観光実務論Ⅰ			2			
	観光実務論Ⅱ			2			
	観光実務論Ⅲ			2			
	観光実務論Ⅳ			2			
	世界の地理・地誌学			2		中免（社会）必修	
	観光論			2			
	入門会計論			2			
	簿記論Ⅰ			2			
	簿記論Ⅱ			2			
	国際関係論			2		中免（社会）選択必修	
	地域開発論			2		中免（社会）選択必修	
	国際協力・援助政策論			2		中免（社会）選択必修	
	国際ボランティア活動論			2			
	国際協働事例研究			2			
	社会活動の法的基礎			2		中免（社会）必修	
	国際ボランティア・リーダーシップ論			2			
	地域研究AⅠ（アジア）			2			
	地域研究AⅡ（アジア）			2			
	地域研究BⅠ（アメリカ）			2		中高（英語）必修	
	地域研究BⅡ（アメリカ）			2		中高（英語）必修	
	< O C P (Off-Campus Program) > (6単位以上必修)						
	オフ・キャンパス・プログラムⅠ		6				
	オフ・キャンパス・プログラムⅡ		12				
	オフ・キャンパス・プログラムⅢ		18				
	オフ・キャンパス・プログラムⅣ		24				
	英語学入門Ⅰ			2			中高（英語）必修
	英語学入門Ⅱ			2			中高（英語）必修
	英語史Ⅰ			2			中高（英語）選択
英語史Ⅱ			2			中高（英語）選択	
英語圏文学Ⅰ			2			中高（英語）必修	
英語圏文学Ⅱ			2			中高（英語）必修	
英語科指導法Ⅰ			2			中高（英語）必修	
英語科指導法Ⅱ			2			中高（英語）必修	
社会科指導法Ⅰ			2			中免（社会）必修	
社会科指導法Ⅱ			2			中免（社会）必修	
グローバル・ローカル専門演習Ⅰ	2						
グローバル・ローカル専門演習Ⅱ	2						
卒業研究	8						
合計				78		78単位以上必修	

文学部史学科 (令和3年度以降入学生用)

学部学科名	授業科目	単位				備考
		必修	選必	選択	自由	
文学部						概論群 12単位以上必修
史学科	日本古代中世史		2			中高必修
	日本近世史		2			中高必修
中一種 社会	日本近現代史		2			中高必修
	東洋古代中世史		2			中高必修
高一種 地理歴史	東洋近現代史		2			中高必修
	西洋古代中世史		2			中高必修
	西洋近現代史		2			中高必修
	日本民俗学		2			
	日本考古学		2			
	歴史資料学入門		2			
	日本史料講読Ⅰ		2			講読・実習群 8単位以上必修
	日本史料講読Ⅱ		2			
	日本史料講読Ⅲ		2			
	日本史料講読Ⅳ		2			
	古文書講読Ⅰ		2			
	古文書講読Ⅱ		2			
	東洋史料講読Ⅰ		2			
	東洋史料講読Ⅱ		2			
	西洋史料講読Ⅰ		2			
	西洋史料講読Ⅱ		2			
	日本考古学実習		2			
	日本民俗学実習Ⅰ		2			
	日本民俗学実習Ⅱ		2			
	日本史特殊講義Ⅰ		2			
	日本史特殊講義Ⅱ		2			
	日本史特殊講義Ⅲ		2			
	日本史特殊講義Ⅳ		2			
	日本史特殊講義Ⅴ		2			
	日本史特殊講義Ⅵ		2			
	日本史特殊講義Ⅶ		2			
	日本史特殊講義Ⅷ		2			
	東洋史特殊講義Ⅰ		2			
	東洋史特殊講義Ⅱ		2			
	東洋史特殊講義Ⅲ		2			
	東洋史特殊講義Ⅳ		2			
	西洋史特殊講義Ⅰ		2			
	西洋史特殊講義Ⅱ		2			
	西洋史特殊講義Ⅲ		2			
	西洋史特殊講義Ⅳ		2			

授業科目の概要

授 業 科 目 の 概 要	日本考古学特殊講義 I		2			
	日本考古学特殊講義 II		2			
	日本民俗学特殊講義 I		2			
	日本民俗学特殊講義 II		2			
	日本古文書学 I		2			
	日本古文書学 II		2			
	美術史 I		2			
	美術史 II		2			
	宗教思想史 I		2			
	宗教思想史 II		2			
	女性史 I		2			
	女性史 II		2			
	女性史 III		2			
	入門演習	2				演習群 16単位必修
	基礎演習 I	2				
	基礎演習 II	2				
	史学演習 I	2				
	史学演習 II	2				
	史学演習 III	2				
	史学演習 IV	2				
	史学演習 V	2				
	漢文講読入門			2		
	博物館概論			2		学芸員必修
	博物館資料論			2		学芸員必修
	博物館経営論			2		学芸員必修
	資料保存論			2		学芸員必修
	博物館展示論			2		学芸員必修
	博物館教育論			2		学芸員必修
	博物館実習			3		学芸員必修
	人文地理学			2		中高必修
	自然地理学			2		中高必修
	地誌学			2		中高必修
	現代社会			2		中免必修
法律学			2		中免必修	
倫理学概論			2		中免必修	
社会科指導法 I			2		中免必修	
地理歴史科指導法 I			2		高免必修	
卒業論文	8					
合 計			7 2 単位以上必修			

文学部教育学科 初等教育コース（令和2年度以降入学生用）

学部 学科	区分	授 業 科 目	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
文学部 教育学科 初等 教育 コース 小一種 幼一種	学科 共通 基礎 科目 群	学科専門科目					★印：教職課程必修科目 ☆印：小免必修科目
		教育学概論	2				} いずれか1科目選択必修
		教育史		2			
		人権教育		2			
		★ 教育原理	2				
		★ 教職論	2				
		★ 教育社会学	2				
		★ 教育心理学	2				
		★ 特別支援教育	2				
		★ 教育相談	2				
		★ 教職実践演習（幼・小・中）				2	
		★ 学校インターンシップⅠ				1	} I, II, III, IV, V, VIと順に履修すること
		★ 学校インターンシップⅡ				1	
		★ 学校インターンシップⅢ				1	
		★ 学校インターンシップⅣ				1	
★ 学校インターンシップⅤ				1			
★ 学校インターンシップⅥ				1			
卒業論文Ⅰ	4						
卒業論文Ⅱ	4						
授 業 科 目 の 概 要	コ ー ス 基 幹 教 職 専 門 科 目 群 （ 幼 ・ 小 ）	☆ 道徳教育の理論と指導法	2				☆印：小免必修科目
		☆ 総合的な学習の時間の指導法	2				◇印：幼免必修科目
		☆ 特別活動の指導法	2				
		☆ 教育の方法及び技術	2				
		☆ 生徒・進路指導論	2				
		☆ 教育課程論	2				
		◇ 幼稚園教育課程論				2	
		◇ 幼児理解論				2	
◇ 幼児教育の方法及び技術				2			
◇ 幼児教育指導法				2			
実 習 科 目 群	▼ 初等教育実習指導（幼）				1	} ▼印：小免・幼免選択必修科目 学校種に応じた科目を必修 小免及び幼免取得の場合はいずれも必修	
	▼ 初等教育実習指導（小）				1		
	▼ 初等教育実習Ⅰ				2	} 小免又は幼免のみの場合Ⅰ、Ⅱ必修 小免及び幼免取得の場合Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ必修	
	▼ 初等教育実習Ⅱ				2		
	▼ 初等教育実習Ⅲ				2		
コ ー ス 主 専 攻 専 門 科 目 群 （ 小 ）	☆ 国語科概説（書写を含む。）	2				☆印：小免必修科目	
	☆ 社会科概説	2					
	☆ 算数科概説	2					
	☆ 理科概説	2					
	☆ 生活科概説	2					
	☆ 音楽科概説				2		
	☆ 図画工作科概説				2		
	☆ 家庭科概説				2		
	☆ 体育科概説				2		
	☆ 英語科概説	2					
	☆ 国語科教育法	2					
	☆ 社会科教育法	2					
	☆ 算数科教育法	2					
	☆ 理科教育法	2					
	☆ 生活科教育法	2					
	☆ 音楽科教育法				2		
	☆ 図画工作科教育法				2		
	☆ 家庭科教育法				2		
☆ 体育科教育法				2			
☆ 英語科教育法	2						
☆ 介護等体験				1			
☆ 国語科教材研究				2			
☆ 社会科教材研究				2			

授 業 科 目 の 概 要		算数科教材研究 理科教材研究 生活科教材研究 音楽科教材研究 図画工作科教材研究 家庭科教材研究 体育科教材研究 英語科教材研究 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 教育学講読 教育学演習			2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2			
	コース副専攻専門科目群（幼）	◇ 幼児と健康 ◇ 幼児と言葉 ◇ 幼児と人間関係 ◇ 幼児と環境 ◇ 幼児と表現Ⅰ ◇ 幼児と表現Ⅱ ◇ 保育内容 健康 ◇ 保育内容 言葉 ◇ 保育内容 人間関係 ◇ 保育内容 環境 ◇ 保育内容 表現Ⅰ ◇ 保育内容 表現Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	◇印：幼免必修科目		
	コース発展科目群（幼・小）	教育基礎演習 小学校基礎演習 幼児教育基礎演習	2			2 2		
	合 計		66 単位以上					

文学部教育学科 義務教育コース（令和2年度以降入学生用）

学部 学科	区分	授 業 科 目	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
文学部 教育学科 義務教育 コース 小一種 中一種	学科 共通 基礎 科目 群	学科専門科目					★印：教職課程必修科目
		教育学概論	2				} いずれか1科目選択必修
		教育史		2			
人権教育			2				
★ 教育原理		2					
★ 教職論		2					
★ 教育社会学		2					
★ 教育心理学		2					
★ 特別支援教育		2					
★ 教育相談		2					
★ 教職実践演習（幼・小・中）					2		
★ 学校インターンシップⅠ					1	} I, II, III, IV, V, VIと順に履修すること	
★ 学校インターンシップⅡ					1		
★ 学校インターンシップⅢ				1			
★ 学校インターンシップⅣ				1			
★ 学校インターンシップⅤ				1			
★ 学校インターンシップⅥ				1			
卒業論文Ⅰ	4						
卒業論文Ⅱ	4						
授 業 科 目 の 概 要	コ ー ス 基 幹 教 職 専 門 群	<input type="checkbox"/> 道徳教育の理論と指導法	2				□印：小免・中免必修科目
		<input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間の指導法	2				
		<input type="checkbox"/> 特別活動の指導法	2				
		<input type="checkbox"/> 教育の方法及び技術	2				
		<input type="checkbox"/> 生徒・進路指導論	2				
		<input type="checkbox"/> 教育課程論	2				
実 習 科 目 群	☆ 初等教育実習指導（小）			1		} 小免に加え中免取得の場合はいずれも必修	
	● 中等教育実習指導			1			
	☆ 初等教育実習Ⅰ			2		} 小免のみ取得の場合初等教育実習Ⅰ、Ⅱ必修 小免・中免両免取得の場合初等教育実習Ⅰ、Ⅱ及び 中等教育実習Ⅰ必修 初等教育実習Ⅲは教員免許状既修得者用	
	☆ 初等教育実習Ⅱ			2			
	☆ 初等教育実習Ⅲ			2			
	● 中等教育実習Ⅰ			2			
	● 中等教育実習Ⅱ			2			
コ ー ス 主 専 攻 専 門 科 目 群 （ <small>小</small> ）	☆ 国語科概説（書写を含む。）	2				☆印：小免必修科目 □印：小免・中免必修科目	
	☆ 社会科概説	2					
	☆ 算数科概説	2					
	☆ 理科概説	2					
	☆ 生活科概説	2					
	☆ 音楽科概説			2			
	☆ 図画工作科概説			2			
	☆ 家庭科概説			2			
	☆ 体育科概説			2			
	☆ 英語科概説	2					
	☆ 国語科教育法	2					
	☆ 社会科教育法	2					
	☆ 算数科教育法	2					
	☆ 理科教育法	2					
	☆ 生活科教育法	2					
☆ 音楽科教育法			2				
☆ 図画工作科教育法			2				
☆ 家庭科教育法			2				
☆ 体育科教育法			2				
☆ 英語科教育法	2						
□ 介護等体験			1				
☆ 国語科教材研究			2				
☆ 社会科教材研究			2				
☆ 算数科教材研究			2				

授 業 科 目 の 概 要		理科教材研究			2	
		生活科教材研究			2	
		音楽科教材研究			2	
		図画工作科教材研究			2	
		家庭科教材研究			2	
		体育科教材研究			2	
		英語科教材研究			2	
		器楽Ⅰ			1	
		器楽Ⅱ			1	
		教育学講読	2			
		教育学演習	2			
		● 英語学概論Ⅰ	2			●印：中免必修科目
		● 英語学概論Ⅱ			2	
		英語史			2	
		● 英文法	2			
		英語音声学	2			
		● 英語圏文学Ⅰ	2			
		● 英語圏文学Ⅱ			2	
		● 英語コミュニケーションⅠ	2			
		● 英語コミュニケーションⅡ	2			
	● 実践英語表現Ⅰ	2				
	● 実践英語表現Ⅱ	2				
	時事英語			2		
	海外語学セミナー			3		
	英語文化教育論	2				
	英語科教育特別演習Ⅰ			2		
	英語科教育特別演習Ⅱ			2		
	中等英語科教材研究Ⅰ			2		
	中等英語科教材研究Ⅱ			2		
	中等英語科教材研究Ⅲ			2		
	児童英語教育概論	2				
	英語圏文学入門	2				
	Oral PresentationⅠ	1				
	Oral PresentationⅡ			1		
	Speaking & ListeningⅠ	1				
	Speaking & ListeningⅡ			1		
	Basic WritingⅠ	1				
	Basic WritingⅡ			1		
	ReadingⅠ	1				
	ReadingⅡ			1		
	発音トレーニングⅠ	1				
	発音トレーニングⅡ			1		
	比較文化論			2		
	● 異文化理解教育	2				
	英語カリキュラム論	2				
	● 中等英語科教育法Ⅰ	2				
	● 中等英語科教育法Ⅱ	2				
	● 中等英語科教育法Ⅲ			2		
	● 中等英語科教育法Ⅳ			2		
	コース副専攻専門科目群(中)					
	コース 科目群 発展	教育基礎演習	2			
		小学校基礎演習			2	
		中学校基礎演習			2	
		学校と地域連携・協働			2	
		合 計			101 単位以上	

文学部教育学科 心理学コース (令和2年度以降入学生用)

学部 学科	区分	授 業 科 目	単 位				備 考
			必修	選択	選択	自由	
文学部 教育学科 心理学 コース 小一種	学科専門科目	学科専門科目					★印：教職課程必修科目
		教育学概論	2				} いずれか1科目選択必修
		教育史		2			
		人権教育		2			
		★ 教育原理	2				
		★ 教職論	2				
		★ 教育社会学	2				
		★ 教育心理学	2				
		★ 特別支援教育	2				
		★ 教育相談	2				
		★ 教職実践演習(幼・小・中)				2	
		★ 学校インターンシップⅠ				1	} I, II, III, IV, V, VIと順に履修すること
		★ 学校インターンシップⅡ				1	
		★ 学校インターンシップⅢ				1	
		★ 学校インターンシップⅣ				1	
		★ 学校インターンシップⅤ				1	
		★ 学校インターンシップⅥ				1	
	卒業論文Ⅰ	4					
	卒業論文Ⅱ	4					
	門科目群 (小)	☆ 道徳教育の理論と指導法	2				☆印：小免必修科目
		☆ 総合的な学習の時間の指導法	2				
		☆ 特別活動の指導法	2				
		☆ 教育の方法及び技術	2				
		☆ 生徒・進路指導論	2				
		☆ 教育課程論	2				
	実習科目群	☆ 初等教育実習指導(小)			1		☆印：小免必修科目
		☆ 初等教育実習Ⅰ			2		
		☆ 初等教育実習Ⅱ			2		
		☆ 初等教育実習Ⅲ			2		教員免許状既修得者用
	コース 主専攻 専門科目群 (小免科目群)	☆ 国語科概説(書写を含む。)	2				☆印：小免必修科目
		☆ 社会科概説	2				
		☆ 算数科概説	2				
		☆ 理科概説	2				
☆ 生活科概説		2					
☆ 音楽科概説				2			
☆ 図画工作科概説				2			
☆ 家庭科概説				2			
☆ 体育科概説				2			
☆ 英語科概説		2					
☆ 国語科教育法		2					
☆ 社会科教育法		2					
☆ 算数科教育法		2					
☆ 理科教育法		2					
☆ 生活科教育法		2					
☆ 音楽科教育法				2			
☆ 図画工作科教育法				2			
☆ 家庭科教育法				2			
☆ 体育科教育法				2			
☆ 英語科教育法		2					
☆ 介護等体験			1				
☆ 国語科教材研究			2				
☆ 社会科教材研究			2				
☆ 算数科教材研究			2				
☆ 理科教材研究			2				
☆ 生活科教材研究			2				
☆ 音楽科教材研究			2				
☆ 図画工作科教材研究			2				

授 業 科 目 の 概 要		家庭科教材研究			2	
		体育科教材研究			2	
		英語科教材研究			2	
		器楽Ⅰ			1	
		器楽Ⅱ			1	
	コース主専攻専門科目群（心理学科目群）	発達心理学A			2	
		発達心理学B			2	
		発達心理学C			2	
		臨床心理学			2	
		発達と障がいの臨床心理学			2	
	認知心理学			2		
	心理統計			2		
	社会心理学			2		
	心理学研究法Ⅰ			2		
	心理学研究法Ⅱ			2		
	家族心理学			2		
	精神保健			2		
	心理検査法実習			1		
	対人関係論			2		
	カウンセリング			2		
	心理学講読	2				
	心理学演習	2				
コース発展科目群	教育基礎演習	2				
	小学校基礎演習			2		
	合 計				66 単位以上	

文学部教育学科 幼児教育コース（令和2年度以降入学生用）

学部 学科	区分	授 業 科 目	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
文学部 教育学科 初等 教育 コース 幼一種	学科 共通 基礎 科目 群	学科専門科目					★印：教職課程必修科目 いづれか1科目選択必修 I, II, III, IV, V, VIと順に履修すること
		教育学概論	2				
		教育史		2			
		人権教育		2			
		★ 教育原理	2				
		★ 教職論	2				
		★ 教育社会学	2				
		★ 教育心理学	2				
		★ 特別支援教育	2				
		★ 教育相談	2				
		★ 教職実践演習（幼・小・中）			2		
		★ 学校インターンシップⅠ			1		
		★ 学校インターンシップⅡ			1		
		★ 学校インターンシップⅢ			1		
		★ 学校インターンシップⅣ			1		
		★ 学校インターンシップⅤ			1		
		★ 学校インターンシップⅥ			1		
卒業論文Ⅰ	4						
卒業論文Ⅱ	4						
職 専 門 科 目 群	コース 基 礎 教 育 科 目 群	◇ ▲ 幼稚園教育課程論	2				◇印：幼免必修科目
		◇ ▲ 幼児教育の方法及び技術	2				◎印：保育士資格必修科目
		◇ ▲ 幼児教育指導法	2				■印：保育士資格選択必修科目
		◇ ▲ 幼児理解論	2				▲印：保育士資格選択科目(6単位以上)
授 業 科 目 の 概 要	実 習 科 目 群	◇ 初等教育実習指導（幼）			1		教員免許状既修得者用
		◇ 初等教育実習Ⅰ			2		
		◇ 初等教育実習Ⅱ			2		
		◇ 初等教育実習Ⅲ			2		
		◎ 保育実習Ⅰ			4		
		◎ 保育実習指導Ⅰ（保育所）			1		
		◎ 保育実習指導Ⅰ（施設）			1		
		■ 保育実習Ⅱ			2		
		■ 保育実習指導Ⅱ			1		
		■ 保育実習Ⅲ			2		
■ 保育実習指導Ⅲ			1				
授 業 科 目 の 概 要	コ ー ス 主 専 攻 専 門 科 目	◎ 幼児教育原理			2		
		◇ 幼児と健康	2				
		◇ 幼児と言葉	2				
		◇ 幼児と人間関係	2				
		◇ 幼児と環境	2				
		◇ 幼児と表現Ⅰ	2				
		◇ 幼児と表現Ⅱ	2				
		◇ ◎ 保育内容 健康	2				
		◇ ◎ 保育内容 言葉	2				
		◇ ◎ 保育内容 人間関係	2				
		◇ ◎ 保育内容 環境	2				
		◇ ◎ 保育内容 表現Ⅰ	2				
		◇ ◎ 保育内容 表現Ⅱ	2				
		◎ 保育内容の理解と方法Ⅰ			2		
		◎ 保育内容の理解と方法Ⅱ			2		
		▲ 音楽科概説			2		
		◎ 器楽Ⅰ			1		
		◎ 器楽Ⅱ			1		
		◎ 社会福祉			2		
		◎ 子ども家庭福祉			2		
◎ 保育原理			2				
◎ 社会的養護Ⅰ			2				
◎ 社会的養護Ⅱ			2				
◎ 子育て支援			2				
◎ 保育者論			2				
◎ 保育の心理学			2				

日 群	◎ 子ども家庭支援の心理学		2		
	◎ 子どもの理解と援助		2		
	◎ 子どもの保健Ⅰ		2		
	◎ 子どもの保健Ⅱ		2		
	◎ 子どもの保健Ⅲ		2		
	◎ 子どもの食と栄養		2		
	◎ 子ども家庭支援論		2		
	◎ 保育の計画と評価		2		
	◎ 保育内容総論		2		
	◎ 乳児保育Ⅰ		2		
	◎ 乳児保育Ⅱ		2		
	◎ 障がい児保育		2		
	▲ 子どもの理解と発達Ⅰ		1		
	▲ 子どもの理解と発達Ⅱ		1		
	◎ 保育実践演習		2		
▲ カウンセリング 器楽Ⅲ		1			
器楽Ⅳ		1			
教育学講読	2				
教育学演習	2				
展 科 目 群	教育基礎演習	2			
	幼児教育基礎演習			2	
合 計			62 単位以上		

家政学部家政学科(令和2年度以降入学生用)

学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考	
			必修	選必	選択	自由		
家政学部 家政学科 中一種 家庭 高一種 家庭	専門 共通 科目	家政学を学ぶ	2				高免必修	
		家政学原論	2					
		生活情報処理	1					
		生活科学基礎演習			1			
		くらしの社会学	2					
		人間生活工学	2					
		生活統計学	2					
		色彩論	2					中高選択
		卒業研究基礎演習	1					
		くらしの経済学	2					
		人間生活工学演習				1		
		保育学(実習及び家庭看護学を含む)	2					中高必修
		家庭電気・機械				2		高免必修
		生活材料学	2					中高選択
		公衆衛生学	2					
		生活環境学				2		中高選択
		フィールドワーク				2		
		アパレル造形学	2					中高必修
		家庭科指導法Ⅰ				2		中高必修
		家庭科指導法Ⅱ				2		中高必修
		和装文化演習				1		
		基礎調理学実習				1		中高必修
		生活経営学	2					中高必修
		栄養学総論				2		中高必修
		住居計画学(製図を含む)				2		中高必修、住空間コース必修
		食生活文化論				2		
		衣生活文化論				2		被服デザイン科学コース必修
		住生活文化論				2		中高選択・住空間コース必修
		食品学総論				2		中高必修
		教材開発研究				2		中高選択
		卒業研究		8				
		被服 デザ イン 科学 コース	被服管理学		2			
繊維材料学			2					
被服科学実験			1			中高選択		
被服衛生学			2					
繊維製品品質管理			2					
基礎アパレル造形演習			2			中高必修		
アパレル造形演習			2			コース科目群の選択必修より		
ファッションデザイン演習			1			16単位以上修得		
アパレルCAD入門			1			他コース選択必修より		
ファッションビジネス論		2			4単位以上修得			

授 業 科 目 の 概 要	コ ー ス 専 門 科 目	基礎製図演習	1		
		インテリアデザイン論	2		
		住空間設計実習	1		
		都市デザイン論	2		
		インテリアデザイン演習	1		
		室内環境学	2		
		福祉住環境学	2		中高必修
		空間デザイン演習	2		コース科目群の選択必修より
		都市デザイン演習	1		16単位以上修得
		インテリアCAD入門	1		他コース選択必修より
	室内環境学演習	1		4単位以上修得	
	生 活 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	パーソナルファイナンス論	2		
		家族関係学	2		中高必修
		社会調査法	2		
		社会組織論	2		
		家庭福祉論	2		
		生活経済学	2		中高必修
		生活プロジェクト論	2		コース科目群の選択必修より
		社会調査法演習	1		16単位以上修得
		生活プロジェクト基礎演習	2		他コース選択必修より
生活プロジェクト応用演習	2		4単位以上修得		
合 計		76 単位以上必修			

家政学部管理栄養士養成課程(平成31年度以降入学生用)

学部学科	区分	授業科目	単位			備考	学部学科	区分	授業科目	単位			備考
			必修	選択	自由					必修	選択	自由	
家政学部 管理栄養士養成課程 中一種 家庭 高一種 家庭	専 門 分 野	学科専門科目					家政学部	総合演習 I	1			4単位必修	
		公衆衛生学 I	2				専	総合演習 II	1				
		公衆衛生学 II	2				門	臨床栄養学実習 I (校外)	1				
		保健医療福祉論	2				分	臨床栄養学実習 II (校外)	1				
		健康管理概論	2				野	公衆栄養学実習 (校外)	1				
		解剖生理学	2					給食経営管理実習 I (校外)	1				
		解剖生理学実験	1					給食経営管理実習 II (校外)	1				
		運動生理学	2					管理栄養士論 I	2				
		臨床医学概論	2					管理栄養士論 II	2				
		病理学	2					管理栄養士のための化学 I	2				
		感染防御学	2					管理栄養士のための化学 II	2				
		基礎微生物学実験	1					管理栄養士のための生物 I	2				
		生化学 I	2					管理栄養士のための生物 II	2				
		生化学 II (病態生化学・ 分子栄養学を含む)	2					特別化学	2				
		生化学実験	1					特別生物	2				
		基礎化学実験	1					解剖生理学 II	2				
		食品学総論	2					食品機器分析	2				
		食品学実験	1					臨地実習特別演習 I	1				
		食品加工学	2					臨地実習特別演習 II	1				
		(食品微生物学を含む)						食品学各論	2		フードスペシャリスト必修		
		食品加工学実習	1					食生活論	2		フードスペシャリスト必修		
		食品衛生学	2					食料経済	2		フードスペシャリスト必修		
		食品衛生学実験	1					生活情報処理 II (推定と検定)	1		フードスペシャリスト必修 高免必修		
		調理学	2					生活情報処理 III (基礎統計学を含む)	1				
		基礎調理学実習	1					消費生活科学 (食品商品学を含む)	2		フードスペシャリスト必修		
		応用調理学実習	1					フードスペシャリスト論	2		フードスペシャリスト必修		
		調理科学実験	1					フードコーディネータ論	2		フードスペシャリスト必修		
		基礎栄養学	2					卒業論文 I	2				
		基礎栄養学実験	1					卒業論文 II	3				
		応用栄養学	2					卒業論文 III	3				
		ライフステージ栄養学	2					学校栄養教育論 I	2		栄養教必修		
		スポーツ栄養学	2					学校栄養教育論 II	2		栄養教必修		
		応用栄養学実習	1					保育学 (実習及び家庭 看護学を含む)	2		中高必修		
栄養教育論 I	2					家庭電気・機械	2		高免必修				
栄養教育論 II	2					衣生活概論	2		中高必修				
カウンセリング論	2					基礎アパレル造形演習	2		中高必修				
栄養教育実習	1					住居計画学(製図を含む)	2		中高必修				
生活情報処理実習 I (基礎統計学を含む)	1					家族関係学	2		中高必修				
臨床栄養学概論	2					家庭科指導法 I	2		中高必修				
臨床栄養学 I	2					家庭科指導法 II	2		中高必修				
臨床栄養学 II	2					生活経営学	2		中高必修				
臨床栄養活動論	2					被服管理学	2		中高選必				
臨床栄養管理学実習 I	1					被服衛生学	2		中高選必				
臨床栄養管理学実習 II	1												
公衆栄養学 I	2												
公衆栄養学 II	2												
公衆栄養学実習	1												
給食経営管理論	2												
フードシステム論	2												
給食経営管理実習	1												
						合 計			106単位以上必修				

健康福祉学部社会福祉学科（令和3年度以降入学生用）

学部学科名	区分	授業科目	単 位				備考
			必修	選必	選択	自由	
健康福祉学部 社会福祉学科	学科 共通 科目	基礎演習Ⅰ	2				
		基礎演習Ⅱ	2				
		専門演習Ⅰ	2				
		専門演習Ⅱ	2				
		卒業論文	8				
		福祉と人権				2	
		ボランティア活動論				2	
		医療福祉論				2	
		社会福祉特講Ⅰ				2	
		社会福祉特講Ⅱ				2	
	社会福祉特講Ⅲ				2		
	社会福祉特講Ⅳ				2		
	社会福祉特講Ⅴ				2		
	社会 福祉 士 受 験 資 格 科 目	医学概論				2	
		心理学と心理的支援				2	
		社会学と社会システム				2	
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	2				
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2				
		社会福祉調査の基礎				2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ				2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ				2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ				2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ				2	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ				2	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ				2	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ				2	
		福祉サービスの組織と経営				2	
		社会保障Ⅰ				2	
		社会保障Ⅱ				2	
高齢者福祉					2		
障害者福祉					2		
児童・家庭福祉					2		
貧困に対する支援					2		
保健医療と福祉					2		
権利擁護を支える法制度					2		
刑事司法と福祉				2			
ソーシャルワーク演習				1			
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ				2			
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ				2			
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				2	社会福祉士受験資格取得希望者のみ		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				2	社会福祉士受験資格取得希望者のみ		
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				2	社会福祉士受験資格取得希望者のみ		
ソーシャルワーク実習Ⅰ				4	社会福祉士受験資格取得希望者のみ		
ソーシャルワーク実習Ⅱ				2	社会福祉士受験資格取得希望者のみ		
精 神	精神医学と精神医療Ⅰ				2		
	精神医学と精神医療Ⅱ				2		
	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ				2		
	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ				2		
	精神保健福祉の原理Ⅰ				2		

授 業 科 目 の 概 要	保 健 福 祉 士 受 験 資 格 科 目	精神保健福祉の原理Ⅱ			2	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ			2	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ			2	
		精神障害リハビリテーション論			2	
		精神保健福祉制度論			2	
		ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
		ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
		ソーシャルワーク演習（専門）Ⅴ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
		ソーシャルワーク実習指導Ⅴ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
		ソーシャルワーク実習指導Ⅵ			2	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ
	ソーシャルワーク実習Ⅲ			7	精神保健福祉士受験資格取得希望者のみ	
	介 護 福 祉 士 受 験 資 格 科 目	介護の基本Ⅰ			2	
		介護の基本Ⅱ			2	
		介護の基本Ⅲ			2	
		リハビリテーション			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
		リスクマネジメント			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
		在宅支援			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
		コミュニケーション技術			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		生活支援技術Ⅰ（基礎）			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		生活支援技術Ⅱ（応用）			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		生活支援技術Ⅲ（応用）			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		生活支援技術Ⅳ（個別介護技術）			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		生活支援技術Ⅴ（家政）			2	介護福祉士資格取得希望者のみ
		介護過程Ⅰ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
		介護過程Ⅱ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
		介護過程Ⅲ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ
介護過程Ⅳ				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護過程Ⅴ（事例研究）				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護総合演習Ⅰ				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護総合演習Ⅱ				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護総合演習Ⅲ				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護総合演習Ⅳ				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）				4	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）				1	介護福祉士資格取得希望者のみ	
介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）				6	介護福祉士資格取得希望者のみ	
発達と老化の理解				2		
認知症の理解Ⅰ				2		
認知症の理解Ⅱ			2			
障害の理解			2			
こころとからだⅠ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ		
こころとからだⅡ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ		
こころとからだⅢ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ		
医療的ケアⅠ			2	介護福祉士資格取得希望者のみ		
医療的ケアⅡ			2	介護福祉士資格取得希望者のみ		
医療的ケアⅢ			1	介護福祉士資格取得希望者のみ		
医療的ケアⅣ（演習）			1	介護福祉士資格取得希望者のみ		
科自由	国際健康福祉プログラムⅢ			1		
合計				7 2 単位以上必修		

健康福祉学部健康スポーツ栄養学科（令和2年度以降入学生用）健康栄養コース

学部学科名	区分	授業科目	単位				備考
			必修	選必	選択	自由	
健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	社会と健康 生活	公衆衛生学	2				
		社会福祉論	2				
	人体の構造と機能	解剖生理学	2				
		解剖生理学実験	1				
		運動生理学 I	2				
		スポーツ医学	2				
		臨床医学概論	2				
		生化学	2				
		生化学実験	1				
	食品と衛生	食品学総論	2				
		食品学実験	1				
		食品加工学（食品微生物学を含む）	2				
		食品加工学実習	1				
		食品衛生学	2				
	栄養と健康	食品衛生学実験	1				
		栄養学総論	2				
		栄養学実験	1				
		応用栄養学	2				
		応用栄養学実習	1				
		スポーツ栄養学 I	2				
栄養の指導	臨床栄養学概論	2					
	臨床栄養学実習	1					
	栄養教育・指導論 I	2					
	栄養教育・指導論 II（カウンセリング論含む）	2					
	栄養教育・指導論実習	1					
	公衆栄養学概論	2					
学 科 共 通 専 門 科 目	公衆栄養学実習	1					
	学校栄養教育論			2		栄教免必修	
	給食の運営	給食計画・実務論	2				
		給食運営管理実習	1				
		調理科学	2				
		基礎調理学実習	1				
		応用調理学実習 I	1				
応用調理学実習 II		1					
給食管理実習 I（校外）	1						
ライ フ サ イ エ ン ス 関 連 科 目	食生活論			2			
	栄養機能食品論			2			
	生活習慣病と食生活			2			
	グローバル・ヘルスプロモーション			2			
	国際栄養論			2			
	国際健康福祉プログラム I			1			

授業科目の概要

健康・福祉関連科目	健康・福祉関連科目	国際健康福祉プログラムⅡ			1			
		健康福祉論（ライフサイクルとＱＯＬを含む）			2			
		社会福祉援助技術			1			
		健康食育論			2			
		障害者とスポーツ			2			
		災害時の食事・栄養管理実習			1			
	その他		基礎演習Ⅰ	1				
			基礎演習Ⅱ	1				
			専門演習Ⅰ	1				
			専門演習Ⅱ	1				
		卒業論文	8					
導入教育		基礎生物学演習			1			
		コメディカル領域の生物学演習	1					
		基礎化学演習			1			
		コメディカル領域の化学演習	1					
健康スポーツ	スポーツ関連科目	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）			2			
		運動生理学実習			1			
		スポーツ栄養学Ⅱ			2			
		スポーツ栄養指導実習			1			
		スポーツ栄養クッキング			1			
		スポーツ栄養情報処理演習			1			
スポーツ科目	健康と運動関連科目	生涯スポーツ科学（スポーツ心理学を含む）			2			
		健康体力評価論（含実習）			1			
		理学療法論			2			
		応急手当実習			1			
	ツ運動指導・スポーツ関連科目	健康管理概論（倫理学を含む）			2			
合計			87単位以上必修					

健康福祉学部健康スポーツ栄養学科（令和2年度以降入学生用）健康スポーツコース

学部学科名	区分	授業科目	単位				備考
			必修	選必	選択	自由	
健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	社会と健康 生活	公衆衛生学	2				中高免必修
		社会福祉論	2				
	人体の構造と機能	解剖生理学	2				中高免必修
		解剖生理学実験	1				
運動生理学Ⅰ		2				中高免必修	
スポーツ医学		2					
臨床医学概論		2					
生化学		2					
生化学実験		1					
食品と衛生	食品学総論	2				中高免必修	
	食品学実験	1					
	食品加工学（食品微生物学を含む）	2					
	食品加工学実習	1					
	食品衛生学	2					
	食品衛生学実験	1					
栄養と健康	栄養学総論	2					
	栄養学実験	1					
	応用栄養学	2					
	応用栄養学実習	1					
	スポーツ栄養学Ⅰ	2					
	臨床栄養学概論	2					
	臨床栄養学実習	1					
栄養の指導	栄養教育・指導論Ⅰ	2					
	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	2					
	栄養教育・指導論実習	1					
	公衆栄養学概論	2					
	公衆栄養学実習	1					
	学校栄養教育論			2			栄教免必修
	給食の運営	給食計画・実務論	2				
給食運営管理実習		1					
調理科学		2					
基礎調理学実習		1					
応用調理学実習Ⅰ		1					
応用調理学実習Ⅱ		1					
給食管理実習Ⅰ（校外）		1					
ライフ関連サイエンス	食生活論			2			
	栄養機能食品論			2			
	生活習慣病と食生活			2			
	グローバル・ヘルスプロモーション			2			
健康・福祉関連科目	国際栄養論			2			
	国際健康福祉プログラムⅠ			1			
	国際健康福祉プログラムⅡ			1			
	健康福祉論（ライフサイクルとQOLを含む）			2			
	社会福祉援助技術			1			
	健康食育論			2			
	障害者とスポーツ			2			
	災害時の食事・栄養管理実習			1			

授業科目の概要

授 業 科 目 の 概 要	そ の 他	基礎演習Ⅰ	1					
		基礎演習Ⅱ	1					
		専門演習Ⅰ	1					
		専門演習Ⅱ	1					
		卒業論文	8					
	導 入 教 育	基礎生物学演習			1			
		コメディカル領域の生物学演習	1					
		基礎化学演習			1			
		コメディカル領域の化学演習	1					
	健 康 ス ポ ー ツ 科 目	ス ポ ー ツ 栄 養 関 連 科	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）			2	中高選択	
			運動生理学実習			1	中高選択	
			スポーツ栄養学Ⅱ			2		
		健 康 と 運 動 関 連 科 目	生涯スポーツ科学（スポーツ心理学を含む）			2		
			運動プログラム論			2		
健康体力評価論（含実習）					1			
機能運動論			2				中高免必修	
理学療法論					2			
応急手当実習			1				中高免必修	
トレーニング論					2			
学校保健			2				中高免必修	
体育心理学			2				中高免必修	
体育原理		2				中高免必修		
運 動 ・ ス ポ ー ツ 指 導 関 連 科 目	健康管理概論（倫理学を含む）			2				
	身体運動実習Ⅰ（ダンス）	1				中高免必修		
	身体運動実習Ⅱ（ジョギング）	1				中高免必修		
	身体運動実習Ⅲ（水泳）	1				中高免必修		
	健康スポーツ指導法Ⅰ（体づくり運動）	1				中高免必修		
	健康スポーツ指導法Ⅱ（武道）	1				中高免必修		
	健康スポーツ指導法Ⅲ（陸上）	1				中高免必修		
	健康スポーツ指導法Ⅳ（器械運動）	1				中高免必修		
	コーチング論			2				
	スポーツマネジメント論			2				
	トレーニング実践演習Ⅰ			1		中高選択		
トレーニング実践演習Ⅱ			1		中高選択			
保健体育科指導法Ⅰ	2				中高免必修			
保健体育科指導法Ⅱ	2				中高免必修			
保健体育科指導法Ⅲ			2		中免必修			
保健体育科指導法Ⅳ			2		中免必修			
合計		87単位以上必修						

看護学部看護学科（平成31年度以降入学生用）

学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考	
			必修	選必	選択	自由		
看護学部 看護学科 養教一種	専門基礎科目	特別生物			2		養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修 養教免必修	15単位以上
		特別化学			2			
		生命倫理			2			
		発達心理学			2			
		医療と法	1					
		コミュニケーション論（表現学）			2			
		食品学総論			2			
		栄養代謝学	1					
		フィジカルフィットネス			1			
		薬理学	1					
		社会福祉・社会保障論	1					
		社会福祉・社会活動論	1					
		公衆衛生学	1					
		疫学	2					
		保健統計学	2					
		健康相談活動			2			
		学校保健Ⅱ			1			
	国際保健			1				
	医療英語			1				
	コミュニティ・ケアシステム領域	看護学概論	2				養教免必修	
		生活概論	1					
		生活援助論	1				養教免必修	
		予防看護論	1					
		看護情報学	1					
		看護倫理	1					
		実践看護論	1					
		老年看護論	1					
		老年看護実践方法論	2					
		在宅看護論	2					
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	1				養教免必修	
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	2					
		コミュニティ看護実習Ⅰ	1					
		コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	2					
公衆衛生看護学概論		2						
コミュニティケアシステム論		1						
地域看護活動論		2						
公衆衛生看護演習				1		保健師のみ		
公衆衛生看護活動論Ⅰ				2				
公衆衛生看護活動論Ⅱ				1				
公衆衛生看護管理論				1		保健師のみ		
災害看護				1				
学校保健Ⅰ				1		養教免必修		
公衆衛生看護活動論実習				2		保健師のみ		
公衆衛生看護管理論実習				1		保健師のみ		
医療看護領域		人体のしくみと機能Ⅰ	2				養教免必修	
	人体のしくみと機能Ⅱ	2				養教免必修		
	疾病と治療Ⅰ	1						
	疾病と治療Ⅱ	2						
	疾病と治療Ⅲ	2						
	疾病と治療Ⅳ	1				養教免必修		
	感染免疫学	1				養教免必修		
	医療ケアシステム論	1						
	急性期看護論	2						
	慢性期看護論	2						
	治療看護論	1				養教免必修		
	治療療養支援技術演習	1						
	精神看護論	2				養教免必修		
	こころの健康増進と看護	1						
	精神看護支援技術演習	1						
	医療看護実習Ⅰ	1						
医療看護実習Ⅱ（精神）	2							
医療看護実習Ⅱ（急性期）	3							
医療看護実習Ⅱ（慢性期）	3							

授 業 科 目 の 概 要	成 育 看 護 領 域	疾病と治療V	1				
		疾病と治療VI	1				
		小児看護論	2				養教免必修
		小児療養看護論	1				
		家族看護論	1				養教免必修
		養護概説			2		養教免必修
		母性看護論	2				
		女性の健康増進と看護	1				
		成育看護技術演習Ⅰ	1				
		成育看護技術演習Ⅱ	1				
		成育看護実習Ⅰ	1				養教免必修
		成育看護実習Ⅱ(小児)	2				養教免必修
		成育看護実習Ⅱ(母性)	2				
		助産学概論			1		
		助産診断技術論			2		助産師のみ
		助産診断技術論演習			2		助産師のみ
		助産管理			1		助産師のみ
	助産学実習			8		助産師のみ	
	統 合 看 護 科 目	学びのグループゼミⅠ	1				
		学びのグループゼミⅡ	1				
	学びのグループゼミⅢ	1					
	学びのグループゼミⅣ	1					
	課題探究	4					
	総合実習(地域・在宅)	4					
	合 計				98単位以上必修		

心理学部心理学科（令和4年度以降入学生用）

学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
心理学部 心理学科	心理学 基礎科目	心理学概論Ⅰ	2				
		心理学概論Ⅱ	2				
		社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学）	2				
		神経・生理心理学	2				
		知覚・認知心理学	2				
		教育・学校心理学	2				
		産業・組織心理学	2				
		学習・言語心理学	2				
		発達心理学A（青年期・成人期・高齢期）	2				
		人体の構造と機能・疾患（人体の構造と機能及び疾病）	2				
		心理学研究法	2				
		心理学統計法	2				
		臨床心理学概論	2				
		感情・人格心理学	2				
	心理学 演習科目	心理学基礎演習	2				
		心理学実験演習Ⅰ	2				
		心理学実験演習Ⅱ	2				
		上級心理学実験演習Ⅰ			2		
		上級心理学実験演習Ⅱ			2		
		心理学研究総合演習Ⅰ	2				
		心理学研究総合演習Ⅱ	2				
		専門セミナーⅠ	2				
		専門セミナーⅡ	2				
		心理演習			2		
	卒業研究Ⅰ	4					
	卒業研究Ⅱ	4					
	心理学 応用科目	心の脳科学			2		
		公認心理師の職責			2		
		発達心理学B（乳幼児期・児童期）			2		
		障がい児・障がい者心理学（障害者・障害児心理学）			2		
		心理学的支援法			2		
		家族心理学（社会・集団・家族心理学）			2		
		精神医学（精神疾患とその治療）			2		
		カウンセリング			2		
		心理的アセスメント			2		
		健康・医療心理学			2		
心理検査法実習				1			
関係行政論				2			
司法・犯罪心理学				2			
臨床心理実習Ⅰ				1			
臨床心理実習Ⅱ				1			
福祉心理学				2			
サービスデザイン心理学				2			
行動経済学概論				2			
産業カウンセリング				2			
経営組織論				2			
心理調査概論				2			
消費者心理学				2			
ビジネスコミュニケーション			2				
プロモーションの心理学			2				
ブランドと人間行動			2				
交渉の心理学			2				
メディア心理学Ⅰ			2				
メディア心理学Ⅱ			2				
メディア倫理			2				
メディアと人間行動			2				
認知システム論			2				
メディアとデザインの心理学			2				
広告心理学			2				

心理学部心理学科（令和4年度以降入学生用）

	学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	心理学部 心理学科	関 連 科 目	データサイエンス入門			2		
			コンピュータネットワーク			2		
			プログラミング			2		
			女性とビジネス			2		
			多変量解析			2		
			経営学概論			2		
			マーケティング			2		
			ITビジネス			2		
			人間行動ビッグデータ解析			2		
			合 計			80単位以上必修		

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

日本語日本文学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（国語）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	中免28 高免24	日本語学概論Ⅰ	中高必修 2
			日本語学概論Ⅱ	中高必修 2
			日本語文法Ⅰ	4単位必 中高選択 2
			日本語文法Ⅱ	
			日本語史Ⅰ	
			日本語史Ⅱ	
			日本語学講読Ⅰ	中高選択 2
			日本語学講読Ⅱ	中高選択 2
	国文学（国文学史を含む。）		日本文学概論Ⅰ	中高必修 2
			日本文学概論Ⅱ	中高必修 2
			日本文学史Ⅰ	4単位必 中高選択 2
			日本文学史Ⅱ	
			日本文学史Ⅲ	
			日本文学史Ⅳ	
			古典文学講読Ⅰ	中高選択 2
			古典文学講読Ⅱ	中高選択 2
近現代文学講読Ⅰ	中高選択 2			
近現代文学講読Ⅱ	中高選択 2			
漢文学	中国文学講読Ⅰ	中高必修 2		
	中国文学講読Ⅱ	中高必修 2		
書道（書写を中心とする。） 〔免許法施行規則第4条により中免のみ要使用〕	書道	中免必修 2		
各教科の指導法に関する事項 （各教科の指導法に関する事項を含む。）	国語科指導法Ⅰ	中高必修 2		
	国語科指導法Ⅱ	中高必修 2		
	国語科指導法Ⅲ	中免必修・高免選択 2		
	国語科指導法Ⅳ	中免必修・高免選択 2		
計	中28単位 高24単位	中免30単位以上 高免24単位以上		

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（国語）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免	高一種免		
大学が独自に設定する科目	4	12	古典芸能講読Ⅰ	2 中高選択
			古典芸能講読Ⅱ	2 中高選択
			道德教育の理論と指導法	2 高免選択
			介護等体験	1 中免必修・高免選択
			学校観察実習A	2 中高選択
			学校観察実習B	2 中高選択
			学校観察実習C	2 中高選択
			計	4単位

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

英語英米文学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（英語）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数		
教科に関する専門的事項	英語学	中免28 高免24	英語学入門Ⅰ	中高必修	2
			英語学入門Ⅱ	中高必修	2
			英語史Ⅰ	中高選択	2
			英語史Ⅱ	中高選択	2
	英語文学		英語圏文学Ⅰ	中高必修	2
			英語圏文学Ⅱ	中高必修	2
	英語コミュニケーション		ReadingⅠ	中高必修	1
			ReadingⅡ	中高必修	1
			Basic WritingⅠ	中高必修	1
			Basic WritingⅡ	中高必修	1
			Speaking&ListeningⅠ	中高必修	1
			Speaking&ListeningⅡ	中高必修	1
Advanced English SeminarⅠ		中高必修	2		
Advanced English SeminarⅡ		中高必修	2		
Oral PresentationⅢ		中高必修	1		
Oral PresentationⅣ		中高必修	1		
異文化理解	イギリス文化研究	中高必修	2		
	アメリカ文化研究	中高必修	2		
各教科の指導法に関する事項 （各教科の指導法に関する事項を含む）	英語科指導法Ⅰ	中高必修	2		
	英語科指導法Ⅱ	中高必修	2		
	英語科指導法Ⅲ	中免必修・高免選択	2		
	英語科指導法Ⅳ	中免必修・高免選択	2		
計	中28単位 高24単位	中免32単位以上 高免28単位以上			

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（英語）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考	
	中一種免	高一種免			
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育の理論と指導法	2	高免選択
			介護等体験	1	中免必修・高免選択
			学校観察実習A	2	中高選択
			学校観察実習B	2	中高選択
			学校観察実習C	2	中高選択
			「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。		
計	4単位	12単位	中免4単位以上	高免12単位以上	

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

国際教養学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（英語）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	英語学	中免28 高免24	英語学入門Ⅰ	中高必修 2
			英語学入門Ⅱ	中高必修 2
			英語史Ⅰ	中高選択 2
			英語史Ⅱ	中高選択 2
	英語文学		英語圏文学Ⅰ	中高必修 2
			英語圏文学Ⅱ	中高必修 2
	英語コミュニケーション		Intensive EnglishⅠA	中高必修 1
			Intensive EnglishⅠB	中高必修 1
			Intensive EnglishⅡA	中高必修 1
			Intensive EnglishⅡB	中高必修 1
			Public Speaking&Report WritingⅠ	中高必修 1
			Public Speaking&Report WritingⅡ	中高必修 1
			国際コミュニケーション演習Ⅰ	中高必修 1
国際コミュニケーション演習Ⅱ		中高必修 1		
異文化理解	地域研究BⅠ（アメリカ）	中高必修 2		
	地域研究BⅡ（アメリカ）	中高必修 2		
	多文化共生論	中高必修 2		
各教科の指導法に関する情報及び教材の活用を含む機器の使用	英語科指導法Ⅰ	中高必修 2		
	英語科指導法Ⅱ	中高必修 2		
	英語科指導法Ⅲ	中免必修・高免選択 2		
	英語科指導法Ⅳ	中免必修・高免選択 2		
計	中28単位 高24単位	中免30単位以上 高免26単位以上		

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（英語）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免	高一種免		
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育の理論と指導法 2 介護等体験 1 学校観察実習A 2 学校観察実習B 2 学校観察実習C 2	高免選択 中免必修・高免選択
計	4単位	12単位	中免4単位以上 高免12単位以上	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

国際教養学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免（社会）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	28	歴史Ⅰ（共通教養開講科目）	必修 2
	地理学（地誌を含む。）		グローバル・ローカル基礎Ⅰ	必修 2
			グローバル・ローカル基礎Ⅱ	必修 2
	「法律学、政治学」		世界の地理・地誌学	必修 2
			社会活動の法的基礎	必修 2
			国際関係論	4単位以上 選択必修 2
			地域開発論	
	国際協力・援助政策論		選択必修 2	
	「社会学、経済学」		グローバル・ローカル基礎Ⅲ	必修 2
			国際企業経営研究	4単位以上 選択必修 2
経営学総論		選択必修 2		
国際金融論		選択必修 2		
貿易・投資論	選択必修 2			
「哲学、倫理学、宗教学」	人権思想の系譜	必修 2		
	世界の民族と宗教	必修 2		
	ジェンダー論	選択 2		
各教科の指導法に関する事項 （各教科の指導法に関する事項を含む。）	社会科指導法Ⅰ	必修 2		
	社会科指導法Ⅱ	必修 2		
	社会科指導法Ⅲ	必修 2		
	社会科指導法Ⅳ	必修 2		
計	28単位	32単位以上		

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免（社会）

区分	最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免		
大学が独自に設定する科目	4	介護等体験	1 必修
		学校観察実習A	2 選択
		学校観察実習B	2 選択
		学校観察実習C	2 選択
計	4単位	4単位以上	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目」について、併せて3単位以上を修得。

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

史学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免（社会）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	28	日本古代中世史	必修 2
			日本近世史	必修 2
			日本近現代史	必修 2
			東洋古代中世史	必修 2
			東洋近現代史	必修 2
			西洋古代中世史	必修 2
			西洋近現代史	必修 2
	地理学（地誌を含む。）		人文地理学	必修 2
			自然地理学	必修 2
			地誌学	必修 2
「法律学、政治学」	法律学	必修 2		
「社会学、経済学」	現代社会	必修 2		
「哲学、倫理学、宗教学」	倫理学概論	必修 2		
各教科の指導法 （各教科の指導法 の活用）	社会科指導法Ⅰ	必修 2		
	社会科指導法Ⅱ	必修 2		
	社会科指導法Ⅲ	必修 2		
	社会科指導法Ⅳ	必修 2		
計		28単位	34単位	

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免（社会）

区分	最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	備考		
	中一種免				
大学が独自に設定する科目	4	日本史特殊講義Ⅰ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅱ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅲ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅳ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅴ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅵ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅶ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅷ	2 選択		
		日本史特殊講義Ⅷ	2 選択		
		東洋史特殊講義Ⅰ	2 選択		
		東洋史特殊講義Ⅱ	2 選択		
		東洋史特殊講義Ⅲ	2 選択		
		東洋史特殊講義Ⅳ	2 選択		
		西洋史特殊講義Ⅰ	2 選択		
		西洋史特殊講義Ⅱ	2 選択		
		西洋史特殊講義Ⅲ	2 選択		
		西洋史特殊講義Ⅳ	2 選択		
		日本考古学特殊講義Ⅰ	2 選択		
		日本考古学特殊講義Ⅱ	2 選択		
		日本民俗学特殊講義Ⅰ	2 選択		
		日本民俗学特殊講義Ⅱ	2 選択		
		介護等体験	1 必修		
		学校観察実習A	2 選択		
		学校観察実習B	2 選択		
		学校観察実習C	2 選択		
		計	4単位	4単位以上	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目について、併せて3単元以上を修得。

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

史学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 高一種免（地理歴史）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	日本史	24	日本古代中世史	必修 2
			日本近世史	必修 2
			日本近現代史	必修 2
	外国史		東洋古代中世史	必修 2
			東洋近現代史	必修 2
			西洋古代中世史	必修 2
			西洋近現代史	必修 2
	人文地理・自然地理学		人文地理学	必修 2
			自然地理学	必修 2
	地誌		地誌学	必修 2
（む）を活材び器報（法 指科各 含用の教及機情 導の教	地理歴史科指導法Ⅰ	必修 2		
	地理歴史科指導法Ⅱ	必修 2		
計		24単位	24単位	

2. 大学が独自に設定する科目 高一種免（地理歴史）

区分	免許法施行規則に定める科目	本学における開設科目・単位数	備考
	高一種免		
大学が独自に設定する科目	12	日本史特殊講義Ⅰ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅱ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅲ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅳ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅴ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅵ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅶ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅷ	2 選択
		日本史特殊講義Ⅷ	2 選択
		東洋史特殊講義Ⅰ	2 選択
		東洋史特殊講義Ⅱ	2 選択
		東洋史特殊講義Ⅲ	2 選択
		東洋史特殊講義Ⅳ	2 選択
		西洋史特殊講義Ⅰ	2 選択
		西洋史特殊講義Ⅱ	2 選択
		西洋史特殊講義Ⅲ	2 選択
		西洋史特殊講義Ⅳ	2 選択
		日本考古学特殊講義Ⅰ	2 選択
		日本考古学特殊講義Ⅱ	2 選択
		日本民俗学特殊講義Ⅰ	2 選択
		日本民俗学特殊講義Ⅱ	2 選択
		道德教育の理論と指導法	2 選択
		介護等体験	1 選択
学校観察実習A	2 選択		
学校観察実習B	2 選択		
学校観察実習C	2 選択		
計	12単位	12単位以上	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目」について、併せて12単位以上を修得。

令和2年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「領域及び保育内容の指導法に関する科目」

教育学科（初等教育コース）

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 小一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
小 一 種 免	教科及び教科の指導法に関する科目	30	教科に関する専門的事項	国語科概説 必修 2
			各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	算数科概説 必修 2
				生活科概説 必修 2
				音楽科概説 選択 2
				図画工作科概説 選択 2
				体育科概説 選択 2
				社会科概説 必修 2
				理科概説 必修 2
				家庭科概説 選択 2
				英語科概説 必修 2
				国語科教育法 必修 2
				算数科教育法 必修 2
				生活科教育法 必修 2
				音楽科教育法 必修 2
				図画工作科教育法 必修 2
				体育科教育法 必修 2
				社会科教育法 必修 2
				理科教育法 必修 2
				家庭科教育法 必修 2
				英語科教育法 必修 2
計		小免30	小免32単位	

2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目 幼一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
幼 一 種 免	領域及び保育内容の指導法に関する科目	16	領域に関する専門的事項	幼児と健康 必修 2
			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	幼児と言葉 必修 2
				幼児と人間関係 必修 2
				幼児と環境 必修 2
				幼児と表現Ⅰ 必修 2
				幼児と表現Ⅱ 必修 2
				保育内容 健康 必修 2
				保育内容 言葉 必修 2
				保育内容 人間関係 必修 2
				保育内容 環境 必修 2
				保育内容 表現Ⅰ 必修 2
				保育内容 表現Ⅱ 必修 2
計			幼免24単位	

令和2年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教育学科（義務教育コース）

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 小一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
小 一 種 免	教科及び教科の指導法に関する科目	30	国語科概説	必修 2
			算数科概説	必修 2
	教科に関する専門的 事項		生活科概説	必修 2
			音楽科概説	選択 2
			図画工作科概説	選択 2
			体育科概説	選択 2
			社会科概説	必修 2
			理科概説	必修 2
			家庭科概説	選択 2
			英語科概説	必修 2
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		国語科教育法	必修 2
			算数科教育法	必修 2
			生活科教育法	必修 2
			音楽科教育法	必修 2
			図画工作科教育法	必修 2
			体育科教育法	必修 2
			社会科教育法	必修 2
			理科教育法	必修 2
			家庭科教育法	必修 2
			英語科教育法	必修 2
計		小免30	小免32単位以上	

2. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免（英語）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
中 一 種 免	教科及び教科の指導法に関する科目	28	英語学	英語学概論Ⅰ 必修 2
				英語学概論Ⅱ 必修 2
				英文法 必修 2
				英語学研究 英語英米文学科開設科 選択 2
			英語文学	英語圏文学Ⅰ 必修 2
				英語圏文学Ⅱ 必修 2
			英語コミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ 必修 2
				英語コミュニケーションⅡ 必修 2
				実践英語表現Ⅰ 必修 2
				実践英語表現Ⅱ 必修 2
	異文化理解	異文化理解教育 必修 2		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		中等英語科教育法Ⅰ 必修 2	
		中等英語科教育法Ⅱ 必修 2		
		中等英語科教育法Ⅲ 必修 2		
		中等英語科教育法Ⅳ 必修 2		
計		中免28	中免28単位	

令和2年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教育学科（心理学コース）

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 小一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
小 一 種 免	教科及び教科の指導法に関する科目	30	教科に関する専門的事項	国語科概説 必修 2 算数科概説 必修 2 生活科概説 必修 2 音楽科概説 選択 2 図画工作科概説 選択 2 体育科概説 選択 2 社会科概説 必修 2 理科概説 必修 2 家庭科概説 選択 2 英語科概説 必修 2
			各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語科教育法 必修 2 算数科教育法 必修 2 生活科教育法 必修 2 音楽科教育法 必修 2 図画工作科教育法 必修 2 体育科教育法 必修 2 社会科教育法 必修 2 理科教育法 必修 2 家庭科教育法 必修 2 英語科教育法 必修 2
計		小免30	小免32単位	

令和2年度以降入学生用

「領域及び保育内容の指導法に関する科目」

教育学科（幼児教育コース）

1. 領域及び保育内容の指導法に関する科目 幼一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
幼 一 種 免	領域及び保育 内容の指導法 に関する科目	16	幼児と健康	必修 2
			幼児と言葉	必修 2
			幼児と人間関係	必修 2
			幼児と環境	必修 2
			幼児と表現Ⅰ	必修 2
			幼児と表現Ⅱ	必修 2
	保育内容の指 導法（情報機 器及び教材の 活用を含 む。）	保育内容 健康	必修 2	
		保育内容 言葉	必修 2	
		保育内容 人間関係	必修 2	
		保育内容 環境	必修 2	
		保育内容 表現Ⅰ	必修 2	
		保育内容 表現Ⅱ	必修 2	
計			幼免24単位	

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

家政学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（家庭）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	中免28 高免24	生活経営学	中高必修 2
	被服学（被服製作実習を含む。）		生活経済学	中高必修 2
			家族関係学	中高必修 2
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		アパレル造形学	中高必修 2
			被服管理学	中高必修 2
	住居学 [中学] 住居学（製図を含む。） [高校]		基礎アパレル造形演習	中高必修 2
			栄養学総論	中高必修 2
	保育学（実習を含む。） [中学] 保育学（実習及び家庭看護学を含む。） [高校]		食品学総論	中高必修 2
基礎調理学実習		中高必修 1		
家庭電気・家庭機械・情報処理 [高校のみ]	住居計画学（製図を含む）	中高必修 2		
各教科の指導法に関する情報及び機器活用の材料を含む。	福祉住環境学	中高必修 2		
	保育学（実習及び家庭看護学を含む）	中高必修 2		
	家庭電気・機械	高免必修 2		
	生活情報処理	高免必修 1		
計	家庭科指導法Ⅰ	中高必修 2		
	家庭科指導法Ⅱ	中高必修 2		
	家庭科指導法Ⅲ	中免必修・高免選択 2		
	家庭科指導法Ⅳ	中免必修・高免選択 2		
計		中28単位 高24単位	中免31単位以上 高免30単位以上	

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（家庭）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免	高一種免		
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育の理論と指導法	2 高免選択
			教材開発研究	2 中高選択
			生活材料学	2 中高必修
			被服科学実験	1 中高選択
			住生活文化論	2 中高選択
			生活環境学	2 中高選択
			色彩論	2 中高選択
			介護等体験	1 中免必修・高免選択
			学校観察実習A	2 中高選択
			学校観察実習B	2 中高選択
学校観察実習C	2 中高選択			
「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目」について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。				
計	4単位	12単位	中免4単位以上 高免12単位以上	

平成31年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

管理栄養士養成課程

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（家庭）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	中免28 高免24	生活経営学	中高必修 2
	被服学（被服製作実習を含む。）		家族関係学	中高必修 2
			衣生活概論	中高必修 2
			被服管理学	中高選択 2
			被服衛生学	中高選択 2
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		基礎アパレル造形演習	中高必修 2
			基礎栄養学	中高必修 2
			応用栄養学	中高必修 2
			食品学総論	中高必修 2
	住居学（製図を含む。）		基礎調理学実習	中高必修 1
応用調理学実習		中高必修 1		
保育学（実習を含む。） <small>〔中学校〕</small>	保育学（実習及び家庭看護を含む）	中高必修	2	
保育学（実習及び家庭看護を含む。） <small>〔高校〕</small>		中高必修	2	
家庭電気・家庭機械・情報処理 <small>〔高校のみ〕</small>		家庭電気・機械	高免必修 2	
材料（各教科の指導法に関する活用機器）	生活情報処理実習Ⅰ（基礎統計学を含む）	高免必修 1		
	生活情報処理Ⅱ（推定と検定）	高免必修 1		
	家庭科指導法Ⅰ	中高必修 2		
	家庭科指導法Ⅱ	中高必修 2		
計	中28単位 高24単位	家庭科指導法Ⅲ	中高必修 2	
		家庭科指導法Ⅳ	中高必修 2	
計		中28単位 高24単位	中免28単位以上 高免32単位以上	

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（家庭）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免	高一種免		
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育の理論と指導法 2 介護等体験 1 学校観察実習A 2 学校観察実習B 2 学校観察実習C 2	高免選択 中免必修・高免選択 中高選択 中高選択 中高選択
計	4単位	12単位	中免4単位以上 高免12単位以上	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。

平成31年度以降入学生用
「栄養に係る教育に関する科目」

管理栄養士養成課程

栄養に係る教育に関する科目

栄養教諭1種免許状

科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	本学における開設科目・単位数
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養教育論Ⅰ 必修 2
・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項		
・食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養教育論Ⅱ 必修 2
・食に関する指導の方法に関する事項		
計	4単位	4単位

平成31年度以降入学生用

「栄養に係る教育に関する科目」

健康スポーツ栄養学科

栄養に係る教育に関する科目

栄養教諭2種免許状

科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	本学における開設科目・単位数
・ 栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	学校栄養教育論 必修 2
・ 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項		
・ 食生活に関する歴史的及び文化的事項		
・ 食に関する指導の方法に関する事項		
計	2単位	2単位

令和2年度以降入学生用

「教科及び教科の指導法に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

健康スポーツ栄養学科

1. 教科及び教科の指導法に関する科目 中一種免・高一種免（保健体育）

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
教科に関する専門的事項	体育実技	中免28 高免24	身体運動実習Ⅰ（ダンス）	中高必修 1
			身体運動実習Ⅱ（ジョギング）	中高必修 1
			身体運動実習Ⅲ（水泳）	中高必修 1
			スポーツ実技Ⅰ-1（球技）	中高必修 1
			健康スポーツ指導法Ⅰ（体づくり運動）	中高必修 1
			健康スポーツ指導法Ⅱ（武道）	中高必修 1
			健康スポーツ指導法Ⅲ（陸上）	中高必修 1
			健康スポーツ指導法Ⅳ（器械運動）	中高必修 1
			トレーニング実践演習Ⅰ	中高選択 1
			トレーニング実践演習Ⅱ	中高選択 1
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」、運動学（運動方法学を含む。）		体育心理学	中高必修 2
			体育原理	中高必修 2
			機能運動論	中高必修 2
	生理学（運動生理学を含む。）		解剖生理学	中高必修 2
			運動生理学Ⅰ	中高必修 2
			運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	中高選択 2
			運動生理学実習	中高選択 2
	衛生学・公衆衛生学		公衆衛生学	中高必修 2
			食品衛生学	中高必修 2
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		学校保健	中高必修 2
			応急手当実習	中高必修 1
	各教科の指導法に関する情報（各教科の活用機器を含む。）		保健体育科指導法Ⅰ	中高必修 2
			保健体育科指導法Ⅱ	中高必修 2
			保健体育科指導法Ⅲ	中免必修・高免選択 2
			保健体育科指導法Ⅳ	中免必修・高免選択 2
計		中28単位 高24単位	中免33単位 高免29単位	

2. 大学が独自に設定する科目 中一種免・高一種免（保健体育）

区分	最低修得単位数		本学における開設科目・単位数	備考
	中一種免	高一種免		
大学が独自に設定する科目	4	12	介護等体験 1 学校観察実習A 2 学校観察実習B 2 学校観察実習C 2 道德教育の理論と指導法 2	中免必修・高免選択 中高選択 中高選択 中高選択 高免選択
計	4単位	12単位	中免4単位以上 高免12単位以上	

「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」教育実践に関する科目について、併せて中免3、高免12単位以上を修得。

平成31年度以降入学生用

「養護に関する科目」及び「大学が独自に設定する科目」

看護学科

1. 養護に関する科目

養護一種免

免許法施行規則に定める科目		最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	28	公衆衛生学	必修 1
	学校保健		疫学	必修 2
			保健統計学	必修 2
	養護概説		学校保健Ⅰ	必修 1
			学校保健Ⅱ	必修 1
	健康相談活動の理論及び方法		養護概説	必修 2
	栄養学（食品学を含む。）		健康相談活動	必修 2
			解剖学及び生理学	食品学総論
	「微生物学、免疫学、薬理概論」			栄養代謝学
精神保健		人体のしくみと機能Ⅰ	必修 2	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	人体のしくみと機能Ⅱ	必修 2	
看護学概論		感染免疫学	必修 1	
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	必修 1	
治療看護論		薬理学	必修 1	
		小児看護論	必修 1	
成育看護実習Ⅰ		疾病と治療Ⅳ	必修 1	
		成育看護実習Ⅱ（小児）	必修 2	
計		28単位	36単位	

2. 大学が独自に設定する科目

養護一種免

区分	最低修得単位数	本学における開設科目・単位数	備考
	養護一種免		
大学が独自に設定	7	特別支援学校体験活動	選択 1
		「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「養護に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて7単位以上を修得。	
計	7単位	7単位以上	

教育学科に開設の「教育の基礎的理解に関する科目等」（令和2年度以降入学生用）

免許法施行規則に定める科目区分	免許法による最低修得単位数	開設コース名	授業科目	単位数				備考	
				必修	選必	選択	自由		
教育の基礎的理解に関する科目	10	全コース	教育原理	2				幼小中免必修	
			教職論	2				幼小中免必修	
			教育社会学	2				幼小中免必修	
			教育心理学	2				幼小中免必修	
特別支援教育	2					幼小中免必修			
		幼教及び初教	幼稚園教育課程論	2				幼免必修	
		初教、義務教及び心理学	教育課程論	2				小免必修	
								(幼小中免12単位必修)	
道徳、総合的な学習の時間、教育相談等に関する科目	幼4 小中10	初教、義務教及び心理学	道徳教育の理論と指導法	2				小中免必修	
			総合的な学習の時間の指導法	2				小中免必修	
			特別活動の指導法	2				小中免必修	
			教育の方法及び技術	2				小中免必修	
生徒・進路指導論	2					小中免必修			
		全コース	教育相談	2				幼小中免必修	
		幼教及び初教	幼児教育の方法及び技術	2				幼免必修	
			幼児理解論	2				幼免必修	
								(小中免12単位必修) (幼免6単位必修)	
教育実践に関する科目	7	幼教及び初教	初等教育実習指導（幼）			1		幼免必修	
			初教、義務教及び心理学	初等教育実習指導（小）			1		小免必修
		全コース	初等教育実習Ⅰ			2			幼小免必修
			初等教育実習Ⅱ			2			幼小免必修
			初等教育実習Ⅲ			2			幼小免選択（但し、幼・小両免取得希望者は必修及び教員免許状既修得者用）
		義務教	中等教育実習指導			1			中免必修
中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ				2 2			中免必修 中免選択（但し、教員免許状既修得者用）		
全コース	教職実践演習（幼・小・中）			2			幼小中免必修		
							(小免のみ幼免のみ中免のみ7単位必修) (小幼免10単位必修) (小中免10単位必修)		
合計								幼免25単位以上 小免31単位以上 中免31単位以上 小幼両免取得者は40単位以上 小中両免取得者は34単位以上	

教育学科に開設の「大学が独自に設定する科目」（令和2年度以降入学生用）

免許法施行規則に定める科目区分	免許法による最低修得単位数	開設コース名	授業科目	単位数				備考
				必修	選必	選択	自由	
大学が独自に設定する科目	幼14 小2 中4	幼教及び初教	幼児教育指導法	2				幼免必修
			介護等体験 学校インターンシップⅠ			1 1		小中必修 幼小中必修
		全コース	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて幼11単位、中2単位以上を修得。					
合計								幼免14単位以上 小免2単位以上 中免4単位以上

令和2年度以降入学生用

日本語日本文学科、英語英米文学科、国際教養学科、史学科、家政学科、管理栄養養成課程、健康スポーツ栄養学科、看護学科の各学科に共通に開設（一部除く）する「教育の基礎的理解に関する科目等」

授 業 科 目 の 概 要	学部	学科名	免許法 施行規 則に定 める科 目	本学における開設授業科目		単位数				備考
						必修	選必	選択	自由	
	文学部	日本語日本文学科	教育の基礎的 科目理解に 関	教育原理			2		中高養栄必修	
				教職論			2		中高養栄必修	
		英語英米文学科		教育の制度と経営			2		中高養栄必修	
		国際教養学科		教育心理学			2		中高養栄必修	
		史学科		特別支援教育 教育課程論			2		中高養栄必修	
	家政学部	家政学科	指 導 法 及 び 総 合 的 な 学 習 の 時 間 相 談 の 等 に 関 す る 科 目	道徳教育の理論と指導法			2		中養栄必修	
				総合的な学習の時間の指導法			2		中高養栄必修	
	健康福祉学部	健康スポーツ栄養学科	指 導 法 及 び 総 合 的 な 学 習 の 時 間 相 談 の 等 に 関 す る 科 目	特別活動の指導法			2		中高養栄必修	
				教育の方法及び技術			2		中高養栄必修	
	看護学部	看護学科	指 導 法 及 び 総 合 的 な 学 習 の 時 間 相 談 の 等 に 関 す る 科 目	生徒・進路指導論			2		中高必修	
				生徒指導論（栄教・養教）			2		養栄必修（管理栄養士養成課程、健康スポーツ栄養学科健康栄養コース及び看護学科のみ対象）	
	教育実践に関する科目			教育実習指導	中高 免 用			1		中高免必修
				教育実習A				2		高免必修
				教育実習B				4		中免必修
教育実習C							2			
栄養教育実習指導				栄 教 免 用			1	}	栄教免必修	
栄養教育実習							1			
養護実習指導				養 教 免 用			1	}	養教免必修	
養護実習A							4			
養護実習B							2			
教職実践演習（中・高）							2		中高必修	
教職実践演習（栄養教諭）				2		栄教必修（管理栄養士養成課程及び健康スポーツ栄養学科健康栄養コースのみ対象）				
教職実践演習（養護教諭）				2		養教必修（看護学科のみ対象）				
合計						中免31単位以上 高免27単位以上 栄教免28単位以上 養教免31単位以上				

日本語教員養成講座 (平成30年度以降入学生用)

	学部名	学科名	授業科目	単 位				備考 (読み替え科目)	
				必修	選必	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	文学部	日本語日本文学科	日本語学概論Ⅰ	2				{ (国際) 多文化共生論 (史学) 日本近現代史 (教育) 教育心理学Ⅰ (英米) 英語学入門Ⅰ (英米) 英語学入門Ⅱ	
			英語英米文学科	日本語学概論Ⅱ	2				
		国際教養学科	日本語文法Ⅰ			2			
			史学科	日本語文法Ⅱ			2		
		教育学科	日本語教育特講Ⅰ	2					
			日本語教育特講Ⅱ	2					
		家政学部	家政学科	言語学概論Ⅰ			2		
				言語学概論Ⅱ			2		
				日本語教授法Ⅰ-i	2				
				日本語教授法Ⅰ-ii	2				
	日本語教授法Ⅱ-i			2					
	日本語教授法Ⅱ-ii			2					
	日本語実習			2					
	社会言語学					2			
	コミュニケーション特講Ⅱ					2			
	日本語史Ⅰ					2			
	日本語史Ⅱ			2					
	海外日本語教育事情			1					
			合 計	28単位以上必修					

司書養成講座(平成30年度以降入学生用)

	学部名	学科名	授業科目	単 位				備考 (法令指定科目)
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	文学部	日本語日本文学科	養成講座科目					必修科目 (2 2 単位必修)
		英語英米文学科						
		史学科	生涯学習概論	2				} 生涯学習概論
		教育学科	生涯学習概論Ⅱ	2				
		国際教養学科	図書館概論	2				図書館概論
			図書館制度・経営論	2				図書館制度・経営論
			図書館情報技術論	2				図書館情報技術論
	家政学部	家政学科	図書館サービス概論	2				図書館サービス概論
			情報サービス論	2				情報サービス論
			児童サービス論	2				児童サービス論
			情報サービス演習Ⅰ	1				} 情報サービス演習
			情報サービス演習Ⅱ	1				
			図書館情報資源概論	2				図書館情報資源概論
			情報資源組織論	2				情報資源組織論
			情報資源組織演習Ⅰ	1				} 情報資源組織演習
			情報資源組織演習Ⅱ	1				
			図書館基礎特論		2			図書館基礎特論
			図書・図書館史		2			図書・図書館史
			図書館総合演習		1			図書館総合演習
			図書館サービス特論		2			図書館サービス特論
		合 計		2 5 単位以上必修				

学校図書館司書教諭養成講座(平成30年度以降入学生用)

	学部名	学科名	授業科目	単 位				備考	
				必修	選必	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	文学部	日本語日本文学科	養成講座科目						
		英語英米文学科							
		史学科	学校経営と学校図書館	2					
		教育学科							
	家政学部	家政学科	国際教養学科	学校図書館メディアの構成	2				
			学習指導と学校図書館	2					
			読書と豊かな人間性	2					
			情報メディアの活用	2					
			合 計	10単位必修					

国際ボランティア実務士養成講座（平成30年度以降入学生用）

学部	学科名	区分	授業科目	単 位				備考
				必修	選必	選択	自由	
文学部	国際教養学科	国際ボランティア科目	<p>＜国際ボランティア論＞ 国際ボランティア活動論</p>	2				} I 又はⅢ又はⅣを必ず履修
			<p>＜国際援助技術論＞ 国際協力・援助政策論</p>	2				
			<p>＜情報処理＞ ビジネス情報処理演習</p>	2				
			<p>＜海外ボランティア演習（事前事後指導） 海外ボランティア実習＞ オフ・キャンパス・プログラムⅠ オフ・キャンパス・プログラムⅢ オフ・キャンパス・プログラムⅣ</p>		6 18 24			
英語科目	<p>＜英会話Ⅰ＞ Intensive English IA Intensive English IB</p>	1 1						
	<p>＜英会話Ⅱ＞ Public Speaking& Report WritingⅠ Public Speaking& Report WritingⅡ</p>	1 1						
	<p>＜実用英語＞ 国際コミュニケーション演習Ⅰ 国際コミュニケーション演習Ⅱ</p>	1 1						
	<p>国際協働事例研究 国際ボランティア・リーダーシップ論 地域協働論 人権思想の系譜 地域開発論 社会活動の法的基礎</p>			2 2 2 2 2 2		} 8単位以上必修		
英語及び 国際関係 論語・日 本事情	<p>アジアの言語A－Ⅰ（中国語） アジアの言語A－Ⅱ（中国語） アジアの言語B－Ⅰ（韓国・朝鮮語） アジアの言語B－Ⅱ（韓国・朝鮮語） 国際関係論 世界の民族と宗教 多文化共生論</p>			2 2 2 2 2 2 2		} 同じ言語で4単位履修のこと } 6単位以上必修		
	合計		32	単位以上必修				

博物館学芸員養成講座（平成24年度以降入学生用）

	学部	学科名	授業科目	単 位				備考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	文学部	史学科	養成講座科目					
			生涯学習概論 ※	2				
			博物館概論	2				
			博物館学経営論	2				
			博物館資料論	2				
			資料保存論	2				
			博物館展示論	2				
			博物館教育論	2				
			博物館情報・メディア論 ※	2				
			博物館実習 <small>（事前事後指導1単位含む）</small>	3				
			日本考古学	2				
			日本民俗学	2				
			美術史Ⅰ		2			} 何れか2単位必修
			美術史Ⅱ		2			
			日本古文書学Ⅰ		2			} 何れか2単位必修
			日本古文書学Ⅱ		2			
						合計	27単位以上必修	

「専門科目以外（※印）は、卒業要件単位に含まれない」

保育士養成課程（令和2年度以降入学生用）

学 部	学科名	授 業 科 目	単 位 数				備 考	
			必修	選必	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	教育学科	保育原理	2				保育の本質・目的に関する科目	
		幼児教育原理	2					
		子ども家庭福祉	2					
		社会福祉	2					
		子ども家庭支援論	2					
		社会的養護 I	2					
		保育者論	2					
		保育の心理学	2					保育の対象の理解に関する科目
		子ども家庭支援の心理学	2					
		子どもの理解と援助	2					
		子どもの保健 I	2					
		子どもの保健 II	2					
		子どもの食と栄養	2					
		保育の計画と評価	2					
		保育内容総論	2					
		保育内容 健康	2					
		保育内容 環境	2					
		保育内容 言葉	2					
		保育内容 人間関係	2					保育の内容・方法に関する科目
		保育内容 表現 I	2					
		保育内容 表現 II	2					
		保育内容の理解と方法 I	2					
		保育内容の理解と方法 II	2					
		乳児保育 I	2					
		乳児保育 II	2					
		子どもの保健 III	2					
		障がい児保育	2					
		社会的養護 II	2					
		子育て支援	2				保育実習	
		保育実習 I	4					
		保育実習指導 I（保育所）	1					
		保育実習指導 I（施設）	1					
		保育実践演習	2				総合演習	
		幼稚園教育課程論				2		下記のうち9単位以上修得 保育の本質・目的に関する科目□
		幼児理解論				2		
		カウンセリング				2		保育の対象の理解に関する科目
		子どもの理解と発達 I				1		
		子どもの理解と発達 II				1		保育の内容・方法に関する科目
		音楽科概説				2		
		幼児教育の方法及び技術				2		
		幼児教育指導法				2		
		器楽 I	1					保育実習 保育実習 II・保育実習指導 II、 保育実習 III・保育実習指導 IIIは いずれか選択必修
		器楽 II	1					
保育実習 II		2						
保育実習指導 II		1						
保育実習 III		2						
保育実習指導 III		1						
日本国憲法				2		下記のうち8単位以上修得 教養科目		
情報 I				2				
自然と環境 IV				2				
外国語コミュニケーション I				1				
外国語コミュニケーション II				1				
スポーツと健康の科学	2							
基礎トレーニング	1							
合 計				83単位以上必修				

家政学部管理栄養士養成課程 管理栄養士養成課程（平成25年度以降入学生用）

学 部	学 科 名	授 業 科 目	単 位 数				備 考 (規則等規程科目)	
			必修	選必	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	管理栄養士養成課程	公衆衛生学Ⅰ	2				社会・環境と健康	
		公衆衛生学Ⅱ	2					
		保健医療福祉論	2					
		健康管理概論	2					
		解剖生理学	2				人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	
		解剖生理学実験	1					
		運動生理学	2					
		臨床医学概論	2					
		病理学	2					
		感染防御学	2					
		基礎微生物学実験	1					
		生化学Ⅰ	2					
		生化学Ⅱ（病態生化学・分子栄養学を含む）	2					
		生化学実験	1					
		基礎化学実験	1					
		食品学総論	2					食べ物と健康
		食品学実験	1					
		食品加工学（食品微生物学を含む）	2					
		食品加工学実習	1					
		食品衛生学	2					
		食品衛生学実験	1					
		調理学	2					
		基礎調理学実習	1					
		応用調理学実習	1					
		調理科学実験	1					
		基礎栄養学	2				基礎栄養学	
		基礎栄養学実験	1					
		応用栄養学	2				応用栄養学	
		ライフステージ栄養学	2					
		スポーツ栄養学	2					
		応用栄養学実習	1					
		栄養教育論Ⅰ	2					栄養教育論
		栄養教育論Ⅱ	2					
		カウンセリング論	2					
		栄養教育実習	1					
		生活情報処理実習Ⅰ（基礎統計学を含む）	1					
		臨床栄養学概論	2				臨床栄養学	
		臨床栄養学Ⅰ	2					
		臨床栄養学Ⅱ	2					
		臨床栄養活動論	2					
		臨床栄養管理学実習Ⅰ	1					
		臨床栄養管理学実習Ⅱ	1					
		公衆栄養学Ⅰ	2					公衆栄養学
		公衆栄養学Ⅱ	2					
		公衆栄養学実習	1					
		給食経営管理論	2				給食経営管理論	
		フードシステム論	2					
給食経営管理実習	1							
総合演習Ⅰ	1				総合演習			
総合演習Ⅱ	1							
臨床栄養学実習Ⅰ（校外）	1				} 4単位以上必修 臨地実習			
臨床栄養学実習Ⅱ（校外）	1							
公衆栄養学実習（校外）			1					
給食経営管理実習Ⅰ（校外）	1							
給食経営管理実習Ⅱ（校外）			1					
合計			8 4 単位以上					

家政学部管理栄養士養成課程 栄養士養成課程（平成25年度以降入学生用）

学 部	学科名	授 業 科 目	単 位 数				備 考 (規則等規程科目)
			必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	家政学部 管理栄養士養成課程	公衆衛生学Ⅰ	2				社会生活と健康
		公衆衛生学Ⅱ	2				
		解剖生理学	2				人体の構造と機能
		解剖生理学実験	1				
		運動生理学	2				
		病理学	2				
		生化学Ⅰ	2				
		スポーツ栄養学	2				
		食品学総論	2				食べ物と衛生
		食品学実験	1				
		食品加工学（食品微生物学を含む）	2				
		食品加工学実習	1				
		基礎微生物学実験	1				
		食品衛生学	2				
		食品衛生学実験	1				栄養と健康
		基礎栄養学	2				
		応用栄養学	2				
		基礎栄養学実験	1				
		ライフステージ栄養学	2				
		応用栄養学実習	1				
		臨床栄養学概論	2				
		臨床栄養管理学実習Ⅰ	1				
		臨床栄養学実習Ⅰ（校外）	1				
		臨床栄養学実習Ⅱ（校外）	1				
		栄養教育論Ⅰ	2				栄養の指導
		栄養教育論Ⅱ	2				
		栄養教育実習	1				
		公衆栄養学Ⅰ	2				
		公衆栄養学実習	1				
		給食経営管理論	2				給食の運営
		給食経営管理実習	1				
		調理学	2				
		基礎調理学実習	1				
		応用調理学実習	1				
給食経営管理実習Ⅰ（校外）	1						
合計			54単位以上				

食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程（平成25年度以降入学生用）

	学部	学科名	授業科目	単 位				備考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	家政学部	管理栄養士養成課程	養成講座科目					
			管理栄養士のための化学Ⅰ	2				
			管理栄養士のための化学Ⅱ	2				
			基礎化学実験	1				
			生化学Ⅰ	2				
			生化学Ⅱ（病態生化学・分子栄養学を含む）	2				
			解剖生理学	2				
			食品学総論	2				
			基礎微生物学実験	1				
			食品加工学（食品微生物学を含む）	2				
			公衆衛生学Ⅰ	2				
			公衆衛生学Ⅱ	2				
			食品衛生学	2				
			感染防御学	2				
			食品学実験	1				
			生化学実験	1				
			病理学	2				
			臨床医学概論	2				
			解剖生理学実験	1				
			臨床栄養学Ⅰ	2				
			臨床栄養学概論	2				
			臨床栄養学Ⅱ	2				
			基礎栄養学	2				
			公衆栄養学Ⅰ	2				
			応用栄養学	2				
			調理学	2				
			調理科学実験	1				
			食品衛生学実験	1				
			食品加工学実習	1				
			基礎栄養学実験	1				
食品機器分析				2				
			合計	49単位以上必修				

フードスペシャリスト養成講座（平成19年度以降入学生用）

	学部名	学科名	授業科目	単 位				備考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	家政学部	管理栄養士養成課程	養成講座科目					
			フードスペシャリスト論	2				
			食品学実験	1				
			生活情報処理実習Ⅰ（基礎統計学を含む）	1				
			生活情報処理Ⅱ（推定と検定）	1				
			食品学総論	2				
			食品学各論	2				
			食品加工学（食品微生物学を含む）	2				
			食品加工学実習	1				
			食品衛生学	2				
			食品衛生学実験	1				
			調理学	2				
			基礎調理学実習	1				
			応用調理学実習	1				
			基礎栄養学	2				
			応用栄養学	2				
			食料経済	2				
			消費生活科学（食品商品学を含む）	2				
			フードコーディネータ論	2				
			食生活論	2				
			合計	31単位必修				

社会福祉士受験資格養成講座（令和3年度以降入学生用）

	学部名	学科名	科目	単 位				備考	
				必修	選必	選択	自由		
授 業 科 目 の 概 要	健康福祉学部	社会福祉学科	医学概論	2					
			人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法	心理学と心理的支援	2				
				社会学と社会システム	2				
				社会福祉の原理と政策 I	2				
				社会福祉の原理と政策 II	2				
				社会福祉調査の基礎	2				
			総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術	ソーシャルワークの基盤と専門職 I	2				
				ソーシャルワークの基盤と専門職 II	2				
				ソーシャルワークの理論と方法 I	2				
				ソーシャルワークの理論と方法 II	2				
				ソーシャルワークの理論と方法 III	2				
				ソーシャルワークの理論と方法 IV	2				
			地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術	地域福祉と包括的支援体制 I	2				
				地域福祉と包括的支援体制 II	2				
				福祉サービスの組織と経営	2				
			サービスに関する知識	社会保障 I	2				
				社会保障 II	2				
高齢者福祉	2								
障害者福祉	2								
児童・家庭福祉	2								
貧困に対する支援	2								
保健医療と福祉	2								
権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉	2								
演習・実習	ソーシャルワーク演習	1							
	ソーシャルワーク演習（専門） I	2							
	ソーシャルワーク演習（専門） II	2							
	ソーシャルワーク実習指導 I	2							
	ソーシャルワーク実習指導 II	2							
	ソーシャルワーク実習指導 III	2							
	ソーシャルワーク実習 I	4							
	ソーシャルワーク実習 II	2							
合 計				65単位必修					

精神保健福祉士受験資格養成講座（令和3年度以降入学生用）

	学部名	学科名	科目	単 位				備考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	健康福祉学部	社会福祉学科	医学概論	2				
			心理学と心理的支援	2				
			社会学と社会システム	2				
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2				
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2				
			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2				
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2				
			社会保障Ⅰ	2				
			社会保障Ⅱ	2				
			障害者福祉	2				
			権利擁護を支える法制度	2				
			刑事司法と福祉	2				
			社会福祉調査の基礎	2				
			精神医学と精神医療Ⅰ	2				
			精神医学と精神医療Ⅱ	2				
			現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2				
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2				
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2				
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2				
			精神保健福祉の原理Ⅰ	2				
			精神保健福祉の原理Ⅱ	2				
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2				
			ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	2				
			ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	2				
			精神障害リハビリテーション論	2				
			精神保健福祉制度論	2				
			ソーシャルワーク演習	1				
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	2				
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ	2				
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅴ	2				
ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	2							
ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	2							
ソーシャルワーク実習指導Ⅵ	2							
ソーシャルワーク実習Ⅲ	7							
			合 計	74単位必修				

介護福祉士受験資格養成講座（令和3年度以降入学生用）

	学部	学科名	科目	単 位				備 考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	健康福祉学部	社会福祉学科	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2				
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2				
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2				
			人間と社会					
			社会保障Ⅰ	2				
			社会保障Ⅱ	2				
			高齢者福祉	2				
			児童・家庭福祉	2				
			介護の基本Ⅰ	2				
			介護の基本Ⅱ	2				
			介護の基本Ⅲ	2				
			リハビリテーション	1				
			リスクマネジメント	1				
			在宅支援	1				
			コミュニケーション技術	2				
			生活支援技術Ⅰ（基礎）	2				
			生活支援技術Ⅱ（応用）	2				
			生活支援技術Ⅲ（応用）	2				
			生活支援技術Ⅳ（個別介護技術）	2				
			生活支援技術Ⅴ（家政）	2				
			介護					
介護過程Ⅰ	1							
介護過程Ⅱ	1							
介護過程Ⅲ	1							
介護過程Ⅳ	1							
介護過程Ⅴ（事例研究）	1							
介護総合演習Ⅰ	1							
介護総合演習Ⅱ	1							
介護総合演習Ⅲ	1							
介護総合演習Ⅳ	1							
介護福祉実習Ⅰ（老人保健施設）	4							
介護福祉実習Ⅱ（在宅介護）	1							
介護福祉実習Ⅲ（老人福祉施設）	6							
発達と老化の理解	2							
心理学と心理的支援	2							
認知症の理解Ⅰ	2							
認知症の理解Ⅱ	2							
障害者福祉	2							
障害の理解	2							
医学概論	2							
こころとからだⅠ	1							
こころとからだⅡ	1							
こころとからだⅢ	1							
医療的ケア								
医療的ケアⅠ	2							
医療的ケアⅡ	2							
医療的ケアⅢ	1							
医療的ケアⅣ（演習）	1							
合 計				78単位必修				

健康福祉学部健康スポーツ栄養学科 栄養士養成課程（平成25年度以降入学生用）

学 部	学科名	授 業 科 目	単 位 数				備 考
			必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	公衆衛生学	2				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>8科目のうち2科目以上2単位</p> </div> <div style="width: 35%; border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <p>10科目のうち2科目以上3単位</p> </div> </div>
		社会福祉論	2				
		解剖生理学	2				
		解剖生理学実験	1				
		運動生理学 I	2				
		スポーツ医学	2				
		臨床医学概論	2				
		生化学	2				
		生化学実験	1				
		食品学総論	2				
		食品学実験	1				
		食品加工学（食品微生物学を含む）	2				
		食品加工学実習	1				
		食品衛生学	2				
		食品衛生学実験	1				
		栄養学総論	2				
		栄養学実験	1				
		応用栄養学	2				
		応用栄養学実習	1				
		スポーツ栄養学 I	2				
		臨床栄養学概論	2				
		臨床栄養学実習	1				
		栄養教育・指導論 I	2				
		栄養教育・指導論 II（カウンセリング論含む）	2				
		栄養教育・指導論実習	1				
		公衆栄養学概論	2				
		公衆栄養学実習	1				
		給食計画・実務論	2				
		給食運営管理実習	1				
		調理科学	2				
		基礎調理学実習	1				
		応用調理学実習 I	1				
		応用調理学実習 II	1				
		給食管理実習 I（校外）	1				
		健康管理概論（倫理学を含む）		2			
		生涯スポーツ科学（スポーツ心理学を含む）		2			
		運動プログラム論		2			
		身体運動実習 I（エアロビックダンス）		1			
		身体運動実習 II（ジョギング・ウォーキング）		1			
		身体運動実習 III（スイミング & ウォーターエクササイズ）		1			
		健康体力評価論（含実習）		1			
		応急手当実習		1			
		機能運動論		2			
		理学療法論		2			
		障害者とスポーツ		2			
		生活習慣病と食生活		2			
		世界の食生活と健康		2			
		国際栄養論		2			
		健康福祉論（ライフサイクルとQOLを含む）		2			
		社会福祉援助技術		1			
		健康食育論		2			
		災害時の食事・栄養管理実習		1			
				合計	必修 5 3 単位以上及び選必 2 科目以上		

健康運動実践指導者受験資格養成講座（令和2年度以降入学生用）

	学部名	学科名	授業科目	単位数				備考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	健康福祉学部	健康スポーツ栄養学科	養成講座科目					
			公衆衛生学	2				
			解剖生理学	2				
			運動生理学 I	2				
			スポーツ医学	2				
			栄養学実験	1				
			応用栄養学	2				
			スポーツ栄養学 I	2				
			臨床栄養学概論	2				
			栄養教育・指導論 I	2				
			健康管理概論（倫理学を含む）	2				
			生涯スポーツ科学（スポーツ心理学を含む）	2				
			運動プログラム論	2				
			身体運動実習 I（ダンス）	1				健康栄養コース自由科目
			身体運動実習 II（ジョギング）	1				健康栄養コース自由科目
			身体運動実習 III（水泳）	1				健康栄養コース自由科目
			健康体力評価論（含実習）	1				
			応急手当実習	1				
機能運動論	2				健康栄養コース自由科目			
基礎トレーニング	1							
			合計	31 単位必修				

実践健康教育士受験資格養成講座（平成21年度以降入学生用）

授 業 科 目 の 概 要	学部名	学科名	授業科目	単位数				備考
				必修	選必	選択	自由	
	健康福祉学部	健康スポーツ栄養学科	養成講座科目					
			公衆衛生学	2				
			栄養教育・指導論Ⅰ	2				
			栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論含む）	2				
			公衆栄養学概論	2				
			給食運営管理実習	1				
合計	9単位必修							

看護学部看護学科 看護師に関する科目（平成27年度以降入学生用）

学部	学科	授業科目名	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	看護学部 看護学科	生命倫理			2		
		発達心理学			2		
		医療と法	1				
		コミュニケーション論（表現学）			2		
		食品学総論			2		
		栄養代謝学	1				
		フィジカルフィットネス			1		
		薬理学	1				
		社会福祉・社会保障論	1				
		社会福祉・社会活動論	1				
		公衆衛生学	1				
		疫学	2				
		保健統計学	2				
		国際保健				1	
		医療英語				1	
		看護学概論	2				
		生活概論	1				
		生活援助論	1				
		予防看護論	1				
		看護情報学	1				
		看護倫理	1				
		実践看護論	1				
		老年看護論	1				
		老年看護実践方法論	2				
		在宅看護論	2				
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	1				
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	2				
		コミュニティ看護実習Ⅰ	1				
		コミュニティ看護実習Ⅱ（老年）	2				
		公衆衛生看護学概論	2				
		コミュニティケアシステム論	1				
		地域看護活動論	2				
		災害看護				1	
		人体のしくみと機能Ⅰ	2				
		人体のしくみと機能Ⅱ	2				
		疾病と治療Ⅰ	1				
		疾病と治療Ⅱ	2				
		疾病と治療Ⅲ	2				
		疾病と治療Ⅳ	1				
		感染免疫学	1				
		医療ケアシステム論	1				
		急性期看護論	2				
		慢性期看護論	2				
		治療看護論	1				
		治療療養支援技術演習	1				
		精神看護論	2				
		こころの健康増進と看護	1				
		精神看護支援技術演習	1				
		医療看護実習Ⅰ	1				
		医療看護実習Ⅱ（精神）	2				
		医療看護実習Ⅱ（急性期）	3				
		医療看護実習Ⅱ（慢性期）	3				
		疾病と治療Ⅴ	1				
		疾病と治療Ⅵ	1				
		小児看護論	2				
		小児療養看護論	1				
		家族看護論	1				
		母性看護論	2				
		女性の健康増進と看護	1				
		成育看護技術演習Ⅰ	1				
		成育看護技術演習Ⅱ	1				
		成育看護実習Ⅰ	1				
		成育看護実習Ⅱ（小児）	2				
		成育看護実習Ⅱ（母性）	2				
		学びのグループゼミⅠ	1				
		学びのグループゼミⅡ	1				
		学びのグループゼミⅢ	1				
学びのグループゼミⅣ	1						
課題探究	4						
総合実習（地域・在宅）	4						
合 計			9 3 単位以上必修				

看護学部看護学科 保健師に関する科目（平成27年度以降入学生用）

学部	学科	授業科目名	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	看護学部 看護学科	発達心理学	2				
		医療と法	1				
		社会福祉・社会保障論	1				
		社会福祉・社会活動論	1				
		公衆衛生学	1				
		疫学	2				
		保健統計学	2				
		生活概論	1				
		生活援助論	1				
		予防看護論	1				
		老年看護論	1				
		老年看護実践方法論	2				
		在宅看護論	2				
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅰ	1				
		コミュニティヘルスケア看護技術演習Ⅱ	2				
		公衆衛生看護学概論	2				
		コミュニティケアシステム論	1				
		地域看護活動論	2				
		公衆衛生看護演習	1				
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2				
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	1				
		公衆衛生看護管理論	1				
		災害看護	1				
		学校保健Ⅰ	1				
		公衆衛生看護活動論実習	2				
		公衆衛生看護管理論実習	1				
		疾病と治療Ⅳ	1				
		感染免疫学	1				
		医療ケアシステム論	1				
		慢性期看護論	2				
		精神看護論	2				
		こころの健康増進と看護	1				
		小児看護論	2				
小児療養看護論	1						
家族看護論	1						
母性看護論	2						
女性の健康増進と看護	1						
課題探究	4						
合 計			5 5 単位必修				

看護学部看護学科 助産師に関する科目（平成27年度以降入学生用）

	学部	学科	授業科目名	単 位				備 考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	看護学部	看護学科	生命倫理	2				
			発達心理学	2				
			医療と法	1				
			栄養代謝学	1				
			社会福祉・社会保障論	1				
			社会福祉・社会活動論	1				
			公衆衛生看護学概論	2				
			人体のしくみと機能Ⅰ	2				
			人体のしくみと機能Ⅱ	2				
			こころの健康増進と看護	1				
			疾病と治療Ⅴ	1				
			疾病と治療Ⅵ	1				
			小児看護論	2				
			小児療養看護論	1				
			家族看護論	1				
			母性看護論	2				
			女性の健康増進と看護	1				
			成育看護技術演習Ⅰ	1				
			成育看護技術演習Ⅱ	1				
			成育看護実習Ⅱ（母性）	2				
			助産学概論	1				
			助産診断技術論	2				
			助産診断技術論演習	2				
助産管理	1							
助産学実習	8							
課題探究	4							
			合 計	46単位必修				

看護学部看護学科 受胎調節実地指導員に関する科目（平成27年度以降入学生用）

授 業 科 目 の 概 要	学部	学科	授業科目名	単 位				備 考
				必修	選必	選択	自由	
	看護学部	看護学科	疾病と治療Ⅴ	1				
			母性看護論	2				
			女性の健康増進と看護	1				
			助産学概論	1				
			助産診断技術論	2				
			助産診断技術論演習	2				
			助産管理	1				
			助産学実習	8				
			合 計	18単位必修				

インターンシップ（就職支援講座）講座（平成14年度以降入学生用）

《全学部全学科3回生対象》

授業科目	単 位				備考
	必修	選必	選択	自由	
インターンシップ （就職支援講座）	1				卒業単位には含まれない 自由単位
合計	1 単位必修				

変更事項を記載した書類

〔改正理由〕

1. 令和4年4月の神戸女子大学心理学部心理学科の設置に伴い、学則の改正を行う。

〔改正内容〕

学則本文

1. 学則本文 「第2章 学部、学科、収容定員及び修業年限 第2条」を改正する。

学則別表

1. 附則の追加。
2. 全学共通教養科目（心理学部）のカリキュラムの追加。
3. 心理学部心理学科のカリキュラムの追加。

〔施行期日〕

令和4年4月1日

変更部分の新旧対照表 神戸女子大学学則

新					旧				
第2条 本学において設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。					第2条 本学において設置する学部、学科及びその収容定員は次のとおりとする。				
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
文学部	日本語日本文学科	405名		1,620名	文学部	日本語日本文学科	385名		1,540名
	英語英米文学科	60名		240名		英語英米文学科	60名		240名
	国際教養学科	60名		240名		国際教養学科	60名		240名
	史学科	60名		240名		史学科	40名		160名
	教育学科	165名		660名		教育学科	60名		240名
健康福祉学部	健康スポーツ栄養学科	160名		640名	健康福祉学部	健康スポーツ栄養学科	160名		640名
家政学部	家政学科	230名	10名	940名	家政学部	家政学科	230名	10名	940名
	管理栄養士養成課程	80名	10名	320名		管理栄養士養成課程	80名	10名	320名
看護学部	看護学科	90名		360名	看護学部	看護学科	90名		360名
	心理学科	90名		360名		看護学科	90名		360名
		80名		320名					
		80名		320名					
(略)					(略)				
附則					附則				
第1条 この学則は、令和4年4月1日から施行する。					(追加)				

全学共通教養科目（心理学部） 令和4年度以降入学生用

区分	授業科目	単 位				備考	区分	授業科目	単 位				備考
		必修	選択	選択	自由				必修	選択	選択	自由	
基幹科目	基礎 I 基礎 II 基礎 III			2 2 2			人と思想 人間と心の動心 言葉と文学	哲学 宗教			2 2		
	女性 I 女性 II 女性 III 女性 IV			2 2 2 2				心理学 I 心とからだの健康			2 2		
	地域 神戸学 地域学習			2 2				言葉と文学 I 言葉と文学 II 言葉と文学 III 手話 I 手話 II			2 2 2 2 2		
語学科目（世界の言語）	英語 I-1 英語 I-2 英語 II-1 英語 II-2 外国語コミュニケーション I 外国語コミュニケーション II 教養英語 I-1 教養英語 I-2 教養英語 II-1 教養英語 II-2	1 1		1 1 1 1 1 1 1 1			一般科目	歴史 I 歴史 II 歴史 III			2 2 2		
	ドイツ語 I-1 ドイツ語 I-2		1 1					現代社会 日本国憲法 現代社会 I 現代社会 II 現代社会 III 現代社会 IV 現代社会 V			2 2 2 2 2 2		
	フランス語 I-1 フランス語 I-2 フランス語会話 I フランス語講読 I		1 1	1 1				数学 数学 I 数学 II			2 2		
	中国語 I-1 中国語 I-2 中国語会話 I 中国語講読 I		1 1	1 1				自然と環境 自然と環境 I 自然と環境 II			2 2		
	朝鮮語 I-1 朝鮮語 I-2 朝鮮語会話 I 朝鮮語講読 I		1 1	1 1				芸術 芸術 I 芸術 II			2 2		
	イタリア語 I-1 イタリア語 I-2 イタリア語会話 I イタリア語講読 I		1 1	1 1				衣・食・住 衣・食・住 I 衣・食・住 II			2 2		
	情報 I 情報 II	2 2						教養総合科目 教養総合 I 教養総合 II			2 2		
	基礎トレーニング スポーツと健康の科学	1 2						演習科目 教養演習 I 教養演習 II			2 2		
	ウエルネス科目 スポーツ実技 I-1 (球技) スポーツ実技 I (バドミントン) スポーツ実技 II (バレーボール) スポーツ実技 III (卓球) スポーツ実技 IV (テニス) スポーツ実技 V (学外)			1 1 1 1 1 1				全学共通教養科目の卒業要件単位数は、各学部・学科において別に定める。					

全学共通教養科目 学科別卒業要件単位数
(令和4年度以降入学生用) (新)

学科 区分	文学部						家政学部	
	日本語日本文学	英語英米文学	国際教養学科	史学科	初等教育コース 義務教育コース 幼児教育コース	教育学科	家政学科	管理栄養士養成課程
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	初習言語の中から1言語以上選択で2単位以上	英語 I-1、英語 I-2で2単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	全ての言語の中から1言語以上選択で2単位以上と外国語コミュニケーション I、II 各1単位で合計4単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で8単位以上	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)6単位以上
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 2単位以上8単位以内
情報科目			「情報 I」の2単位					
語学科目(世界の言語・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数)	24単位	24単位	5単位	24単位	15単位	15単位	24単位	14単位

全学共通教養科目 学科別卒業要件単位数
(令和2年度以降入学生用) (旧)

学科 区分	文学部						家政学部	
	日本語日本文学	英語英米文学	国際教養学科	史学科	初等教育コース 義務教育コース 幼児教育コース	教育学科	家政学科	管理栄養士養成課程
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	初習言語の中から1言語以上選択で2単位以上	英語 I-1、英語 I-2で2単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で6単位以上	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	初習言語の中から1言語以上選択で2単位以上と外国語コミュニケーション I、II 各1単位で合計4単位以上	全ての言語の中から2言語以上選択で8単位以上	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)6単位以上
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上8単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 2単位以上8単位以内
情報科目			「情報 I」の2単位					
語学科目(世界の言語・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数)	24単位	24単位	5単位	24単位	15単位	15単位	24単位	14単位

学科 区分	健康福祉学部		看護学部		心理学部
	社会福祉学科	健康スポーツ栄養学科	看護学科	看護学科	
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上3単位以上	基礎トレーニング1単位を含む 1単位以上	基礎トレーニング1単位を含む 1単位以上	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以上
情報科目					情報 I、情報 II の4単位以上
語学科目(世界の言語・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数)	16単位	16単位	20単位	20単位	20単位

学科 区分	健康福祉学部		看護学部	
	社会福祉学科	健康スポーツ栄養学科	看護学科	看護学科
語学科目 (世界の言語)	全ての言語の中から1言語以上選択で6単位以上	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)	英語のみで(英語 I-1、I-2必須)
ウェルネス	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上6単位以内	基礎トレーニング1単位を含む 3単位以上	基礎トレーニング1単位を含む 1単位以上	基礎トレーニング1単位を含む 1単位以上
情報科目				
語学科目(世界の言語・ウェルネス等を含めた卒業要件最低単位数)	16単位	16単位	20単位	20単位

心理学部心理学科（令和4年度以降入学生用）

学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考
			必修	選必	選択	自由	
心理学部 心理学科	心理学基幹科目	心理学概論Ⅰ	2				
		心理学概論Ⅱ	2				
		社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学）	2				
		神経・生理心理学	2				
		知覚・認知心理学	2				
		教育・学校心理学	2				
		産業・組織心理学	2				
		学習・言語心理学	2				
		発達心理学A（青年期・成人期・高齢期）	2				
		人体の構造と機能・疾患（人体の構造と機能及び疾病）	2				
		心理学研究法	2				
		心理学統計法	2				
		臨床心理学概論	2				
		感情・人格心理学	2				
	心理学演習科目	心理学基礎演習	2				
		心理学実験演習Ⅰ	2				
		心理学実験演習Ⅱ	2				
		上級心理学実験演習Ⅰ			2		
		上級心理学実験演習Ⅱ			2		
		心理学研究総合演習Ⅰ	2				
		心理学研究総合演習Ⅱ	2				
		専門セミナーⅠ	2				
		専門セミナーⅡ	2				
		心理演習			2		
	卒業研究Ⅰ	4					
	卒業研究Ⅱ	4					
	心理学応用科目	心の脳科学			2		
		公認心理師の職責			2		
		発達心理学B（乳幼児期・児童期）			2		
		障がい児・障がい者心理学（障害者・障害児心理学）			2		
		心理学的支援法			2		
		家族心理学（社会・集団・家族心理学）			2		
		精神医学（精神疾患とその治療）			2		
		カウンセリング			2		
		心理的アセスメント			2		
		健康・医療心理学			2		
心理検査法実習				1			
関係行政論				2			
司法・犯罪心理学				2			
臨床心理実習Ⅰ				1			
臨床心理実習Ⅱ				1			
福祉心理学				2			
サービスデザイン心理学				2			
行動経済学概論				2			
産業カウンセリング				2			
経営組織論				2			
心理調査概論				2			
消費者心理学				2			
ビジネスコミュニケーション				2			
プロモーションの心理学				2			
ブランドと人間行動				2			
交渉の心理学				2			
メディア心理学Ⅰ				2			
メディア心理学Ⅱ				2			
メディア倫理			2				
メディアと人間行動			2				
認知システム論			2				
メディアとデザインの心理学			2				
広告心理学			2				

心理学部心理学科（令和4年度以降入学生用）

	学部学科名	区分	授業科目名	単 位				備 考
				必修	選必	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	心理学部 心理学科	関連 科目	データサイエンス入門			2		
			コンピュータネットワーク			2		
			プログラミング			2		
			女性とビジネス			2		
			多変量解析			2		
			経営学概論			2		
			マーケティング			2		
			ITビジネス			2		
	人間行動ビッグデータ解析			2				
			合 計	80単位以上必修				

目次

- 1 学則変更（収容定員変更）の内容 . . . p.2
- 2 学則変更（収容定員変更）の必要性 . . . p.2
- 3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 . . . p.5

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1 学則変更（収容定員変更）の内容

神戸女子大学は、令和 4 年度から、文学部国際教養学科と教育学科を基礎学部等とともに文学部教育学科心理学コースを廃止し、その教育課程を発展的改組して、心理学部心理学科を設置することに伴い、学則第 2 条の「学部、学科、収容定員」及び附則の記載を次のとおり変更する。

なお、心理学部の設置については、令和 3 年 4 月に別途学部設置の届出を行う。

(1) 第 2 条

①記載の追加

看護学部の次に

「心理学部心理学科 入学定員 80 名、収容定員 320 名」

の記載を加える。

(2) 附則

この学則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

神戸女子大学は、先に設置している神戸女子短期大学との役割分担の下、学校法人行吉学園の建学の精神「本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある。」を実現していくため昭和 41 年に設置したところで、令和 3 年度は、大学で 4 学部 10 学科、収容定員 3,490 名、大学院 4 研究科 8 専攻、収容定員 129 名の学生を擁する女子総合大学に発展してきた。

本学では、昭和 44 年に文学部教育学科を設置し、平成 7 年にコースのひとつとして心理学コースを置いた。心理学コースにおいては、心理学研究法や心理統計などを学ぶことにより心理学の方法論の基礎を修得する。さらに、心理学の視点から認知心理学、発達心理学、社会心理学などの諸領域について理解を深め、また、臨床心理学、対人関係論、家族心理学などの諸分野を通して、心理学的理解を心理的援助や対人関係、家族関係の調整など社会的実践に応用することの意義を学んできた。また、本学の文学部国際教養学科では、経済・経営の領域において国際的視野のもとに諸課題を理解し解決していくことのできる基本的資質を身につけられるよう経営学総論、国際金融論、貿易投資論、国際企業経営研究、などのカリキュラムを用意している。また、経済・経営の領域に関するさまざまな情報は、コンピューターやインターネットを利用して適切に管理す

ることが必要であり、得られた情報は、統計的に分析したうえで効果的に利用することが求められる。

このような本学文学部の教育学科心理学コースと国際教養学科の実績を背景に、複雑で多様化した社会に生きる現代人の行動を心理学の視点から分析したうえで、心に問題を抱えている人に対して専門的な支援のできる人材養成が必要不可欠であると考え。さらに、人間にとって重要な営みである産業活動や消費行動を理解し、多様で複雑化したメディアから表出されるさまざまな情報を客観的に処理し見通していくことができる人材を養成するために独立した学部として心理学部心理学科を設置し、求める時代の要請に応える体制を整える。こうして、建学の精神である「世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」ことを、人間の心理と行動を実証的な研究方法によって探究する心理学の分野から具現化するために、入学定員 80 名、収容定員 320 名の心理学部心理学科を設置することを計画した。

なお、設置に際し、同一キャンパスの神戸女子短期大学の入学定員を 1 年先行して削減（マイナス 100 名）し、ゆとりのある施設・設備等その資源の活用を図る。

近年、さまざまな心理的問題を抱えた人々に対するカウンセリングや心理療法、心理検査などに対する需要が高まり、平成 27 年 9 月には「公認心理師法」が成立した。この法律は、臨床心理の専門家を育成する信頼できる体制の確立が求められるようになった時代的要請に基づいて制定されたものである。これまでの本学教育学科心理学コースにおいても、臨床心理学やカウンセリング、発達と障がいの臨床心理学、あるいは心理検査法などのカリキュラムを用意し、臨床心理の専門家を目指す学生の基礎的資質を養成しようとしてきた。しかし、公認心理師法が制定されたことにより、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもった者としての公認心理師の名称が用いられ、臨床心理の専門家として自立して援助活動を行えるようになるための学部段階での教育課程がより明確に示された。そのため、それに対応したカリキュラムを用意し、時代的要請に応えることのできる体制を整えることとしたものである。

公認心理師法に基づいた公認心理師は、文部科学大臣及び厚生労働大臣がその指定する者に行わせることのできる業務であり、平成 30 年 9 月に初めて 27,876 人が公認心理師の国家試験に合格した。その後、毎年 7,000 人以上が合格し、時代的要請に応える資格のひとつと考えられる。

公認心理師試験受験者数推移（一般財団法人 日本心理研修センターHP 参照）（表 1）

	第 1 回 (平成 30 年 9 月)	第 1 回 追加 (平成 30 年 12 月)	第 2 回 (令和元年 8 月)	第 3 回 (令和 2 年 12 月)
受験者数 (人)	35,020	1,083	16,949	13,629
合格者数 (人)	27,876	698	7,864	7,282
合格率 (%)	79.6	64.5	46.4	53.4

「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、平成 30 年時点で国公立大学が設置していた 5,174 学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の 12 の大分類、78 の小分類に当てはめた場合に 3,458 学科が「単独分野」と定義され、平成 4 年から平成 30 年までの 26 年間に、学科のライフサイクルがどのように変化してきたかを心理学において概観すると、「ある大学が、最初に新分野の学科を設置した時の、募集定員数と志願者数を起点とし、最初の成功例に追従して、他大学が同分野の学科を設置することで募集定員が増加し、志願者数も拡大していく、マーケットの創造段階」である「成長期」と言われている（リクルートカレッジマネジメント 216：「複合化」が進む学部・学科改編）。実際に平成 27 年と平成 30 年を比較した単独分野の志願者増減ランキングにおいても心理学は 21,216 名の増加となっており、近年は定員の増加に対してやや大きな志願者の増加が継続している状況である。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団「令和 2（2020）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」においても大学の心理学部の志願者動向は、平成 28 年度と令和 2 年度を比較し 14,497 名増加している（表 2）。

心理学部の入学志願動向

（表 2）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	5 年 平均
志願者数	15,051	17,324	23,026	28,076	29,548	22,605.0
志願者増加数	127	2,273	5,702	5,050	1,472	2,924.8
入学者数	2,198	2,405	2,935	2,832	3,098	2,693.6
定員充足率 (%)	100.14	110.07	107.79	104.39	104.38	105.35

（日本私立学校振興・共済事業団 平成 28 年度～令和 2 年度私立大学・短期大学等入学志願動向）

以上のように、全国の心理学部志願者動向、定員充足率、リクルート入試実態調査の背景を踏まえ、平成 27 年 9 月に制定された公認心理師法に基づいたカリキュラム構成とし、時代の要請に応えるとともに文学部国際教養学科を基礎学部等とし、文学部教育学科心理学コースを独立させ、心理学部として設置し、入学定員 80 名、収容定員 320 名を増員するものである。

3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更

この度、新たに届出により設置する心理学部心理学科の教育課程については、文学部教育学科心理学コースと国際教養学科の教育課程を基礎として、新たに心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析できるスキルを修得できるように科目を配置している。

編成する教育課程は、全学共通教養科目、専門科目に区分し、それぞれに必要な科目を配置しており、更には、本学科の養成する人材像及び教育目標に掲げている人間の心的過程と行動のメカニズムに深い関心を持ち、社会における人間の多様な営みを心理学の視点から理解し、他者と心理的な交流を深めて協同して活動することができる人材を育成するため基幹科目として、「社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学）」「神経・生理心理学」「知覚・認知心理学」「教育・学校心理学」「産業・組織心理学」「学習・言語心理学」「心理学統計法」「感情・人格心理学」等を配置し、応用科目として「家族心理学（社会・集団・家族心理学）」「関係行政論」「健康・医療心理学」「行動経済学概論」「経営組織論」「消費者心理学」「メディア心理学」「メディア倫理」「広告心理学」等を配置している（資料1）。

教養科目である全学共通教養科目については、ポートアイランドキャンパスに設置されている健康福祉学部健康スポーツ栄養学科、社会福祉学科及び看護学部看護学科の科目と同様の科目を配置することとなる。設置される心理学部心理学科として入学定員80名が増加した場合でも、時間割の編成の工夫を図るとともに人数制限が必要な科目は別途心理学科専用の授業コマを設定する。そのため、入学定員及び収容定員が増員になったとしても教育の質を低下させることなく、教育の水準を維持するものである。

なお、全学共通教養科目が他学部等に影響を与える授業科目等はない。

文学部教育学科心理学コースを発展的に改組し、心理学部心理学科を設置することで文学部教育学科心理学コースを廃止するが、在籍者がいなくなるまでの教育課程の変更はなく、国際教養学科の教育課程についても変更はなく、在学している学生への影響は生じることはない。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更

心理学科のカリキュラムは、全学共通教養科目と専門科目で編成しており、年次を跨ることなく1年次毎の授業単位としている。教育方法及び履修指導方法については、本学既存学部と同様の方法としている。

心理学科では、心理学の諸理論に関する知識と研究方法の基本を修得させ、人間の心と行動に関わるデータを収集して心理学的に分析できる技能を養成する。さらに、人間の心と行動について心理学の視点から思考する能力や、修得した心理学の知識や技能を、社会生活の場においていかにすれば有効に活用できるか判断し、その知識と

技能に基づいて理解・分析した内容を他者に明確に伝えることができる能力を養成する。また、人間の多様性を尊重し、他者の心に共感し、他者と協同することのできる能力と、主体的に学習する意欲を育成していく。

そのために、1・2年次生で心理学の諸領域に関する基本的理論を学ぶ。また、人間の心理や行動に関わるデータを収集して分析する技能の基礎を身につける。そのような学習を通して、認定心理士と情報処理士の資格取得を可能とする。認定心理士は、心理学の基礎を学んだことを証するものであり、また、情報処理士の資格を取得することで、人間の心理や行動に関するデータを客観的・統計的に処理する技能の基本を身につける。そのうえで2年次後期において、学生の関心に応じて3つの履修モデルを提示し、それぞれの専門性を深める科目を履修していく。また、3年次では「専門セミナーⅠ・Ⅱ」において、各自が特に関心をもった分野に関するテーマについてまとめ、他の学生へ報告して議論を深めていく。さらに、学科横断的な「心理学研究総合演習Ⅰ・Ⅱ」を用意し、地域や企業の現場における課題を心理学の視点から多面的に検討する。4年次では、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、自ら研究テーマと研究方法を設定し、関連専門文献を読み込み、実験や調査などを行って収集したデータを分析し、その結果と考察を研究発表することを通して、心理学の視点から人間の心と行動を見つめていく力を培う。

このように、教育方法及び学修成果の可視化を伴う履修指導方法を確立しており、計画している教員体制で支障なく実施することが可能である。また、履修指導については、学生が卒業後の目標に向かって、体系的・計画的な履修計画ができるように入学時や各年度において、履修ガイダンスをきめ細かく実施するとともに、個別指導となるクラス担任制を活用する等、手厚い履修指導を行う。

なお、教育方法及び履修指導方法において他学部等に影響を与えることはない。

(3) 教員組織の変更

心理学部心理学科の教員体制は、教授7名、准教授2名、講師1名、助教1名の計11名の専任教員で構成する予定としている。心理学部心理学科の入学定員80名及び収容定員320名の大学設置基準に定める教員の配置基準10名に対して、各モデルの教員配置は、臨床心理モデルに教授3名、准教授1名、助教1名、経営・消費者心理モデルに教授2名、メディア心理モデルに教授2名、准教授1名、講師1名とし、各モデルの主要科目に専任教員の教授を配置している。また、授業補助や実習等に対応する助手として2名、さらに外部に開かれた臨床心理相談センターの専任担当者1名を採用するので、教育の質を担保し、教員組織としては、十分対応可能と考えている。

なお、この教員体制が既設学部学科等に影響を与えることはない。

(4) 大学全体の施設・設備の変更

施設、設備については、神戸女子大学と神戸女子短期大学が共用に使用しているが、

令和3年度より神戸女子短期大学の入学定員を3学科合計で100名減じるため、施設・設備には、十分なゆとりができてくる。このゆとり部分を活用し、心理学部心理学科を入学定員80名で設置する。

ア 心理学部心理学科を設置するポートアイランドキャンパスの校地面積等は24,524.84 m²となっており、その内校舎敷地17,849.56 m²、運動場用地6,675.28 m²で、大学設置基準に定めるポートアイランドキャンパスの収容定員1,800名（健康福祉学部640名、看護学部360名、短期大学480名、心理学部320名）に対する必要面積18,000 m²（10 m²/人×1,800人）の1.36倍以上となっていることから、心理学部心理学科の新設による入学定員及び収容定員の増を伴っても校地面積を充分保有しているため変更はない。

イ 校舎等施設は、延べ床面積34,808.14 m²で、講義室、実習室、演習室、情報処理室等余裕をもって配置している。34,808.14 m²の内約2,700 m²を心理学部心理学科の専用フロアとして、グループワーク室、実験室、講義室、演習室等を改修設置する。

ポートアイランドキャンパスにおける大学設置基準に定める必要面積が12,225.6 m²（収容定員960名）、短期大学設置基準に定める必要面積5,450 m²（収容定員480名）の合計17,675.6 m²に対して約2倍となっていることで、余裕を持った広さを設定しており、心理学部心理学科の入学定員80名増となったとしても校舎等の面積の増加はないが、施設及び設備を改修し、心理学部心理学科としての十分な設備を準備し対応を図る。

(添付資料)

資料1. 教育課程等の概要

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要																
(心理学部心理学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基幹科目	基礎Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	基礎Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	基礎Ⅲ	2後		2		○									兼1	
	女性Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	女性Ⅱ	1後		2		○									兼1	
地域	女性Ⅲ	1前		2		○									兼5 オムニバス	
	女性Ⅳ	1後		2		○									兼1	
	神戸学	1前		2		○									兼3 オムニバス	
	地域学習	1通		2			○			1						
	小計(9科目)	—	0	18	0	—				1	0	0	0	0	兼12	
全学共通教養科目	英語	英語Ⅰ-1	1前	1				○								兼2
		英語Ⅰ-2	1後	1				○								兼2
		英語Ⅱ-1	2前		1				○							兼4
		英語Ⅱ-2	2後		1				○							兼3
		外国語コミュニケーションⅠ	3前		1				○							兼3
		外国語コミュニケーションⅡ	3後		1				○							兼3
		教養英語Ⅰ-1	1前		1				○							兼2
		教養英語Ⅰ-2	1後		1				○							兼2
		教養英語Ⅱ-1	2前		1				○							兼2
	教養英語Ⅱ-2	2後		1				○							兼2	
	初習言語	ドイツ語Ⅰ-1	1前		1				○							兼1
		ドイツ語Ⅰ-2	1後		1				○							兼1
		フランス語Ⅰ-1	1前		1				○							兼1
		フランス語Ⅰ-2	1後		1				○							兼1
		フランス語会話Ⅰ	2後		1				○							兼1
		フランス語講読Ⅰ	2前		1				○							兼1
		中国語Ⅰ-1	1前		1				○							兼1
		中国語Ⅰ-2	1後		1				○							兼1
		中国語会話Ⅰ	2後		1				○							兼1
		中国語講読Ⅰ	2前		1				○							兼1
		朝鮮語Ⅰ-1	1前		1				○							兼2
		朝鮮語Ⅰ-2	1後		1				○							兼2
		朝鮮語会話Ⅰ	2後		1				○							兼1
		朝鮮語講読Ⅰ	2前		1				○							兼1
		イタリア語Ⅰ-1	1前		1				○							兼1
		イタリア語Ⅰ-2	1後		1				○							兼1
		イタリア語会話Ⅰ	2後		1				○							兼1
		イタリア語講読Ⅰ	2前		1				○							兼1
		小計(28科目)	—	2	26	0	—				0	0	0	0	0	兼15
情報科目	情報Ⅰ	1前	2					○		1		1				
	情報Ⅱ	1後	2					○		1		1				
	小計(2科目)	—	4	0	0	—				1	0	1	0	0	兼0	
ウェルネス科目	基礎トレーニング	1前	1					○							兼1	
	スポーツと健康の科学	2前	2				○								兼1	
	スポーツ実技Ⅰ-1(球技)	1後		1					○						兼1	
	スポーツ実技Ⅰ(バドミントン)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技Ⅱ(バレーボール)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技Ⅲ(卓球)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技Ⅳ(テニス)	1後又は2前		1					○						兼1	
	スポーツ実技Ⅴ(学外)	1後又は2前		1					○						兼3	
	小計(8科目)	—	3	6	0	—				0	0	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通教養科目	人 と 思 想	哲学	1前	2		○										兼1
		宗教	1前	2		○										兼1
	人 間 心 理 と 行 動	心理学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		心とからだの健康	1後	2		○										兼2 オムニバス
	言 葉 と 文 学	言葉と文学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅱ	1後	2		○										兼1
		言葉と文学Ⅲ	1後	2		○										兼1
		手話Ⅰ	1前	2		○										兼1
		手話Ⅱ	1後	2		○										兼1
	歴 史	歴史Ⅰ	1前	2		○										兼1
		歴史Ⅱ	1後	2		○										兼1
		歴史Ⅲ	1後	2		○										兼1
	現 代 社 会	日本国憲法	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅰ	1後	2		○				1						兼1
		現代社会Ⅱ	1前	2		○										兼1
		現代社会Ⅲ	1後	2		○										兼1
		現代社会Ⅳ	1後	2		○										兼1
	数 学	数学Ⅰ	1前	2		○										兼1
		数学Ⅱ	1後	2		○										兼1
	自 然 と 環 境	自然と環境Ⅰ	1後	2		○										兼1
		自然と環境Ⅱ	1前	2		○										兼1
	芸 術	芸術Ⅰ	1前	2		○										兼1
		芸術Ⅱ	1前	2		○										兼1
	衣 ・ 食 ・ 住	衣・食・住Ⅰ	1前	2		○										兼1
		衣・食・住Ⅱ	1後	2		○										兼5 オムニバス
	教 養 総 合	教養総合Ⅰ	1前	2		○										兼2
		教養総合Ⅱ	1後	2		○										兼3
		小計(28科目)	—	0	56	0		—		1	0	0	0	0		兼29
演 習 科 目	教養演習Ⅰ	1後	2				○								兼2 共同	
	教養演習Ⅱ	2前	2				○								兼2 共同	
	小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0		兼2	
専 門 科 目	心 理 学 基 幹 科 目	心理学概論Ⅰ	1前	2		○			1							
		心理学概論Ⅱ	1後	2		○			1							
		社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学)	1前	2		○			1							
		神経・生理心理学	1後	2		○										兼1
		知覚・認知心理学	1後	2		○				1						兼1
		教育・学校心理学	1後	2		○										
		産業・組織心理学	1後	2		○			1							
		学習・言語心理学	2前	2		○				1						
		発達心理学A(青年期・成人期・高齢期)	2前	2		○				1						
		人体の構造と機能・疾患(人体の構造と機能及び疾病)	2前	2		○										兼1
		心理学研究法	2前	2		○							1			
		心理学統計法	2前	2		○						1				
		臨床心理学概論	2後	2		○				1						
		感情・人格心理学	2後	2		○										兼1
	小計(14科目)	—	28	0	0		—		4	2	1	1	0		兼4	
	心 理 学 演 習 科 目	心理学基礎演習	1前	2				○		7	2	1	1			
心理学実験演習Ⅰ		1後	2				○			1		1	1		共同	
心理学実験演習Ⅱ		2前	2				○						1		兼1	
上級心理学実験演習Ⅰ		3前	2				○			1			1			
上級心理学実験演習Ⅱ		3後	2				○					1	1			
心理学研究総合演習Ⅰ		3前	2				○		7	1	1					
心理学研究総合演習Ⅱ		3後	2				○		7	1	1					
専門セミナーⅠ		3前	2				○		7	2	1	1				
専門セミナーⅡ		3後	2				○		7	2	1	1				
心理演習		3後	2				○		2	1					共同	
卒業研究Ⅰ		4前	4				○		7	2	1	1				
卒業研究Ⅱ		4後	4				○		7	2	1	1				
小計(12科目)	—	22	6	0		—		7	2	1	1	1		兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	心の脳科学	2後		2		○			1							
	公認心理師の職責	2後		2		○										兼1
	発達心理学B (乳幼児期・児童期)	2後		2		○										兼1
	障がい児・障がい者心理学 (障害者・障害児心理学)	2後		2		○			1							
	心理学的支援法	3前		2		○				1						
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学)	3前		2		○						1				
	精神医学 (精神疾患とその治療)	3前		2		○			1							
	カウンセリング	3前		2		○			1							
	心理的アセスメント	3前		2		○										兼1
	健康・医療心理学	3後		2		○										兼1
	心理検査法実習	3後		1				○			1			1		
	関係行政論	4前		2		○										兼1
	司法・犯罪心理学	4前		2		○										兼1
	臨床心理実習 I	4前		1				○	3	1		1	1	1		共同
	臨床心理実習 II	4後		1				○	3	1		1	1	1		共同
	福祉心理学	4後		2		○										兼1
	サービスデザイン心理学	2後		2		○										兼1
	行動経済学概論	2後		2		○			1							
	産業カウンセリング	3前		2		○										兼1
	経営組織論	3前		2		○			1							
	心理調査概論	3前		2		○			1							
	消費者心理学	3後		2		○			1							
	ビジネスコミュニケーション	3後		2		○										兼1
	プロモーションの心理学	3後		2		○										兼1
	ブランドと人間行動	4前		2		○										兼1
	交渉の心理学	4後		2		○										兼1
	メディア心理学 I	2後		2		○			1							
	メディア心理学 II	3前		2		○			1							
	メディア倫理	2後		2		○			1							
	メディアと人間行動	3前		2		○										兼2 オムニバス
	認知システム論	3後		2		○										兼1
	メディアとデザインの心理学	4前		2		○										兼2 オムニバス
	広告心理学	4後		2		○			1							
小計 (33科目)		—	0	63	0			—	6	1	0	1	1		兼12	
関連科目	データサイエンス入門	1前		2		○					1					
	コンピュータネットワーク	1後		2		○					1		1			
	プログラミング	2前		2		○			1							
	女性とビジネス	2後		2		○									兼1	
	多変量解析	2後		2		○									兼1	
	経営学概論	3前		2		○			1							
	マーケティング	3前		2		○									兼1	
	ITビジネス	3後		2		○			1							
	人間行動ビッグデータ解析	3後		2		○					1					
小計 (9科目)		—	0	18	0			—	2	0	1	0	1		兼2	
合計 (145科目)		—	59	197	0			—	7	2	1	1	2		兼76	
学位又は称号		学士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
全学共通教養科目20単位以上、専門科目80単位以上、全学共通教養科目又は専門科目を24単位以上、合計124単位を修得すること。 なお、全学共通教養科目については、語学科目 (世界の言語) のうち「英語 I-1」、「英語 I-2」を含む6単位以上、またウェルネス科目は3単位以上とする。 (履修科目の登録の上限：46単位 (年間))							1 学年の学期区分			2期						
							1 学期の授業期間			15週						
							1 時限の授業時間			90分						

神戸女子大学心理学部心理学科
学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
 - ① 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
 - ② 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9

- (2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10
 - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・・・・ p.10
 - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・ p.11

神戸女子大学心理学部心理学科の学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

神戸女子大学は、建学の精神として「本学園の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっどび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある。」を掲げている。この建学の精神のもと、本学は昭和44年に文学部教育学科を設置し、そのコースのひとつとして平成7年に心理学コースを設定して教育・研究を行っている。心理学コースにおいては、心理学研究法や心理統計などを学ぶことにより心理学の方法論の基礎を修得する。また、平成18年には、国際的な都市である神戸の地において地域と世界との関わりと国際協働のあり方の基本を学ぶことを目標にして、文学部神戸国際教養学科を設置し、その後、平成30年に国際教養学科と名称変更した。この教育学科心理学コースと国際教養学科の教育・研究を基礎に、複雑で多様化した社会に生きる現代人の行動を心理学の視点から分析したうえで、心に問題を抱えている人に対して専門的な支援のできる人材養成が求められている状況に応え、また、人間にとって重要な営みである産業活動や消費行動を理解し、多様で複雑化したメディアから表出されるさまざまな情報を客観的に処理し、見通していくことができる人材を求める時代の要請に応えられるような体制を整える。こうして、建学の精神である「世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成する」ことを、人間の心理と行動を実証的な研究方法によって探究する心理学の分野から具現化するために、心理学部心理学科（入学定員80名）を設置することを計画した。なお、入学定員については、心理学部設置にあたり、同一キャンパスの神戸女子短期大学の入学定員を1年先行して削減（マイナス100名）することとしたため、学園全体では増加しない計画となっている（資料1）。

ア 定員充足の見込み

入学定員設定の考え方

心理学部心理学科の入学定員設定の考え方は、後述する基礎学部等（教育学科及び国際教養学科）の志願者動向（資料2）が良好であること、さらに心理学科設置に伴い1年先行して減員する短期大学の入学定員の範囲内であること（3学科合計でマイナス100名）、また本学の学科ごとの平均入学定員が86.5名（入学定員合計865名、既存学科数10）であることなどの状況を踏まえ、教育の質を考慮して教育・研究を行ううえで適切な規模を検討し、本学では標準的な80名と設定した。

既存学科の定員充足率を見ても、入学定員80名未満が4学科で4年間の平均充足率が1.15倍、入学定員80～99名が4学科で平均充足率が1.00倍、入学定員100名超が2学科で平均充足率1.01倍（資料3）となっており、本学においては、定員の規模で充足率に偏りはなく、心理学科の80名も学生が確保できると考える。

また、後述する競合が見込まれる他大学5校の入学定員の平均は94名（資料4）であり、心理系学部学科として標準的な定員設定であると考えられる。

また、後述する令和3年5月に実施した高校生アンケートでは、定員の4.8倍の入学意向者を確認できており、設定した入学定員80人の充足は十分に見込めると考えている。

さらに、後述する企業等の人材需要アンケートにおいても、「採用したい」人数は定員の5.2倍となっており、定員80人に対する人材需要に懸念はないと考えている。

以上のことから、本学心理学部心理学科の入学定員80名は適切な設定である。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

地域の状況

心理学部心理学科を設置するポートアイランドキャンパスは、神戸市の中心部に位置し、大阪方面からも姫路方面からも、非常に交通の便の良い場所にある。最寄り駅である「みなとじま駅」まで、大阪駅から約40分、姫路駅から約60分で到着し、「みなとじま駅」からキャンパスまでは徒歩5分であり、大阪市内、姫路市内とも十分通学圏にある。

18歳人口の減少は大学にとって大きな影響があるが、この通学圏内の人口推移を詳細に検証するため、平成27年の国勢調査の結果を用いた。これによると、令和4年度の18歳人口は1,118千人であり、10年後の令和14年には1,006千人（90.0%）にまで減少するとされている。

一方で、本学の主な通学圏である大阪～姫路間（大阪市、尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市、明石市、加古川市、姫路市）の18歳女子の人口推移をみると、令和4年度の25,751人が、10年後の令和14年には24,363人になるとされており、その割合は94.6%となる（資料5）。

また、府県単位とはなるが、学校基本調査から、大阪府、兵庫県の進学率を見てみると、全国の女子の大学等進学率が平成30年57.68%、令和元年57.77%、令和2年58.32%とこの間に0.64%増えているのに対し、大阪府は平成30年61.60%、令和元年62.72%、令和2年63.72%とこの間に2.12%増えている。同じく兵庫県は平成30年64.62%、令和元年64.88%、令和2年65.44%とこの間に0.82%増えている。大阪府、兵庫県ともに全国を上回って進学率が上昇している（資料6）。

これらのことから、今後10年で通学圏内の18歳女子の人口は5.4%減少するものの、減少は小幅に留まり、また全国と比較しても減少スピードが緩やかであること、また、進学率はもとより非常に高い地域であるが、さらに全国を上回って上昇していることから、中期的に見ても学生募集環境に大きな懸念はないと考えられる。

本学既設学科の状況

本学の直近4年の志願状況について、大学全体では、入学定員855人（令和元年から865人）に対し、毎年6,476人から8,591人の志願者があり、定員に対する志願倍率は7.48倍から10.04倍と、十分な志願者を確保している（資料7）。

学科別にみても、最も低い学科でも4年間の平均志願倍率は4.60倍、最も高い学科は18.76倍となっており、十分な水準となっている。

定員充足状況は、4年間の平均定員充足率で、10学科のうち、国際教養学科と社会福祉学科を除く8学科は、0.96倍～1.11倍となっており、定員管理を厳格に行いながら健全な運営ができています。

国際教養学科は、近年の国際関係の人気の影響を受け、また入学定員が40名と小さいために、入学者数の調整が難しく、4年間の平均定員充足率は1.41倍となっている。ただし、これについては定員増の認可申請を行い、令和3年度より入学定員を60名に増員している。

社会福祉学科は、4年間の平均定員充足率が0.89倍と唯一0.90倍をわずかに下回っている。福祉系の学科については、全国的に学生募集が厳しい状況であるが、本学の社会福祉士国家試験の合格率は非常に高い水準を誇っており、平成30年度78.6%（全国平均29.9%）、令和元年度80.5%（全国平均29.3%）、令和2年度57.4%（全国平均29.3%）の実績を残している。令和2年度はコロナ禍により対面による受験指導ができず、例年ほどの結果には至らなかったが、それでも全国平均は大きく上回っており、これらの実績をもとに学生募集を強化していく。

心理学系統の状況

心理学部心理学科では、心理学の専門家として仕事をするために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していると日本心理学会が認定する「認定心理士」資格、及び認定心理士の中でも心理調査に関連する専門科目を履修した「認定心理士（心理調査）」資格が取得できるカリキュラムを配置している。

心理学の基礎的な資格である「認定心理士」の資格は、平成2年度から始まり、初年度は82名が取得、その後取得者数が増加し、平成30年度は3,620名が取得、累計では59,897名が取得している（資料8）。10年以上に亘り毎年の取得者が3,000名を超え、安定的に心理学の資格取得者がいることを示している。

さらに、平成27年9月に公認心理師法が成立し、心理学の国家資格として初めて「公認心理師」が誕生した。平成30年9月には、初の公認心理師として27,876人が国家試験に合格、その後も年間7,000名以上の公認心理師が合格し、保健医療、福祉、教育の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもつ者として活躍している。今後も公認心理師希望者は安定的に見込まれ、本学心理学部心理学科のカリキュラムは公認心理師にも対応していることから、定員充足につながるものと考え（資料8）。

また、リクルートカレッジマネジメントの調査（2019年）では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2018年時点で国公私立大学が設置していた5,174学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類、78の小分類に当てはめ、小分類ごとのライフサイクルについて分析が行われている。これによると、各小分類が、Ⅰ成長期、Ⅱ成熟期、Ⅲ衰退期、Ⅳ撤退期、Ⅴ再成長予兆期のいずれに該当するか考察されており、「小分類（心理学）」は、「1992年から概ね成長期と言える拡大を見せており、近年は定員の増加に対してやや大きな志願者増加が続いている」とされている。また、小分類ごとの志

願者増減ランキング（2015－2018年）でも、志願者増加人数で全体（78小分類）のうち8位に位置している（資料9）。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、心理学部の志願者は、平成28年度に15,051人だったものが、令和2年度は29,548人と約2倍（96%増）に増加している。この増加率は、同資料で同期間の比較が可能な90学部のうち7番目の伸び率であり、人文科学系12学部の中では最も高い伸び率である。

この人気もあり、心理学部の定員も平成28年度の2,195人が令和2年度は2,968人と35%増えているが、志願者の伸びには追いついていない状況である。このため、定員に対する志願倍率は、平成28年度の6.85倍が令和2年度は9.95倍と大きく上昇している（資料10）。また、定員充足率は平成28年度が1.00倍、令和2年度が1.04倍と安定している。

競合する他大学の状況等

まず、心理学部心理学科の基礎となる本学の学科等の状況について記述する。

本学の文学部と心理学科設置の基礎となる教育学科及び国際教養学科の直近4年間の募集状況を見てみると、定員に対する志願倍率の平均は、文学部全体では8.07倍、教育学科は7.01倍、国際教養学科は11.59倍と、安定的に十分な数の志願者を確保している（資料2）。

また、4年間の平均定員充足率は、文学部全体では1.11倍、教育学科が1.05倍、国際教養学科は1.41倍となっており、定員も安定的に充足している。心理学部心理学科は、教育学科と国際教養学科の教育内容を発展的に改組して設置するものであり、特に教育学科においては、平成7年に心理学コースを設定し、以後25年以上に亘り心理学の教育・研究実績を重ねて認定心理士などの心理人材を養成してきており、これらの学科の募集実績から学生募集の下地は確立できているものと考えている。

競合校については、主な競合大学の選定を次のとおり行った。令和2年9月のベネッセ模試のデータを活用し、本学文学部を第1志望にしている高校3年生の併願大学を集計し、10名以上が併願先としている大学を抽出した。対象は8校となったが、そこから、女子が多いという心理学の特性を考慮し、女子大学で、かつ、心理学系統の学科を設置している大学5校（武庫川女子大学、甲南女子大学、神戸女学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学）を主な競合校として選定した。

これらの大学の心理学系統の学科について、募集状況を見てみる。旺文社パスナビ入試結果は、直近3年間の入試結果が得られるため、この数値を利用する（資料4）。入学定員に対する志願者数の割合である志願倍率は、平成30年度が4.06倍～15.32倍で5校合計は10.03倍、令和元年度が、4.35倍～19.07倍で5校合計は11.05倍、令和2年度は4.91倍～19.77倍で5校合計は12.35倍と順調に推移している。5校合計の志願倍率は、上述した令和2年度の日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の心理学部における志願倍率9.95倍を上回っており、好調な全国の状況をさらに上回っている環境にある。

定員充足状況は、直近の令和2年度の定員充足率は1.04倍～1.26倍と5校すべてで1.00倍を上回っており、また、5校合計では1.12倍と、順調な状況である。神戸親和女子大学のみ、平成30年度、令和元年度で連続して定員充足率が1.00倍を下回っているが、令和2年度は入

学定員を充足している。これは、心理学系統の志願者人気の高まりと、公認心理師の受験資格に対応したカリキュラム設定により定員を充足したと考えられる。また、神戸親和女子大学を除く競合4校はすべて大阪から神戸のいわゆる阪神間の沿岸部に位置しているが、神戸親和女子大学は、六甲山系の内陸部に位置するため、学生の通学圏に違いがあるものと考えられる。

本学の心理学部心理学科は、公認心理師に対応したカリキュラムを設定し、また神戸の中心部で開設するため、上記のような募集上の懸念は少ないものと考えている。

さらに、神戸の中心に位置しながら、阪神間の競合4校との比較では、最も西に設置することになるため、兵庫県第2の都市である姫路市、子育て支援施策の充実により人口増となっている明石市などから、最も有利に学生を募集できるものと考えている（資料11）。

競合校5校の直近の志願者合計5,807名に対し、入学者が529名であることを考えても、心理学志望者の受け皿として、本学心理学部心理学科の入学定員80名は十分に需要があると考えられる。

高校生アンケート

本学心理学部心理学科への入学意向を把握するため、近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に1府10県（兵庫県、大阪府、和歌山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、高知県）に所在する高等学校の在学者で令和4年度の進学対象者である高校2年生の女子生徒を対象に、第三者機関である「一般財団法人日本開発構想研究所」を介してアンケートを実施した。調査は、令和2年11月から令和3年3月の期間で行った。調査方法は、神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に、129校に対して合計19,844人分のアンケート用紙と神戸女子大学心理学部のリーフレットを送付し、対象者が教室で直接アンケート用紙に記入する方法で実施した。しかしながら、アンケートの実施時は、兵庫県、大阪府には新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言が発令されており、アンケート実施が困難な高校が多く部分的な調査となった。

なお、アンケートの回答用紙は、高校から第三者機関へ直接郵送してもらい、その集計も第三者機関が行っている。

その結果、77校8,728人から回答があり、そのうち8,107人から有効回答（有効回収率約44.0%）を得た。

以下に第三者機関作成のアンケート報告（資料12）に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

○神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について

高等学校卒業後に進学を希望している7,691人のうち、神戸女子大学心理学部心理学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは、140人（1.8%）である。「興味・関心がある」は444人（5.8%）、「すこし興味・関心がある」は1,373人（17.9%）で、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」、の合計1,957人（25.4%）が神戸女子大学心理学部心理学科に興味・関心を示している。

○神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち「神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて、「興味・関心はない」2,613 人と「無回答」143 人を除いた 4,935 人に、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について調査した結果、「受験してみたい」と回答したのは、69 人（1.4%）、「受験先として検討したい」は 361 人（7.3%）、「わからない」が 2,192 人（44.4%）である。

リクルートの調査（カレッジマネジメント 219: 進路の意思決定を科学する）によると、2019 年に高校を卒業した全国の男女 5 万人を対象に調査を行い、大学進学者のうち高校 2 年生終了までに第一志望の学校を受験校に決めた割合は 24.3%となっている。進学者の 75%以上が高校 3 年生になってから進学する大学を決定しており、アンケート実施時には 3/4 以上の学生が進路を決定できていない中で、「受験してみたい」が 69 人、「受験先として検討したい」361 人を含めると合計 430 人が受験意向を示しており、定員 80 人の約 5.4 倍の水準となっている。

○神戸女子大学心理学部への入学意向について

高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち、前述の「神戸女子大学心理学部への受験意向について」で、受験意向を示した 430 人に神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した結果、「入学を希望する」が 78 人（18.1%）、「入学を検討する」が 268 人（62.8%）となっている。

なお、このアンケート調査は、本学の近隣高校、または進学実績のある高校を中心として、約 2 万人の高校生に対し計画したものであったが、回収は半数以下に留まった。協力いただき回収できた部分だけでも十分と考えるが、未回収先にも進学実績の多い高校が含まれており、潜在的な入学希望者はさらに多くあると考えている。

高校生アンケート（追加）

さらに、より確度の高い入学意向者数を調査するために、追加のアンケートを令和 3 年 5 月に実施した。神戸女子大学に資料請求を行った高校生（心理学科の母体となる文学部志望者を中心に抽出）、及び(株)進研アドに対し文学系統の資料請求を行った高校生のうち、高校 3 年生の女子を対象にアンケートを郵送し、(株)進研アドが回収し集計を行う方法で実施した。6,603 人へアンケート用紙と学科パンフレットを送付し、1,474 人（22.3%）から回答を得た。このアンケートでは、より入学意向を明確にするため、受験意向及び入学意向を問う際に、「わからない」等の不明確な選択肢をなくして実施した。

以下に第三者機関である(株)進研アド作成のアンケート報告（資料 12-2）に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

○回答者の属性等について

回答者の属性（高校所在地）を調査した結果、アンケート回答者 1,474 人のうち「兵庫県」が 578 人（39.2%）と最も多く、次いで「大阪府」319 人（21.6%）、「京都府」88

人（6.0%）となった。通学圏内であるこの2府1県からの回答者が985人（66.8%）を占めた。

また、所属しているクラスは、多い順に「文系クラス」が912人（61.9%）、「理系クラス」が244人（16.6%）、「コース選択はない」が164人（11.1%）であった。

高校卒業後の進路（複数回答可）は、多い順に「私立大学に進学」が1,097人（74.4%）、「国公立大学に進学」が504人（34.2%）、「専門学校・専修学校に進学」が149人（10.1%）であった。

これら回答者の高校所在地、所属クラス、高校卒業後の進路の状況から、本学への入学確度の高い層へアンケートが実施できたと考えている。

○興味ある学問系統について

興味のある学問系統を調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人（29.4%）でもっとも多く、次いで生活科学（食物・栄養学、被服学、児童学などを含む）346人（23.5%）、3番目が教員養成・教育学342人（23.2%）であった。

○神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

受験意向について調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち、「受験したいと思う」は430人（29.2%）、「受験したいと思わない」は1,035人（70.2%）、「無回答」は9人（0.6%）であった。受験意向者430人は、入学定員80人の5.3倍の水準である。

○神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について

上記の受験意向を示した430人に対し、合格した場合の入学意向を調査した結果、「入学したいと思う」は385人（89.5%）、「入学したいと思わない」は42人（9.8%）、「無回答」は3人（0.7%）であった。入学意向者385人は、入学定員80人の4.8倍の水準である。

当初のアンケート結果に加え、新たにアンケートを実施した調査結果からも入学定員80人の充足は十分に見込めると判断している。

まとめ

上記のとおり、主な通学圏の受験者層の推移に懸念が少ないこと、本学の既設学科の募集状況が順調であること、心理学系統の募集環境が好調であること、競合する他大学の状況及び立地条件等から募集上の不安が少ないこと、また2回の高校生アンケートの実施調査結果から十分な数の入学意向者が確認できたこと、また後述する企業等の人材需要アンケートにおいて、社会的な人材需要が高いことが確認されたこと、心の健康に対する専門的知識を持つ心理職が様々な分野で求められ、ますますその活躍が期待されている状況にあることから、本学心理学部心理学科（入学定員80人）は長期的かつ安定的に学生を確保できると考える。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学では、教育の質的向上を図るための教育研究基盤の一層充実強化を図り、財政基盤の安定を目指す観点及び保証人の負担軽減を図ることから平成 28 年 4 月（平成 27 年 4 月設置の看護学部を除く）の入学生から初年度の納入金額に含まれる入学金 35 万円を 25 万円に値下げを行い、その値下げ分を在学年限で除算し、その金額を基に 2 年次から卒業年次の学費に上乗せすることとした。

学生納付金は、入学金の他、授業料、教育・施設充実費である。心理学部の学生納付金については、他学部（看護学部を除く）と同様に入学金 25 万円、授業料は、文学部と同額の 85 万円、教育・施設充実費は心理学部心理学科の基礎学部等となる文学部教育学科心理学コースと同額の初年次が 27 万円で 2 年次から卒業年次までを 30 万円と設定した。

これらにより、学生の初年度納付金は 137 万円、2 年次以降の納付金は 115 万円で、4 年間の総額が 482 万円であるが、これは、兵庫県内の女子大学の心理学系学科と同水準である。

（資料 13）

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学校法人吉学園では、設置している神戸女子大学及び神戸女子短期大学の学生募集や入学試験を一体的かつ機動的に実施していくため、学校法人吉学園入試・広報計画委員会を設置し、広報戦略及び入試戦略の基本方針を策定している。策定された基本方針に基づき入試広報部が活動部隊の主体となって広報誌・Web による情報提供、各種媒体への広報、オープンキャンパスの開催、進学説明会、高等学校に対する情報提供、及び多様な入試制度の提供等を教職協働で展開している。

広報誌・Web による情報提供

本学への受験情報の資料を請求してくる受験生が年間 2 万人近くおり、その資料請求者に対し大学の基本情報を記載した大学案内を郵送している。また、年 4 回～6 回大学独自の情報誌を発行し、大学案内とは異なる観点から大学の魅力を発信している。

更に、神戸女子大学のホームページでは受験生だけではなく、在学生・卒業生・保護者等に幅広く情報を発信し、受験生専用サイトでは入試情報やイベント情報はもとよりキャンパスライフ・学生ブログなど様々な情報を提供している。

各種媒体への広報

進学情報誌や進学情報サイトに参画し、全国に向け大学情報の発信に努めている。また、これらの媒体から資料を請求してきた受験生等に対しては、大学情報誌のほか、進学相談会やオープンキャンパスなど各種イベントの案内を発送している。

オープンキャンパスの開催

毎年6月から9月にかけて6回開催しており、ミニ講義・展示等の学科別プログラム及び個別相談、入試対策講座、キャンパスツアー、国際交流・学生生活・入試の各相談コーナーなど様々なプログラムを用意し、大学の魅力を発信している。

進学説明会

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、7月末まで高等学校で開催される進学ガイダンス及び進学相談会は、全て中止され、参加数が減少したが、例年であれば、兵庫県、大阪府を中心に、高等学校で開催される進学ガイダンスに年間130回程度参加し、本学の概要説明、学部・学科系統説明、模擬授業など訪問先学校の要望に沿った活動を行っている。また、キャンパス見学を随時受け入れるなど高等学校単位での進学説明の機会を活用している。

民間企業が開催する進学を支援する合同進学説明会に年間70会場程度参加するなど高校生や保護者への情報提供や受験アドバイスを行っている。

高等学校に対する情報提供

本学には、高等学校訪問を専従とする職員が2名在職しており、年間で延べ800校以上を訪問し、中でも近隣の高等学校には多いところで年間6回以上も訪問しており、常に最新の情報提供を行うとともに、緊密な情報交換に努めている。

また、本学独自に近畿圏の高等学校教員を対象とする入試説明会を神戸と大阪で開催するとともに高等学校内ガイダンスも行う等様々な手法で迅速かつ効果的な情報提供に心掛けている。

多様な入試制度の提供

本学では、総合型選抜、特別選抜、学校推薦型選抜、一般選抜など年間で18種類の多種・多様な入学試験を実施し、受験生に選択の幅を多く提供できるよう努めている。

また、試験科目も教科・科目入試、公募制推薦入試で5科目（英語、国語、化学、生物、日本史）、一般入試で最大7科目（英語、国語、化学、生物、数学、日本史、世界史）を用意し、文系、理系どちらの受験生からも受験し易いように配慮している。更に、受験生の約半数が兵庫県外の高校生であることから、学外試験場について教科・科目入試で7会場（大阪、京都、和歌山、岡山、広島、高松、松山）、一般入試で13会場（東京、金沢、名古屋、大阪、京都、和歌山、米子、岡山、広島、福山、高松、松山、福岡）で行うなど広い地域で多様な受験生に受験してもらえるよう利便性の確保に努めている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

<養成する人材像>

心理学部では、人間の心的過程と行動のメカニズムに深い関心を持ち、社会における人間の多様な営みを心理学の視点から理解し、他者と心理的な交流を深めて協同して活動することのできる人材を養成する。

心理学科では、心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ＜地域的な人材需要＞

現在、本学では文学部、家政学部、健康福祉学部、看護学部の4学部を有しており、令和3年度の入学定員は885名である。

最近5年間の求人実績等（資料14）では、多数の求人件数があり、高い就職実績を維持している。この実績が、社会が求めている人材を輩出している高等教育機関として社会から期待されている表れであると考えられる。

近隣他大学の心理学系統の卒業生は、就職先として一番多いのが一般企業、次に公務員、心理系専門職の順となっている。一般企業の中でも人事職、営業職、マーケティング職といった分野への就業が見込まれる。特に本学が設置する心理学部では、3つのモデルを配置し、臨床心理モデルの卒業生は心理系専門職を目指し、メディア心理モデル、経営・消費者モデルの卒業生は、一般企業の人事職、営業職、マーケティング職等を目指すことが見込まれる。

本学が設置する神戸ポートアイランドは、平成10年より神戸医療産業都市懇談会が設置され20年以上経過し、医療機関が集積されるとともに進出企業・団体数は約370社（令和3年2月末）、雇用者数11,700人（令和2年3月末）を超えることとなった。そのため、医療機関には心理系専門職が求められ、一般企業も多数集積したことから人事職、営業職、マーケティング職等も求められることとなることが推測できる。これらのことから、心理学部の卒業生の多くが求められる。

＜人材需要の調査結果の概要＞

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の就職が見込まれる1都2府20県（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、愛知県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県、長崎県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施した。

調査は令和2年11月から12月の期間に神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる2,786件の調査対象企業等の採用担当者にアンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科の概要を示したリーフレットを送付する方法で実施した。有効回

答は、787 件で、有効回収率は約 28.2%であった。回答については、第三者機関である一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送され、集計もこの第三者機関が行った。

回答のあった企業等 787 件のうち「企業」が 455 件 (57.8%) と最も多く、次いで「施設 (医療福祉)」279 件 (35.5%)、「その他」40 件 (5.1%)、「教育・研究機関」11 件 (1.4%) の順であった。

以下に第三者機関作成のアンケート報告 (資料 15) に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

○事業所の業種について

回答企業等 787 件のうち 10 件以上のものを挙げると、「医療・福祉」が 332 件 (42.2%) と最も多く、次いで「卸売業・小売業」186 件 (23.6%)、「宿泊業・飲食サービス業」65 件 (8.3%)、「サービス業 (他に分類されないもの)」59 件 (7.5%)、「製造業」31 件 (3.9%)、「情報通信業」20 件 (2.5%)、「その他」20 件 (2.5%)、「生活関連サービス業・娯楽業」18 件 (2.3%)、「教育・学習支援業」13 件 (1.7%)、「金融業・保険業」13 件 (1.7%) の順になっている。※「無回答」2 件 (0.3%)

これらの回答から、4 割以上が「医療・福祉」の企業等であることから心理学への関心の高さが伺え、今後の需要は現状以上に高まっていくものと考えられる。

○心理学部心理学科の社会的必要性について

回答企業等 787 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 448 件 (56.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」260 件 (33.0%)、「わからない」57 件 (7.2%)、「あまり必要性を感じない」18 件 (2.3%)、「必要性はない」2 件 (0.3%) の順になっている。※「無回答」2 件 (0.3%)

なお、神戸女子大学心理学部心理学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、708 件 (90.0%) となっている。

これらの回答から、心理学が社会的に必要性の高い分野であることが伺える。

○心理学部心理学科の卒業生の採用意向について

回答企業等 787 件のうち、「採用を検討したい」が 402 件 (51.1%) と最も多く、次いで「採用したい」278 件 (35.3%)、「採用は考えない」96 件 (12.2%) の順になっている。※「無回答」11 件 (1.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、680 件 (86.4%) となっている。

○心理学部心理学科の卒業生の採用人数について

前述で肯定的な採用意向を示した 680 件に対して、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 394 件 (57.9%) と最

も多く、次いで「1人」167件(24.6%)、「2人」84件(12.4%)、「3人」23件(3.4%)、「5人以上」9件(1.3%)、「4人」2件(0.3%)の順になっている。

※「無回答」1件(0.1%)

まとめ

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「心理学部心理学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定(※)」)を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」において、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、417人分となる。入学定員は80名であるため、約5.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は851人となり、これは、入学定員80名に対して、約10.6倍となる。

これらの調査結果と、今回の調査対象以外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

<専門知識を有する心理職の必要性>

また、平成29年9月に公認心理師法が施行され、「今日、心の健康の問題は、国民の生活に関わる重要な問題となっており、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場における心理職の活用の促進は、喫緊の課題となっている。しかしながら、我が国においては、心理職の国家資格がないことから、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職が必要とされてきた。法は、このような現状を踏まえ、公認心理師の国家資格を定めて、その業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とするものである。」(「公認心理師法の施行について」(29文科初第875号・障発0915第7号平成29年9月15日付通知))という背景とその必要性のもとに国家資格である公認心理師制度がスタートした。

この公認心理師資格は、以下のとおり示す諸課題に対して専門的知識を持つ心理職が必要なことから、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪および産業・労働といった様々な分野で活躍が期待されている。

・保健医療の分野では、厚生労働省「患者調査」により同省が作成した「精神疾患を有する患者数の推移」によると、精神疾患患者数は平成23年度320.1万人、平成26年度392.4万人、平成29年度419.3万人と年々増加している(資料16)。

・福祉の分野では、厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」によると、児童虐待の相談件数は平成 29 年度 133,778 件、平成 30 年度 159,838 件、令和元年度 193,780 件と大きく増加している（資料 17）。このため、平成 30 年に政府により「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」が策定され、公認心理師などが任用される児童福祉司を平成 29 年度の約 3,240 人から令和 4 年度までに 2,020 人増員し 5,260 人へ、また子どもへのカウンセリング等を充実させるため、児童心理司を平成 29 年の 1,360 人から令和 4 年度までに 790 人増員し 2,150 人へ、さらに令和 6 年度までに 350 人積み増して 2,500 人にする計画が進行中である（資料 18）。

・教育の分野では、文部科学省「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によると、「いじめの認知件数」は平成 29 年度 414,378 件、平成 30 年度 543,933 件、令和元年度 612,496 件と増加傾向にある。それに伴い、不登校児童生徒数や暴力行為の発生件数も高いままとまっている（資料 19）。また、文部科学省「令和 2 年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」によると、児童・生徒（小学校・中学校・高等学校）の自殺者数も、平成 28 年度の 289 人が、令和元年度は 339 人、令和 2 年度は 479 人と増加しており、ますますスクールカウンセラー等の心理職の活躍が必要とされている状況にある（資料 20）。

・司法・犯罪の分野では、法務省「令和 2 年度版再犯防止推進白書」にあるとおり再犯防止に係る専門的知識を持つ心理職による心理相談等の実施などの取組みが記載され、少年鑑別所や矯正施設でのその役割が重要視されている。

・産業・労働の分野では、厚生労働省「労働安全衛生調査（実態調査）」によると、メンタルヘルス不調により連続 1 カ月以上休業した労働者がいた事業所の割合は平成 29 年度 0.4%、平成 30 年度 6.7%で、また退職した労働者がいた事業所の割合は 0.3%から 5.8%へ急増している（資料 21）。

以上のように、心理に関する専門知識を有する心理職の重要性は年々高まっており、様々な分野で活躍を期待されていると判断できる。

上記のとおり、地域的な人材需要、アンケート調査結果、心の健康に対する社会のニーズや国の各種取組み等から本学心理学部心理学科の人材需要は高いものと考えられる。

(添付資料)

- 資料1. 神戸女子大学・神戸女子短期大学の入学定員について
- 資料2. 神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等
- 資料3. 神戸女子大学定員充足状況
- 資料4. 近隣女子大学心理学科系の志願者状況
- 資料5. 地域別の18歳人口の推移（令和4年～令和14年）
- 資料6. 高等学校を卒業した女子の大学等進学状況
- 資料7. 神戸女子大学既存学科の志願状況
- 資料8. 認定心理士・公認心理師資格取得者推移
- 資料9. リクルート「カレッジマネジメント」
- 資料10. 学部別の志願者動向
- 資料11. 近隣女子大学位置関係図
- 資料12. 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
- 資料12-2 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告（追加）
- 資料13. 近隣女子大学心理学科系学納金一覧
- 資料14. 神戸女子大学文学部3か年間の就職実績
- 資料15. 卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告
- 資料16. 精神疾患を有する患者数の推移（厚生労働省）
- 資料17. 児童相談所での児童虐待相談対応件数（厚生労働省）
- 資料18. 児童虐待防止対策体制総合強化プラン
- 資料19. いじめの認知（発生）件数の推移（文部科学省）
- 資料20. 自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移（文部科学省）
- 資料21. 労働安全衛生調査（平成29・30年）

(資料1)

神戸女子大学・神戸女子短期大学の入学定員について

大学	学部	学科	入学定員			
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度→4年度増減
神戸女子大学	文学部	日本語日本文学科	60	60	60	0
		英語英米文学科	60	60	60	0
		国際教養学科	40	60	60	20
		史学科	60	60	60	0
		教育学科	165	165	165	0
	家政学部	家政学科	80	80	80	0
		管理栄養士養成課程	150	150	150	0
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	80	80	0
		健康スポーツ栄養学科	80	80	80	0
	看護学部	看護学科	90	90	90	0
	心理学部	心理学科			80	80
	大学計			865	885	965
神戸女子短期大学	総合生活学科		120	100	100	▲ 20
	食物栄養学科		120	60	60	▲ 60
	幼児教育学科		100	80	80	▲ 20
	短大計		340	240	240	▲ 100
行吉学園	神戸女子大学・神戸女子短期大学 合計		1,205	1,125	1,205	0

行吉学園改組等の計画

年度	大学/短大	改組等の内容		
		学科等	種類	入学定員の増減
令和3年度	短期大学	総合生活学科	定員減	120→100 (▲20)
		食物栄養学科	定員減	120→60 (▲60)
		幼児教育学科	定員減	100→80 (▲20)
	大学	文学部国際教養学科	定員増	40→60 (+20)
令和4年度	大学	心理学部心理学科	設置	0→80 (+80)

(資料2)

神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	4ヵ年平均
文学部 (5学科計)	① 入学定員	385	385	385	385	385
	② 志願者数	2,613	3,304	3,810	2,715	3,111
	③ 受験者数	2,599	3,277	3,791	2,701	3,092
	④ 合格者数	864	1,033	1,077	889	966
	⑤ 入学者数	431	509	424	355	430
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.11	1.32	1.10	0.92	1.11
	⑦ 志願倍率 (②/①)	6.78	8.58	9.89	7.05	8.07
うち 教育学科	① 入学定員	165	165	165	165	165
	② 志願者数	1,182	1,258	1,200	992	1,158
	③ 受験者数	1,178	1,255	1,199	986	1,155
	④ 合格者数	354	377	386	323	360
	⑤ 入学者数	181	185	176	155	174
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.09	1.12	1.06	0.93	1.05
	⑦ 志願倍率 (②/①)	7.16	7.62	7.27	6.01	7.01
うち 国際教養学科 (平成29年度までは 神戸国際教養学科)	① 入学定員	40	40	40	40	40
	② 志願者数	344	458	649	405	464
	③ 受験者数	342	453	646	403	461
	④ 合格者数	105	143	149	113	128
	⑤ 入学者数	55	76	52	44	57
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.37	1.90	1.30	1.10	1.41
	⑦ 志願倍率 (②/①)	8.60	11.45	16.22	10.12	11.59

神戸女子大学定員充足状況

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率 平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
家政学部		230	252	1.09	230	245	1.06	230	227	0.98	230	213	0.92	1.01
	家政学科	80	85	1.06	80	88	1.10	80	97	1.21	80	85	1.06	1.10
	管理栄養士養成課程	150	167	1.11	150	157	1.04	150	130	0.86	150	128	0.85	0.96
文学部		385	431	1.11	385	509	1.32	385	424	1.10	385	355	0.92	1.11
	日本語日本文学科	60	74	1.23	60	83	1.38	60	66	1.10	60	46	0.76	1.11
	英語英米文学科	60	61	1.01	60	86	1.43	60	61	1.01	60	58	0.96	1.10
	国際教養学科	40	55	1.37	40	76	1.90	40	52	1.30	40	44	1.10	1.41
	史学科	60	60	1.00	60	79	1.31	60	69	1.15	60	52	0.86	1.08
	教育学科	165	181	1.09	165	185	1.12	165	176	1.06	165	155	0.93	1.05
健康福祉学部		160	163	1.01	160	149	0.93	160	160	1.00	160	129	0.80	0.93
	社会福祉学科	80	76	0.95	80	73	0.91	80	76	0.95	80	62	0.77	0.89
	健康スポーツ栄養学科	80	87	1.08	80	76	0.95	80	84	1.05	80	67	0.83	0.97
看護学部	看護学科	80	91	1.13	80	88	1.10	90	87	0.96	90	88	0.97	1.04
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

定員規模別の集計

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率 平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
	定員80名未満の学科：4学科 (日本語日本文学科、英語英米文学科、 国際教養学科、史学科)	220	250	1.13	220	324	1.47	220	248	1.12	220	200	0.90	1.15
	定員80名～99名の学科：4学科 (家政学科、社会福祉学科、 健康スポーツ栄養学科、看護学科)	320	339	1.05	320	325	1.01	330	344	1.04	330	302	0.91	1.00
	定員100名超の学科：2学科 (管理栄養士養成課程、教育学科)	315	348	1.10	315	342	1.08	315	306	0.97	315	283	0.89	1.01
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

(資料4)

近隣女子大学心理学系の志願者状況

大学名	学部学科名	平成30年度						令和元年						令和2年度								
		定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
武庫川女子大学	文学部 心理・社会福祉学科	160	1,836	1,668	270	143	11.47	0.89	160	1,749	1,551	407	177	10.93	1.10	160	2,020	1,766	452	172	12.62	1.07
神戸女学院大学	人間科学部 心理・行動科学科	90	899	828	233	111	9.98	1.23	90	969	897	248	108	10.76	1.20	90	878	763	255	114	9.75	1.26
甲南女子大学	人間科学部心理学科	90	1,379	1,350	538	109	15.32	1.21	90	1,717	1,666	483	110	19.07	1.22	90	1,780	1,737	404	94	19.77	1.04
神戸松蔭女子学院大学	人間科学部 心理学科	70	359	339	272	80	5.12	1.14	70	500	463	296	91	7.14	1.30	70	834	770	286	78	11.91	1.11
神戸親和女子大学	発達教育学部 心理学科	60	244	233	127	50	4.06	0.83	60	261	259	131	47	4.35	0.78	60	295	284	179	71	4.91	1.18
5大学合計		470	4,717	4,418	1,440	493	10.03	1.04	470	5,196	4,836	1,565	533	11.05	1.13	470	5,807	5,320	1,576	529	12.35	1.12

※志願者は、旺文社「大学受験ハスナビ 入試結果」より全ての入試の合計数から本学で作成

5大学の平均入学定員は、 $4700 \div 5 = 940$ 人

地域別の18歳人口の推移（令和4年～令和14年）

集計	地域	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R4→14 増減率
男女	全国	1,118,555	1,098,898	1,061,074	1,059,128	1,066,954	1,075,000	1,054,736	1,043,969	1,040,723	1,012,766	1,006,691	90.0%
	全国	545,320	536,997	517,942	517,243	520,353	524,514	514,398	508,688	507,489	494,877	492,351	90.3%
	大阪府	37,767	37,284	35,426	35,342	35,910	35,557	35,081	34,627	34,864	34,015	33,715	89.3%
	兵庫県	24,603	24,090	23,289	23,183	23,088	23,638	22,989	22,549	22,628	21,745	21,518	87.5%
女	大阪市	9,673	9,455	9,024	8,998	9,384	9,543	9,341	9,382	9,649	9,607	9,958	102.9%
	尼崎市	1,686	1,628	1,584	1,567	1,607	1,704	1,653	1,620	1,598	1,591	1,667	98.9%
	西宮市	2,335	2,231	2,177	2,120	2,224	2,230	2,122	2,059	2,013	2,078	1,971	84.4%
	芦屋市	411	443	415	441	415	427	408	437	396	377	381	92.7%
	神戸市	6,434	6,196	6,238	6,069	6,068	6,168	5,989	6,051	6,008	5,680	5,630	87.5%
	明石市	1,305	1,322	1,278	1,186	1,297	1,306	1,270	1,268	1,333	1,287	1,330	101.9%
	加古川市	1,269	1,259	1,109	1,198	1,143	1,241	1,208	1,177	1,238	1,108	1,158	91.3%
	姫路市	2,638	2,552	2,480	2,501	2,428	2,453	2,450	2,304	2,389	2,314	2,268	86.0%
	大阪市～姫路市計	25,751	25,086	24,305	24,080	24,566	25,072	24,441	24,298	24,624	24,042	24,363	94.6%
		本学主要通学圏											

※平成27年国勢調査結果から18歳の人口を記載

(資料6)

高等学校を卒業した女子の大学等進学状況

(単位：人・%)

都道府県名	高等学校卒業女子数			大学等進学者数			大学等進学率			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30→ 令和2年 増減
全国	524,159	519,975	513,507	302,353	300,392	299,499	57.68	57.77	58.32	0.64
大阪府	37,703	37,082	36,079	23,227	23,258	22,992	61.60	62.72	63.72	2.12
兵庫県	23,418	23,047	22,585	15,135	14,954	14,781	64.62	64.88	65.44	0.82

※「学校基本調査報告書」（平成30から令和2年度）より本学で作成

神戸女子大学既存学科の志願状況

(単位：人、倍)

学部	学科	定員	平成29年度						平成30年度						令和元年度						令和2年度						4年間平均	
			志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	定員充足率	志願倍率
文	日本語 日本文学科	60	460	458	165	74	1.23	7.66	573	567	185	83	1.38	9.55	703	698	173	66	1.10	11.71	446	441	154	46	0.76	7.43	1.11	9.08
	英語 英米文学科	60	344	340	128	61	1.01	5.73	581	576	184	86	1.43	9.68	733	730	174	61	1.01	12.21	407	407	141	58	0.96	6.78	1.10	8.60
文	国際教養 学科	40	344	342	105	55	1.37	8.60	458	453	143	76	1.90	11.45	649	646	149	52	1.30	16.22	405	403	113	44	1.10	10.12	1.41	11.59
	史学科	60	283	281	112	60	1.00	4.71	434	426	144	79	1.31	7.23	525	518	195	69	1.15	8.75	465	464	158	52	0.86	7.75	1.08	7.11
家政	教育学科	165	1,182	1,178	354	181	1.09	7.16	1,258	1,255	377	185	1.12	7.62	1,200	1,199	386	176	1.06	7.27	992	986	323	155	0.93	6.01	1.05	7.01
	家政学科	80	398	394	170	85	1.06	4.97	561	552	201	88	1.10	7.01	526	523	247	97	1.21	6.57	544	542	188	85	1.06	6.80	1.10	6.33
健康 福祉	管理栄養士 養成課程	150	1,616	1,605	316	167	1.11	10.77	1,878	1,867	306	157	1.04	12.52	1,481	1,477	348	130	0.86	9.87	1,008	1,002	277	128	0.85	6.72	0.96	9.97
	社会福祉 学科	80	372	369	158	76	0.95	4.65	369	368	157	73	0.91	4.61	356	355	177	76	0.95	4.45	377	377	164	62	0.77	4.71	0.89	4.60
看護	健康 福祉 ソシ 栄養学科	80	541	541	142	87	1.08	6.76	614	610	163	76	0.95	7.67	580	578	182	84	1.05	7.25	420	418	130	67	0.83	5.25	0.97	6.73
	看護学科	80 (R1~90)	1,593	1,588	200	91	1.13	19.91	1,865	1,852	192	88	1.10	23.31	1,456	1,454	227	87	0.96	16.17	1,412	1,398	230	88	0.97	15.68	1.04	18.76
	計	855 (R1~865)	7,133	7,096	1,850	937	1.09	8.34	8,591	8,526	2,052	991	1.15	10.04	8,209	8,178	2,258	898	1.03	9.49	6,476	6,438	1,878	785	0.90	7.48	1.04	8.83

(資料8)

認定心理士資格取得者数年度別推移

年度	取得者数	取得者累計
平成21年度	3,401	30,004
平成22年度	3,179	33,183
平成23年度	3,138	36,321
平成24年度	3,689	40,010
平成25年度	3,035	43,045
平成26年度	3,002	46,047
平成27年度	3,212	49,259
平成28年度	3,508	52,767
平成29年度	3,510	56,277
平成30年度	3,620	59,897
10年間平均取得者数	3,329	—
10年間増加数	—	29,893

※公益社団法人 日本心理学会HPより本学で作成

公認心理師試験受験者数推移

試験	受験者数	合格者数	合格率 (%)
第1回 (H. 30. 9)	35,020	27,876	79.6
第1回 (H30. 12) 追加	1,083	698	64.5
第2回 (R1. 8)	16,949	7,864	46.4
第3回 (R2. 12)	13,629	7,282	53.4

※一般財団法人 日本心理研修センターHPより本学で作成

「複合化」が進む学部・学科改編

鹿島 梓／鈴木規子 カレッジマネジメント編集部

1章 学科のライフサイクルとマーケット・トレンド

本調査では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2018年時点で国公立大学が設置していた5174学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類、78の小分類(図表1)に分類した。この78分類に当てはまった3458学科を「単独分野」と定義。また、複数分野が融合して78分類に当てはまらなかった1716学科を「複

合分野」と定義した。以下、単独分野と複合分野に分けて、考察を行うこととする。本章では、まず1992年から2018年までの26年間に、学科のライフサイクルがどのように変化してきたかを単独分野について概観する。

単独分野から見る学科系統のライフサイクル

では、まず単独分野の学科系統の

ライフサイクルから見ていこう。

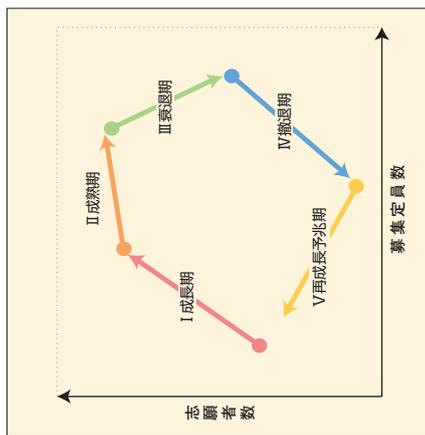
縦軸に志願者数、横軸に募集定員数を置き、図表上の矢印で、ライフサイクルのパターンがどのように変化してきたかを示したのが、学科系統のライフサイクル図である(P.6図表2-1参照)。さらにここでは、I成長期、II成熟期、III衰退期、IV撤退期、V再成長予兆期という、5つの段階があると仮説を立てた。

図表1 学科の78学問分類と2016-2018トレンド一覧 ※トレンド：↗(成長期)、→(成熟期)、↘(衰退期)、↙(撤退期)、↖(再成長予兆期)

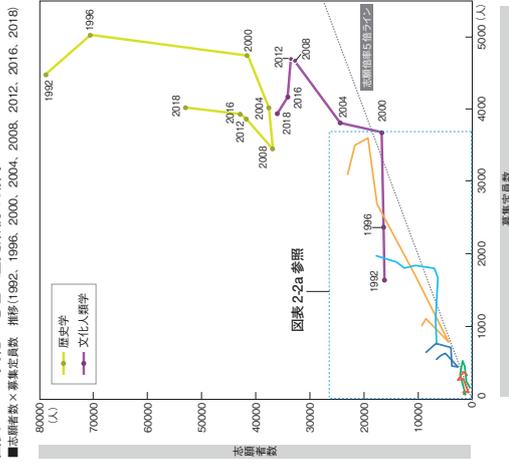
学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド
1 文化・地理・歴史	1 地理学	↖	6 生物	27 住居学	→	11 スポーツ・健康・医療	53 語学(外国語)	↗
	2 歴史学	↗		28 生活科学	↖		54 語学(日本語)	↗
	3 考古学	↖		29 生物学	↘		55 スポーツ学	→
	4 文化人類学	↖		30 生命科学	↘		56 健康科学	↗
	5 日本文化学	↗		31 農学	↘		57 医学(専門課程)	→
	6 言語学	→		32 森林科学・水産学	→		58 歯学(専門課程)	↘
	7 教養学	↖		33 獣医・畜産学	↙		59 薬学	↘
2 芸術・文学・表現	8 音楽	↙	7 社会・マスコミ	34 社会学	↗	12 工学・建築・技術	60 看護学	↗
	9 美術	↗		35 観光学	↗		61 保健衛生学	↘
	10 デザイン	↖		36 情報学	↖		62 リハビリテーション学	↘
	11 舞台・演劇学	→		37 図書館情報学	↗		63 医療技術学	→
	12 日本文学	↗		38 コミュニケーション学	↙		64 機械工学	↙
	13 外国文学	↖		39 マスコミ学	↗		65 航空・船舶・自動車工学	↙
	14 児童文学	—		40 メディア学	↗		66 システム・制御工学	↖
	15 文芸学	↖		41 哲学・宗教学	↗		67 情報工学	↗
3 数学・物理学・化学	16 数学	→	8 人間・心理・教育・福祉	42 心理学	↗	68 通信工学	↖	
	17 物理学	↙		43 人間科学	↙	69 電気工学	↗	
	18 化学	↙		44 教育学	→	70 電子工学	↖	
4 法律・政治・経済	19 法学	↖	9 地球・環境・エネルギー	45 保育・児童学	↘	71 画像・音響工学	↖	
	20 政治・政策学	↗		46 福祉学	↖	72 建築学	↗	
	21 総合政策学	↗		47 地球・宇宙学	↗	73 土木工学	↗	
	22 経済学	↗		48 環境科学	→	74 環境工学	↖	
	23 経営学	↖		49 エネルギー・資源工学	↗	75 応用物理学	↖	
5 家政・生活	24 商学	↗	10 国際・語学	50 原子力工学	↗	76 応用化学	↙	
	25 栄養・食物学	↘		51 国際関係学	↖	77 材料工学	↙	
	26 服飾・被服学	↘		52 国際文化学	↖	78 経営工学	↙	

※リクルート独自分類

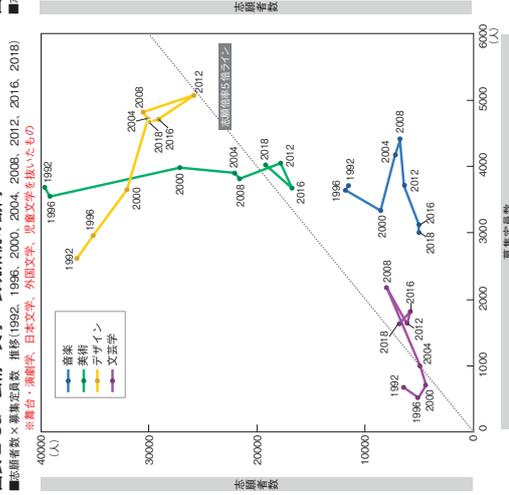
図表 2-1 学科システムのライフサイクル図



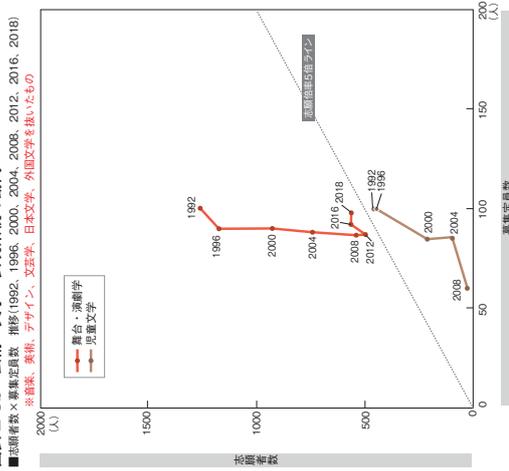
図表 2-2 文化・地理・歴史系統の動向



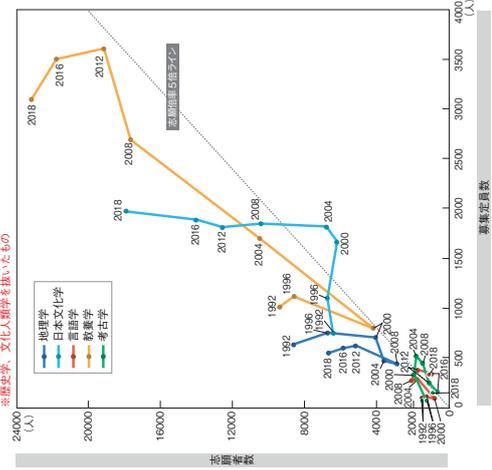
図表 2-3a 芸術・文学・表現系統の動向



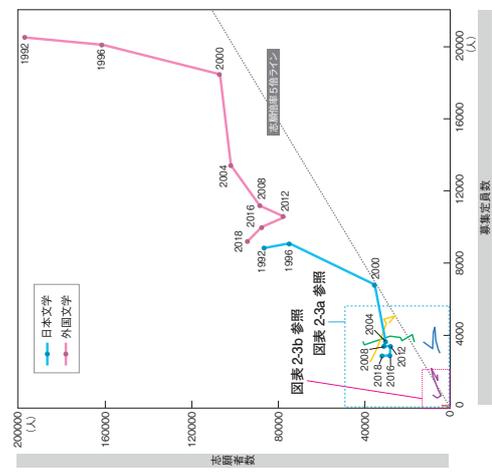
図表 2-3b 芸術・文学・表現系統の動向



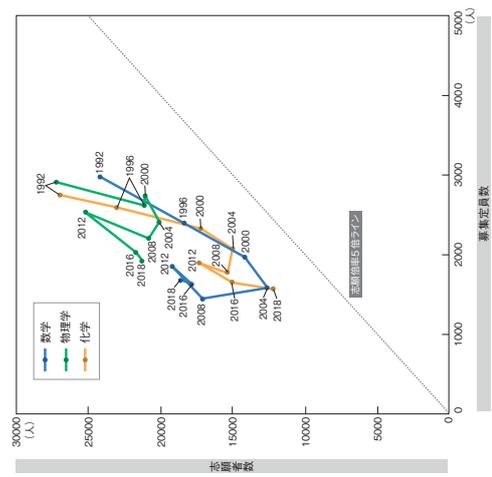
図表 2-2a 文化・地理・歴史系統の動向



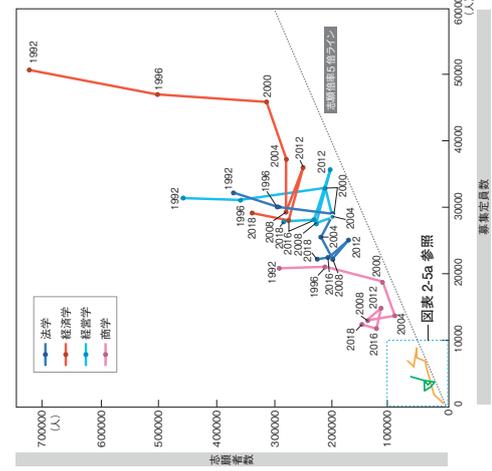
図表 2-3 芸術・文学・表現系統の動向



図表 2-4 数学・物理学・化学系統の動向

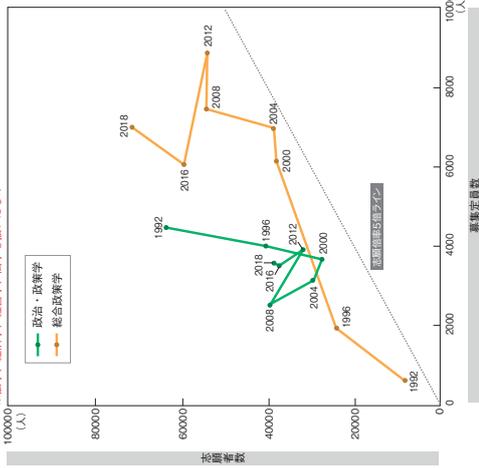


図表 2-5 法律・政治・経済系統の動向



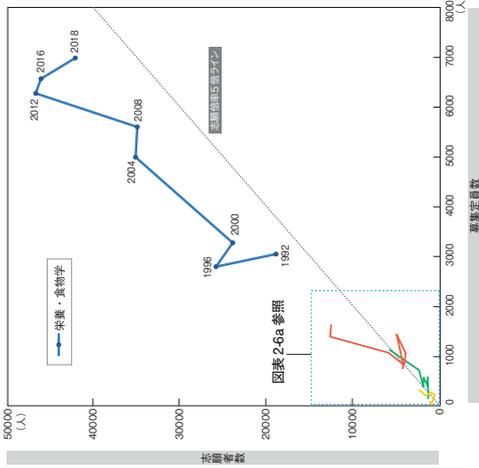
図表 2-5a 法律・政治・経済系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※法学, 経済学, 経営学, 商学を抜いたもの



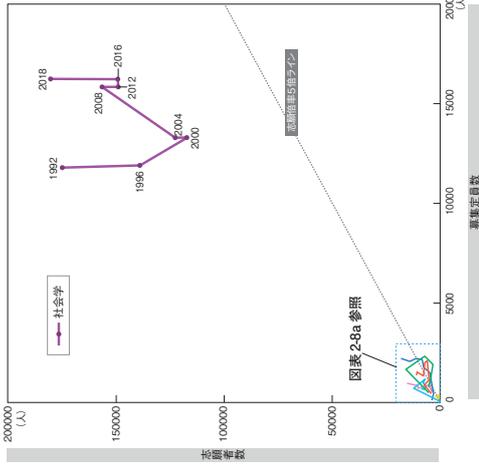
図表 2-6 家政・生活系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



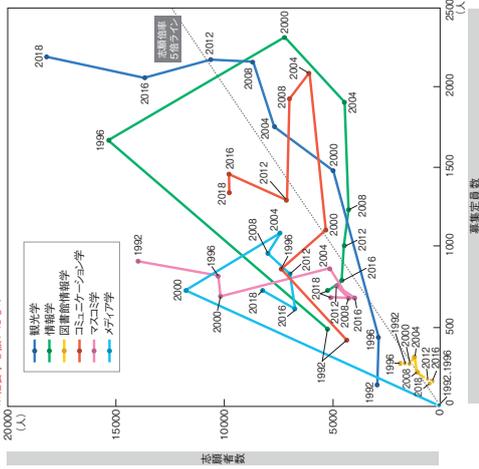
図表 2-8 社会・マスコミ系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



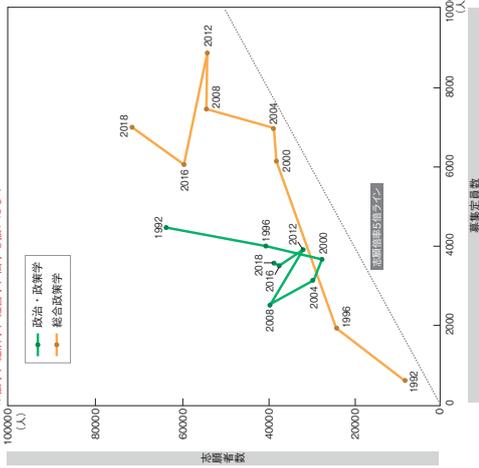
図表 2-8a 社会・マスコミ系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※社会学を抜いたもの



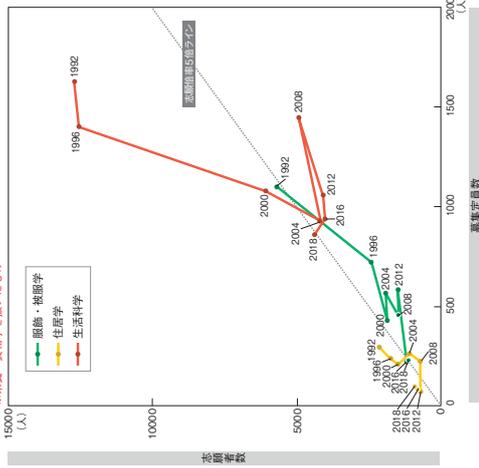
図表 2-6a 家政・生活系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



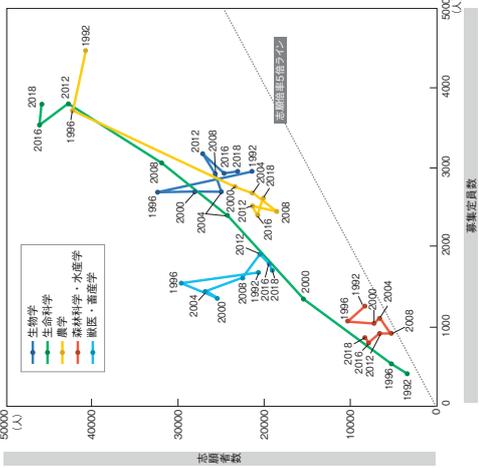
図表 2-6a 家政・生活系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※栄養・食物学を抜いたもの



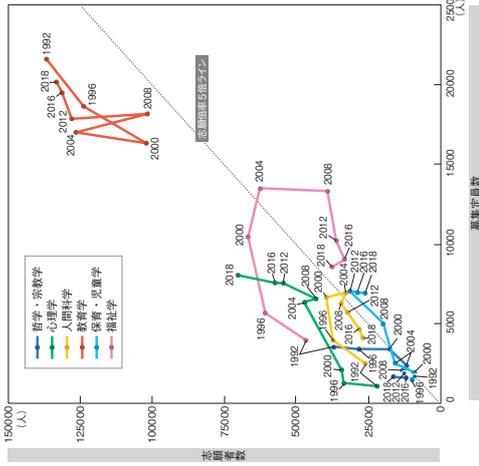
図表 2-7 生物系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



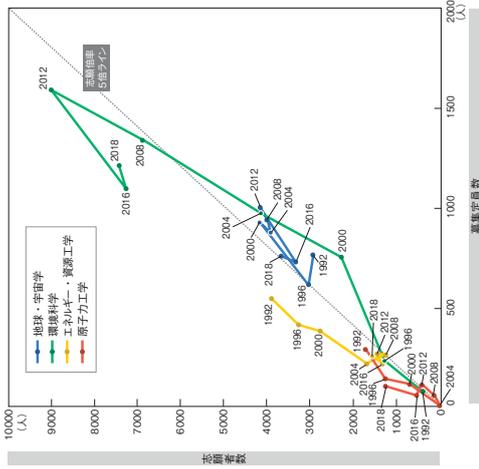
図表 2-9 人間・心理・教育・福祉系統の動向

■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)

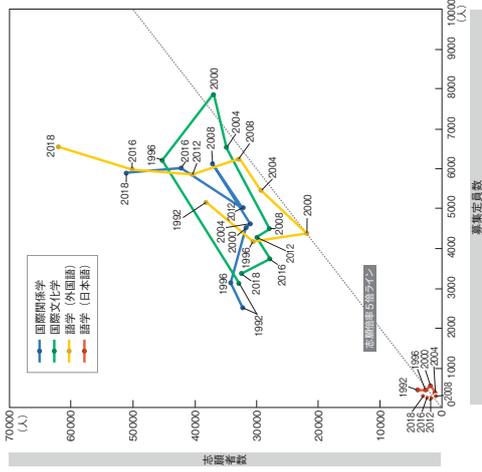


図表 2-10 地球・環境・エネルギー系統の動向

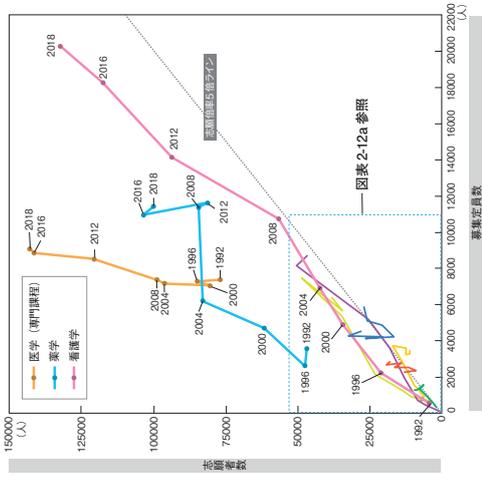
■志願者数 × 募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)



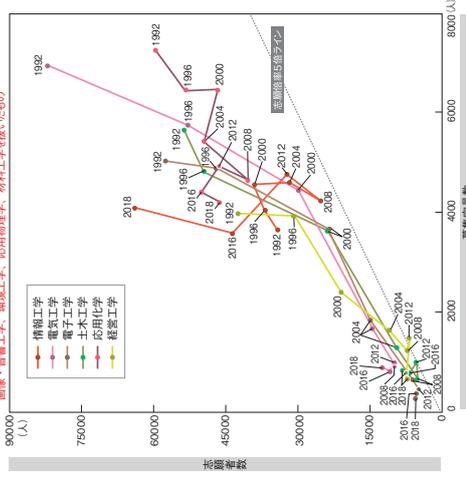
図表 2-11 国際・語学系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※国際系×募集定員数、国際文化学、国際語学(外国語)、語学(日本語)



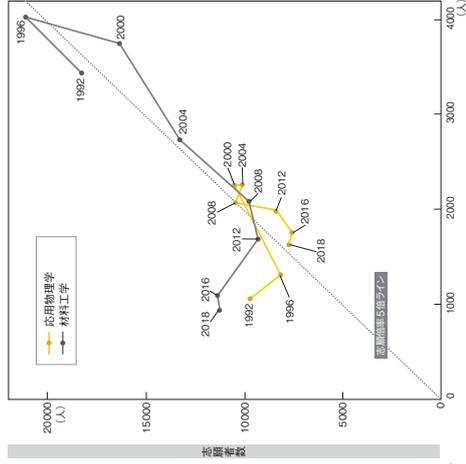
図表 2-12 スポーツ・健康・医療系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、医学(専門課程)、薬学、看護学



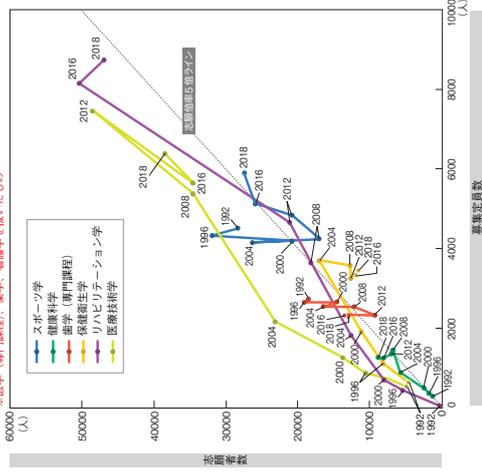
図表 2-13a 工学・建築・技術系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、情報工学、電気工学、機械工学、土木工学、化学工学、応用物理学、材料工学、環境工学、建築工学、環境工学、材料工学以外のもの



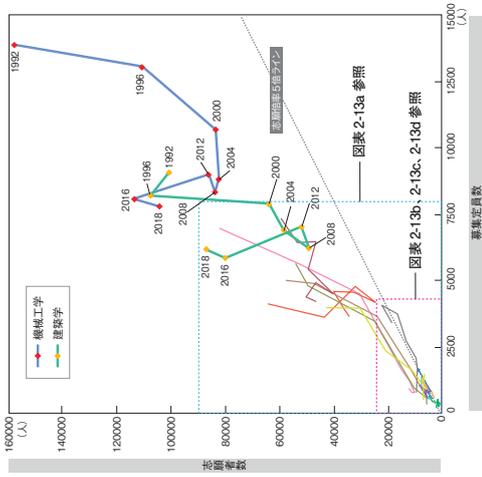
図表 2-13b 工学・建築・技術系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、応用物理学、材料工学



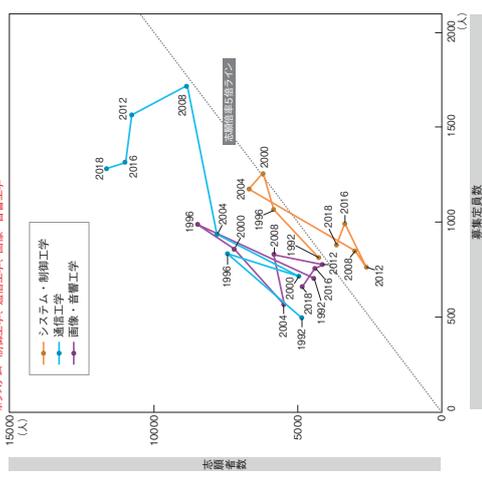
図表 2-12a スポーツ・健康・医療系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、医学(専門課程)、薬学、看護学以外のもの



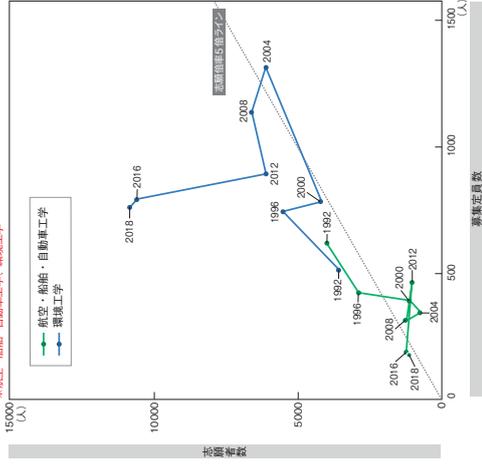
図表 2-13 工学・建築・技術系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、システム・制御工学、通信工学、画像・音響工学



図表 2-13c 工学・建築・技術系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、システム・制御工学、画像・音響工学



図表 2-13d 工学・建築・技術系統の動向
 ■志願者数×募集定員数 推移(1992, 1996, 2000, 2004, 2008, 2012, 2016, 2018)
 ※志願者数×募集定員数、航空・船舶・自動車工学、環境工学



図表3 単独分野の志願者増減ランキング(2008年~2012年/2015年~2018年)

● 2008年~2012年		● 2015年~2018年	
順位	学科系統(小分類) 名称	08-12 志願者 増減(人)	15-18 志願者 増減(人)
1	看護学	37632	90298
2	教育学	26118	67173
3	医学(専門課程)	22079	50937
4	医療・食物学	13827	49225
5	経済学	11709	37872
6	保健・児童学	11367	22281
7	生命科学	10886	21375
8	心理学	10766	21216
9	情報工学	7021	18626
10	経済学(外国語)	6814	15950
11	応用化学	6164	19507
12	歴史学	4739	11643
13	物理学	4439	11173
14	スポーツ学	3694	8119
15	リハビリテーション学	2897	7300
16	建築学	2842	5692
17	農学	2646	5626
18	機械工学	2539	5523
19	地理学	2295	5420
20	日本文化学	2182	5204

● 2008年~2012年		● 2015年~2018年	
順位	学科系統(小分類) 名称	08-12 志願者 増減(人)	15-18 志願者 増減(人)
1	経営学	-30261	-14246
2	法学	-26132	-11093
3	経営学	-24782	-6595
4	商学	-24163	-3749
5	外国文学	-10137	-3154
6	政治・政策学	-7717	-2876
7	社会学	-7518	-2717
8	国際関係学	-4650	-2496
9	デザイン	-4643	-2454
10	美術	-3776	-2281
11	歯学(専門課程)	-3116	-1400
12	福祉学	-3038	-1180
13	薬学	-2916	-1146
14	人間科学	-2411	-995
15	応用物理学	-2087	-731
16	獣医学・畜産学	-2079	-729
17	工学	-1802	-304
18	画像・音響工学	-1651	-300
19	日本文学	-1374	-147
20	メディア学	-1044	-54

の20年間成長の一途を辿ったが、2018年段階では衰退期にある。生物医学・水産学は2008年から再成長の予兆期を脱し、現在は成長期である。獣医・畜産学は2004年以降衰退期を経て撤退期に入っている。

第六次産業化等への期待が大きい農業は撤退期から2008年に再び成長期に入り、再び撤退期を経て衰退期に入り、成長の幅が狭い状態です。

社会・マスコミシステム(図表2.8.2.8a)系最大分野である社会学は再び成長期に入っている。近年で最も志願者が落ち込んだ2009年から6.3万人ほどの志願者が戻り、18万人という分析開始以来の志願者数に達している。このほか好調なのは、観光学、情報学、コミュニケーション学、メディア学。観光学は近年志願者率5倍を超え、成長期と成熟期を行き来している。訪日観光客や東京オリンピック等、近年観光に關するテーマは幅広く、高校生からも注目されている。メディア学は2012年から再成長の予兆期が続く。コミュニケーション学は2012~2016年に志願者数が7086人から9772人に増加し、2018年にかけてもその水準を維持している。メディア学は2012年以降撤退期に入っていたが2016年に成長期に転じた。図書館情報学は2012年から定員に変化がない中、志願者数もほぼ同水準に留まっている。

期であったが、2004年を境に盛り返し、2012年、2016年でそれぞれ分岐を巻き込み現在成熟期である。物理学と化学は共に2004年までは概ね減少していたが2008年に成長期に転じ、2012年から再び撤退期に入っている。

法律・政治・経済系統(図表2.5.2.5a)分析開始の1992年を頂点として市場縮小し、一旦撤退期から再成長予兆期に入り、現在は再び成長期に入っている系統が多い分野。法学は2000年・2012年と転機はあるものの分析開始以降概ね撤退期の減少トレンド。2016~2018年は、定員はほぼ変わらず志願者が約2万人増加する等盛り返している。経済学は1992~2000年の撤退期で志願者数を約4万人減らし、市場規模は半減した。以降は2008年にやや盛り返すも概ね撤退期の軌跡をたどり、2016年に増加トレンドに転じた。似たトレンドを辿っているのが経営学と商学である。総合政策学は分野トレンドとは逆に、1992年から大きく成長トレンドにあつた。2012年から定員は減少したものの2016年以降再び成長期に入っている。

家政・生活系統(図表2.6.2.6a)1992年以降多少の凹凸はあるものの概ね順調な成長期が続いてきた栄養・食物学だが、2016~2018年で衰退期に転じた。その他の3系統はいずれも1992年時点の定員・志願者数を頂点として程度の差はあるものの市場縮小の傾向にある。

生物学(図表2.7)生物学は1992~2004年まで長く撤退

I成長期ある大学が、最初に新分野の学科を配置した時の、募集定員数と志願者数を起点とする。最初の成功例に追従して、他大学が同分野の学科を設置することで募集定員が増加し、志願者数も拡大していく、マーケットの創造段階。

II成熟期ある分野で募集ニーズが拡大しているため、後退いて新増設が増えた結果、募集定員の増加率が志願者の増加率を上回り、成長が鈍化する段階。

III衰退期学科の流行が過ぎ去り、別の分野に志願者が流れ始めているのに、志願者率の高さから新増設が増え続けることで、かえって志願者率が下がり、需給バランスが崩れた段階。

IV撤退期志願者の減少により、他分野への改組が始まり、募集定員数が減少し、マーケットから淘汰される段階。

V再成長予兆期撤退期が続き、募集定員数が増加する中、様々な要因で志願者数が増える段階。志願者増を見込んだ大学が新増設で定員を増やし、志願者数も増加すれば、再び成長期に入る。

それでは実際に、学科系統ごとに、1992年から概ね4年刻みで示したライフサイクル図で、各分野の特徴を覗きたい(図表2.2から2.13)。なお、各系統の名称とどのサイクルにあるかについては図表1に示した。

単独分野のライフサイクル文化・地理・歴史系統(図表2.2.2.2a)

数学は1992~2004年まで長く撤退

人間・心理・教育・福祉系統(図表2-9)

系統内で最大のマーケットである教育学は2012年以降成熟期に入り、緩やかに市場を拡大している。心理学も1992年から概ね成長期と言え、拡大を見せ続けており、近年は定員の増加に対してやや大きな志願者増加が続いている。一方で2012年まで長きにわたる成長期にあった保育・児童学は2012年以降、人間科学は2008年以降、それぞれ撤退期に入っている。長らく市場縮小が続く福祉学は2016年より志願者数がやや持ち直し、再成長予兆期に入っている。

地球・環境・エネルギー系統(図表2-10)

マーケット規模はあまり大きくないが、近年動きが大きいの環境科学。1996年以降長く成長の一途であったが2012年を機に撤退期に入り2016年以降成熟期に転じた。地球・宇宙学、エネルギー・資源工学、原子力工学はいずれも2016年から成長期に入り、緩やかに市場を拡大しつつある。

国際・語学系統(図表2-11)

2012年以降マーケット伸長している国際関係学は再成長予兆期だが、定員は大きく増えずに志願者が増加している状態。語学(外国語)も同様の状態である。国際文化はきれいなライフサイクルを描いており、2016年から再成長予兆期に入っている。語学(日本語)は分野全体から見ると小さなマーケットではあるが、2012年から成長期に入っ

ている。

スポーツ・健康・医療系統(図表2-12、2-12a)

好調なのは、医学(専門課程)、看護学である。医学(専門課程)は成長期に入ったが、看護学は20年以上成熟期にある。薬学は2004年まで成長期、薬退期を経て再成長予兆期にあったが、2016年から再び薬退期に入った。健康促進や予防医療の文脈で学際化が増えているスポーツ学は、単独で見ても2008年以降成長期にあったが、現在は成熟期だ。健康科学は長らく成長期にあったが2008年以降はやや鈍化。歯学(専門課程)は2012年以降志願者が増加し、2016年以降やや減少。

比較的好調な系統が多い中、相対的に不調と言えるのは、2004年以降衰退・撤退期を行き来している保健衛生学、同じく薬退期にあるリハビリテーション学である。

工学・建築・技術系統(図表2-13、2-13a、2-13b、2-13c、2-13d)

1992年時点が最大の志願者数で減少トレンドという系統が多い中、好調なのは情報工学である。2016年以降成長期に入り、志願者も2016年4.3万人→2018年6.4万人と2万人増加している。建築学も2016年以降成長期に入っている。

単独分野の志願者数の動向(2008-2012、2015-2018)

このようにライフサイクル図を見ると、系統・分野のトレンドは社会情

勢を反映したものであることが分かる。では近年のトレンド全体像はどうなっているのか。まずは単独分野について見てみたい。

直近の4年間(2015-2018年)で志願者数の増減が大きい学科系統分野を図表3に示した。比較対象として2008-2012年の内容を左側に置いた。左列は2008年にリーマンショック、2011年に東日本大震災もあり、景況が悪化し、大卒求人倍率が低迷した時期である。そのため、高校生の進路選択が保守的になり、資格取得が仕事に直結する学問分野が志願者を集めた。右列は、2012年安倍政権発足以降のアップモムクスによる景気回復により就職状況が改善した社会科学系、Society5.0で注目を集める電気電子や情報、ロボティクスといった分野、東京五輪需要に沸く建築土木関係等に関係する学部・学科に人が集まり、トレンドの入れ替わりが起きている。

減少においても同様に変化が見られる。2015-2018の志願者減少上位は薬学、栄養・食物学、保育・児童学、リハビリテーション学といった資格取得を軸にした分野のほか、機械工学、化学、農学といった分野であるが、いずれも他分野と融合し、新たに複合分野として発展を見せているものが多い。現実的に学際化が難しい国家資格系の学問分野を除き、単独分野だけでは志願者等の観点から厳しくなっている分野をどのように組み合わせて改組するかという点も注目される。

2章 複合分野のトレンド分析

本章では複合分野について考察を深めたい。

単独分野と複合分野のシフト推移(1992-2018)

まず単独分野と複合分野の比率であるが、設置数の比率を図表4に示した。募集定員比率では単独分野:複合分野は概ね7:3、志願者比率では7:5:2.5となっており、単独分野の比率が高いが、過去からの推移で見ると複合分野が増加、単独分野が減少傾向にある。

マーケットシェアを徐々に高める複合分野だが、その実態はなかなか見えにくい。文部科学省の学校基本調査上でも既存の系統分類に合わないと思われるものは大分類の「その他」または系統別の中分類「その他」に多

く分類されているが、その内容は多岐に渡る。大分類「その他」だけで1つの大分類として成り立つ分量であり、かつ、各系統の中分類としても「その他」が存在するのだ。もちろんその全てが小誌で扱う「複合」とは限らないが、複合的な分野は既存の系統に当てはまりづらく、把握が難しいのは確かである。

複合分野の志願者数の動向(2008-2012、2015-2018)

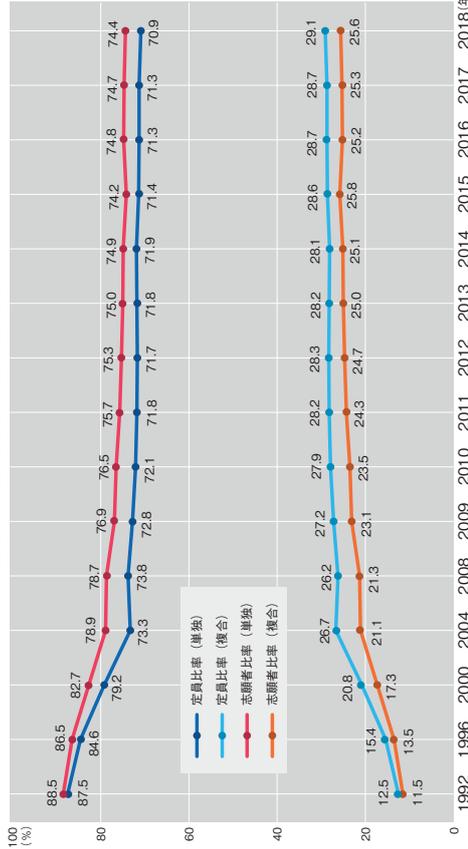
まず、1章で単独分野の志願者数の動向を見たように、複合分野についてもトレンドを見てみたい。図表5は、2008-2012年と2015-2018年それぞれの間に志願者数が増加した複合分野の上位20位を表したものだ。もともとその学科が持っていた分野

がA分野、新たに追加された分野がB～F分野である。表中の色分けは、オレンジが同じ期間における単独分野の志願者数増加上位20位、ブルーが同じく志願者数減少上位20位を示している。

2008-2012年は1位スポーツ×健康科学(2008→2012年で1万1156人増)、2位社会学×コミュニケーション学×マスコミ学×メディア学(1万621人増)、3位教育学×保育・児童学(7479人増)と、関連周辺領域での複合が上位に並んだ。1位は設置数29件のうち新増設19件、3位は41件中22件が新増設と、いずれも新設学科が牽引したマーケットであった。

2015-2018年は、1位日本文学×外国文学(2015→2018年で9018人増)、2位システム・制御工学×情報工学×

図表4 単独分野と複合分野の設置数比率



図表5 複合分野の志願者数増加ランキング(もともとその学科が持っていた分野がA分野、新たに追加された分野がB～F分野)

順位	2008年～2012年志願者増加						2012年設置数	2008～2012年新増設置数
	A分野	B分野	C分野	D分野	E分野	F分野		
1	スポーツ学	健康科学	コミュニケーション学	メディア学			29	19
2	社会学	栄養・食物学	コミュニケーション学	メディア学			10821	1
3	教育学	健康科学					7479	41
4	建築学	環境工学					6484	12
5	電気工学	情報工学					5799	10
6	電気工学	電子工学					5011	46
7	社会学	国際関係学					4548	7
8	数学	物理学					4484	18
9	栄養・食物学	健康科学					3753	34
10	経済学	経営学					3468	18
11	社会学	情報学					3461	16
12	日本文化学	スポーツ学					3386	4
13	教育学	健康科学					3384	6
14	人間科学	健康科学					3285	5
15	化学	生命科学					3108	8
16	健康科学	栄養・食物学					3004	2
17	物理学	生命科学	応用化学	機械工学	電気工学	環境科学	2711	1
18	社会学	経営学					2638	1
19	情報工学	情報学					2586	20
20	情報学	情報工学					2570	11

通信工学(6679人増)、3位情報学×情報工学(6671人増)、4位経営学×情報学(5987人増)、5位電気工学×電子工学(5927人増)と続く。いずれも設置数に占める新増設の比率が低いという特徴がある。つまり、改めて設置してはいたが、既存領域として存在していたものが、社会ニーズの変化等に呼応して注目されているということだ。上位5位中3つの複合で情報系が登場しているのもその証左となろう。

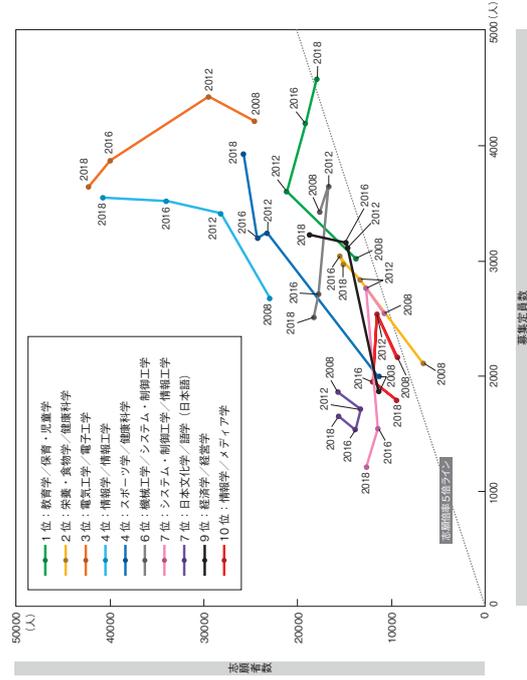
社会ニーズの変化で大きいのは第4次産業革命である。AIやデータサイエンス、ロボティクスといった領域の人材育成ニーズに対して、少し前までは、理工系の学部情報系の学科を持つ大学は多かったが、AIや

図表6 2018年複合分野設置数ランキング

順位	A分野	B分野	設置数	新増設	志願者数	志願倍率
1	教育学	保育・児童学	52	4	18087	3.9
2	栄養・食物学	健康科学	41	-	14895	5.0
3	電気工学	情報工学	40	1	42252	11.6
4	情報学	情報工学	36	1	40719	11.5
5	スポーツ学	健康科学	36	2	25644	6.5
6	機械工学	システム・制御工学	32	3	18282	7.3
7	システム・制御工学	情報工学	23	1	12860	10.5
8	日本文化学	教育学	23	-	15687	9.5
9	経済学	経営学	22	2	18738	5.8
10	情報学	メディア学	21	-	9528	5.3

データサイエンスに特化した大学はも様変わりしつつある。そうした教育との接続の意味でも、大学においてこれまでになかった領域の開発や既存分野の組み合わせが志向されるのは当然とも言える。以上が志願者数から見た複合分野のランキングである。

図表7 【複合分野のライフサイクル】設置数:2018年上位10位



設置数上位の複合学部のライフサイクル

次に、編集部では、最近特設置数が多い複合分野の変遷を視覚的に追うことができず、1章に徹して設置数上位の組み合わせについて図表化を試みた。まず図表は、2018年の複合学科学設置数上位10位を、それぞれのライフサイクルをまとめて図表7に示した。それぞれ詳しく見ていきたい。

設置数1位 教育学×保育・児童学(52件)

ライフサイクル(図表7)で見ると現在衰退期であるが、募集定員は2008年3020人→2018年4581人と約1.5倍、志願者は2008年1万3765人→2012年1万8087人と約1.3倍になっている。グラフの通り、特に2008～2012年に成長した市場だ。市場を構成している大学を見ると、国立大学の教育学部が乳幼児領域を網羅しているケースと、女子大学の保育領域が改編等で初等教育も包含するようになったケースが多いようである。

P.9にある通り、教育学は単独で見ると成熟期、保育・児童学は衰退期にある。衰退期にある保育・児童学に親和性の高い教育学という付加価値を付与することで成長トレンドに戻そうとしたとも見えることができそうである。こうした学際において重要な教育コンテンツやその他リソースにおける「分野同士の親和性」であろう。

設置数2位 栄養・食物学×健康科学(41件)

ライフサイクルで見ると2016→2018年にかけて撤退期に入っているが、定点で見ると募集定員は2008年2100人→2018年2980人、志願者は2008年6662人→2018年1万4895人と大きく拡大した。既知の通り、「栄養・食物学」は管理栄養士や栄養士といった資格取得を軸にしたマーケットであるが、P.8にある通り単独では衰退期にある。その一方で健康科学と複合化し、マーケットを広げているのである。高齢社会を見据え、健康維持促進と食を掛け合わせたマーケットで、極めて蓋然性が高い組み合わせとも言えるだろう。

設置数3位 電気工学×電子工学(40件)

2012年から再成長予兆期に入っている分野。募集定員は2008年4214人→2018年3640人と減少するも、志願者は2008年2万4485人→2018年4万2252人と大きく拡大した。電気工学は単独では成長期、電子工学は再成長予兆期であり、単独も複合も市場拡大の兆しが見える。

設置数4位 情報学×情報工学/スポーツ学×健康科学(36件)

まず情報学と情報工学の複合分野は、2008年から長らく成長期である。募集定員は2008年2681人→2018年3553人、志願者は2008年2万3007人→2018年4万719人と大きく拡大した。次にスポーツ学と健康科学の複合

分野は概ね右肩上がりに市場を拡大し、現在は成長期である。募集定員は2008年1885人→2018年3931人と1.9倍、志願者は2008年1万1410人→2018年2万5644人と2.25倍にも拡大した。

設置数6位 機械工学×システム・制御工学(32件)

再成長予兆期に入っている分野。募集定員は2008年3414人→2018年2508人と減少する一方、志願者は2008年1万7395人→2018年1万8282人と微増している。過去の水準を見ても、志願者が乱高下するようなフェーズはなく、粛々と進んでいる分野だ。なお、単独で見ると機械工学は撤退期、システム・制御工学は再成長予兆期にある。

設置数7位 システム・制御工学×情報工学/日本文学×言語(23件)

まずシステム・制御工学と情報工学の複合は再成長予兆期にある。募集定員は2008年2537人→2018年1211人と約半減、志願者は2008年1万779人→2018年1万2660人と増加している。いずれも第4次産業革命に大きく関連する分野であるがゆえに、どちらの分野も他の複合パターンでよく見られるようになっており、様々な複合パターンに分散傾向であることが推察される。

次に、日本文学×言語(日本語)の複合である。2016年から成長期に入っている分野だが、募集定員は2008年1856人→2018年1647人、志

願者は2008年1万5655人→2018年1万5687人と大きな変化はない。変動は少ないが常に同じ規模のマーケットを維持している分野と言えるだろう。

設置数9位 経済学×経営学(22件)

成長期にある複合分野。募集定員は2008年1864人→2018年3229人、志願者は2008年1万1189人→2018

年1万8738人と大きく拡大した。サイクル図の通り、2008→2012年よりも2016→2018年の成長幅が大きく、戦後最大の景気回復期の進捗に合わせて市場が形成されている様子が垣間見える。

設置数10位 情報学×メディア学(21件)

トレンドとしては撤退期に入っ

ている分野。募集定員は2008年2157人→2018年1787人と減少、志願者は2008年9415人→2018年9528人と概ねイーブンとなっている。推移で見ると2008→2012年に伸びたがその後は縮小トレンドである。単独で見ると情報学は再成長予兆期、メディア学は成長期にあり、複合より単独の方が成長している分野といえる。

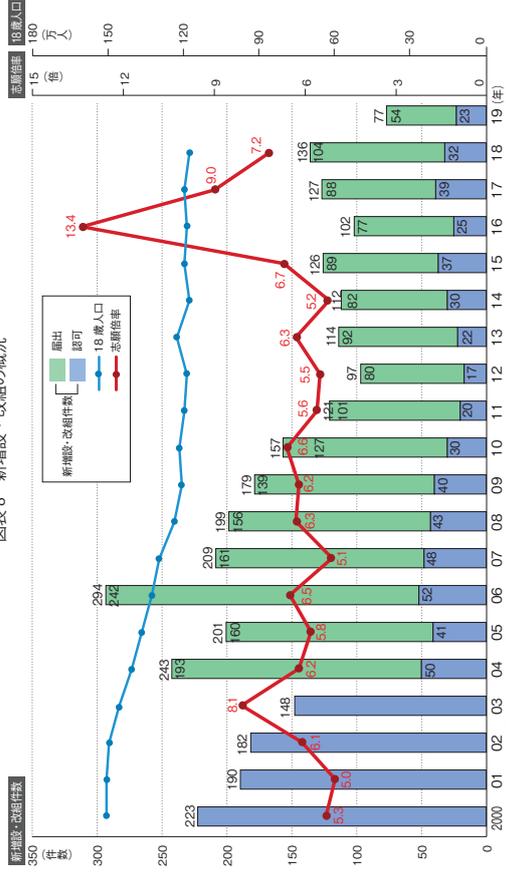
3章 学部・学科改編のマーケット・トレンド

本章では、学部・学科改編、いわゆる新増設の動向を見ていきたい。

まずは認可・届出件数の動向についてだが、2000年以降の認可・届出件数は志願倍率の推移を示したのが図

表8である。周知の通り、2004年の届出制導入により認可・届出件数は増加し、全体の8割を届出が占める。届出は明らかに大学の学部・学科の新設代辦を促進したが、その一方で、昨今の

図表8 新増設・改編の概況



・1 18歳人口は日本統計学会「全国短期大学等専門学校一覧」を基に編集部集計。2011-2014は文科科学集計。
 ・2 届出件数は1991-2000は「財）文部科学省 全国短期大学等専門学校一覧」を基に編集部集計。2001-2014は文科科学集計。
 ・3 新増設・改編件数は「リクルート入試要綱調査」を基に、大学新設、学部・学科改編による新増設・改編件数を集計。

図表9 単独分野の新増設・合計設置数ランキング (2008-2018年)

順位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	設置数 合計	2008-2012 平均倍率	2015-2018 平均倍率	
1	看護学	9	11	11	8	8	16	16	6	12	13	118	6.7	7.2	
2	医療技術学	8	6	13	5	7	11	6	2	6	7	4	75	6.2	6.3
3	リハビリテーション学	9	6	4	12	4	7	1	9	5	6	6	69	4.7	6.0
4	心理学	6	8	5	2	5	2	6	4	3	5	9	55	6.8	7.7
5	経営学	9	7	1	6	4	4	7	3	4	4	3	52	6.9	8.9
6	保育・児童学	7	7	8	4	2	1	3	4	7	3	42	4.3	4.0	
7	教育学	4	5	2	2	2	2	4	4	7	5	3	40	11.6	11.6
8	栄養・食物学	5	-	5	3	3	-	3	2	3	3	3	30	7.0	6.8
9	語学(外国語)	5	2	2	2	2	2	4	-	1	2	5	27	6.4	9.5
10	福祉学	8	1	3	2	3	2	1	2	2	-	24	3.1	3.9	
11	教養学	6	1	2	1	1	1	3	-	3	-	19	6.2	7.3	
12	デザイン	3	3	2	2	-	1	1	3	1	3	-	19	5.5	6.4
13	社会学	3	1	3	1	1	2	1	4	-	1	2	19	11.5	11.9
14	経済学	4	3	1	1	-	2	1	2	-	1	2	17	8.7	11.2
15	国際関係学	1	1	1	-	1	1	2	2	3	4	1	17	6.8	8.7
16	建築学	2	3	-	3	-	3	-	1	2	3	3	17	7.7	15.5
17	機械工学	3	1	2	-	-	1	1	1	2	2	2	15	10.9	15.6
18	生命科学	5	1	2	-	2	-	-	-	1	3	-	14	14.3	16.0
19	美術	1	-	4	1	3	-	2	-	1	1	-	13	4.4	4.3
20	総合政策学	1	-	1	3	2	-	1	-	-	2	2	12	7.4	10.5
	観光学	3	-	2	1	-	1	-	2	-	1	2	12	5.2	7.6

※平均倍率は、公表のみ集計 ※リクルート入試要項調査より、私大のみ

図表10 複合分野の新増設・合計設置数ランキング (2008-2018年)

順位	A分野	B分野	C分野	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	設置数 合計	2008-2012 平均倍率	2015-2018 平均倍率
				設置数	設置数	設置数											
1	教育学	保育・児童学		7	4	4	4	3	2	3	-	1	2	4	34	5.1	4.4
2	スポーツ学	健康科学		7	2	2	2	4	4	1	2	-	4	2	28	7.3	7.1
3	栄養・食物学	健康科学		5	4	3	2	-	2	2	2	-	2	-	23	3.9	5.1
4	情報学	情報工学		-	4	2	-	2	1	1	1	2	2	2	15	8.5	10.1
5	機械工学	システム・制御工学		4	2	1	1	1	1	-	-	2	-	3	15	4.7	6.9
6	経営学	観光学		2	4	1	-	1	3	-	1	1	1	-	13	3.3	3.2
7	電気工学	電子工学		5	-	1	-	2	1	1	1	1	1	-	13	6.3	10.1
8	経済学	物理学		1	4	-	-	1	1	1	1	1	1	2	12	9.6	10.5
9	経済学	経営学		-	4	-	-	1	3	1	-	1	-	2	12	5.5	5.2
10	システム・制御工学	情報工学		3	1	1	1	2	1	-	1	1	1	1	11	4.4	8.7
11	デザイン	建築学		-	-	-	-	1	-	-	1	4	2	1	9	6.0	9.0
12	情報工学	電気工学	電子工学	1	2	-	1	-	3	-	1	1	1	1	8	9.3	9.1
13	生命科学	応用化学		1	2	-	2	-	-	-	-	1	1	-	7	3.7	4.5
14	社会学	人間科学		2	-	-	1	-	1	1	-	-	-	2	7	3.3	4.0
15	情報学	メディア学		3	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	7	4.4	5.6
16	人間関係学	教育学		3	1	-	-	-	1	1	-	-	1	1	7	3.7	3.4
17	教育学	スポーツ学		2	2	-	1	-	1	1	-	-	-	1	7	4.7	5.5
18	土木工学	環境工学		-	1	-	-	-	-	-	1	2	-	2	7	7.1	9.9

※平均倍率は、専任職員・志願者数の公表のみ集計 ※リクルート入試要項調査より

の新設認可も加わったが、その認可率の低さとともに、こちらも「制度創設初年度であるものの、総じて準備不足で法人として大学設置に取り組み体制が不十分」という指摘がなされており、厳格化ムードが一層強まっている。

次に志願倍率である。大きく上昇した年は大規模大学の増設に伴うもので、下降する年も個別的理由によるものであろうが、概ね50～80倍の幅で推移しており、高校生は新しい学部学科を好意的に見ているようである。では昨今人気のある分野について見ていこう。

単独分野の新増設トレンド (2008-2018) 図表9

単独分野の新増設では、設置数トップ3が医療系で占められ、1位の看護学は設置数118と群を抜いている。毎年一定数が増設されているが、近年は2016年を除き毎年2校の設置数となっている。2015-2018年の平均志願倍率は7.2倍と未だ高い状態だ。2位の医療技術学は設置数75件、平均志願倍率は6.3倍。3位のリハビリテーション学は69件、60倍といずれも高めの水準。上位5位までは2015-2018年の志願倍率が2008-2012年当時よりも高くなっており、順調に市場が形成されていると言えるだろう。

複合分野の新増設トレンド (2008-2018) 図表10

複合分野の新増設は、1位教育学×保育・児童学(34件)、2位スポーツ学×健康科学(28件)、3位栄養・食物学×健康科学(23件)、4位は情報学×情報工学と機械工学×システム・制御工学が15件ずつで並んだ。上位13位までの組み合わせでは、教育学、健康科学、情報学、情報工学、電気工学、電子工学…と、トレンドの分野が多く並ぶ。平均倍率が100倍を超える人気が、4位情報学×情報工学(101倍)、6位電気工学×電子工学(101倍)もある。

倍)、8位数学×物理学(105倍)が挙げられる。いずれも技術革新の期待が大きいと思われる分野であり、まだまだ志願のニーズが高い状態にあると推察される。

本原稿執筆中に、東京理科大学と第一生命の包括連携協定が発表された。社会ニーズの高いデータサイエンスと生命医科学分野での人材育成・研究を共同で行っていくという趣旨である。特定の職種について、社会ニーズからバックキャスト的に大学での人材育成を志向する場合、これまでは大学は既存の教育組織の工夫または該当領域を増設して対応するのが常であった。しかし、2018年11月26日に中央教育審議会より出された「2040年に向けた高等教育のフロンティアデザイン答申」においても、「大学の多様な強みを強化し、社会ニーズに迅速に対応しつつ大学教育の質保証の観点からも「大学等の連携・統合」の必要性がたわれている。社会に求められる全てを自前で対応するのではなく、共通目的を置いて協力していく動きが必要というわけである。新しい人材育成に当たり、学部・学科新増設で内包するのではなく、他大学や企業との連携によって行っていく流れが今後どの程度加速するのか。そうした流れが加速すれば、当然学部・学科の動きだけではトレンドをつかみきれなくなってくる可能性もある。注目していきたい。」

※1 STEM教育「Science, Technology, Engineering, Mathematics」を中心とした、学部・学科・学部の教育分野の総称
※2 STEAM教育「STEM教育」に芸術(Art)を加えられた教育

学部別の志願者動向

増減率 順位	学部区分	学部名	平成28年度 志願者数	令和2年度 志願者数	増減率 (%)
1	社会科学系	経済経営学部	2,204	7,940	360%
2	社会科学系	国際経営学部	2,547	7,928	311%
3	社会科学系	総合経営学部	1,460	3,573	244%
4	社会科学系	現代社会学部	11,771	28,055	238%
5	その他	情報メディア学部	515	1,188	230%
6	その他	国際コミュニケーション学部	4,871	11,071	227%
7	人文科学系	心理学部	15,051	29,548	196%
8	その他	国際学部	23,860	45,697	191%
9	社会科学系	情報学部	12,240	22,907	187%
10	社会科学系	現代ビジネス学部	4,348	7,918	182%

心理学部の状況

学部名	平成28年度	令和2年度	増減率
志願者	15,051	29,548	196%
入学定員	2,195	2,968	135%
入学者	2,198	3,098	141%
定員充足率	1.00	1.04	
志願倍率	6.85	9.95	

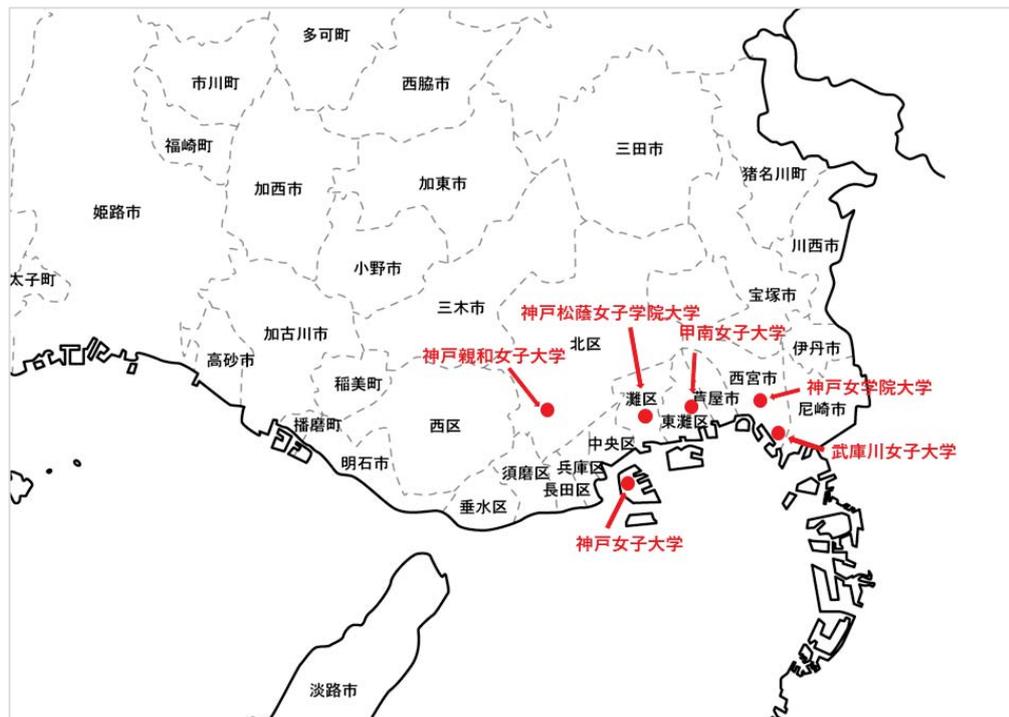
※「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）より本学で作成

※平成28年度及び令和2年度の学部区分において一致する学部名を比較

近隣女子大学位置関係 (拡大図)



近隣女子大学位置関係 (広域図)



神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

令和3年3月

一般財団法人 日本開発構想研究所

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への高校生の入学意向に関する アンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和4年4月に予定している神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高等学校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心に、1府10県（兵庫県、大阪府、和歌山県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、徳島県、香川県、高知県）に所在する高等学校の在学者で令和4年度大学進学対象となる高校2年生の女子生徒。

(3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または神戸女子大学に進学実績のある高等学校を中心とした129校へ、アンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要を示したリーフレットを配布し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高等学校から直接郵送。

この結果、高校2年生の女子生徒8,107人から有効回答があった。

集計結果より、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和2年11月～令和3年3月

(5) 有効回答者数

調査対象者数：高等学校129校19,844人

有効回答者数：高等学校77校8,728人の回答のうち、高校2年生の女子生徒8,107人

有効回収率：約44.0%（有効回答者8,728人÷調査対象者19,844人）

※神戸女子大学にて設置を構想している心理学部心理学科は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

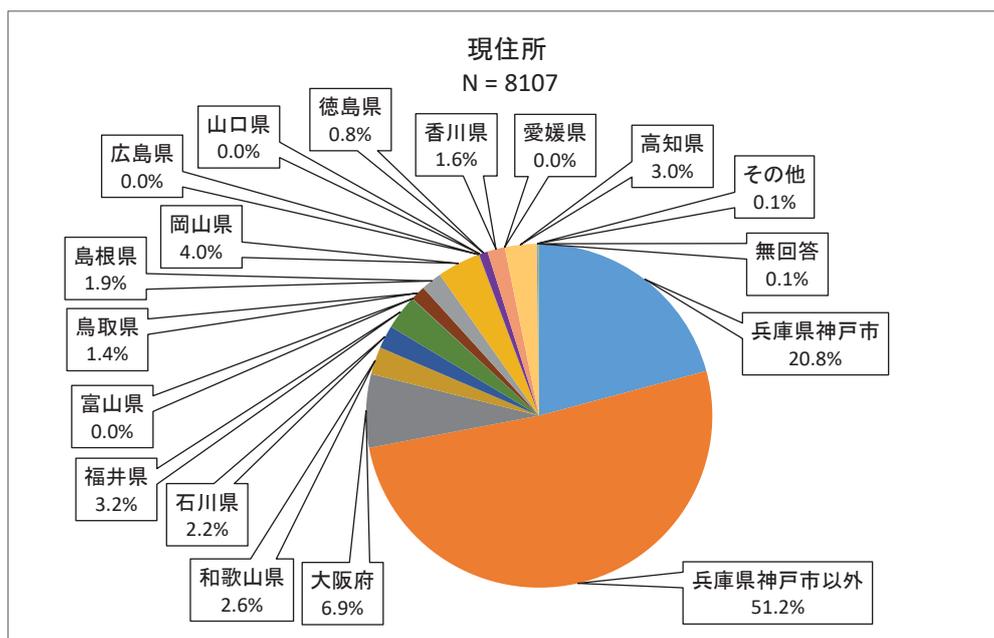
2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 8,107 人のうち、「兵庫県神戸市以外」が 4,150 人（51.2%）と最も多く、次いで「兵庫県神戸市」1,687 人（20.8%）、「大阪府」559 人（6.9%）、「岡山県」328 人（4.0%）、「福井県」263 人（3.2%）、「高知県」242 人（3.0%）、「和歌山県」211 人（2.6%）、「石川県」175 人（2.2%）、「島根県」158 人（1.9%）、「香川県」132 人（1.6%）、「鳥取県」114 人（1.4%）、「徳島県」66 人（0.8%）、「その他」8 人（0.1%）、「富山県」3 人（0.0%）、「広島県」2 人（0.0%）の順になっている。

※「無回答」9 人（0.1%）

現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	1,687	20.8
2	兵庫県神戸市以外	4,150	51.2
3	大阪府	559	6.9
4	和歌山県	211	2.6
5	石川県	175	2.2
6	福井県	263	3.2
7	富山県	3	0.0
8	鳥取県	114	1.4
9	島根県	158	1.9
10	岡山県	328	4.0
11	広島県	2	0.0
12	山口県	0	0.0
13	徳島県	66	0.8
14	香川県	132	1.6
15	愛媛県	0	0.0
16	高知県	242	3.0
17	その他	8	0.1
	無回答	9	0.1
	N (%ベース)	8,107	100

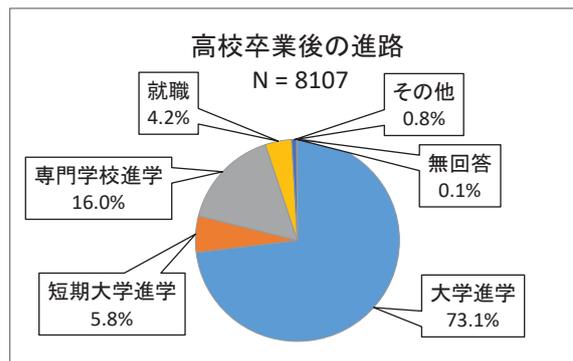


(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 8,107 人のうち、5,924 人 (73.1%) が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は 469 人 (5.8%)、合わせて 6,393 人 (78.9%) が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」1,298 人 (16.0%) を合わせると、7,691 人 (94.9%) が高等学校卒業後、進学を希望している。

※「無回答」12 人 (0.1%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	5,924	73.1
2	短期大学進学	469	5.8
3	専門学校進学	1,298	16.0
4	就職	342	4.2
5	その他	62	0.8
	無回答	12	0.1
	N (%ベース)	8,107	100



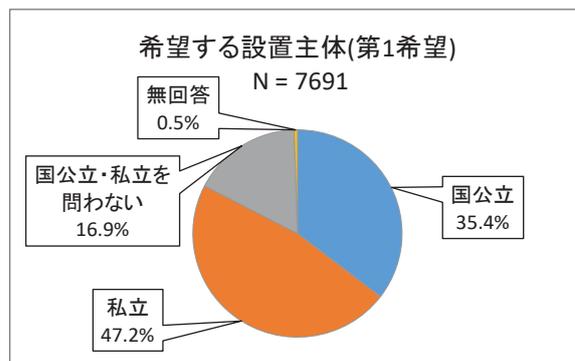
(3) 希望する設置主体について

3-1 希望する設置主体（第1希望）について

進学を希望する 7,691 人に、希望する設置主体（第1希望）について調査した結果、「私立」が 3,630 人（47.2%）と最も多く、次いで「国公立」2,723 人（35.4%）、「国公立・私立を問わない」1,301 人（16.9%）の順になっている。 ※「無回答」37 人（0.5%）

希望する設置主体(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	2,723	35.4
2	私立	3,630	47.2
3	国公立・私立を問わない	1,301	16.9
	無回答	37	0.5
	N (%ベース)	7,691	100

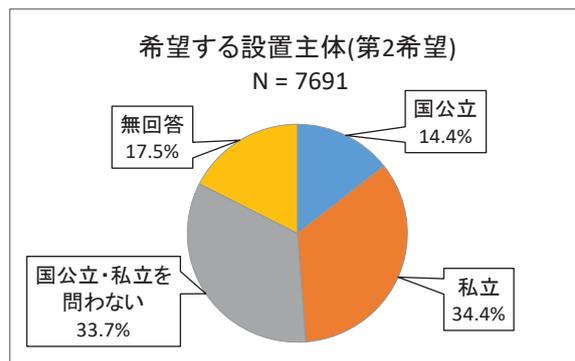


3-2 希望する設置主体（第2希望）について

進学を希望する 7,691 人に、希望する設置主体（第2希望）について調査した結果、「私立」が 2,642 人（34.4%）と最も多く、次いで「国公立・私立を問わない」2,595 人（33.7%）、「国公立」1,111 人（14.4%）の順になっている。 ※「無回答」1,343 人（17.5%）

希望する設置主体(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	1,111	14.4
2	私立	2,642	34.4
3	国公立・私立を問わない	2,595	33.7
	無回答	1,343	17.5
	N (%ベース)	7,691	100



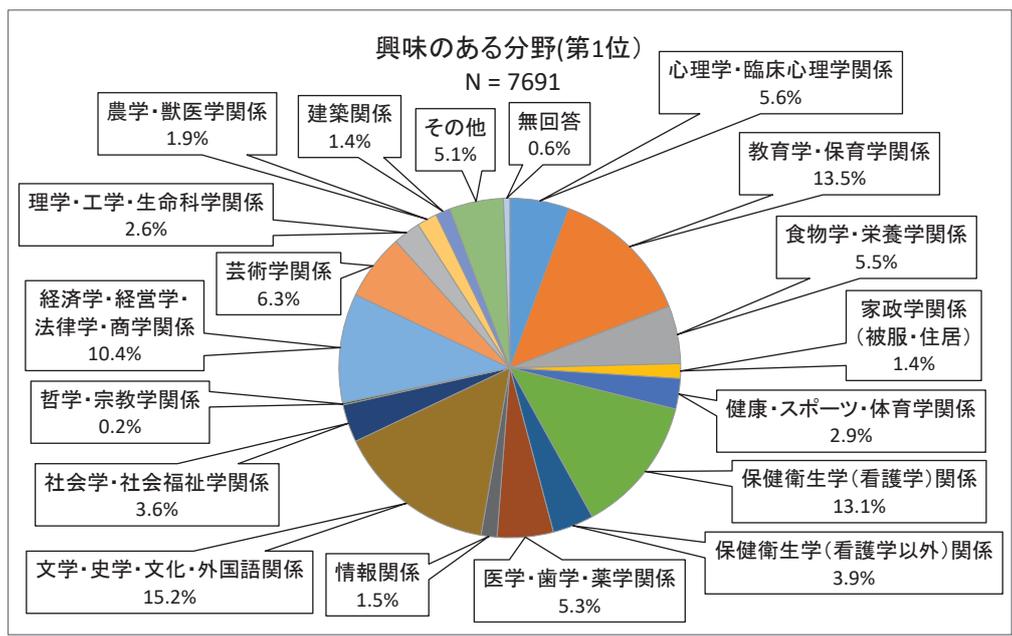
(4) 興味のある分野について

4-1 興味のある分野（第1位）について

進学を希望する 7,691 人に、興味のある分野（第1位）について調査した結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「文学・史学・文化・外国語関係」が 1,171 人（15.2%）と最も多く、次いで「教育学・保育学関係」1,039 人（13.5%）、「保健衛生学（看護学）関係」1,004 人（13.1%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」798 人（10.4%）、「芸術学関係」487 人（6.3%）、「心理学・臨床心理学関係」430 人（5.6%）、「食物学・栄養学関係」420 人（5.5%）、「医学・歯学・薬学関係」404 人（5.3%）、「その他」392 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」48 人（0.6%）

興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	430	5.6
2	教育学・保育学関係	1,039	13.5
3	食物学・栄養学関係	420	5.5
4	家政学関係(被服・住居)	111	1.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	222	2.9
6	保健衛生学(看護学)関係	1,004	13.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	300	3.9
8	医学・歯学・薬学関係	404	5.3
9	情報関係	112	1.5
10	文学・史学・文化・外国語関係	1,171	15.2
11	社会学・社会福祉学関係	276	3.6
12	哲学・宗教学関係	19	0.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	798	10.4
14	芸術学関係	487	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	200	2.6
16	農学・獣医学関係	147	1.9
17	建築関係	111	1.4
18	その他	392	5.1
	無回答	48	0.6
	N(%ベース)	7,691	100

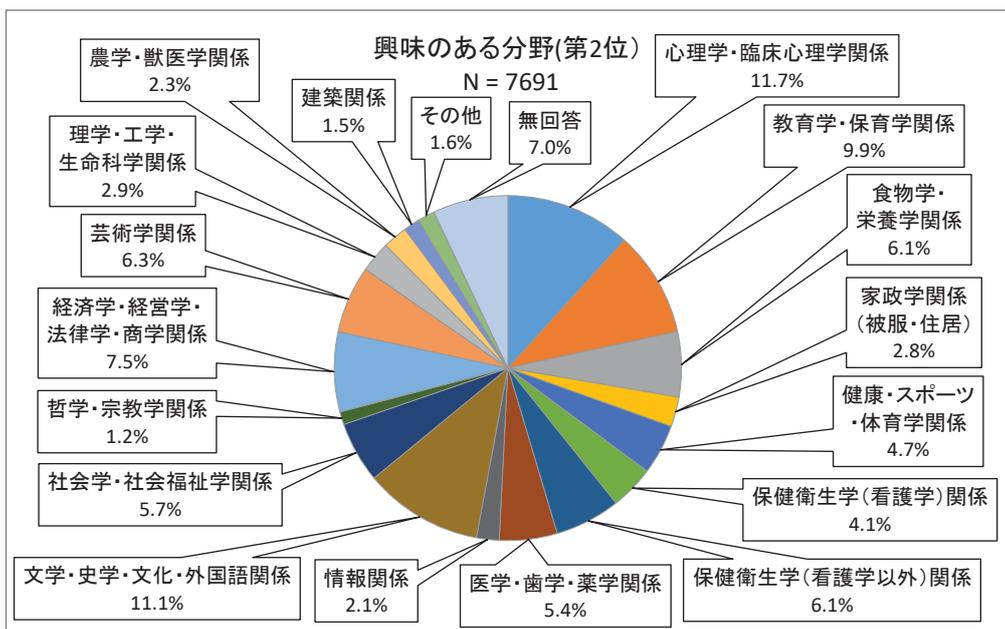


4-2 興味のある分野（第2位）について

進学を希望する 7,691 人に、興味のある分野（第2位）について調査した結果、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「心理学・臨床心理学関係」が 901 人（11.7%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」851 人（11.1%）、「教育学・保育学関係」765 人（9.9%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」575 人（7.5%）、「芸術学関係」484 人（6.3%）、「保健衛生学（看護学以外）関係」472 人（6.1%）、「食物学・栄養学関係」470 人（6.1%）、「社会学・社会福祉学関係」440 人（5.7%）、「医学・歯学・薬学関係」412 人（5.4%）の順になっている。 ※「無回答」541 人（7.0%）

興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	901	11.7
2	教育学・保育学関係	765	9.9
3	食物学・栄養学関係	470	6.1
4	家政学関係(被服・住居)	213	2.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	363	4.7
6	保健衛生学(看護学)関係	313	4.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	472	6.1
8	医学・歯学・薬学関係	412	5.4
9	情報関係	163	2.1
10	文学・史学・文化・外国語関係	851	11.1
11	社会学・社会福祉学関係	440	5.7
12	哲学・宗教学関係	94	1.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	575	7.5
14	芸術学関係	484	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	221	2.9
16	農学・獣医学関係	179	2.3
17	建築関係	113	1.5
18	その他	121	1.6
	無回答	541	7.0
	N(パーセント)	7,691	100



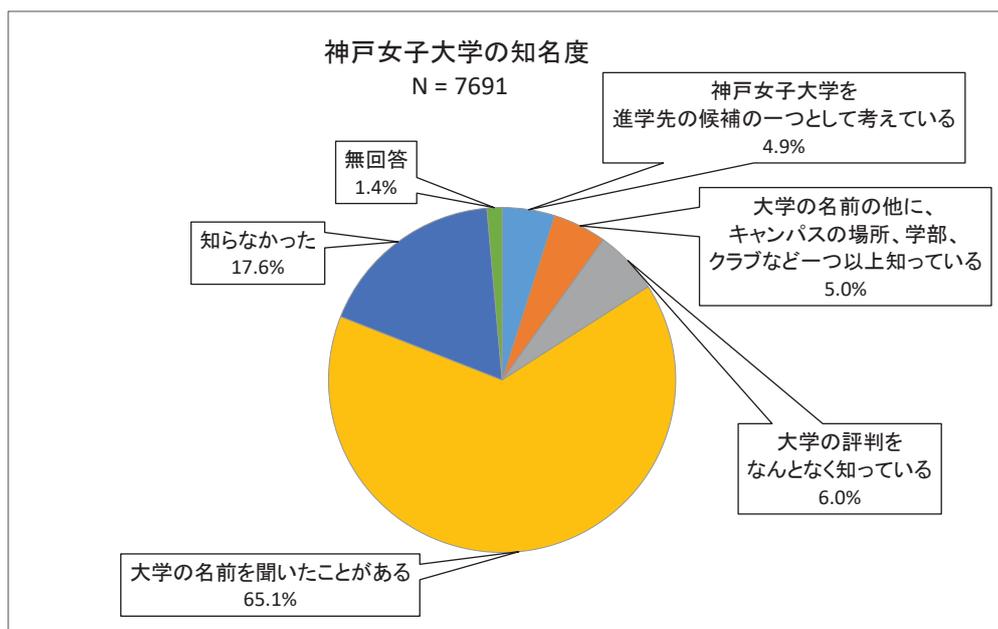
(5) 神戸女子大学の知名度について

進学を希望する 7,691 人に、神戸女子大学の知名度について調査した結果、「大学の名前を聞いたことがある」が 5,008 人 (65.1%) と最も多く、次いで「知らなかった」1,351 人 (17.6%)、「大学の評判をなんとなく知っている」465 人 (6.0%)、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」382 人 (5.0%)、「神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている」379 人 (4.9%) の順になっている。

※「無回答」106 人 (1.4%)

神戸女子大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている	379	4.9
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	382	5.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	465	6.0
4	大学の名前を聞いたことがある	5,008	65.1
5	知らなかった	1,351	17.6
	無回答	106	1.4
	N (%ベース)	7,691	100

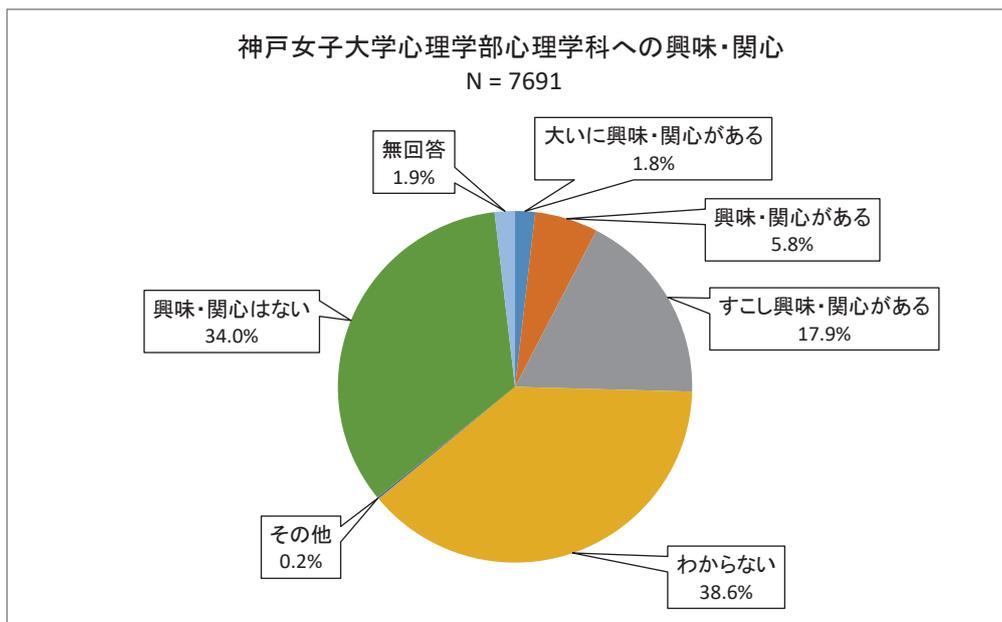


(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について

進学を希望する 7,691 人のうち、神戸女子大学心理学部心理学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 140 人 (1.8%) である。また、「興味・関心がある」444 人 (5.8%)、「すこし興味・関心がある」1,373 人 (17.9%) との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 1,957 人 (25.4%) が神戸女子大学心理学部心理学科に興味を示している。 ※「無回答」143 人 (1.9%)

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	140	1.8
2	興味・関心がある	444	5.8
3	すこし興味・関心がある	1,373	17.9
4	わからない	2,966	38.6
5	その他	12	0.2
6	興味・関心はない	2,613	34.0
	無回答	143	1.9
	N (%ベース)	7,691	100



(7) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由について

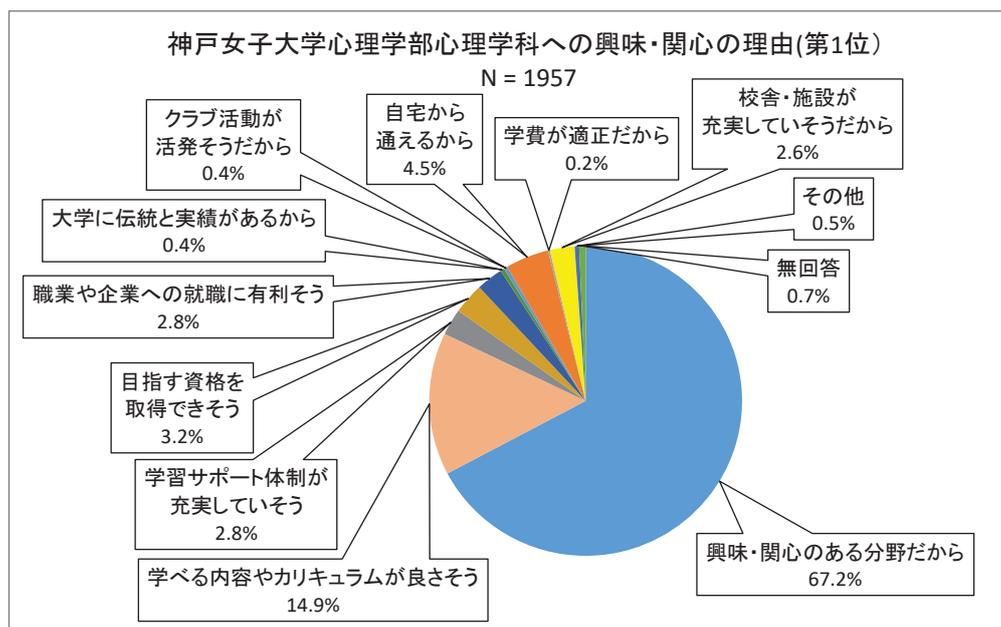
7-1 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由（第1位）について

「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答した1,957人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果、「興味・関心のある分野だから」が1,316人(67.2%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそう」291人(14.9%)、「自宅から通えるから」88人(4.5%)、「目指す資格を取得できそう」63人(3.2%)、「学習サポート体制が充実していそう」54人(2.8%)、「職業や企業への就職に有利そう」54人(2.8%)、「校舎・施設が充実していそうだから」50人(2.6%)、「その他」9人(0.5%)、「大学に伝統と実績があるから」8人(0.4%)、「クラブ活動が活発そうだから」7人(0.4%)、「学費が適正だから」4人(0.2%)の順になっている。 ※「無回答」13人(0.7%)

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	1,316	67.2
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	291	14.9
3	学習サポート体制が充実していそう	54	2.8
4	目指す資格を取得できそう	63	3.2
5	職業や企業への就職に有利そう	54	2.8
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	7	0.4
8	自宅から通えるから	88	4.5
9	学費が適正だから	4	0.2
10	校舎・施設が充実していそうだから	50	2.6
11	その他	9	0.5
	無回答	13	0.7
	N(ベース)	1,957	100



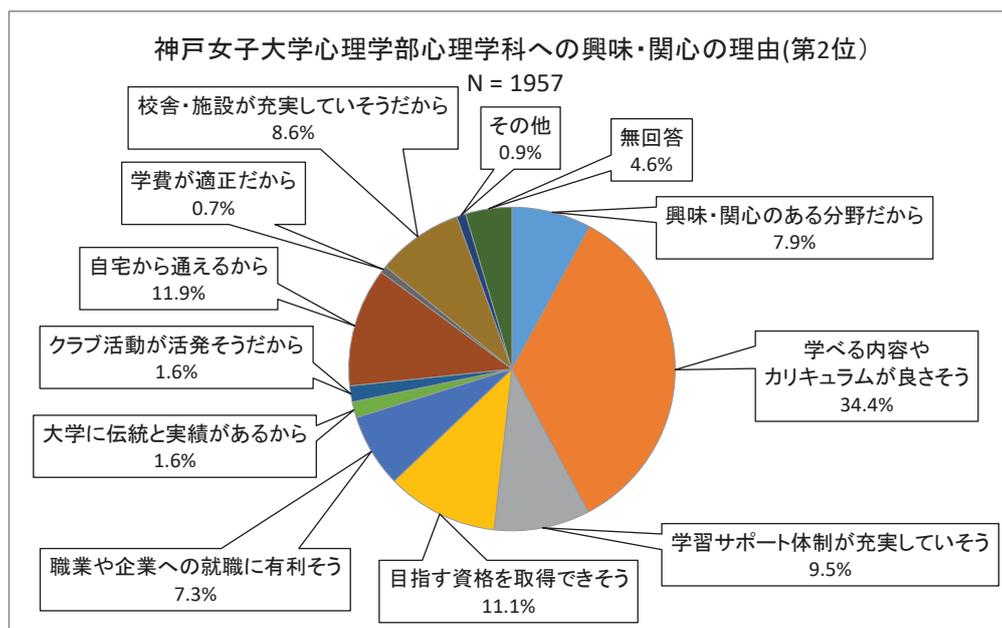
7-2 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由（第2位）について

「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答した1,957人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が673人（34.4%）と最も多く、次いで「自宅から通えるから」232人（11.9%）、「目指す資格を取得できそう」218人（11.1%）、「学習サポート体制が充実していそう」186人（9.5%）、「校舎・施設が充実していそうだから」169人（8.6%）、「興味・関心のある分野だから」154人（7.9%）、「職業や企業への就職に有利そう」143人（7.3%）、「大学に伝統と実績があるから」31人（1.6%）、「クラブ活動が活発そうだから」31人（1.6%）、「その他」17人（0.9%）、「学費が適正だから」13人（0.7%）の順になっている。 ※「無回答」90人（4.6%）

神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	154	7.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	673	34.4
3	学習サポート体制が充実していそう	186	9.5
4	目指す資格を取得できそう	218	11.1
5	職業や企業への就職に有利そう	143	7.3
6	大学に伝統と実績があるから	31	1.6
7	クラブ活動が活発そうだから	31	1.6
8	自宅から通えるから	232	11.9
9	学費が適正だから	13	0.7
10	校舎・施設が充実していそうだから	169	8.6
11	その他	17	0.9
	無回答	90	4.6
	N(%ベース)	1,957	100



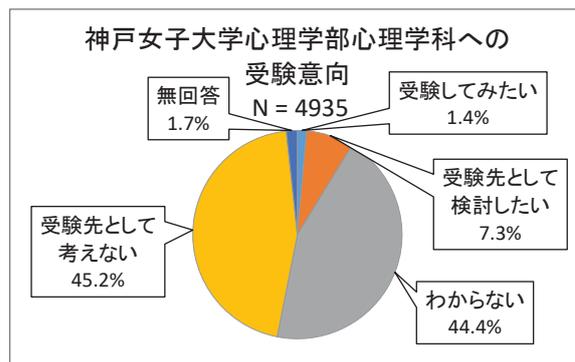
(8) 神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

進学を希望する 7,691 人のうち、「(6) 神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心について」にて「興味・関心はない」2,613 人と「無回答」143 人を除いた 4,935 人に、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験してみたい」69 人 (1.4%)、「受験先として検討したい」361 人 (7.3%) の合計 430 人 (8.7%) が神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向を示している。

※「無回答」82 人 (1.7%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	69	1.4
2	受験先として検討したい	361	7.3
3	わからない	2,192	44.4
4	受験先として考えない	2,231	45.2
	無回答	82	1.7
	N (%ベース)	4,935	100



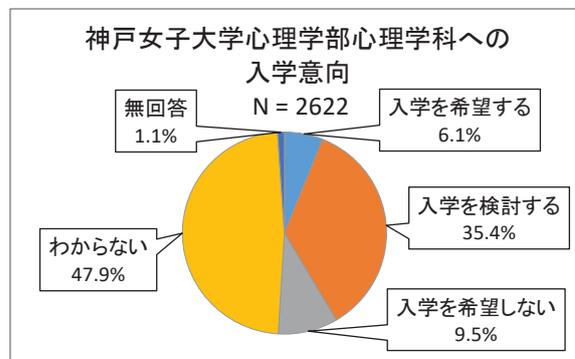
(9) 神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について

「(8) 神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について」にて、神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向を示した 430 人と、「わからない」と回答した 2,192 人、合計 2,622 人に、神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果、「入学を希望する」が 160 人 (6.1%)、「入学を検討する」が 928 人 (35.4%) となり、合計 1,088 人 (41.5%) が神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向を示している。

※「無回答」30 人 (1.1%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	160	6.1
2	入学を検討する	928	35.4
3	入学を希望しない	248	9.5
4	わからない	1,256	47.9
	無回答	30	1.1
	N (%ベース)	2,622	100



3. 調査結果のまとめ

「(9) 神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について」より、神戸女子大学心理学部心理学科へ「入学を希望する」と回答した高校2年生は160人いることがわかる。これによって、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員80名に対して2.0倍の入学意向を確保しているといえる。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生が、合算で1,088人いることから、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員80名に対して13.6倍の入学意向を示したといえる。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

調查票

神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）設置に係るアンケート調査

- 神戸女子大学では令和4年4月を目途に、心理学部心理学科（仮称）の設置を計画しています。このアンケート調査は、その基礎資料にするため、高校2年生の女子生徒のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
 - このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
 - 回答は、該当する番号を回答欄の の中へ直接記入してください。
- *内容は構想中であり、変更となる場合があります。

〔あなたに関することについてお答えください〕

【回答欄】

番号でご回答ください

問1 あなたの学年をおたずねします。

- 1 高校2年生 2 その他（ 年生）

問2 あなたの性別についておたずねします。

- 1 女子 2 男子

1を選ばれた方は問3へお進みください。
2を選ばれた方は問12へお進みください。

問3 あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

- 1 兵庫県神戸市 5 石川県 9 島根県 13 徳島県 17 その他（ ）
2 兵庫県神戸市以外 6 福井県 10 岡山県 14 香川県
3 大阪府 7 富山県 11 広島県 15 愛媛県
4 和歌山県 8 鳥取県 12 山口県 16 高知県

〔卒業後の進路についてお答えください〕

問4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけお選びください。

- 1 大学進学
2 短期大学進学
3 専門学校進学
4 就職
5 その他（ ）

1、2、3を選ばれた方は問5へお進みください。
4、5を選ばれた方は問12へお進みください。

問5 あなたはどのような設置主体の学校に進学したいですか。次の中からあてはまるものを 第2 希望までお選びください。

- 1 国公立
2 私立
3 国公立・私立を問わない

第1希望

第2希望

問6 あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを 第2 位までお選びください。

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1 心理学・臨床心理学関係 | 10 文学・史学・文化・外国語関係 |
| 2 教育学・保育学関係 | 11 社会学・社会福祉学関係 |
| 3 食物学・栄養学関係 | 12 哲学・宗教学関係 |
| 4 家政学関係（被服・住居） | 13 経済学・経営学・法律学・商学関係 |
| 5 健康・スポーツ・体育学関係 | 14 芸術学関係 |
| 6 保健衛生学（看護学）関係 | 15 理学・工学・生命科学関係 |
| 7 保健衛生学（看護学以外）関係 | 16 農学・獣医学関係 |
| 8 医学・歯学・薬学関係 | 17 建築関係 |
| 9 情報関係 | 18 その他（具体的に ） |

第1位

第2位

次のページへお進みください 

ここからは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）リーフレットを
ご覧いただいたうえでお答えください。

問 7 あなたは神戸女子大学を知っていますか。次の中から 1 だけお選びください。

- 1 神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている
- 2 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
- 3 大学の評判をなんとなく知っている
- 4 大学の名前を聞いたことがある
- 5 知らなかった

問 8 あなたは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）について、どのように考えますか。
次の中から 1 だけお選びください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に
- 6 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい。
4、5 を選ばれた方は問 10 へお進み下さい。
6 を選ばれた方は問 12 へお進み下さい。

問 9 問 8 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方
におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から第 2 位までお選びください。
回答後は問 10 へお進みください。

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------|
| 1 興味・関心のある分野だから | 7 クラブ活動が活発そうだから | 第 1 位 |
| 2 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8 自宅から通えるから | |
| 3 学習サポート体制が充実していそう | 9 学費が適正だから | 第 2 位 |
| 4 目指す資格を取得できそう | 10 校舎・施設が充実していそうだから | |
| 5 職業や企業への就職に有利そう | 11 その他 | |
| 6 大学に伝統と実績があるから | (具体的に |) |

問 10 あなたは神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）を受験したいと思いますか。
次の中から 1 だけお選びください。

- 1 受験してみたい
- 2 受験先として検討したい
- 3 わからない
- 4 受験先として考えない

1、2、3 を選ばれた方は問 11 へお進み下さい。
4 を選ばれた方は問 12 へお進み下さい。

問 11 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）に合格した場合の入学意向について、次の中から 1 だけお
選びください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 入学を希望しない
- 4 わからない

問 12 本学の心理学部心理学科（仮称）設置の計画にあたり、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせくだ
さい。

◆ご協力ありがとうございました。

計画概要

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

学科の概要

開設時期：2022年4月
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2
 修業年限：4年
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定
 取得学位：学士（心理学）※予定
 取得資格：認定心理士、情報処理士等
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

設置の理念

情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、興味のある進路に向けて、以下のような履修モデルがあります。



<臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

<経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

<メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

<心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

アクセス

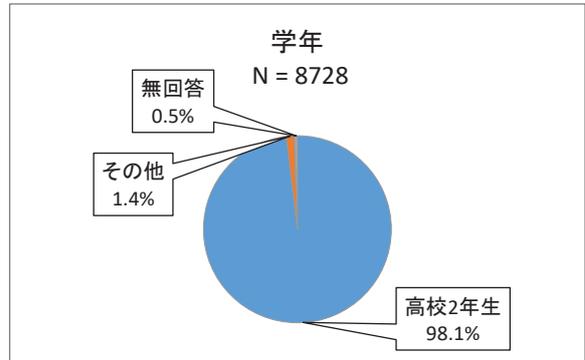


上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

單純集計表

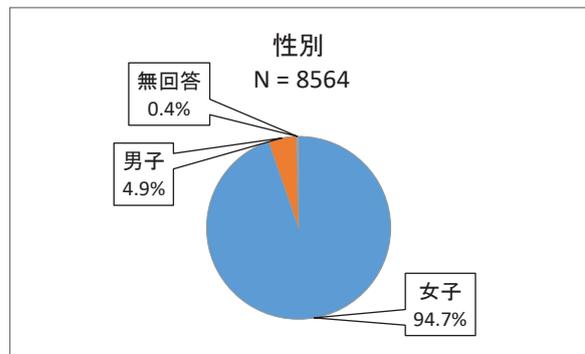
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	8,564	98.1
2	その他	118	1.4
	無回答	46	0.5
	N (% [^] -ス)	8,728	100



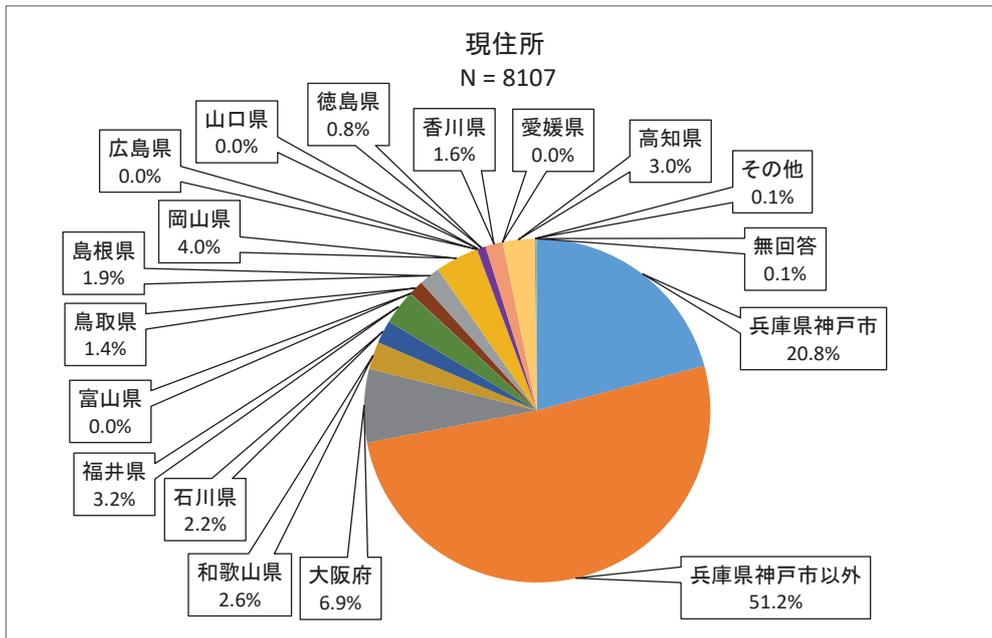
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	女子	8,107	94.7
2	男子	419	4.9
	無回答	38	0.4
	N (% [^] -ス)	8,564	100



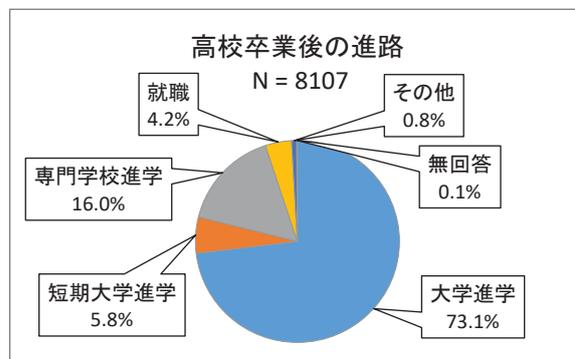
現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	1,687	20.8
2	兵庫県神戸市以外	4,150	51.2
3	大阪府	559	6.9
4	和歌山県	211	2.6
5	石川県	175	2.2
6	福井県	263	3.2
7	富山県	3	0.0
8	鳥取県	114	1.4
9	島根県	158	1.9
10	岡山県	328	4.0
11	広島県	2	0.0
12	山口県	0	0.0
13	徳島県	66	0.8
14	香川県	132	1.6
15	愛媛県	0	0.0
16	高知県	242	3.0
17	その他	8	0.1
	無回答	9	0.1
	N (%ベース)	8,107	100



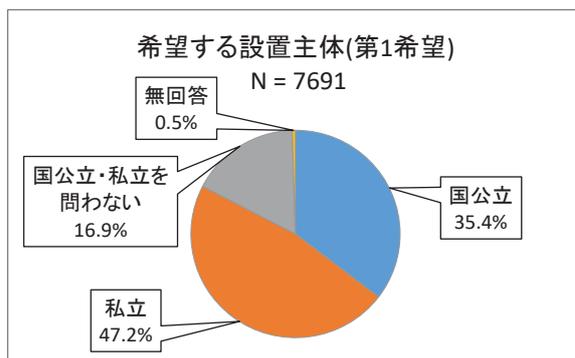
高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	5,924	73.1
2	短期大学進学	469	5.8
3	専門学校進学	1,298	16.0
4	就職	342	4.2
5	その他	62	0.8
	無回答	12	0.1
	N (% [*] -)	8,107	100



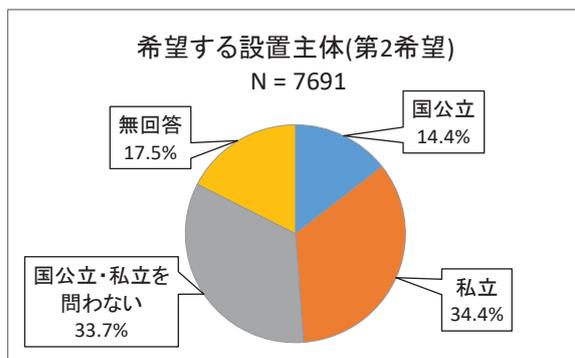
希望する設置主体(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	2,723	35.4
2	私立	3,630	47.2
3	国公立・私立を問わない	1,301	16.9
	無回答	37	0.5
	N (% [*] -)	7,691	100



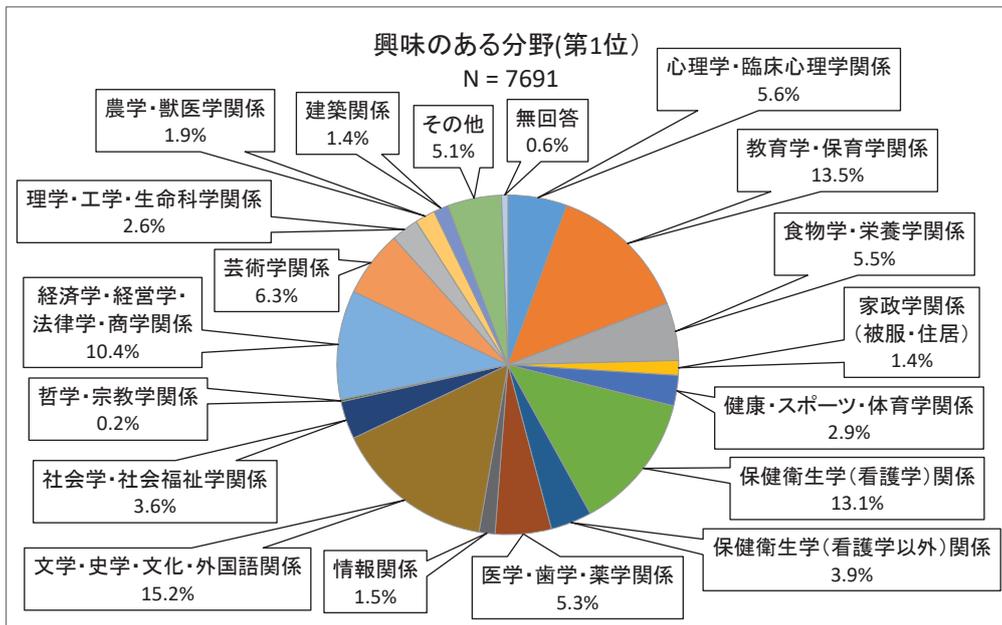
希望する設置主体(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	国公立	1,111	14.4
2	私立	2,642	34.4
3	国公立・私立を問わない	2,595	33.7
	無回答	1,343	17.5
	N (% [*] -)	7,691	100



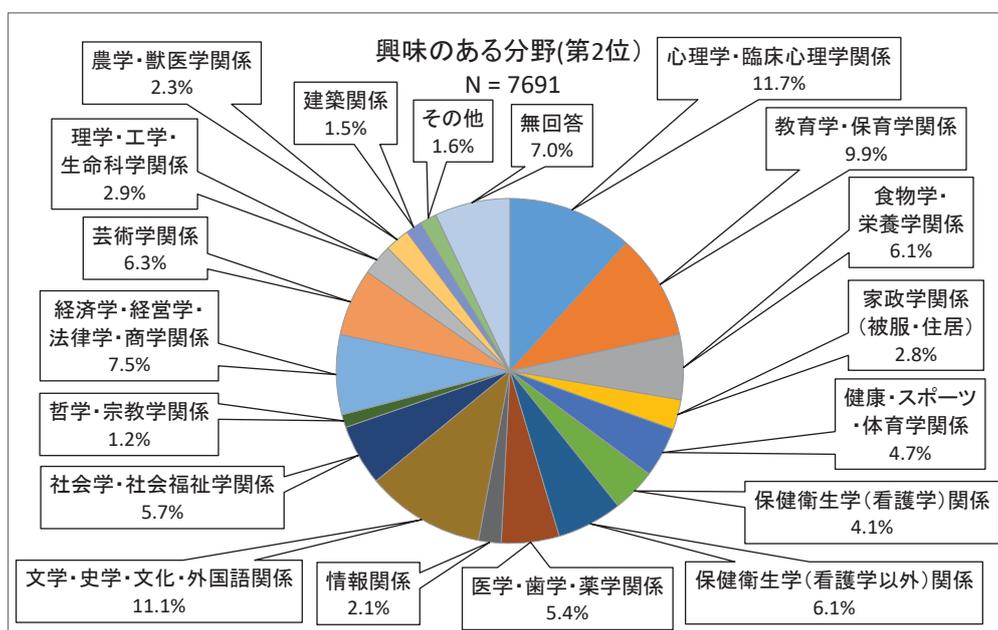
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	430	5.6
2	教育学・保育学関係	1,039	13.5
3	食物学・栄養学関係	420	5.5
4	家政学関係(被服・住居)	111	1.4
5	健康・スポーツ・体育学関係	222	2.9
6	保健衛生学(看護学)関係	1,004	13.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	300	3.9
8	医学・歯学・薬学関係	404	5.3
9	情報関係	112	1.5
10	文学・史学・文化・外国語関係	1,171	15.2
11	社会学・社会福祉学関係	276	3.6
12	哲学・宗教学関係	19	0.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	798	10.4
14	芸術学関係	487	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	200	2.6
16	農学・獣医学関係	147	1.9
17	建築関係	111	1.4
18	その他	392	5.1
	無回答	48	0.6
	N(%)	7,691	100



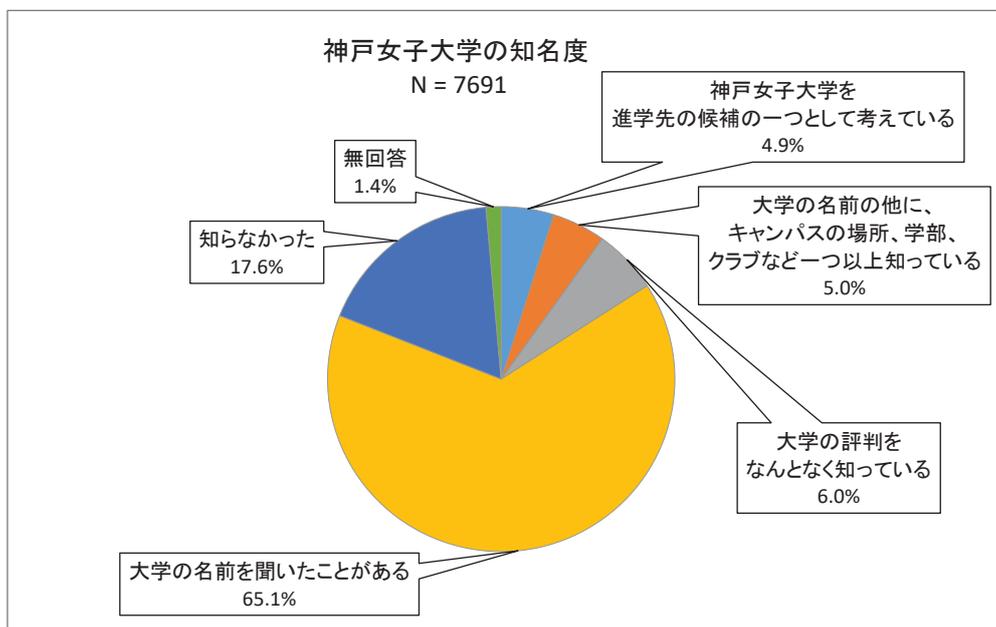
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心理学・臨床心理学関係	901	11.7
2	教育学・保育学関係	765	9.9
3	食物学・栄養学関係	470	6.1
4	家政学関係(被服・住居)	213	2.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	363	4.7
6	保健衛生学(看護学)関係	313	4.1
7	保健衛生学(看護学以外)関係	472	6.1
8	医学・歯学・薬学関係	412	5.4
9	情報関係	163	2.1
10	文学・史学・文化・外国語関係	851	11.1
11	社会学・社会福祉学関係	440	5.7
12	哲学・宗教学関係	94	1.2
13	経済学・経営学・法律学・商学関係	575	7.5
14	芸術学関係	484	6.3
15	理学・工学・生命科学関係	221	2.9
16	農学・獣医学関係	179	2.3
17	建築関係	113	1.5
18	その他	121	1.6
	無回答	541	7.0
	N(%ベース)	7,691	100



神戸女子大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	神戸女子大学を進学先の候補の一つとして考えている	379	4.9
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	382	5.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	465	6.0
4	大学の名前を聞いたことがある	5,008	65.1
5	知らなかった	1,351	17.6
	無回答	106	1.4
	N (%ベース)	7,691	100

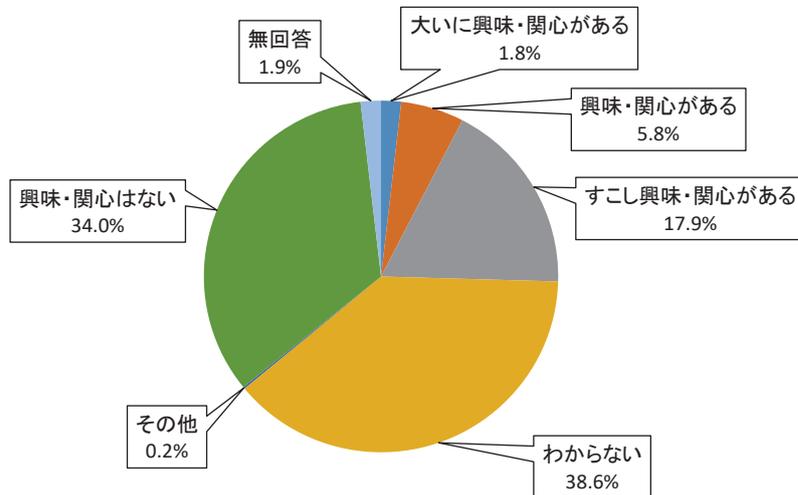


神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	140	1.8
2	興味・関心がある	444	5.8
3	すこし興味・関心がある	1,373	17.9
4	わからない	2,966	38.6
5	その他	12	0.2
6	興味・関心はない	2,613	34.0
	無回答	143	1.9
	N (%ベース)	7,691	100

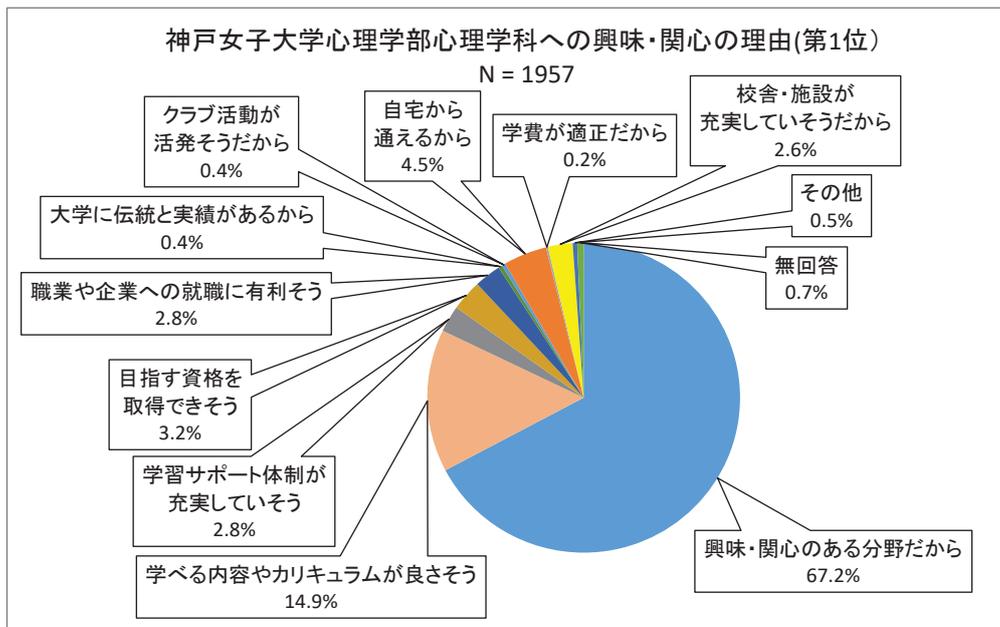
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心

N = 7691



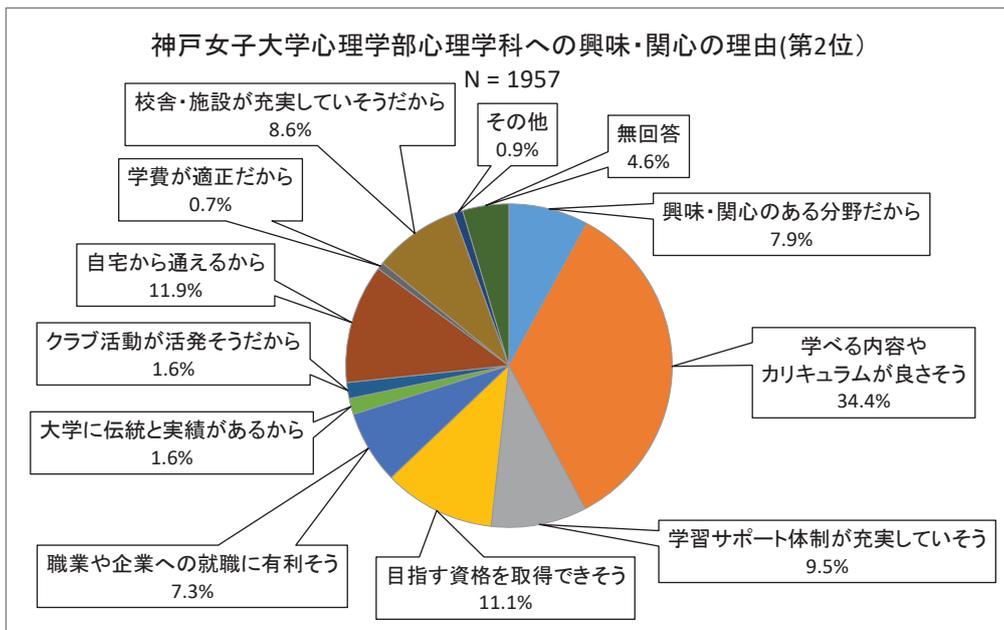
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	1,316	67.2
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	291	14.9
3	学習サポート体制が充実していそう	54	2.8
4	目指す資格を取得できそう	63	3.2
5	職業や企業への就職に有利そう	54	2.8
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	7	0.4
8	自宅から通えるから	88	4.5
9	学費が適正だから	4	0.2
10	校舎・施設が充実していそうだから	50	2.6
11	その他	9	0.5
	無回答	13	0.7
	N (%ベース)	1,957	100



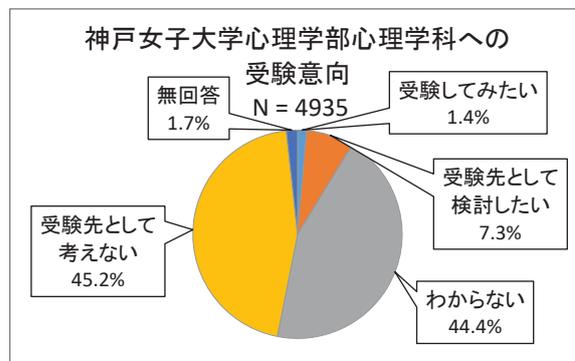
神戸女子大学心理学部心理学科への興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	154	7.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	673	34.4
3	学習サポート体制が充実していそう	186	9.5
4	目指す資格を取得できそう	218	11.1
5	職業や企業への就職に有利そう	143	7.3
6	大学に伝統と実績があるから	31	1.6
7	クラブ活動が活発そうだから	31	1.6
8	自宅から通えるから	232	11.9
9	学費が適正だから	13	0.7
10	校舎・施設が充実していそうだから	169	8.6
11	その他	17	0.9
	無回答	90	4.6
	N (%ベース)	1,957	100



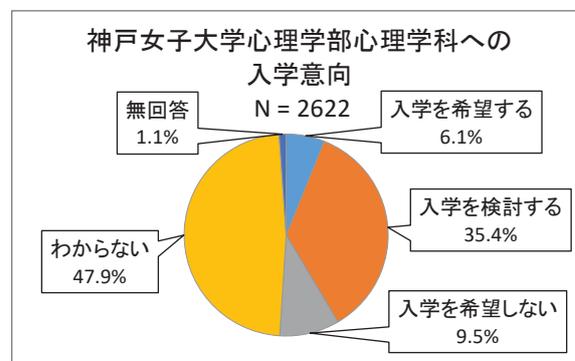
神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	69	1.4
2	受験先として検討したい	361	7.3
3	わからない	2,192	44.4
4	受験先として考えない	2,231	45.2
	無回答	82	1.7
	N (%ベース)	4,935	100



神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	160	6.1
2	入学を検討する	928	35.4
3	入学を希望しない	248	9.5
4	わからない	1,256	47.9
	無回答	30	1.1
	N (%ベース)	2,622	100



神戸女子大学
「心理学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年7月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の神戸女子大学「心理学部 心理学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査	
調査対象		神戸女子大学への 資料請求者 (文学部志望者中心に抽出)	(株)進研アド保有の DMリストのうち、 文学系統志望者
調査対象者の学年		高校3年生	
調査エリア		全国	兵庫県、大阪府 京都府、滋賀県
調査方法		郵送調査	
調査 対象数	依頼数	6,603人 (資料請求者:5,974人、DMリスト:629人)	
	有効 回収数	1,474人 有効回収率:22.3%	
調査時期		2021年5月14日(金)～2021年6月2日(水)	
調査実施機関		株式会社 進研アド	

3. 調査項目

高校生対象調査	
<ul style="list-style-type: none">・性別・学年・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向	

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性 (調査結果集計表:P7~P9)

※本調査は、神戸女子大学の「心理学部 心理学科」に対する需要を確認するための調査として設計。神戸女子大学への資料請求者(文学部志望者中心に抽出)と、(株)進研アドが保有するDMリストのうち、文学系統志望者の高校3年生に調査を実施し、1,474人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%、学年は「高校3年生」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「国立」が8人(0.5%)、「公立」が990人(67.2%)、「私立」が451人(30.6%)である。
- 回答者の在籍高校所在地は、神戸女子大学の所在地である「兵庫県」が578人(39.2%)で最も多い。次に隣県の「大阪府」が319人(21.6%)、「京都府」が88人(6.0%)と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が912人(61.9%)で最も多い。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

(調査結果集計表:P10~11)

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が1,097人(74.4%)で最も多い。次いで「国公立大学に進学」が504人(34.2%)、「専門学校・専修学校に進学」が149人(10.1%)と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、神戸女子大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人(29.4%)で最も多い。次いで「生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学など含む)」が346人(23.5%)、「教員養成・教育学」が342人(23.2%)と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

(調査結果集計表:P12~P13)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。」の1,294人(87.8%)であり、僅差で「C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。」が1,292人(87.7%)で続く。
次いで、「B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。」が1,260人(85.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向・入学意向

(調査結果集計表:P14)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、430人(29.2%)である。
- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた430人のうち、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、385人(89.5%)である。

高校生対象 調査結果まとめ

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向者数

(調査結果集計表:P15)

※ここからは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向者は**385人**(26.1%)で、予定されている入学定員80人を4.8倍以上上回る入学意向者数がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- 「近畿」エリア(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)の高校在籍者からの入学意向者は、1,058人中、**251人**(23.7%)と、予定している入学定員数を3.1倍以上上回る入学意向者数がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 神戸女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向者は、1,097人中、**320人**(29.2%)と、予定している入学定員数の4.0倍の入学意向者数がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」に興味がある回答者の入学意向者は、433人中、**261人**(60.3%)と、予定している入学定員数を3.2倍以上上回る入学意向者数がみられた。

◇神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向者は、いずれの特色でも**350人**を超えており、入学意向者数はすべて、予定している入学定員数を4.5倍以上上回っている。新学部の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

高校生対象 調査結果集計表



回答者の属性(性別/学年/高校種別)

■性別

	標本数	男性	女性	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	0.0	100.0	0.0
		0	1,474	0

■学年

	標本数	1年生	2年生	3年生	その他	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		0	0	1,474	0	0

■高校種別

	標本数	国立	公立	私立	無回答
上段:% 下段:件数					
全体	1,474	0.5	67.2	30.6	1.7
		8	990	451	25

回答者の属性(高校所在地)

■高校所在地

上段:% 下段:件数	標本数	北海道	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
		全体	1,474	0.5 8	0.1 1	0.2 3	0.1 1	0.1 2	0.2 3	0.1 2

上段:% 下段:件数	標本数	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
		全体	1,474	0.1 1	0.3 5	0.6 9	1.2 17	1.2 18	0.5 7	0.5 8

上段:% 下段:件数	標本数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県
		全体	1,474	2.2 32	6.0 88	21.6 319	39.2 578	1.4 21	1.4 20	1.1 16

上段:% 下段:件数	標本数	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県
		全体	1,474	3.1 45	0.6 9	0.7 11	1.6 24	2.2 33	0.5 8	1.6 23

上段:% 下段:件数	標本数	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
		全体	1,474	0.7 11	0.1 2	0.4 6	0.5 7

回答者の属性(所属クラス)

■所属クラス

	標本数	文系クラス (文系コース)	理系クラス (理系コース)	コース 選択はない	その他	無 回 答
上段: % 下段: 件数						
全体	1,474	61.9 912	16.6 244	11.1 164	9.0 132	1.5 22

高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

	標本数	国公立大学に進学	私立大学に進学	短期大学に進学	専門学校・専修学校に進学	就職	その他	無回答
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	34.2	74.4	8.9	10.1	2.6	1.2	0.1
		504	1,097	131	149	39	17	1

興味のある学問系統

■興味のある学問系統

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

	標本数	心理学	文学 (考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	語学 (言語学など含む)	法学 (政治学など含む)	経済・経営・商学	社会学	国際関係学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	29.4	16.8	17.1	6.6	14.4	12.3	14.5
		433	248	252	97	212	181	214

	標本数	教員養成・教育学	生活科学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む)	芸術学 (美術・デザイン、音楽など含む)	総合科学	看護・保健学	医・歯・薬学	理学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	23.2	23.5	8.7	3.1	17.5	7.5	2.6
		342	346	128	45	258	110	38

	標本数	工学	農・水産学	その他	まだ決めていない	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	2.2	3.0	4.5	1.8	0.1
		32	44	66	27	1

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q3. 神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	87.8	35.1	52.6	10.4	1.6	0.2
		1,294	518	776	154	23	3

B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	85.5	29.3	56.2	12.6	1.7	0.2
		1,260	432	828	186	25	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

- C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。

	標本数	魅力度（※）	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
			上段：％	下段：件数	上段：％	下段：件数	
全体	1,474	87.7	30.9	56.7	10.7	1.5	0.2
		1,292	456	836	157	22	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向／ 入学意向

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向

- Q4. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	受験したいと思う	受験したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	29.2 430	70.2 1,035	0.6 9

「受験したいと思う」と答えた
430人のみ抽出

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向

- Q5. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

	標本数	入学したいと思う	入学したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	430	89.5 385	9.8 42	0.7 3

※母数は、Q4で「受験したいと思う」と答えた430人

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への 受験意向別入学意向

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向別入学意向

※「Q4 受験意向」と「Q5 入学意向」の回答をかけあわせて集計(母数は全回答者)

※神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を神戸女子大学「心理学部 心理学科」の入学意向者と定義する。

入学意向者

		標本数	Q5 「受験したいと思う」 かつ	Q4 「受験したいと思う」 でない」 が	Q4 「受験したいと思わない」	無回答	
上段:% 下段:件数							
全体		1,474	26.1 385	2.8 42	70.2 1,035	0.8 12	
属性別集計	高校所在地別 近畿	1,058	23.7 251	2.6 27	73.1 773	0.7 7	
	高校卒業後の希望進路別 私立大学に進学	1,097	29.2 320	2.9 32	67.1 736	0.8 9	
	興味のある学問系統別 心理学	433	60.3 261	4.4 19	33.7 146	1.6 7	
	「心理学部心理学科」の特色に対する魅力度別	特色A 魅力あり	1,294	29.3 379	3.1 40	66.8 865	0.8 10
		特色B 魅力あり	1,260	29.0 365	3.2 40	67.1 845	0.8 10
		特色C 魅力あり	1,292	28.3 366	3.2 41	67.7 875	0.8 10

卷末資料 調查票



調査票

◆神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

神戸女子大学では、現在高校3年生のみなさんが大学生となる2022年(令和4年)4月に、新しく「心理学部 心理学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

- Q3. 神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 魅力を感じ る	ある程度 魅力を感じ る	あまり 魅力を感じ ない	まったく 魅力を感じ ない
例.	〇〇である。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
A.	国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
B.	心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
C.	心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4

- Q4. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 受験したいと思う 2. 受験したいと思わない

- Q5. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、
入学したいと思いますか。

あなたの気持ちに近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

1. 入学したいと思う 2. 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

巻末資料 心理学部紹介リーフレット



神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

学科の概要

開設時期：2022年4月
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2
 修業年限：4年
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定
 取得学位：学士（心理学）※予定
 取得資格：認定心理士、情報処理士等
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

設置の理念

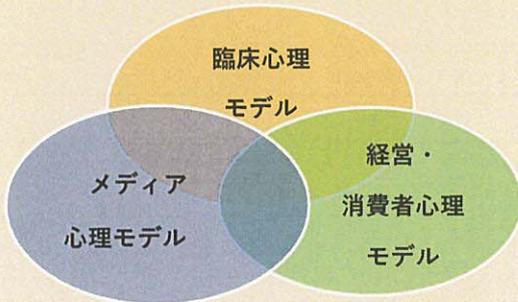
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、
 興味のある進路に向けて、
 以下のような履修モデルがあります。



<臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

<経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

<メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

<心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

アクセス



上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

なんだ、
なんだ。
なんだ。



心と社会をつなぐ。動かす。
心理学部 心理学科 (仮称)
2022.4 誕生

設置構想中

神戸女子大学 心理学部 心理学科 基本情報

開設時期	2022年4月	入学定員	80名 ※#1
取得できる主な資格・免許	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公認心理師 受験資格* ■ 認定心理士 (心理調査) ■ 上級情報処理士 など 		
修業年限	4年	取得学位	学士 (心理学) ※#2

心理学部心理学科では、次のような人材の養成をめざします。

- ① 心理学における知能・言語・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間的心と行動を体系的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を有する人材。
- ② 人間における心身の相互的関連を理解し、福みや悪徳、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技術を備えた人材。
- ③ 企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手段に基づいて調査し、分析することができる人材。
- ④ 発達に発達するメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方とに与える影響を心理学の視点から理解できる人材。

Kobe Women's University Open Campus 2021

オープンキャンパス

詳しくはホームページへアクセス!!

イベント 盛りだくさんの1日!

- ◆ バックステージデザイン※ 「たくさん遊ばれるお菓子のパッケージを考えよう!」
- ◆ パーチャルコンピニ※ 「売上がアップする商品陳列やディスプレイを体験!」 ※3月収録

模擬授業 相談コーナー

内容は変更になる場合があります。必ず公式HPをご確認ください。

ポートアイランドキャンパスへのアクセス

大阪から	姫路から	新神戸から	神戸空港から
JR利用の場合 大塚駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約40分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車	JR利用の場合 姫路駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約40分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車	神戸市営地下鉄 新神戸駅から 西神・山手線(約2分) 三宮駅下車 三宮駅下車	ポートライナー 神戸空港駅から ポートライナーの三宮行き(約9分) 三宮駅下車 ※すべての行先のもののみならず三宮駅に停車します。
ポートライナー 神戸空港・北岸線方面行など(約10分)すべての行先のもののみならず三宮駅に停車します。			
みなとじま駅下車			
ポートアイランドキャンパス みなとじま駅より西へ徒歩約5分			



神戸女子大学
KOBÉ WOMEN'S UNIVERSITY

詳細はコチラをCHECK!



オフシャル HP



Twitter @shup.univ



- ポートアイランドキャンパス
- 心理学部 (仮称) / 健康福祉学部 / 看護学部 / 短期大学
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
- 須磨キャンパス
文学部 / 家政学部
〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青島2-1
- ホットライン
Tel.078-737-2329 (入試広報課直通)
<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

なんだ、こころ なんだ。

心理学で解き明かせば、世の中がよーく見えてくる。

こんな時、どうするの？ かわいいのかな？

Case 01

「すごいね！」って誰かをほめるとき、あなたならどうする？

- 「すごい！がんばったね」と直接ほめる
- 「あの人がね。すごいってほめてたよ」と伝える

Answer | 口コミやレビューなどの第三者から間接的に情報が伝達することによって、より信頼性や信頼感が増す「ワインザー効果」という心理効果です。

Case 02

カフェでランチの約束。今日こそ彼に告白！どっちがいいかな？

- 運ばれてきた料理を楽しみながら、告白しちゃう
- 大事な話だから、料理が運ばれてくる前に告白する

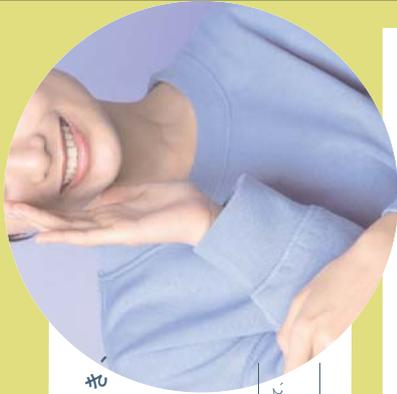
Answer | 食事は空腹を満たすだけでなく、人の心にも影響することが解明されています。人はおいしいものを食べると気分がグッと上がる「ランチヨウテンクニック」という心理効果です。

Case 03

めげせインフルエンサー！ SNSへの投稿、あなたならどうする？

- 充実した情報を発信するため、しっかり調べて納得がいけば投稿！
- とにかく発信数を重視！少しの情報でも、毎日定期的な投稿！

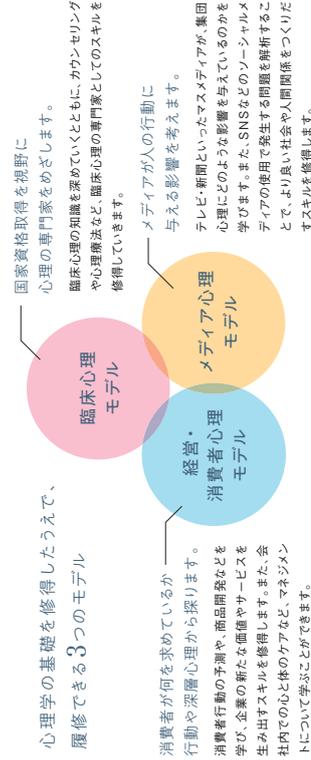
Answer | 「人間は接触回数が多ければ多いほど、親近感がわきやすくなる」という感情の動きは「ザイオンズ効果」という心理効果でインフルエンサーマーケティングにおいて重要視されています。



2022年4月 心理学部 心理学科 誕生

人の心と行動の関係など身近なテーマを専門的に探究する心理学。身につけた力は、カウンセラーなどの心理専門職から一般企業まで、あらゆる場で発揮できます。

StudyX どんなことが学べるの？



Qualification どんな資格が取れるの？

- 臨床心理
- 公認心理師受験資格*
- 経営・消費者心理
- 認定心理士 (心理調査)
- メディア心理
- 上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

※受験資格を得るには前記の単位の単位を修得し、一定の実務経験が必要

Future 将来どんなところで活躍ができるの？

- 臨床心理
- 公務員(心理職)
- 病院
- 福祉センター
- 児童相談所
- 福祉施設関連企業 など
- 経営・消費者心理
- 商品企画
- マーケティング職
- 人事
- 営業職
- 販売関連 など
- メディア心理
- マスコミ
- メディア関係
- 広告業界
- 企業広報 など

※記載の内容は、構想中のため変更になる場合があります。

(資料13)

近隣女子大学心理学科系学納金一覧

(円)

大学名	学部学科名	初年次			2年次以降 授業料等	4年間総合計
		入学金	授業料等※	合計		
武庫川女子大学	文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000	1,225,000	5,100,000
神戸女学院大学	人間科学部心理・行動科学科	200,000	1,307,000	1,507,000	1,307,000	5,428,000
甲南女子大学	人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000	1,150,000	4,810,000
神戸松蔭女子学院大学	人間科学部心理学科	200,000	1,090,000	1,290,000	1,090,000	4,560,000
神戸親和女子大学	発達教育学部心理学科	230,000	1,170,000	1,400,000	1,170,000	4,910,000
神戸女子大学	心理学部心理学科	250,000	1,120,000	1,370,000	1,150,000	4,820,000

※授業料、教育充実費、施設設備費を含む。

(各大学HPより本学で作成)

(資料14)

神戸女子大学文学部3か年間の就職実績

学科名	平成30年3月卒業				平成31年3月卒業				令和2年3月卒業			
	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率	卒業生数	就職希望者数	就職者数	就職率
日本語日本文学科	54	43	43	100.0%	51	44	44	100.0%	57	48	48	100.0%
英語英米文学科	58	49	49	100.0%	61	57	54	94.7%	45	43	42	97.7%
国際教養学科	53	51	51	100.0%	35	33	33	100.0%	41	40	39	97.5%
史学科	59	49	46	93.9%	53	50	49	98.0%	53	46	45	97.8%
教育学科	177	169	167	98.8%	172	161	160	99.4%	155	151	149	98.7%
文学部全体	401	361	356	98.6%	372	345	340	98.6%	351	328	323	98.5%

本学に対する求人件数と就職希望者数の推移

	平成30年3月卒業			平成31年3月卒業			令和2年3月卒業		
	求人件数	就職希望者数	求人倍率	求人件数	就職希望者数	求人倍率	求人件数	就職希望者数	求人倍率
大学全体	3,973	708	5.61	4,750	768	6.18	14,499	749	19.35

神戸女子大学心理学部心理学科(仮称)の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

令和3年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する 企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和4年4月に予定している神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の開設に向けて、神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、1都2府20県（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、愛知県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県、長崎県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の企業等の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、787件の有効回答があった。

(3) 調査方法

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の調査対象企業等の採用担当者にアンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和2年11月～令和2年12月

(5) 有効回収率等

配布数 : 2,786 件

有効回答数 : 787 件

有効回収率 : 約 28.2% (有効回答 787 件 ÷ 配布数 2,786 件)

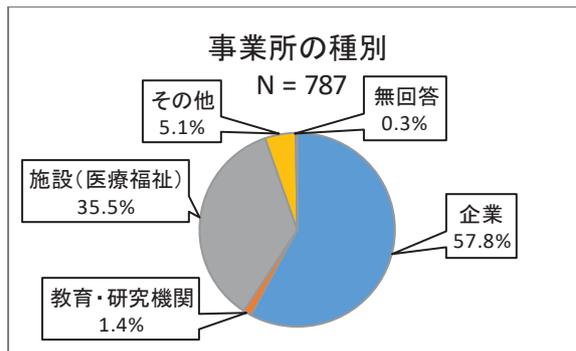
※神戸女子大学が設置を構想している心理学部心理学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「企業」が 455 件 (57.8%) と最も多く、次いで「施設 (医療福祉)」279 件 (35.5%)、「その他」40 件 (5.1%)、「教育・研究機関」11 件 (1.4%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.3%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100

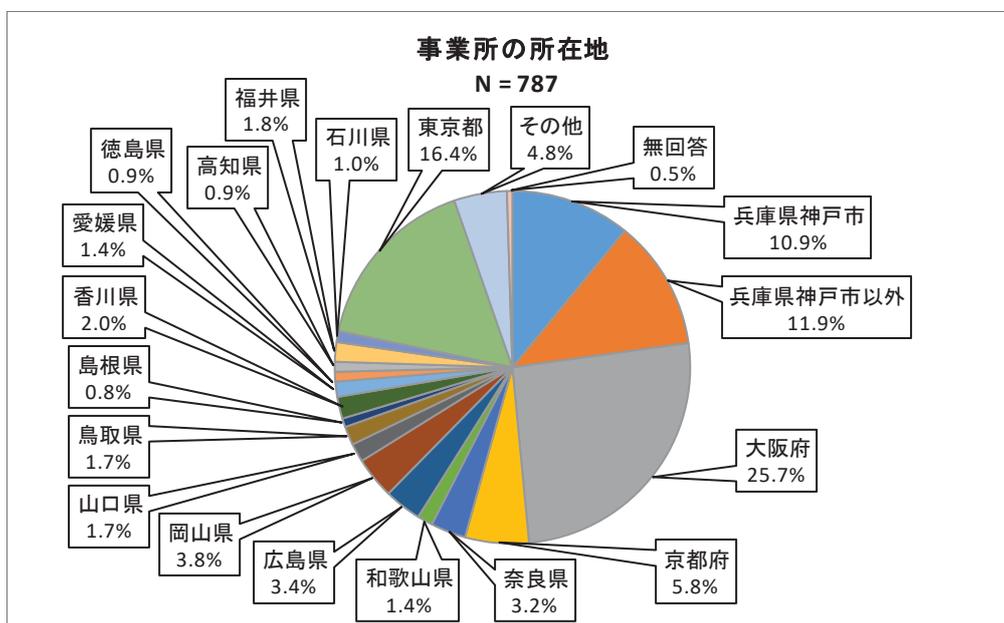


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「大阪府」が 202 件 (25.7%) と最も多く、次いで「東京都」129 件 (16.4%)、「兵庫県神戸市以外」94 件 (11.9%)、「兵庫県神戸市」86 件 (10.9%)、「京都府」46 件 (5.8%)、「その他」38 件 (4.8%)、「岡山県」30 件 (3.8%)、「広島県」27 件 (3.4%)、「奈良県」25 件 (3.2%)、「香川県」16 件 (2.0%)、「福井県」14 件 (1.8%)、「山口県」13 件 (1.7%)、「鳥取県」13 件 (1.7%)、「和歌山県」11 件 (1.4%)、「愛媛県」11 件 (1.4%)、「石川県」8 件 (1.0%)、「徳島県」7 件 (0.9%)、「高知県」7 件 (0.9%)、「島根県」6 件 (0.8%) の順になっている。
 ※「無回答」4 件 (0.5%)

事業所の所在地

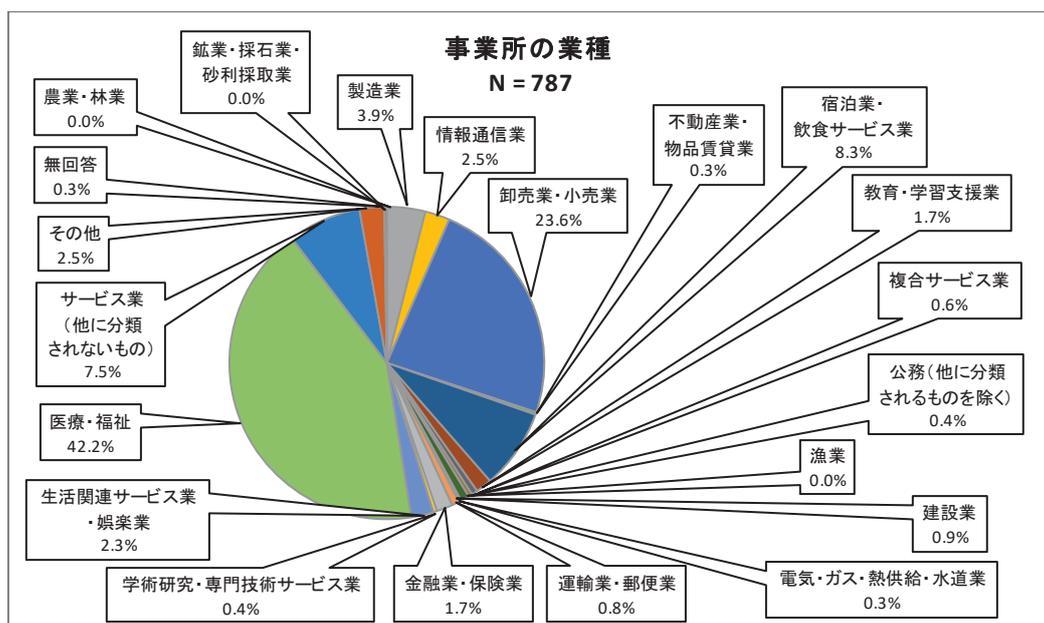
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、10 件以上のものを挙げると、「医療・福祉」が 332 件（42.2%）と最も多く、次いで「卸売業・小売業」186 件（23.6%）、「宿泊業・飲食サービス業」65 件（8.3%）、「サービス業（他に分類されないもの）」59 件（7.5%）、「製造業」31 件（3.9%）、「情報通信業」20 件（2.5%）、「その他」20 件（2.5%）、「生活関連サービス業・娯楽業」18 件（2.3%）、「教育・学習支援業」13 件（1.7%）、「金融業・保険業」13 件（1.7%）の順になっている。 ※「無回答」2 件（0.3%）

事業所の業種			
No.	カテゴリ	(全体)%	
1	農業・林業	0	0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
3	製造業	31	3.9
4	情報通信業	20	2.5
5	卸売業・小売業	186	23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2	0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65	8.3
8	教育・学習支援業	13	1.7
9	複合サービス業	5	0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3	0.4
11	漁業	0	0.0
12	建設業	7	0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3
14	運輸業・郵便業	6	0.8
15	金融業・保険業	13	1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3	0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18	2.3
18	医療・福祉	332	42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59	7.5
20	その他	20	2.5
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	787	100

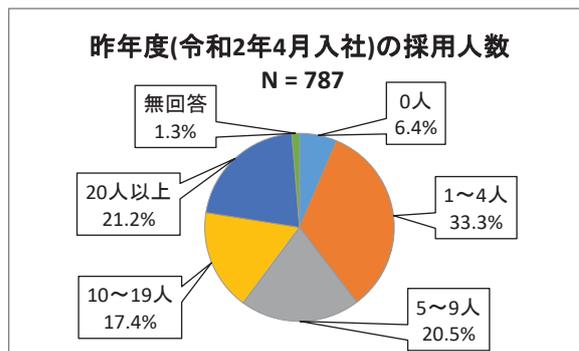


(4) 昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について

昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「1～4人」が262件（33.3%）と最も多く、次いで「20人以上」167件（21.2%）、「5～9人」161件（20.5%）、「10～19人」137件（17.4%）、「0人」50件（6.4%）の順になっている。 ※「無回答」10件（1.3%）

昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

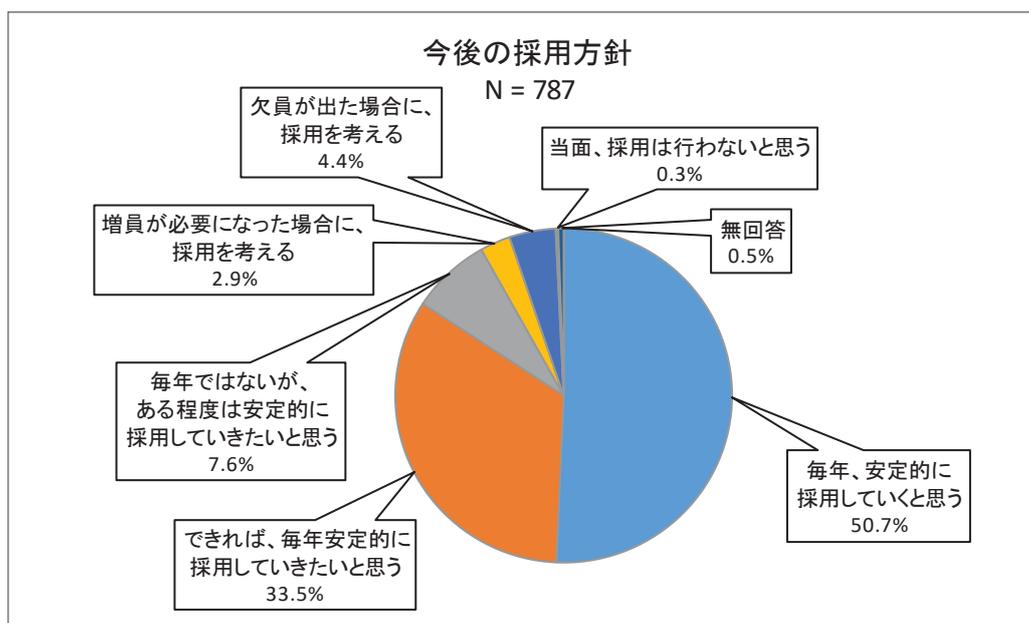
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1～4人	262	33.3
3	5～9人	161	20.5
4	10～19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 399 件（50.7%）と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」264 件（33.5%）、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」60 件（7.6%）、「欠員が出た場合に、採用を考える」35 件（4.4%）、「増員が必要になった場合に、採用を考える」23 件（2.9%）、「当面、採用は行わないと思う」2 件（0.3%）の順になっている。 ※「無回答」4 件（0.5%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



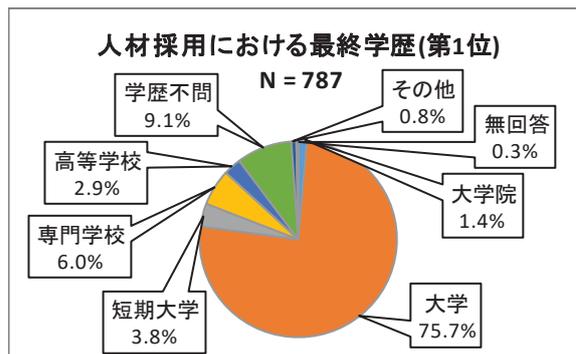
(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「大学」が596件（75.7%）と最も多く、次いで「学歴不問」72件（9.1%）、「専門学校」47件（6.0%）、「短期大学」30件（3.8%）、「高等学校」23件（2.9%）、「大学院」11件（1.4%）、「その他」6件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」2件（0.3%）

人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100

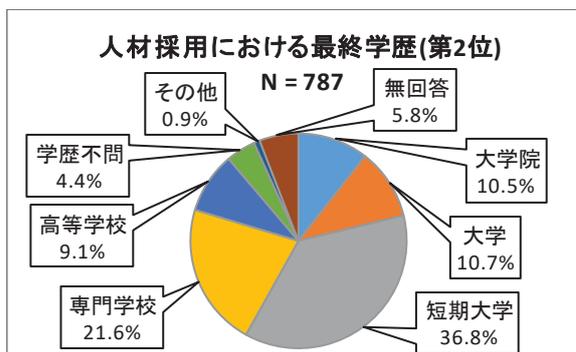


6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「短期大学」が290件（36.8%）と最も多く、次いで「専門学校」170件（21.6%）、「大学」84件（10.7%）、「大学院」83件（10.5%）、「高等学校」72件（9.1%）、「学歴不問」35件（4.4%）、「その他」7件（0.9%）の順になっている。
※「無回答」46件（5.8%）

人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (%ベース)	787	100



(7) 人材を採用する際に重視する点について (第1位)

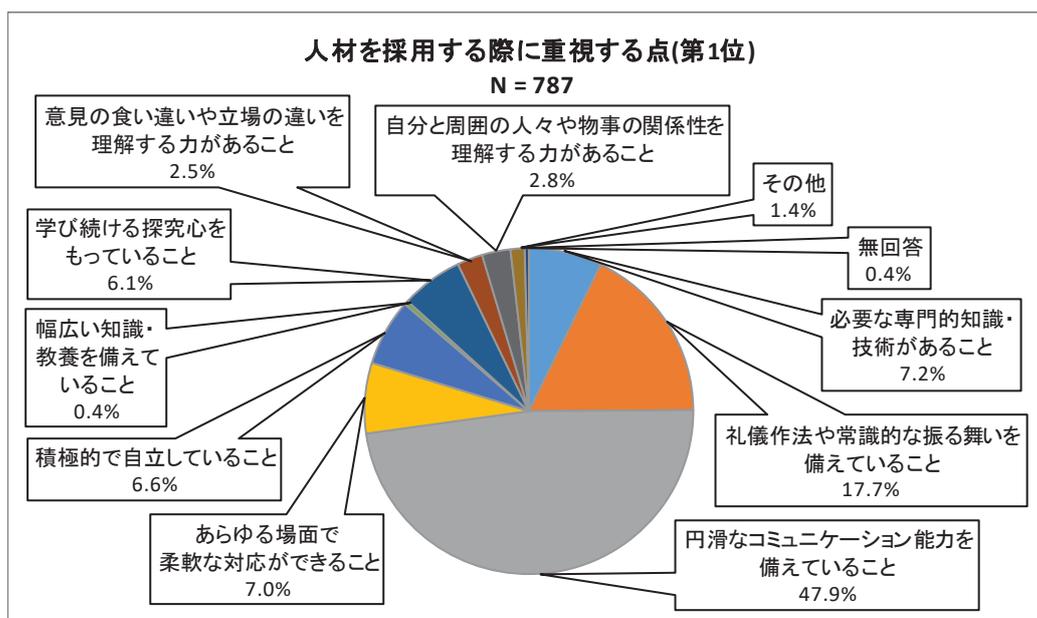
7-1 人材を採用する際に重視する点 (第1位) について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 377 件 (47.9%) と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」139 件 (17.7%)、「必要な専門的知識・技術があること」57 件 (7.2%)、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」55 件 (7.0%)、「積極的に自立していること」52 件 (6.6%)、「学び続ける探究心をもっていること」48 件 (6.1%)、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」22 件 (2.8%)、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」20 件 (2.5%)、「その他」11 件 (1.4%)、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件 (0.4%) の順になっている。

※「無回答」3 件 (0.4%)

人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的に自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



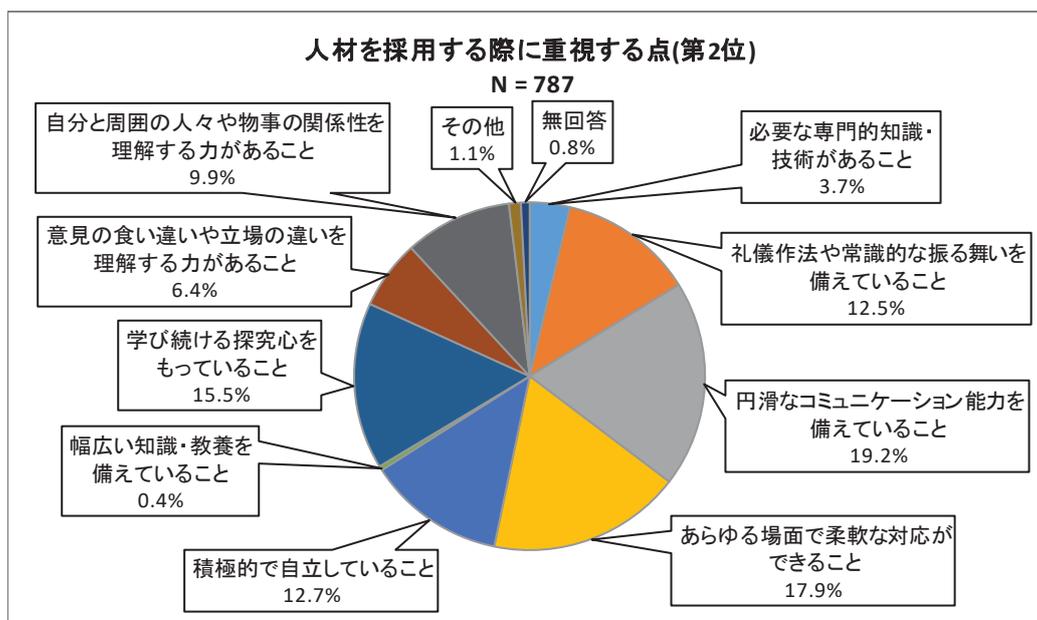
7-2 人材を採用する際に重視する点（第2位）について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 151 件（19.2%）と最も多く、次いで「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」141 件（17.9%）、「学び続ける探究心をもっていること」122 件（15.5%）、「積極的で自立していること」100 件（12.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」98 件（12.5%）、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」78 件（9.9%）、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」50 件（6.4%）、「必要な専門的知識・技術があること」29 件（3.7%）、「その他」9 件（1.1%）、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件（0.4%）の順になっている。

※「無回答」6 件（0.8%）

人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



(8) 神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について

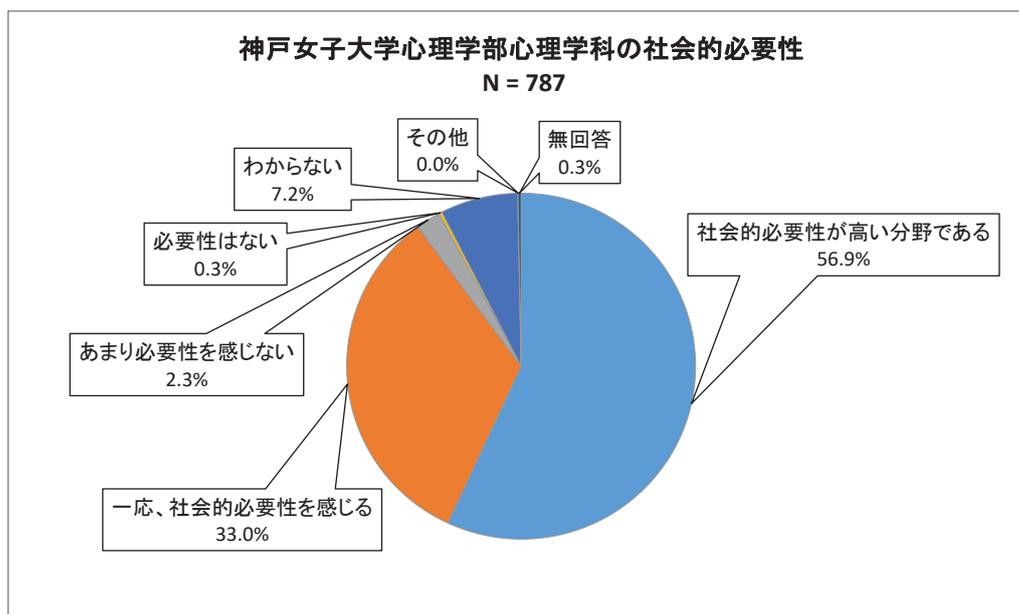
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 448 件 (56.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」260 件 (33.0%)、「わからない」57 件 (7.2%)、「あまり必要性を感じない」18 件 (2.3%)、「必要性はない」2 件 (0.3%) の順になっている。

※「無回答」2 件 (0.3%)

なお、神戸女子大学心理学部心理学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、708 件 (90.0%) となっている。

神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (ベース)	787	100



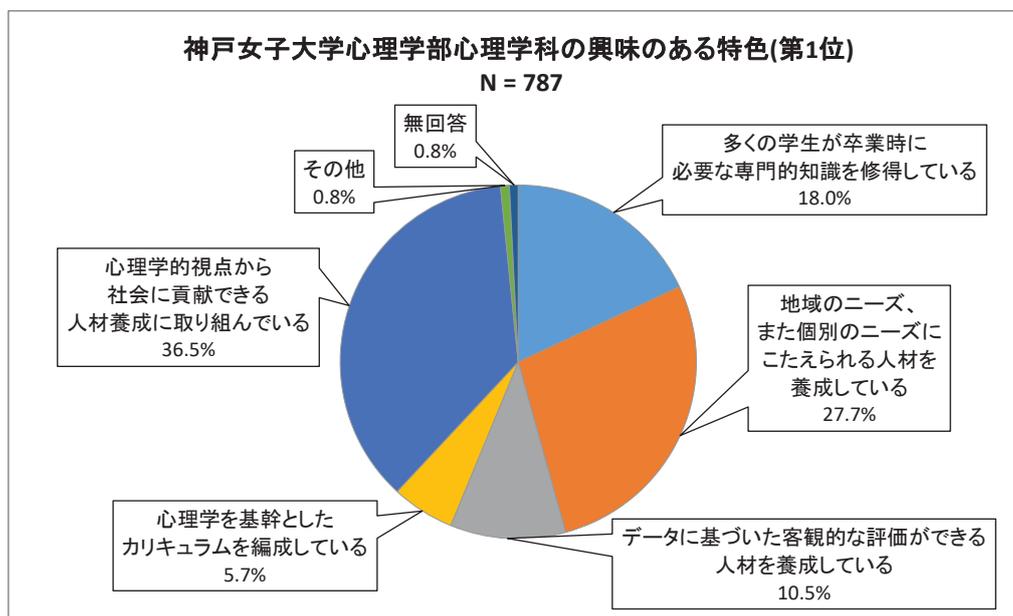
(9) 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色

9-1 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色（第1位）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が287件（36.5%）と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」218件（27.7%）、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」142件（18.0%）、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」83件（10.5%）、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」45件（5.7%）、「その他」6件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」6件（0.8%）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100

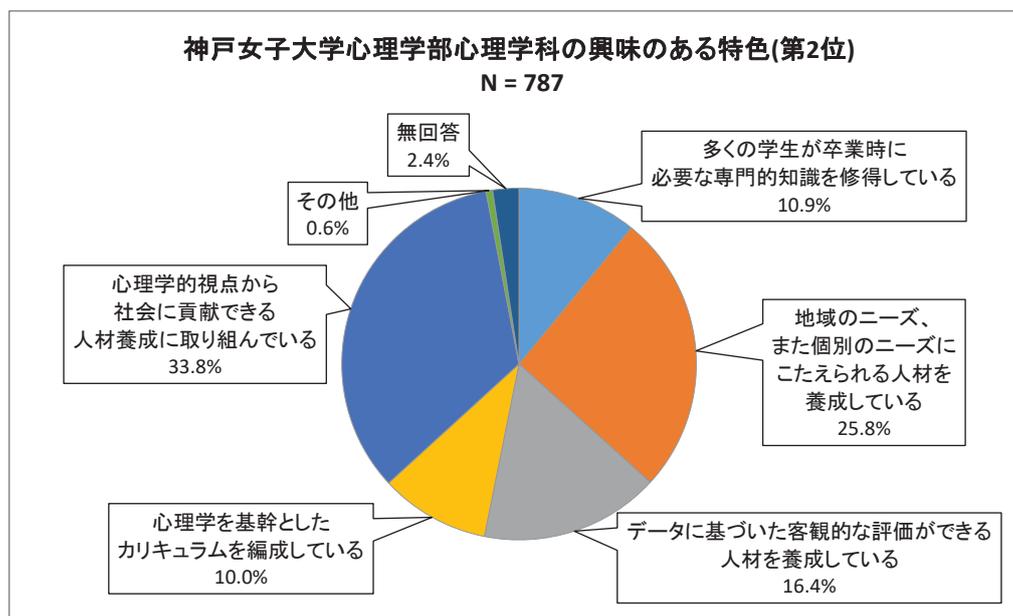


9-2 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色（第2位）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が266件（33.8%）と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」203件（25.8%）、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」129件（16.4%）、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」86件（10.9%）、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」79件（10.0%）、「その他」5件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」19件（2.4%）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100

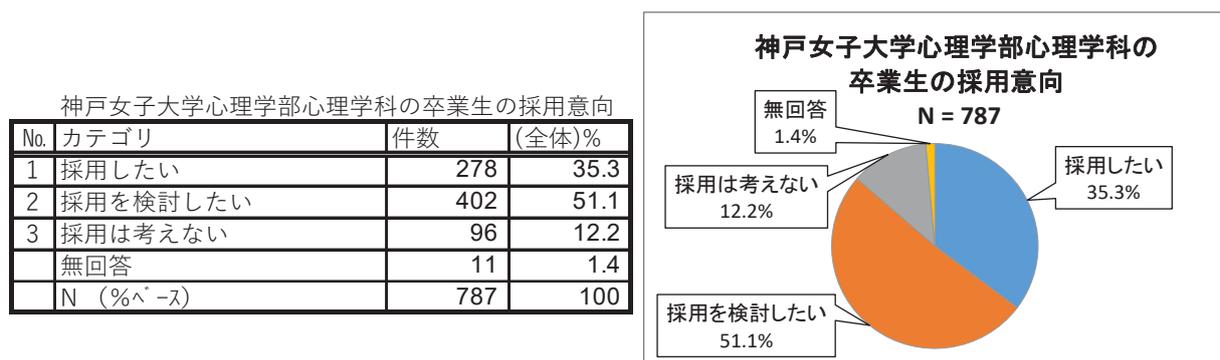


(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「採用を検討したい」が 402 件 (51.1%) と最も多く、次いで「採用したい」278 件 (35.3%)、「採用は考えない」96 件 (12.2%) の順になっている。

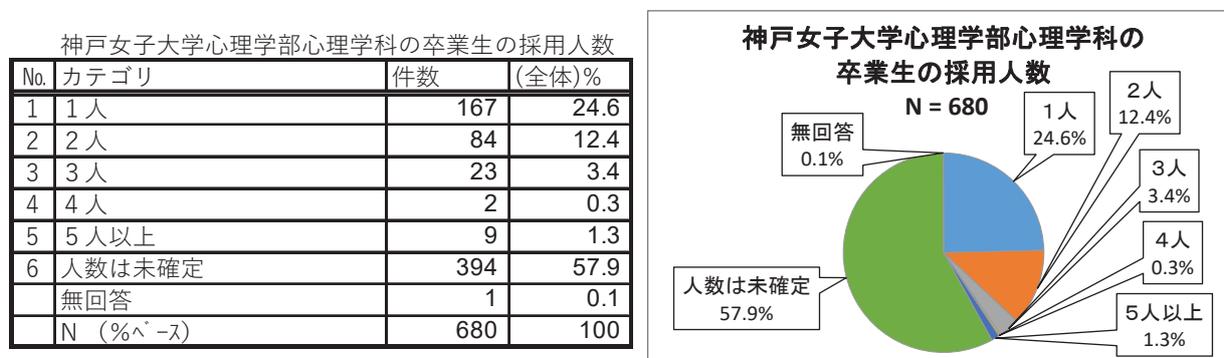
※「無回答」11 件 (1.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、680 件 (86.4%) となっている。



(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について

「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 680 件に対して、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の将来的な採用人数について調査した結果、「人数は未確定」が 394 件 (57.9%) と最も多く、次いで「1 人」167 件 (24.6%)、「2 人」84 件 (12.4%)、「3 人」23 件 (3.4%)、「5 人以上」9 件 (1.3%)、「4 人」2 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.1%)



3. 調査結果のまとめ

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定」(※)）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「5人以上」は最低数である「5人」として計算した。

「人数は未確定」とは、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下表より、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、417人分となる。入学定員は80名であるため、約5.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は851人分となり、これは、入学定員80名に対して、約10.6倍となる。

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計	
1人(A)	58	(a)	(A) × (a)	58
2人(B)	59	(b)	(B) × (b)	118
3人(C)	19	(c)	(C) × (c)	57
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	131	(f)	(F) × (f)	131
無回答	-			

合計採用意向 417人

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討した い」の合計		合計	
1人(A)	167	(a)	(A) × (a)	167
2人(B)	84	(b)	(B) × (b)	168
3人(C)	23	(c)	(C) × (c)	69
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	394	(f)	(F) × (f)	394
無回答	1			

合計採用意向 851人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

調查票

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）設置に係るアンケート調査

- このアンケート調査は令和4年4月に開設予定の神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の設置計画の基礎資料にするため、貴社・貴施設の採用状況・意向についてお聞きするものです。
- このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- 回答は、該当する番号を回答欄の□の中へ直接記入してください。

★調査回答締め切りのお願い★

令和2年12月18日（金）までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴社・貴施設についてお聞きします 】

- Q1. 貴社・貴施設についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。 【回答欄】
1. 企業 2. 教育・研究機関 3. 施設（医療福祉） 4. その他（ ）
- Q2. 所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。
1. 兵庫県神戸市 6. 和歌山県 11. 島根県 16. 福井県
2. 兵庫県神戸市以外 7. 広島県 12. 香川県 17. 石川県
3. 大阪府 8. 岡山県 13. 愛媛県 18. 東京都
4. 京都府 9. 山口県 14. 徳島県 19. その他（ ）
5. 奈良県 10. 鳥取県 15. 高知県
- Q3. 業種についてお聞きします。次の中から最も当てはまる番号を 1 つお選びください。
1. 農業・林業 11. 漁業
2. 鉱業・採石業・砂利採取業 12. 建設業
3. 製造業 13. 電気・ガス・熱供給・水道業
4. 情報通信業 14. 運輸業・郵便業
5. 卸売業・小売業 15. 金融業・保険業
6. 不動産業・物品賃貸業 16. 学術研究・専門技術サービス業
7. 宿泊業・飲食サービス業 17. 生活関連サービス業・娯楽業
8. 教育・学習支援業 18. 医療・福祉
9. 複合サービス業 19. サービス業(他に分類されないもの)
10. 公務(他に分類されるものを除く) 20. その他(具体的に:)
- Q4. 昨年度（令和2年4月入社）に採用された人数について、該当する番号を 1 つお選びください。
（支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします） 番号でご回答ください
1. 0人 3. 5～9人 5. 20人以上
2. 1～4人 4. 10～19人
- Q5. 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を 1 つお選びください。
1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う
- Q6. 今後、人材の採用にあたり、どのような出身学歴（最終学歴）の方の採用をお考えですか。
「採用対象となる」と思われる番号を第2位までお選びください。
1. 大学院
2. 大学 第1位
3. 短期大学
4. 専門学校
5. 高等学校 第2位
6. 学歴不問
7. その他（ ）

⇨ 裏面へお進みください ⇨

Q7. 人材を採用する際に、貴社ではどのようなことを重視していますか。
該当する番号を第2位までお選びください。

1. 必要な専門的知識・技術があること
2. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
3. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること
4. あらゆる場面で柔軟な対応ができること
5. 積極的に自立していること
6. 幅広い知識・教養を備えていること
7. 学び続ける探究心をもっていること
8. 意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること
9. 自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること
10. その他（具体的に: _____)

第1位

第2位

〔ここからは、同封の「神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要」リーフレットを〕
ご覧になりながらお答えください

Q8. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他（具体的に: _____)

Q9. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の特徴や目指している事柄の中で、興味のあるものはどれですか。あてはまる番号を第2位までお選びください。

1. 多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している
2. 地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している
3. データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している
4. 心理学を基幹としたカリキュラムを編成している
5. 心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる
6. その他（具体的に: _____)

第1位

第2位

Q10. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）卒業生の採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2を選ばれた方はQ11へお進みください。
3を選ばれた方はQ12へお進みください。

Q11. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. 人数は未確定

番号でご回答ください

Q12. 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の設置計画について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

学校法人行吉学園 神戸女子大学 学園企画部（担当：三嶋）

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2 電話：(078) 303-4814

計画概要

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

学科の概要

開設時期：2022年4月
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2
 修業年限：4年
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定
 取得学位：学士（心理学）※予定
 取得資格：認定心理士、情報処理士等
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

設置の理念

情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、興味のある進路に向けて、以下のような履修モデルがあります。



<臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

<経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

<メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

<心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

アクセス

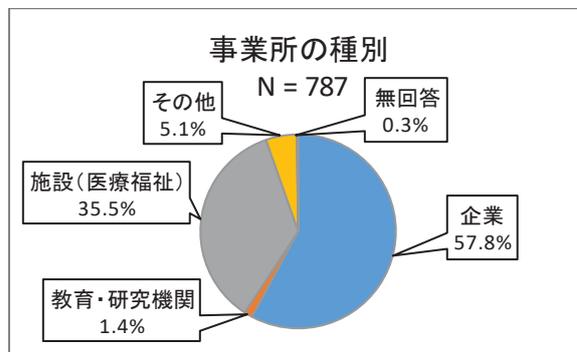


上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

單純集計表

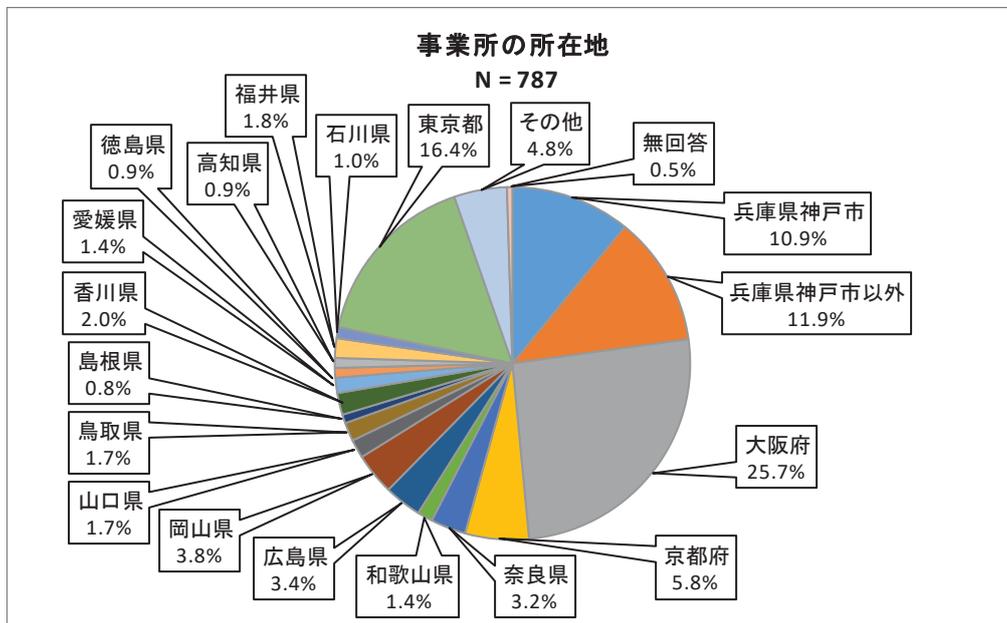
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (% [^] - ^ス)	787	100



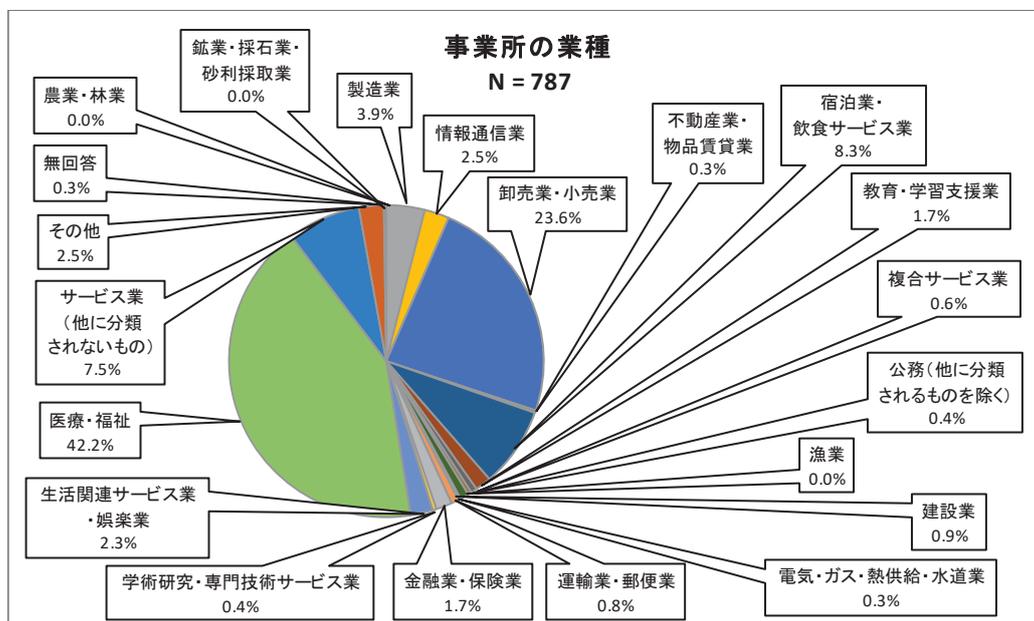
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



事業所の業種

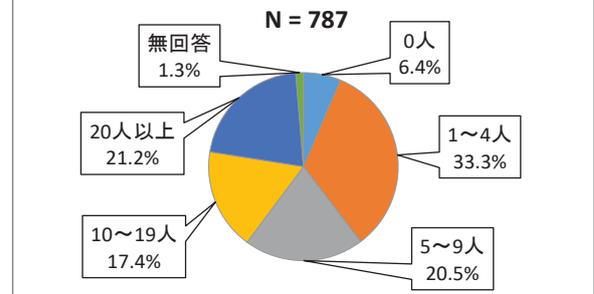
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	0	0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
3	製造業	31	3.9
4	情報通信業	20	2.5
5	卸売業・小売業	186	23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2	0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65	8.3
8	教育・学習支援業	13	1.7
9	複合サービス業	5	0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3	0.4
11	漁業	0	0.0
12	建設業	7	0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3
14	運輸業・郵便業	6	0.8
15	金融業・保険業	13	1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3	0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18	2.3
18	医療・福祉	332	42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59	7.5
20	その他	20	2.5
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	787	100



昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1～4人	262	33.3
3	5～9人	161	20.5
4	10～19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100

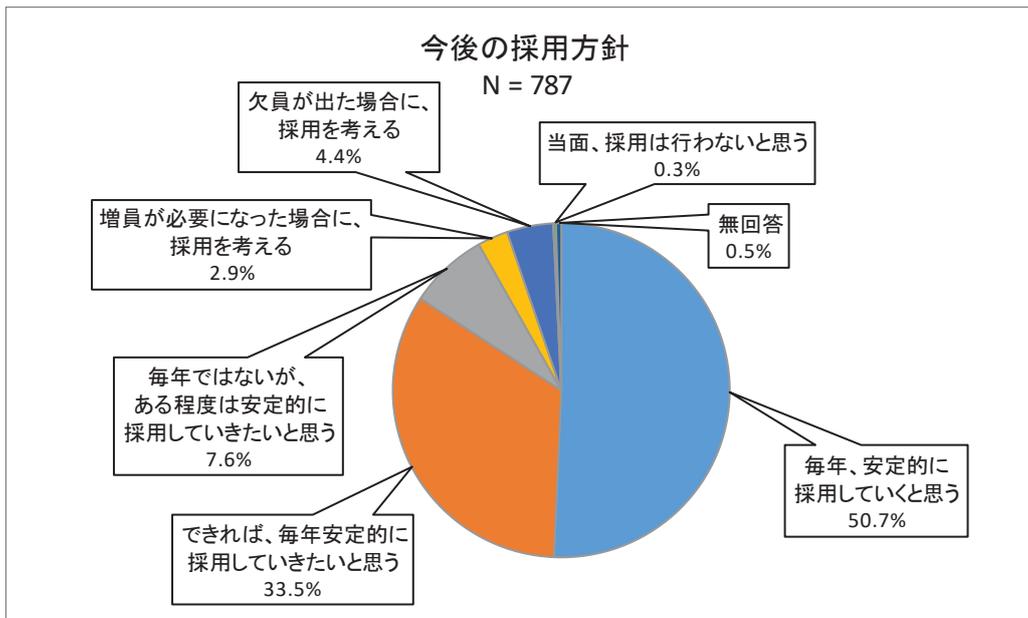
昨年度(令和2年4月入社)の採用人数



今後の採用方針

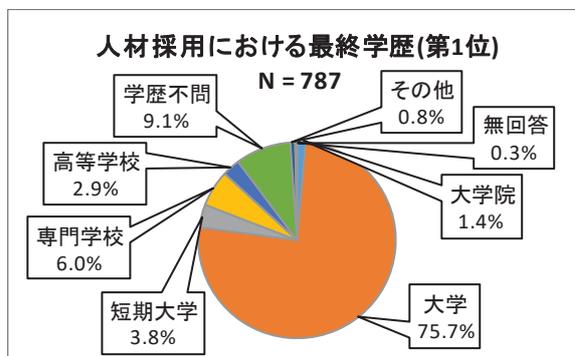
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100

今後の採用方針



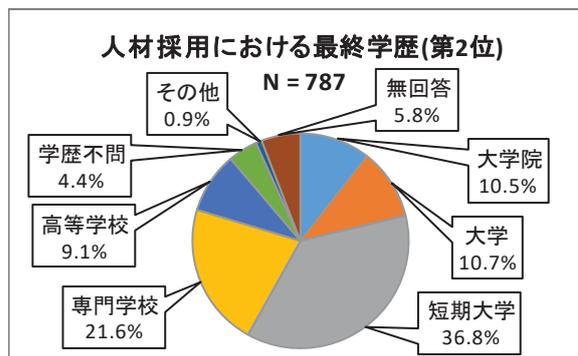
人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (% [^] -)	787	100



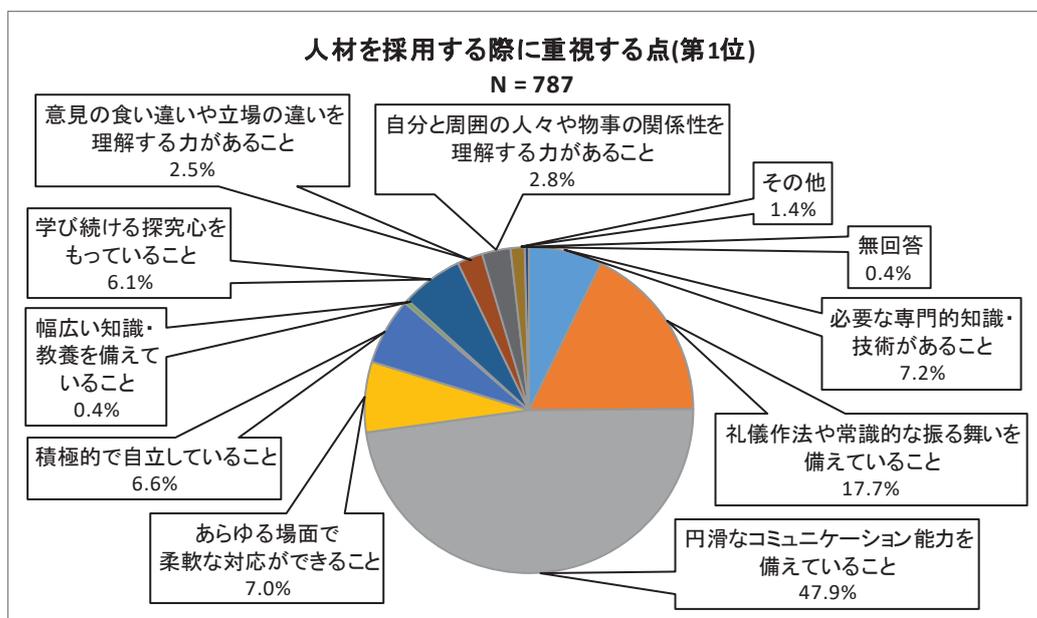
人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (% [^] -)	787	100



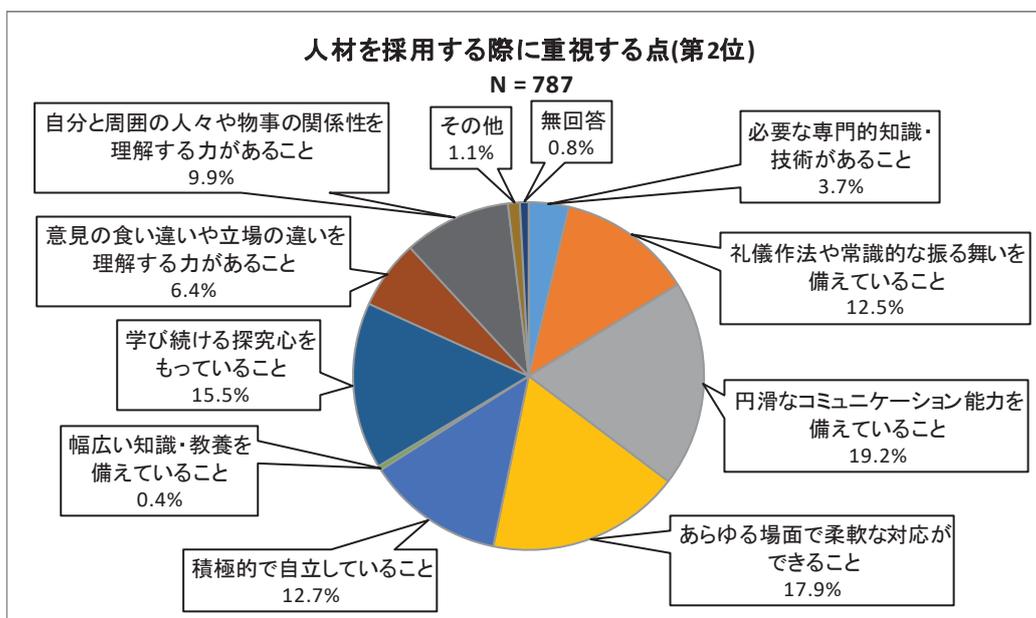
人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的で自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



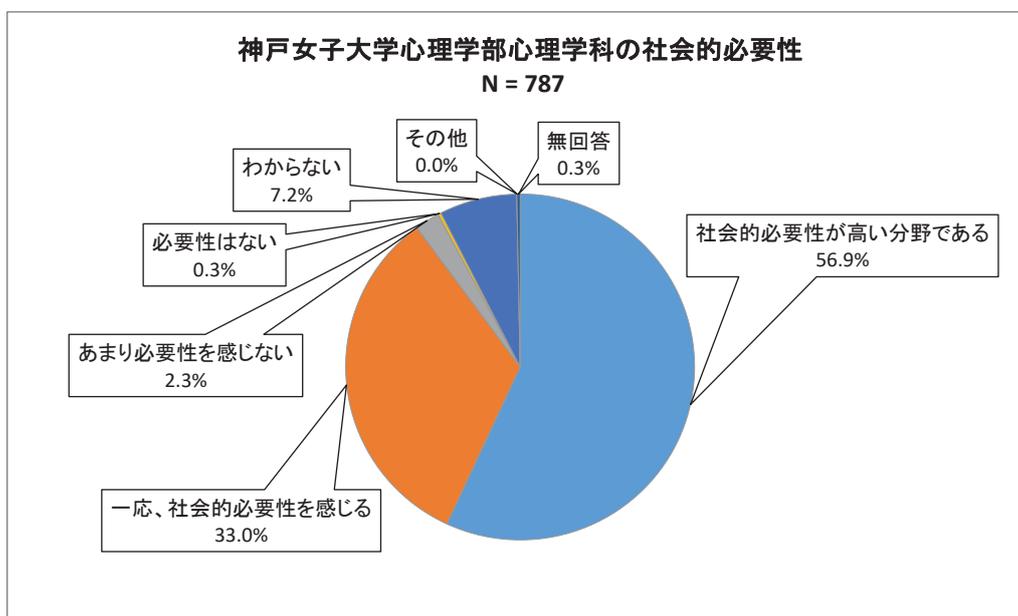
人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



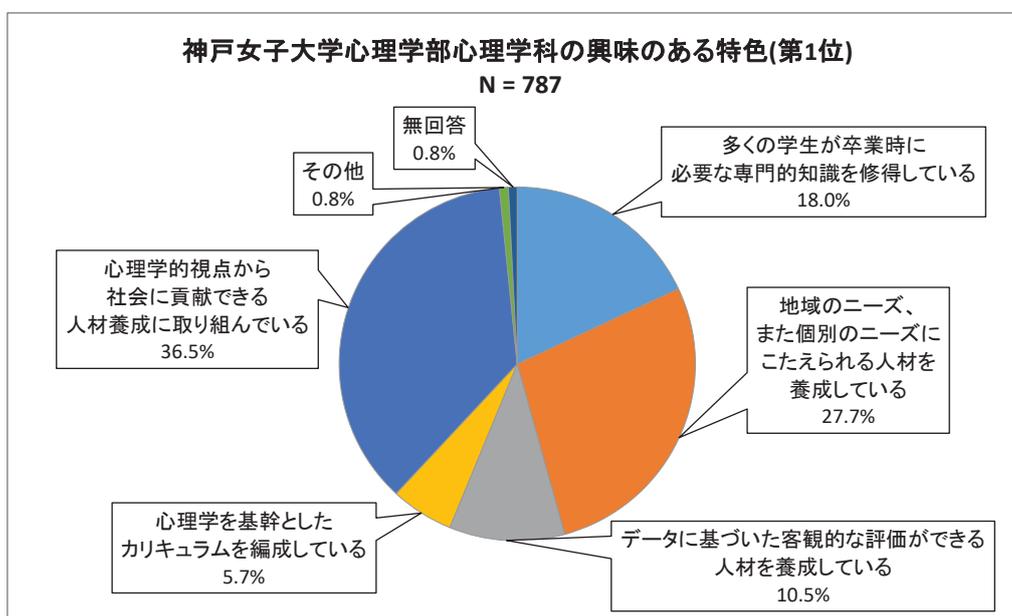
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100



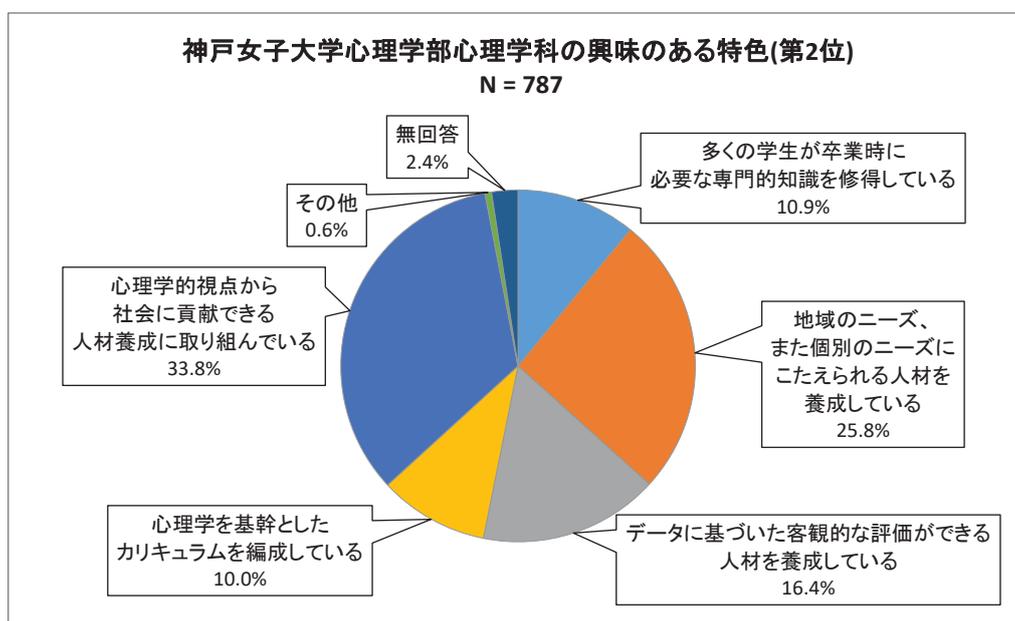
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



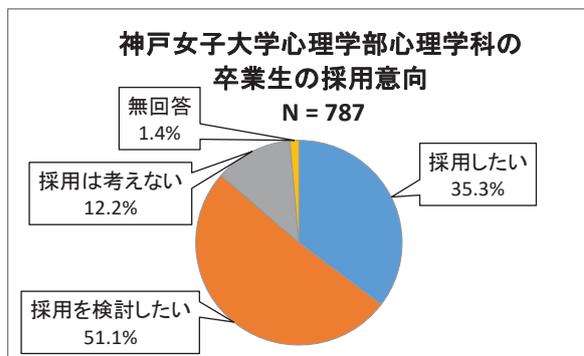
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100



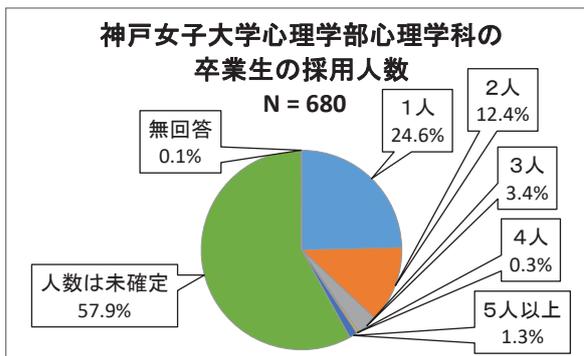
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	278	35.3
2	採用を検討したい	402	51.1
3	採用は考えない	96	12.2
	無回答	11	1.4
	N (%ベース)	787	100



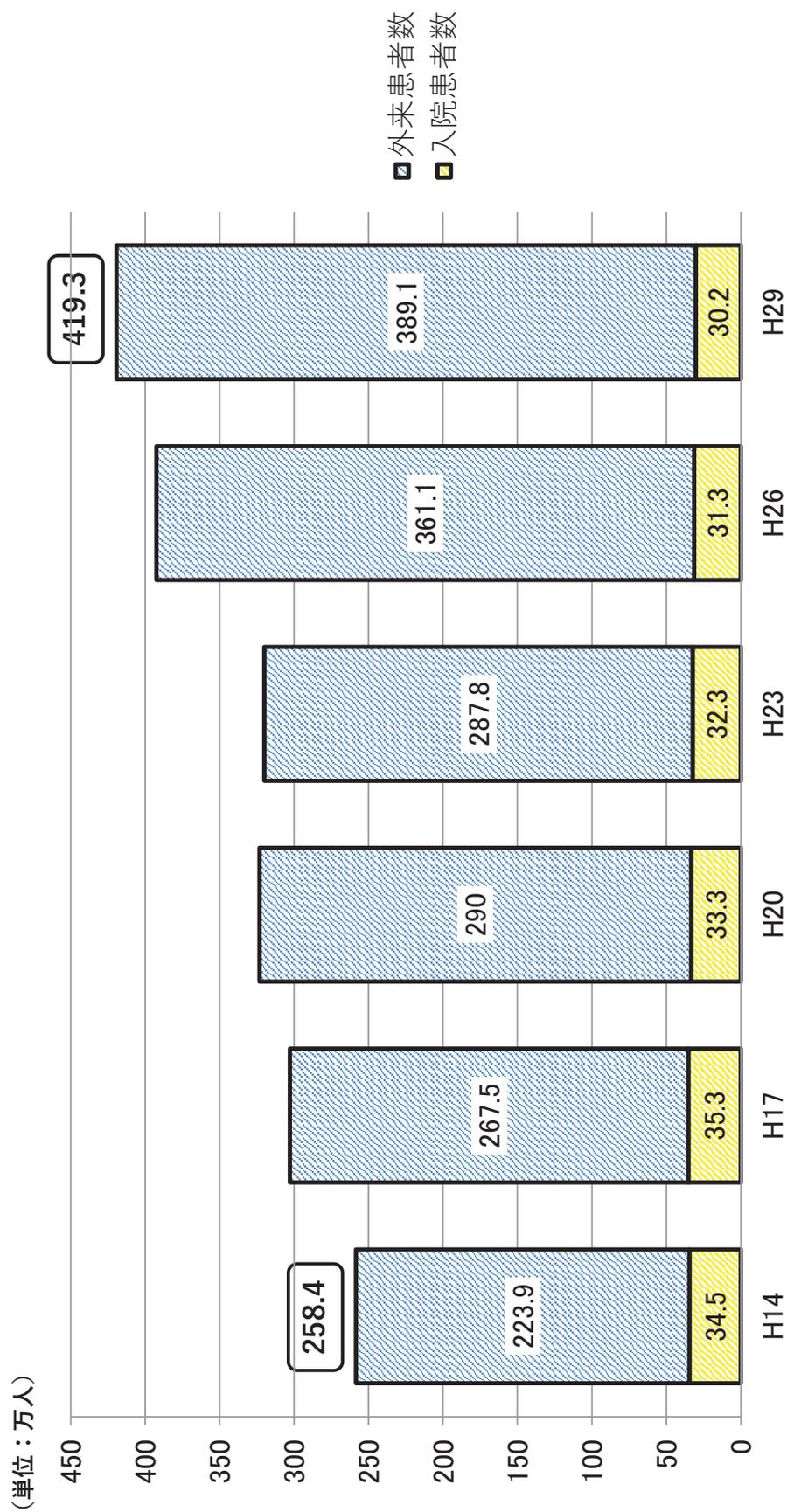
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	167	24.6
2	2人	84	12.4
3	3人	23	3.4
4	4人	2	0.3
5	5人以上	9	1.3
6	人数は未確定	394	57.9
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	680	100



精神疾患を有する患者数の推移

- 精神疾患を有する総患者数は約419.3万人であり、増加傾向である。
- 入院患者数は過去15年間で減少傾向である一方、外来患者数は増加傾向である。



※H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている

資料：厚生労働省「患者調査」より
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課で作成

児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

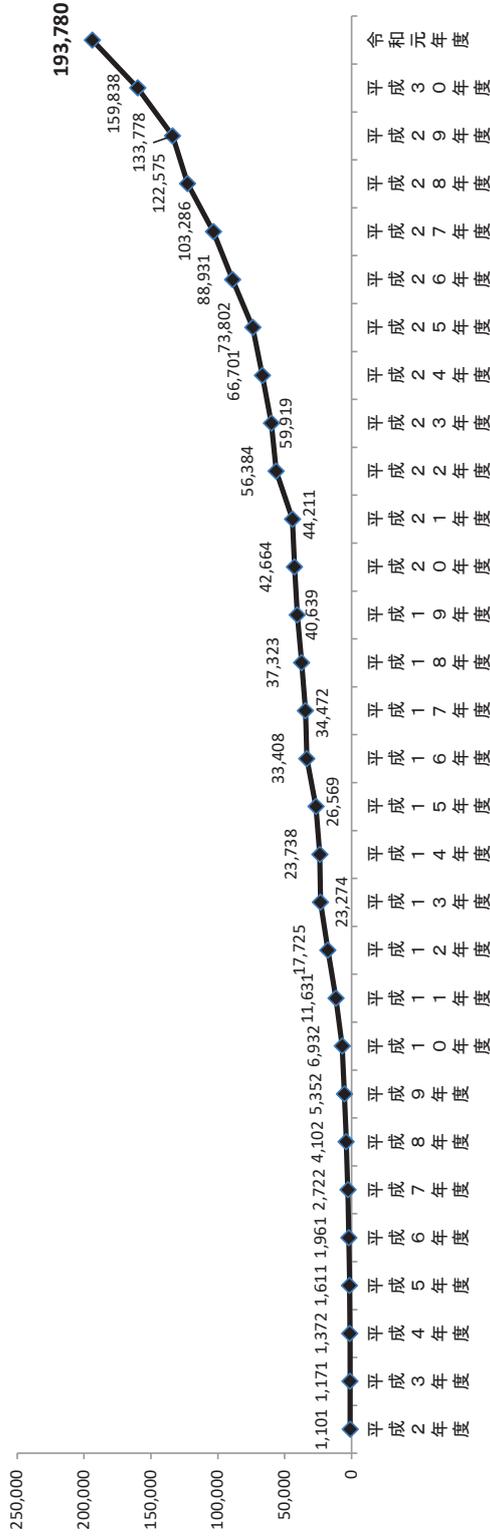
1. 令和元年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

令和元年度中に、全国215か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は193,780件で、過去最多。

※ 対前年度比+21.2% (33,942件の増加)

※ 相談対応件数とは、令和元年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

2. 児童虐待相談対応件数の推移



年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	42,664	44,211	注 56,384	59,919	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	133,778	159,838	193,780
対前年度比	+5.0%	+3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%

(注) 平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加 (平成30年度：88,391件→令和元年度：109,118件 (+20,727件))
 - 警察等からの通告の増加 (平成30年度：79,138件→令和元年度：96,473件 (+17,335件))
- (平成30年度と比して児童虐待相談対応件数が大幅に増加した自治体からの聞き取り)
- 心理的虐待が増加した要因として、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力がある事案 (面前DV) について、警察からの通告が増加。

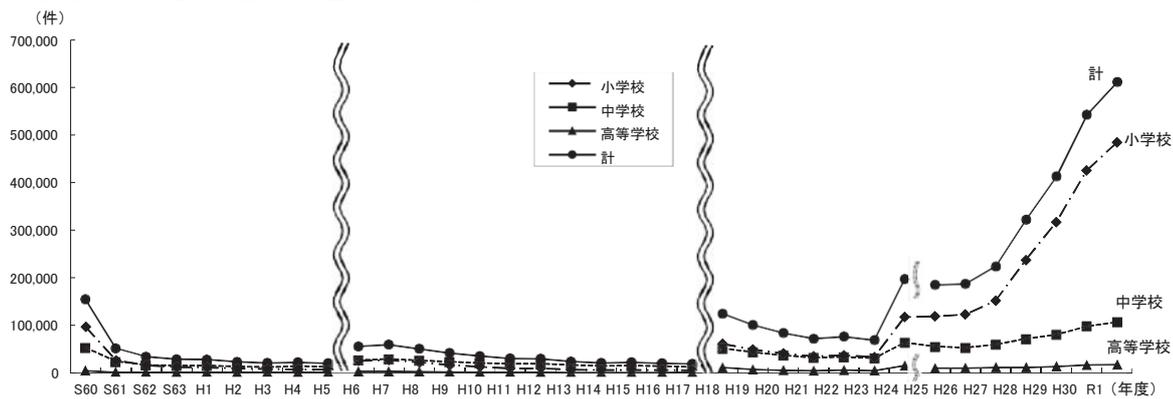
厚生労働省 「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」より

新プランの目標

	計画期間(2019年度から2022年度まで) ※保健師については2020年度を目標とする。			
	2017年度実績		配置目標	増員数
【児童相談所】				
児童福祉司	3,240 人	→	5,260 人	+ 2,020 人程度
うち スーパーバイザー	620 人	→	920 人	+ 300 人程度
うち 里親養育支援児童福祉司			各児童相談所	—
うち 市町村支援児童福祉司			都道府県:30市町村に1人 指定都市:1人	—
児童心理司	1,360 人	→	2,150 人 ^{【注3】}	+ 790 人程度
保健師 ^{【注1】}	100 人 ^{【注2】}	→	各児童相談所 (2020年度まで)	+ 110 人程度
合計	4,690 人	→	7,620 人	+ 2,930 人程度
【市町村、要対協調整機関】				
子ども家庭総合支援拠点 (2018年2月実績)	106 市町村	→	全市町村	—
要対協調整機関調整担当者 (2018年2月実績)	988 市町村	→	全市町村	—
【注1】「保健師」については、児童福祉法の規定上は「医師又は保健師」とされている。				
【注2】複数人配置している児童相談所の人数を含めると、140人				
【注3】2024年度までに2,500人				
【注4】進捗状況等を踏まえ、必要に応じて目標の前倒し等の見直しを行うことがあり得る。				

「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」より

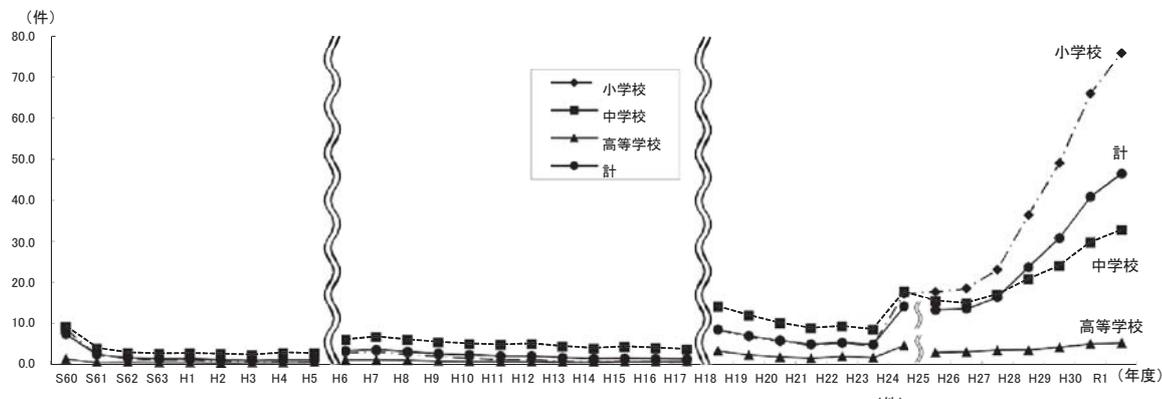
<参考1> いじめの認知(発生)件数の推移



	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
小学校	96,457	26,306	15,727	12,122	11,350	9,035	7,718	7,300	6,390			
中学校	52,891	23,690	16,796	15,452	15,215	13,121	11,922	13,632	12,817			
高等学校	5,718	2,614	2,544	2,212	2,523	2,152	2,422	2,326	2,391			
計	155,066	52,610	35,067	29,786	29,088	24,308	22,062	23,258	21,598			
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	25,295	26,614	21,733	16,294	12,858	9,462	9,114	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087
中学校	26,828	29,069	25,862	23,234	20,801	19,383	19,371	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794
高等学校	4,253	4,184	3,771	3,103	2,576	2,391	2,327	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191
特殊教育諸学校	225	229	178	159	161	123	106	77	78	71	84	71
計	56,601	60,096	51,544	42,790	36,396	31,359	30,918	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	60,897	48,896	40,807	34,766	36,909	33,124	117,384	118,748	122,734	151,692	237,256	317,121
中学校	51,310	43,505	36,795	32,111	33,323	30,749	63,634	55,248	52,971	59,502	71,309	80,424
高等学校	12,307	8,355	6,737	5,642	7,018	6,020	16,274	11,039	11,404	12,664	12,874	14,789
特別支援学校(特殊教育諸学校)	384	341	309	259	380	338	817	768	963	1,274	1,704	2,044
計	124,898	101,097	84,648	72,778	77,630	70,231	198,109	185,803	188,072	225,132	323,143	414,378
	30年度	R元年度										
小学校	425,844	484,545										
中学校	97,704	106,524										
高等学校	17,709	18,352										
特別支援学校	2,676	3,075										
計	543,933	612,496										

(注1) 平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。
 (注2) 平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。
 (注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。
 (注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。
 (注5) 小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

<参考2> いじめの認知(発生)率の推移(1,000人当たりの認知件数)



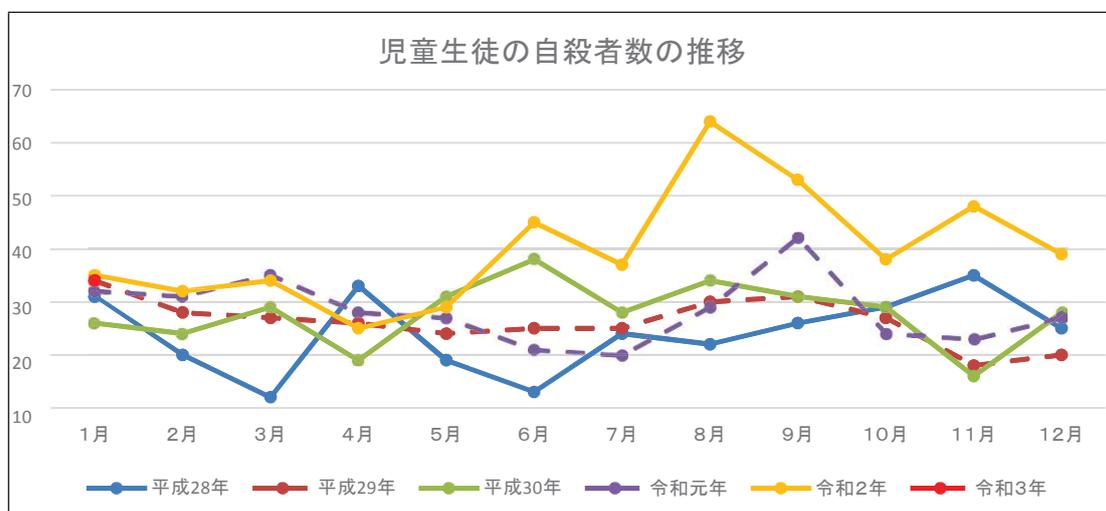
	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度			
小学校	8.8	2.5	1.6	1.2	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7			
中学校	9.2	4.0	2.9	2.7	2.8	2.6	2.4	2.9	2.8			
高等学校	1.5	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.7			
計	7.6	2.6	1.8	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3			
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	3.0	3.2	2.7	2.1	1.7	1.3	1.3	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7
中学校	6.1	6.8	6.1	5.5	5.1	4.9	5.1	4.5	4.0	4.4	4.1	3.8
高等学校	1.3	1.3	1.2	1.0	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
特殊教育諸学校	2.6	2.6	2.1	1.8	1.8	1.4	1.2	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7
計	3.5	3.8	3.3	2.8	2.5	2.2	2.2	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	8.5	6.9	5.7	4.9	5.3	4.8	17.4	17.8	18.6	23.2	36.5	49.1
中学校	14.2	12.0	10.2	8.9	9.4	8.6	17.8	15.6	15.0	17.1	20.8	24.0
高等学校	3.5	2.5	2.0	1.7	2.1	1.8	4.8	3.1	3.2	3.6	3.7	4.3
特別支援学校(特殊教育諸学校)	3.7	3.2	2.8	2.2	3.1	2.7	6.4	5.9	7.3	9.4	12.4	14.5
計	8.7	7.1	6.0	5.1	5.5	5.0	14.3	13.4	13.7	16.5	23.8	30.9
	30年度	R元年度										
小学校	66.0	75.8										
中学校	29.8	32.8										
高等学校	5.2	5.4										
特別支援学校	19.0	21.7										
計	40.9	46.5										

(注1) 平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。
 (注2) 平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。
 (注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。
 (注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。
 (注5) 小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」より

厚生労働省の自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移



児童生徒の月別自殺者数の総数(小・中・高)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
令和元年	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
令和2年	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
令和3年	34												34

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
H28	総数	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
	小学生	3	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1	1	12
	中学生	8	6	3	9	3	2	5	10	5	10	9	11	81
	高校生	20	13	9	23	15	11	17	12	20	18	25	13	196
H29	総数	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
	小学生	1	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	1	9
	中学生	9	9	9	7	6	5	11	10	8	10	6	10	100
	高校生	24	19	17	19	16	19	12	19	23	17	12	9	206
H30	総数	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
	小学生	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	6
	中学生	11	8	7	2	6	7	11	15	11	9	7	15	109
	高校生	13	16	22	16	25	31	17	18	20	20	7	13	218
R1	総数	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
	小学生	0	0	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	6
	中学生	11	7	10	7	5	6	6	10	12	2	9	11	96
	高校生	21	24	22	20	22	15	13	19	29	22	14	16	237
R2	総数	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
	小学生	2	1	1	1	0	1	0	1	2	1	3	1	14
	中学生	12	14	9	7	6	17	9	17	14	9	6	16	136
	高校生	21	17	24	17	23	27	28	46	37	28	39	22	329
R3	総数	34												34
	小学生	0												0
	中学生	9												9
	高校生	25												25

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

文部科学省「令和2年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」より

3 メンタルヘルス対策に関する事項

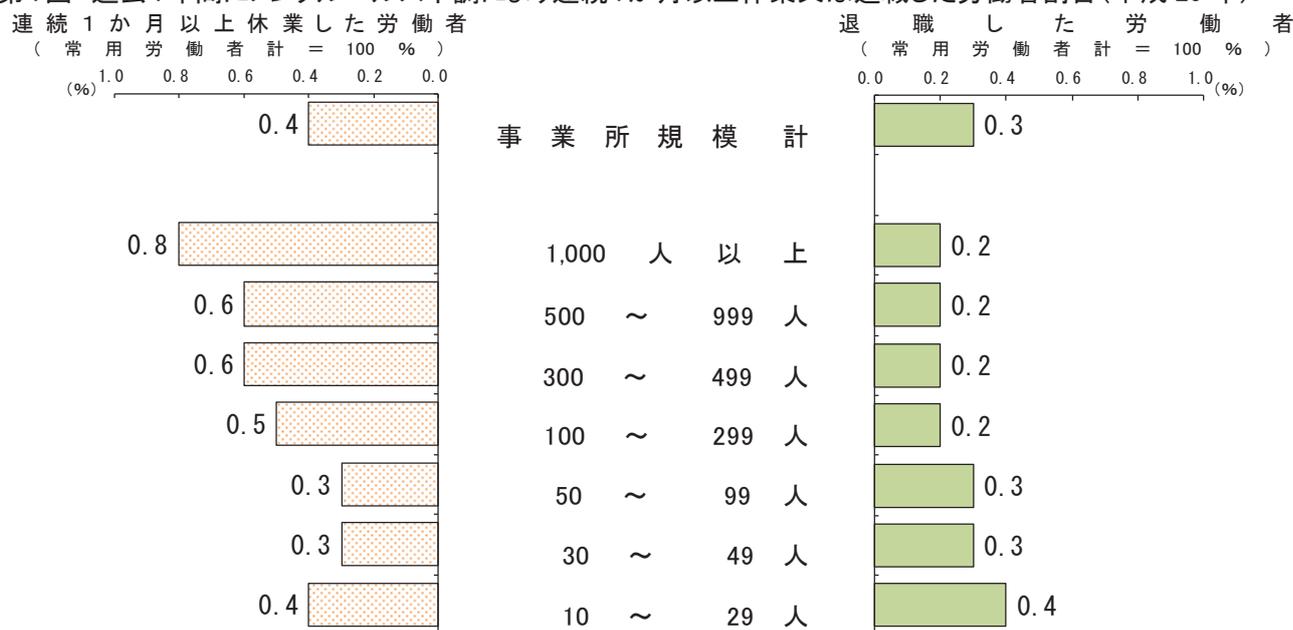
(1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者の状況

過去1年間(平成28年11月1日から平成29年10月31日までの期間。以下同じ。)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者を除く。以下、本項では同じ。)の割合は0.4%[平成28年調査0.4%]、退職した労働者の割合は0.3%[同0.2%]となっている。

事業所規模別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「1,000人以上」が0.8%と最も高く、退職した労働者は「10～29人」が0.4%と最も高くなっている。

産業別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「情報通信業」及び「金融業、保険業」が1.2%と最も高く、退職した労働者は「運輸業、郵便業」が0.5%と最も高くなっている。(第1図、第4表)

第1図 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合(平成29年)



注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

第4表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合
(単位:%)

区分	連続1か月以上休業した労働者	退職した労働者
平成29年	0.4	0.3
(産業)		
農業, 林業 (林業に限る。)	0.2	0.1
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.2	0.1
建設業	0.4	0.3
製造業	0.5	0.2
電気・ガス・熱供給・水道業	0.9	0.1
情報通信業	1.2	0.3
運輸業, 郵便業	0.3	0.5
卸売業, 小売業	0.4	0.3
金融業, 保険業	1.2	0.3
不動産業, 物品賃貸業	0.4	0.3
学術研究, 専門・技術サービス業	0.5	0.1
宿泊業, 飲食サービス業	0.3	0.2
生活関連サービス業, 娯楽業	0.2	0.3
教育, 学習支援業	0.3	0.2
医療, 福祉	0.4	0.3
複合サービス事業	0.8	0.2
サービス業 (他に分類されないもの)	0.3	0.4
平成28年	0.4	0.2

注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、「退職した労働者」のみに計上している。

結果の概要

【事業所調査】

1 メンタルヘルス対策に関する事項

(1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者がいる事業所の状況

過去1年間(平成29年11月1日から平成30年10月31日までの期間)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は6.7%、退職者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は5.8%となっている(第1表)。

第1表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業
又は退職した労働者数階級別事業所割合

区 分	事業所計	該当する労働者の人数				(単位:%)
		該当する労働者がいた	1人	2人	3人	
連続1か月以上の休業者 1)	100.0	6.7	4.6	1.0	0.5	0.1
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	91.9	1.7	5.2	4.8	4.6
500～999人	100.0	76.8	14.2	13.2	8.5	5.8
300～499人	100.0	65.6	20.9	14.8	6.2	5.1
100～299人	100.0	37.4	22.8	5.9	5.0	1.2
50～99人	100.0	14.6	10.4	3.1	0.9	-
30～49人	100.0	7.1	5.9	0.9	0.2	-
10～29人	100.0	2.4	2.2	0.2	0.0	-
(再掲)50人以上	100.0	26.4	14.8	4.8	2.7	0.8
退職者 1)2)	100.0	5.8	4.2	1.0	0.3	0.1
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	70.3	19.2	12.5	11.4	3.3
500～999人	100.0	39.9	19.1	10.6	4.3	3.5
300～499人	100.0	31.1	17.1	7.1	1.4	2.5
100～299人	100.0	16.0	11.4	1.8	1.7	0.1
50～99人	100.0	10.6	7.2	1.3	0.9	0.5
30～49人	100.0	7.7	5.0	2.0	0.2	0.4
10～29人	100.0	3.6	2.9	0.5	0.1	0.0
(再掲)50人以上	100.0	14.6	9.4	2.1	1.4	0.6

区 分	該当する労働者の人数				該当する労働者がいなかった
	5人	6～9人	10～29人	30人以上	
連続1か月以上の休業者 1)	0.1	0.2	0.1	0.0	93.3
(事業所規模)					
1,000人以上	2.7	19.7	42.1	11.2	8.1
500～999人	8.0	18.7	8.4	-	23.2
300～499人	6.3	9.5	2.7	-	34.4
100～299人	0.6	1.5	0.4	-	62.6
50～99人	0.1	-	-	-	85.4
30～49人	-	-	-	-	92.9
10～29人	-	-	-	-	97.6
(再掲)50人以上	0.8	1.6	0.9	0.1	73.6
退職者 1)2)	0.1	0.1	0.0	0.0	94.2
(事業所規模)					
1,000人以上	5.1	9.9	8.1	0.9	29.7
500～999人	1.3	0.4	0.7	0.1	60.1
300～499人	0.9	0.9	0.6	0.5	68.9
100～299人	0.4	0.2	0.4	-	84.0
50～99人	0.3	0.4	-	-	89.4
30～49人	0.0	-	-	-	92.3
10～29人	-	-	-	-	96.4
(再掲)50人以上	0.5	0.5	0.3	0.0	85.4

注: 1) 「連続1か月以上の休業者」及び「退職者」には、受け入れている派遣労働者は含まれない。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、退職者のみに計上している。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	クハラ 伸公 栗原 伸公 <平成31年4月>		博士 (医学)		神戸女子大学 学長 (平成31.4～令和5.3)

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 心理学部 心理学科

1. 学生確保の見通しとして、高校生への入学意向アンケートの結果で「入学を希望する」と回答している学生が160人であること等を根拠として示しているが、入学意向の質問に回答している2,622人のうち、2,192人は受験意向を「分からない」と回答している者であり、入学意向を確認するには適当ではないと思われる者が多く含まれているため、学生確保の見通しがあるか判断できない。入学意向アンケートで示された数について、より詳細な分析を加える等、設定した定員について具体的な根拠を示すとともに、改めて長期的かつ安定的な学生確保の見通しについて説明すること。
（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

(是正事項) 心理学部 心理学科

1. 学生確保の見通しとして、高校生への入学意向アンケートの結果で「入学を希望する」と回答している学生が 160 人であること等を根拠として示しているが、入学意向の質問に回答している 2,622 人のうち、2,192 人は受験意向を「わからない」と回答している者であり、入学意向を確認するには適当ではないと思われる者が多く含まれているため、学生確保の見通しがあるか判断できない。入学意向アンケートで示された数について、より詳細な分析を加える等、設定した定員について具体的な根拠を示すとともに、改めて長期的かつ安定的な学生確保の見通しについて説明すること。

(対応)

審査意見の指摘を踏まえ、①高校生アンケートの入学意向者について説明を加えるとともに、②新たに実施したアンケート結果について説明し、③これらを含めて定員設定の妥当性及び長期的かつ安定的な学生確保の見通しについて改めて説明する。

① 高校生アンケートの入学意向者について

「学生確保の見通し等を記載した書類」で示した入学意向アンケートについては、令和 2 年 11 月から令和 3 年 3 月にかけて、高校 2 年生を対象に実施した。高等学校 129 校へ 19,844 人分のアンケートを送付し、77 校 8,107 人から有効回答を得た。

8,107 人のうち、進学を希望するのは 7,691 人である。そのうち、本学心理学部への関心を問う質問について、「興味・関心はない」、「無回答」を選択した者を除くと 4,935 人となる。

この 4,935 人に受験意向を調査したところ、「受験してみたい」が 69 人 (1.4%)、「受験先として検討したい」が 361 人 (7.3%)、「わからない」が 2,192 人 (44.4%) であった。

この 3 つの選択肢を選んだ合計 2,622 人に対し、本学心理学部に合格した場合の入学意向を調査したところ、「入学を希望する」が 160 人 (6.1%)、「入学を検討する」が 928 人 (35.4%) であり、合計 1,088 人 (41.5%) の入学意向が確認できた。

ご指摘のこの入学意向者には、受験意向における「わからない」が含まれているため、これを除いた「受験してみたい」69 人、「受験先として検討したい」361 人の合計 430 人における入学意向を集計すると、「入学を希望する」が 78 人 (18.1%)、「入学を検討する」が 268 人 (62.3%) となり、「入学を希望する」だけを捉えると、入学定員 80 人に対してわずかに足りない。

ただし、受験意向の調査で 44.4%を占める「わからない」について、リクルートの調査(カレッジマネジメント 219: 進路の意思決定を科学する)によると、大学進学者のうち高校 2 年生終了までに第一志望の学校を決めた割合は 24.3%しかおらず、75%以上の高校生が第一志望を決めていないこと、また特に令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で多くの大学のオープンキャンパスが対面で実施できていないことを考えると、「わからない」と曖昧な回答を選ぶ高校生が多いことも理解でき、この層からも志願者の積み上げは十分考

えられる。

しかしながら、入学者確保について、受験年度となる今年度にさらに明確な根拠を得たいと考え、調査（高校生アンケート）を新たに実施した。

② 新たに実施したアンケート結果について

新たなアンケートは令和 3 年 5 月に実施した。より確度の高い入学意向者数を調査するため、神戸女子大学に資料請求を行った高校生（心理学科の母体となる文学部志望者を中心に抽出）、及び(株)進研アドに対し文学系統の資料請求を行った高校生のうち、高校 3 年生の女子を対象にアンケートを郵送し、(株)進研アドが回収し集計を行う方法で実施した。6,603 人へアンケート用紙と学科パンフレットを送付し、1,474 人（22.3%）から回答を得た。

このアンケートでは、曖昧さを排除するため、受験意向及び入学意向を問う際に、「わからない」等の不明確な選択肢をなくして実施した。

以下に第三者機関である(株)進研アド作成のアンケート報告(意見対応資料 1)に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。

・ 回答者の属性等について

回答者の属性（高校所在地）を調査した結果、アンケート回答者 1,474 人のうち「兵庫県」が 578 人（39.2%）と最も多く、次いで「大阪府」319 人（21.6%）、「京都府」88 人（6.0%）となった。通学圏内であるこの 2 府 1 県からの回答者が 985 人（66.8%）を占めた。

また、所属しているクラスは、多い順に「文系クラス」が 912 人（61.9%）、「理系クラス」が 244 人（16.6%）、「コース選択はない」が 164 人（11.1%）であった。

高校卒業後の進路（複数回答可）は、多い順に「私立大学に進学」が 1,097 人（74.4%）、「国公立大学に進学」が 504 人（34.2%）、「専門学校・専修学校に進学」が 149 人（10.1%）であった。

これら回答者の高校所在地、所属クラス、高校卒業後の進路の状況から、本学への入学確度の高い層へアンケートが実施できたと考えている。

・ 興味ある学問系統について

興味のある学問系統を調査した結果、アンケート回答者 1,474 人のうち神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が 433 人（29.4%）でもっとも多く、次いで生活科学（食物・栄養学、被服学、児童学などを含む）346 人（23.5%）、3 番目が教員養成・教育学 342 人（23.2%）であった。

・ 神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について

受験意向について調査した結果、アンケート回答者 1,474 人のうち、「受験したいと思う」は 430 人 (29.2%)、「受験したいと思わない」は 1,035 人 (70.2%)、「無回答」は 9 人 (0.6%) であった。受験意向者 430 人は、入学定員 80 人の 5.3 倍の水準である。

・神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について

上記の受験意向を示した 430 人に対し、合格した場合の入学意向を調査した結果、「入学したいと思う」は 385 人 (89.5%)、「入学したいと思わない」は 42 人 (9.8%)、「無回答」は 3 人 (0.7%) であった。入学意向者 385 人は、入学定員 80 人の 4.8 倍の水準である。

これらの結果から、また未回収者をはじめとして今後の PR 活動の強化で更なる受験意向者、入学意向者の積み上げも考えられることから、入学定員 80 人の充足は十分に見込めると判断している。

③ 定員設定の妥当性及び長期的かつ安定的な学生確保の見通しについて

(入学定員設定の考え方)

心理学部心理学科の入学定員 (80 人) は、基礎となる学科 (教育学科及び国際教養学科) の志願者動向が順調であること (意見対応資料 2)、本学の学科ごとの平均入学定員が 86.5 名 (入学定員合計 865 名、既存学科数 10) であり、本学では標準的な規模となること、心理学科設置に伴い 1 年先行して減員する短期大学の入学定員 (3 学科合計でマイナス 100 名) の範囲内であること、後述する競合が見込まれる他大学 5 校の入学定員の平均 94 名 (意見対応資料 3) と同程度以内の規模であることから設定した。

既存学科の定員充足率を見ても、定員の規模で充足率に偏りはなく (意見対応資料 4) 問題のない設定と考えている。

また、令和 3 年 5 月に実施した高校生アンケートでは、定員の 4.8 倍の入学意向者を確認できており、設定した入学定員 80 人の充足は十分に見込めると考えている。

さらに、後述する企業等の人材需要アンケートにおいても、「採用したい」人数は定員の 5.2 倍となっており、定員 80 人に対する人材需要に懸念はないと考えている。

(地域の状況)

心理学部心理学科を設置するポートアイランドキャンパスは、神戸市の中心部に位置し、大阪市内、姫路市内とも十分通学圏にある。

平成 27 年の国勢調査によると、令和 4 年度の 18 歳人口は 10 年後に 10.0%減少すると示されているが、本学の主な通学圏である大阪～姫路の瀬戸内海沿い (神戸市、大阪市、尼崎市、西宮市、芦屋市、明石市、加古川市、姫路市) の 18 歳女子は、同期間で 5.4%の減少に留まる (意見対応資料 5)。

また、学校基本調査によると、全国の女子の大学等進学率は、平成 30 年の 57.68%が令

和 2 年は 58.32%と、この間に 0.64%増えているのに対し、大阪府は平成 30 年 61.60%、令和 2 年 63.72%とこの間に 2.12%増えている。同じく兵庫県は平成 30 年 64.62%、令和 2 年 65.44%とこの間に 0.82%増えている。大阪府、兵庫県ともに全国を上回って進学率が上昇している（意見対応資料 6）。

これらのことから、今後 10 年で主な通学圏内の 18 歳女子の人口は 5.4%減少するものの、全国と比較して減少は小幅に留まり、また、進学率はもともと非常に高い地域であるが、さらに全国を上回って上昇していることから、中期的に見ても学生募集環境に懸念が大きいとは考えていない。

（本学既設学科の状況）

本学の直近 4 年の志願状況について、大学全体の志願倍率は 7.48 倍から 10.04 倍と、十分な志願者を確保している（意見対応資料 7）。

学科別にみても、最も低い学科でも 4 年間の平均志願倍率は 4.60 倍、最も高い学科は 18.76 倍となっており、十分な水準となっている。

定員充足状況は、4 年間の平均定員充足率で、10 学科のうち、国際教養学科と社会福祉学科を除く 8 学科は、0.96 倍～1.11 倍となっており、定員管理を厳格に行いながら健全な運営ができています。

国際教養学科は、4 年間の平均定員充足率は 1.41 倍となっている。ただし、これについては定員増の認可申請を行い、令和 3 年度より入学定員を 60 名に増員している。

社会福祉学科は、4 年間の平均定員充足率が 0.89 倍と唯一 0.90 倍をわずかに下回っているが、本学の社会福祉士国家試験の合格率は全国平均を大きく上回っており、平成 30 年度 78.6%（全国平均 29.9%）、令和元年度 80.5%（全国平均 29.3%）、令和 2 年度 57.4%（全国平均 29.3%）の実績を残している。令和 2 年度はコロナ禍により対面による受験指導ができず、例年ほどの結果には至らなかったが、この実績をもとに学生募集を強化する。

（心理学系統の状況）

心理学関係の資格としては、従来から「認定心理士」や「臨床心理士」など学会等が認定するものが運用されてきている。しかしながら、複雑化する社会の中で心理的問題を抱えた人々に対するカウンセリングや心理療法、心理検査などに対する需要が高まり、それらを行える臨床心理の専門家を育成するための信頼できる体制の確立が求められるようになったため、平成 27 年に「公認心理師」が国家資格として制度化された。時代の要請に応じて誕生した「公認心理師」は、年間 7,000 人以上が試験に合格しており、複雑で多様化する社会や人間関係の中で、今後ますます活躍が期待されている（意見対応資料 8）。

このような状況を受け、心理学系統の志願状況は好調に推移している。日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、心理学部の志願者は、平成 28 年度から令和 2 年度にかけて約 2 倍（96%増）に増加している。この増加率は、同資

料で同期間の比較が可能な 90 学部のうち 7 番目の伸び率であり、人文科学系 12 学部の中では最も高い伸び率である。

同期間に定員も 35% 増えているが、志願者の伸びがそれを上回り、志願倍率は、平成 28 年度の 6.85 倍が令和 2 年度は 9.95 倍となっている。また、定員充足率は平成 28 年度が 1.00 倍、令和 2 年度が 1.04 倍と安定している（意見対応資料 9）。

（競合する他大学の状況等）

競合校については、令和 2 年 9 月のベネッセ模試のデータを活用し、本学文学部を第 1 志望にしている高校 3 年生が、他に候補としている大学を集計し、10 名以上が本学と併願を考えている大学を抽出した。そこから、女子大学で、かつ、心理学系統の学科を設置している大学 5 校（武庫川女子大学、甲南女子大学、神戸女学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学）を主な競合校として選定した。

これらの大学の心理学系統の学科について、募集状況を見てみる（意見対応資料 3）。直近 3 年間の入試結果が得られる旺文社大学受験パスナビ入試結果によると、志願倍率は、平成 30 年度が 4.06 倍～15.32 倍で 5 校合計は 10.03 倍、令和元年度が、4.35 倍～19.07 倍で 5 校合計は 11.05 倍、令和 2 年度は 4.91 倍～19.77 倍で 5 校合計は 12.35 倍と順調に推移している。5 校合計の志願倍率は、上述した令和 2 年度の日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の心理学部における志願倍率 9.95 倍を上回っており、好調な全国の状況をさらに上回っている環境にある。

定員充足状況は、直近の令和 2 年度の定員充足率は 1.04 倍～1.26 倍と 5 校すべてで 1.00 倍を上回っており、また、5 校合計では 1.12 倍と、順調な状況である。神戸親和女子大学のみ、平成 30 年、令和元年度に定員充足率が 1.00 倍を下回っているが、心理学系統の志願者人気の高まりと、公認心理師の受験資格に対応したカリキュラム設定により、令和 2 年度には定員を充足したと考えられる。また、神戸親和女子大学を除く競合 4 校はすべて大阪から神戸のいわゆる阪神間に位置しているが、神戸親和女子大学は、神戸市の中心である三宮から北西に位置するため、学生の通学圏に違いがあるものと考えられる。

本学の心理学部心理学科は、公認心理師の受験資格に対応したカリキュラムを設定し、また神戸の中心部で開設するため、上記のような募集上の懸念は少ないものと考えている。

さらに、神戸の中心に位置しながら、阪神間の競合 4 校との比較では、最も西に設置することになるため、兵庫県第 2 の都市である姫路市、子育て支援施策の充実により人口増となっている明石市などから、最も有利に学生を募集できるものと考えている（意見対応資料 10）。

競合校 5 校の直近の志願者合計 5,807 名に対し、入学者が 529 名であることを考えても、心理学系統の志望者の受け皿として、本学心理学部心理学科の入学定員 80 名は十分に需要があると考えられる。

(企業等の人材需要)

神戸女子大学卒業生を採用した実績のある企業等 2,786 社に対しアンケートを行った結果、787 件の回答を得た(意見対応資料 11)。回答先を業種別に見ると、多い順に「医療・福祉」が 332 件(42.2%)、「卸売業・小売業」が 186 件(23.6%)、「宿泊業・飲食サービス業」が 65 件(8.3%)となっており、心理学との関わりの深い「医療・福祉」分野の関心が高いことがうかがえる。

この 787 件のうち、心理学科について「社会的必要性が高い分野である」と回答した先が 448 件(56.9%)、「一応、社会的必要性を感じる」260 件(33.0%)と、708 件(90.0%)が肯定的であった。また、採用意向について、「採用したい」と回答した 278 件の採用人数を集計すると 417 人となり、定員の 5.2 倍の水準であった。さらに「採用を検討したい」まで含めた採用人数は 851 人となり、定員の 10.6 倍の水準となった。

また、平成 29 年 9 月に公認心理師法が施行され、「今日、心の健康の問題は、国民の生活に関わる重要な問題となっており、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場における心理職の活用の促進は、喫緊の課題となっている。しかしながら、我が国においては、心理職の国家資格がないことから、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職が必要とされてきた。法は、このような現状を踏まえ、公認心理師の国家資格を定めて、その業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とするものである。」(「公認心理師法の施行について」(29 文科初第 875 号・障発 0915 第 7 号 平成 29 年 9 月 15 日付通知))という背景とその必要性のもとに国家資格である公認心理師制度がスタートした。

この公認心理師資格は、以下のとおり示す諸課題に対して専門的知識を持つ心理職が必要なことから、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪および産業・労働といった様々な分野で活躍が期待されている。

- ・保健医療の分野では、厚生労働省「患者調査」により同省が作成した「精神疾患を有する総患者数の推移」によると、精神疾患患者数は平成 23 年度 320.1 万人、平成 26 年度 392.4 万人、平成 29 年度 419.3 万人と年々増加している(意見対応資料 12)。
- ・福祉の分野では、厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」によると、児童虐待の相談件数は平成 29 年度 133,778 件、平成 30 年度 159,838 件、令和元年度 193,780 件と大きく増加している(意見対応資料 13)。このため、平成 30 年に政府により「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」が策定され、公認心理師などが任用される児童福祉司を平成 29 年度の約 3,240 人から令和 4 年度までに 2,020 人増員し 5,260 人へ、また子どもへのカウンセリング等を充実させるため、児童心理司を平成 29 年の 1,360 人から令和 4 年度までに 790 人増員し 2,150 人へ、さらに令和 6 年度までに 350 人積み増して 2,500 人にする計画が進行中である(意見対応資料 14)。

- ・教育の分野では、文部科学省「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によると、「いじめの認知件数」は平成 29 年度 414,378 件、平成 30 年度 543,933 件、令和元年度 612,496 件と増加傾向にある。それに伴い、不登校児童生徒数や暴力行為の発生件数も高いままとまっている（意見対応資料 15）。また、文部科学省「令和 2 年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」によると、児童・生徒（小学校・中学校・高等学校）の自殺者数も、平成 28 年度の 289 人が、令和元年度は 339 人、令和 2 年度は 479 人と増加しており、ますますスクールカウンセラー等の心理職の活躍が必要とされている状況にある（意見対応資料 16）。
- ・司法・犯罪の分野では、法務省「令和 2 年度版再犯防止推進白書」にあるとおり再犯防止に係る専門的知識を持つ心理職による心理相談等の実施などの取組みが記載され、少年鑑別所や矯正施設でのその役割が重要視されている。
- ・産業・労働の分野では、厚生労働省「労働安全衛生調査（実態調査）」によると、メンタルヘルス不調により連続 1 カ月以上休業した労働者がいた事業所の割合は平成 29 年度 0.4%、平成 30 年度 6.7%で、また退職した労働者がいた事業所の割合は 0.3%から 5.8%へ急増している（意見対応資料 17）。

以上のように、心理に関する専門知識を有する心理職の重要性は年々高まっており、様々な分野で活躍を期待されていると判断できる。

これらのアンケート調査結果や心の健康に対する社会のニーズと国の各種取組み等から本学の心理学部心理学科の社会的人材需要は相当に高いものと考えられる。

（まとめ）

上記のとおり、主な通学圏の受験者層の推移に懸念が少ないこと、本学の既設学科の募集状況が順調であること、心理学系統の募集環境が好調であること、競合する他大学の状況及び立地条件等から募集上の不安が少ないこと、新たに実施した高校生アンケートから十分な数の入学意向者が確認できたこと、また、企業等の人材需要アンケートにおいて、社会的人材需要が高いことが確認されたこと、心の健康に対する専門的知識を持つ心理職が様々な分野で求められ、ますますその活躍が期待されている状況にあることから、本学心理学部心理学科（入学定員 80 人）は長期的かつ安定的に学生を確保できると考える。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (3 ページ)

新	旧
<p>ア 定員充足の見込み 入学定員設定の考え方 ・・・(略)・・・</p> <p>また、後述する競合が見込まれる他大学 5 校の入学定員の平均は 94 名 (資料 4) であり、心理系学部学科として標準的な定員設定であると考え。</p> <p><u>また、後述する令和 3 年 5 月に実施した高校生アンケートでは、定員の 4.8 倍の入学意向者を確認できており、設定した入学定員 80 人の充足は十分に見込めると考えている。</u></p> <p><u>さらに、後述する企業等の人材需要アンケートにおいても、「採用したい」人数は定員の 5.2 倍となっており、定員 80 人に対する人材需要に懸念はないと考えている。</u></p> <p><u>以上のことから、本学心理学部心理学科の入学定員 80 名は適切な設定である。</u></p>	<p>ア 定員充足の見込み 入学定員設定の考え方 ・・・(略)・・・</p> <p>また、後述する競合が見込まれる他大学 5 校の入学定員の平均は 94 名 (資料 4) であり、心理系学部学科として標準的な定員設定であると考え。</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (7 ページ～8 ページ)

新	旧
<p>イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 . . . (略) . . . 高校生アンケート . . . (略) . . .</p> <p>○神戸女子大学心理学部への入学意向について 高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち、前述の「神戸女子大学心理学部への受験意向について」で、受験意向を示した 430 人に神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した結果、「入学を希望する」が <u>78 人 (18.1%)</u>、「入学を検討する」が <u>268 人 (62.8%)</u> となっている。</p> <p>(削除)</p>	<p>イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 . . . (略) . . . 高校生アンケート . . . (略) . . .</p> <p>○神戸女子大学心理学部への入学意向について 高等学校卒業後に進学を希望している 7,691 人のうち、前述の「神戸女子大学心理学部への受験意向について」で、受験意向を示した 430 人と「わからない」と回答した <u>2,192 人</u>、合計 <u>2,622 人</u>に神戸女子大学心理学部心理学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した結果、「入学を希望する」が <u>160 人 (6.1%)</u>、「入学を検討する」<u>928 人 (35.4%)</u> となり、合計 <u>1,088 人 (41.5%)</u> が神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向を示している。</p> <p><u>入学意向の設問において、「入学を希望する」が 160 人、入学定員 80 人の 2 倍の人数であり、「入学を検討する」が 928 人と定員の 11.6 倍の水準となっている。</u></p> <p>まとめ <u>上記のとおり、地域の通学圏の 18 歳人口の推移に懸念が少ないこと、本学の既設学科の募集状況が順調であること、全国の心理学系統の募集環境が好調であること、競合する他大学同系統学科の志願者数及び志願倍率が上昇していることから、高校生アンケートの結果と同様に、本学心理学部心理学科は安定的に学生確保が見込める状況である。</u></p>

新	旧
<p><u>高校生アンケート（追加）</u></p> <p><u>さらに、より確度の高い入学意向者数を調査するために、追加のアンケートを令和3年5月に実施した。神戸女子大学に資料請求を行った高校生（心理学科の母体となる文学部志望者を中心に抽出）、及び(株)進研アドに対し文学系統の資料請求を行った高校生のうち、高校3年生の女子を対象にアンケートを郵送し、(株)進研アドが回収し集計を行う方法で実施した。6,603人へアンケート用紙と学科パンフレットを送付し、1,474人（22.3%）から回答を得た。このアンケートでは、より入学意向を明確にするため、受験意向及び入学意向を問う際に、「わからない」等の不明確な選択肢をなくして実施した。</u></p> <p><u>以下に第三者機関である(株)進研アド作成のアンケート報告（資料12-2）に基づき、主な質問項目とその結果について記載する。</u></p> <p><u>○回答者の属性等について</u></p> <p><u>回答者の属性（高校所在地）を調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち「兵庫県」が578人（39.2%）と最も多く、次いで「大阪府」319人（21.6%）、「京都府」88人（6.0%）となった。通学圏内であるこの2府1県からの回答者が985人（66.8%）を占めた。</u></p> <p><u>また、所属しているクラスは、多い順に「文系クラス」が912人（61.9%）、「理系クラス」が244人（16.6%）、「コース選択はない」が164人（11.1%）であった。</u></p> <p><u>高校卒業後の進路（複数回答可）は、多い順に「私立大学に進学」が1,097人（74.4%）、「国公立大学に進学」が504人</u></p>	

新	旧
<p>(34.2%)、「専門学校・専修学校に進学」が149人(10.1%)であった。</p> <p>これら回答者の高校所在地、所属クラス、高校卒業後の進路の状況から、本学への入学確度の高い層へアンケートが実施できたと考えている。</p> <p>○興味ある学問系統について</p> <p>興味のある学問系統を調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人(29.4%)でもっとも多く、次いで生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学などを含む)346人(23.5%)、3番目が教員養成・教育学342人(23.2%)であった。</p> <p>○神戸女子大学心理学部心理学科への受験意向について</p> <p>受験意向について調査した結果、アンケート回答者1,474人のうち、「受験したいと思う」は430人(29.2%)、「受験したいと思わない」は1,035人(70.2%)、「無回答」は9人(0.6%)であった。受験意向者430人は、入学定員80人の5.3倍の水準である。</p> <p>○神戸女子大学心理学部心理学科への入学意向について</p> <p>上記の受験意向を示した430人に対し、合格した場合の入学意向を調査した結果、「入学したいと思う」は385人(89.5%)、「入学したいと思わない」は42人(9.8%)、「無回答」は3人(0.7%)であった。入学意向者385人は、入学定員80人の4.8倍</p>	

新	旧
<p>の水準である。</p> <p>当初のアンケート結果に加え、新たにアンケートを実施した調査結果からも入学定員 80 人の充足は十分に見込めると判断している。</p> <p>まとめ</p> <p>上記のとおり、主な通学圏の受験者層の推移に懸念が少ないこと、本学の既設学科の募集状況が順調であること、心理学系統の募集環境が好調であること、競合する他大学の状況及び立地条件等から募集上の不安が少ないこと、また 2 回の高校生アンケートの実施調査結果から十分な数の入学意向者が確認できたこと、また後述する企業等の人材需要アンケートにおいて、社会的人材需要が高いことが確認されたこと、心の健康に対する専門的知識を持つ心理職が様々な分野で求められ、ますますその活躍が期待されている状況にあることから、本学心理学部心理学科（入学定員 80 人）は長期的かつ安定的に学生を確保できると考える。</p>	

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (13 ページ～14 ページ)

新	旧
<p>② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>・・・(略)・・・</p> <p>まとめ</p> <p>・・・(略)・・・</p> <p>これらの調査結果と、今回の調査対象以</p>	<p>② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠</p> <p>・・・(略)・・・</p> <p>まとめ</p> <p>・・・(略)・・・</p> <p>これらの調査結果と、今回の調査対象以</p>

新	旧
<p>外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものと考えられる。</p> <p><u><専門知識を有する心理職の必要性></u></p> <p><u>また、平成 29 年 9 月に公認心理師法が施行され、「今日、心の健康の問題は、国民の生活に関わる重要な問題となっており、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場における心理職の活用の促進は、喫緊の課題となっている。しかしながら、我が国においては、心理職の国家資格がないことから、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職が必要とされてきた。法は、このような現状を踏まえ、公認心理師の国家資格を定めて、その業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とするものである。」（「公認心理師法の施行について」（29 文科初第 875 号・障発 0915 第 7 号 平成 29 年 9 月 15 日付通知）という背景とその必要性のもとに国家資格である公認心理師制度がスタートした。</u></p> <p><u>この公認心理師資格は、以下のとおり示す諸課題に対して専門的知識を持つ心理職が必要なことから、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪および産業・労働といった様々な分野で活躍が期待されている。</u></p> <p><u>・保健医療の分野では、厚生労働省「患者調査」により同省が作成した「精神疾患を有する患者数の推移」によると、精神疾患患者数は平成 23 年度 320.1 万人、</u></p>	<p>外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものと考えられる。</p>

新	旧
<p>平成 26 年度 392.4 万人、平成 29 年度 419.3 万人と年々増加している（資料 16）。</p> <p>・福祉の分野では、厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」によると、児童虐待の相談件数は平成 29 年度 133,778 件、平成 30 年度 159,838 件、令和元年度 193,780 件と大きく増加している（資料 17）。このため、平成 30 年に政府により「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」が策定され、公認心理師などが任用される児童福祉司を平成 29 年度の約 3,240 人から令和 4 年度までに 2,020 人増員し 5,260 人へ、また子どもへのカウンセリング等を充実させるため、児童心理司を平成 29 年の 1,360 人から令和 4 年度までに 790 人増員し 2,150 人へ、さらに令和 6 年度までに 350 人積み増して 2,500 人にする計画が進行中である（資料 18）。</p> <p>・教育の分野では、文部科学省「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」によると、「いじめの認知件数」は平成 29 年度 414,378 件、平成 30 年度 543,933 件、令和元年度 612,496 件と増加傾向にある。それに伴い、不登校児童生徒数や暴力行為の発生件数も高いままとなっている（資料 19）。また、文部科学省「令和 2 年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」によると、児童・生徒（小学校・中学校・高等学校）の自殺者数も、平成 28 年度の 289 人が、令</p>	

新	旧
<p><u>和元年度は 339 人、令和 2 年度は 479 人と増加しており、ますますスクールカウンセラー等の心理職の活躍が必要とされている状況にある（資料 20）。</u></p> <p><u>・司法・犯罪の分野では、法務省「令和 2 年度版再犯防止推進白書」にあるとおり再犯防止に係る専門的知識を持つ心理職による心理相談等の実施などの取組みが記載され、少年鑑別所や矯正施設でのその役割が重要視されている。</u></p> <p><u>・産業・労働の分野では、厚生労働省「労働安全衛生調査（実態調査）」によると、メンタルヘルス不調により連続 1 カ月以上休業した労働者がいた事業所の割合は平成 29 年度 0.4%、平成 30 年度 6.7%で、また退職した労働者がいた事業所の割合は 0.3%から 5.8%へ急増している（資料 21）。</u></p> <p><u>以上のように、心理に関する専門知識を有する心理職の重要性は年々高まっており、様々な分野で活躍を期待されていると判断できる。</u></p> <p><u>上記のとおり、地域的な人材需要、アンケート調査結果、心の健康に対する社会のニーズや国の各種取組み等から本学心理学部心理学科の人材需要は高いものとする。</u></p>	<p><u>以上のことから、本学部で養成する卒業生は、質・量ともに、社会的、地域的な人材需要に即したものであると考える。</u></p>
<p><u>資料 12-2 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告（追加）</u> <u>資料 16 精神疾患を有する患者数の推移（厚生労働省）</u> <u>資料 17 児童相談所での児童虐待相談対応件数（厚生労働省）</u></p>	<p>（資料追加）</p>

新	旧
<u>資料 18 児童虐待防止対策体制総合強化プラン</u> <u>資料 19 いじめの認知（発生）件数の推移（文部科学省）</u> <u>資料 20 自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移（文部科学省）</u> <u>資料 21 労働安全衛生調査（平成 29・30年）</u>	

(添付資料)

意見対応資料 1 : 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告 (追加)

意見対応資料 2 : 神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等

意見対応資料 3 : 近隣女子大学心理学科系の志願者状況

意見対応資料 4 : 神戸女子大学定員充足状況

意見対応資料 5 : 地域別の 18 歳人口の推移 (令和 4 年～令和 14 年)

意見対応資料 6 : 高等学校を卒業した女子の大学等進学状況

意見対応資料 7 : 神戸女子大学既存学科の志願状況

意見対応資料 8 : 認定心理士・公認心理師資格取得者推移

意見対応資料 9 : 学部別の志願者動向

意見対応資料 10 : 近隣女子大学位置関係図

意見対応資料 11 : 卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

意見対応資料 12 : 精神疾患を有する患者数の推移 (厚生労働省)

意見対応資料 13 : 児童相談所での児童虐待相談対応件数 (厚生労働省)

意見対応資料 14 : 児童虐待防止対策体制総合強化プラン

意見対応資料 15 : いじめの認知 (発生) 件数の推移 (文部科学省)

意見対応資料 16 : 自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移 (文部科学省)

意見対応資料 17 : 労働安全衛生調査 (平成 29・30 年)

神戸女子大学
「心理学部 心理学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和3年7月
株式会社 進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の神戸女子大学「心理学部 心理学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査	
調査対象		神戸女子大学への 資料請求者 (文学部志望者中心に抽出)	(株)進研アド保有の DMリストのうち、 文学系統志望者
調査対象者の学年		高校3年生	
調査エリア		全国	兵庫県、大阪府 京都府、滋賀県
調査方法		郵送調査	
調査 対象数	依頼数	6,603人 (資料請求者:5,974人、DMリスト:629人)	
	有効 回収数	1,474人 有効回収率:22.3%	
調査時期		2021年5月14日(金)～2021年6月2日(水)	
調査実施機関		株式会社 進研アド	

3. 調査項目

高校生対象調査	
<ul style="list-style-type: none">・性別・学年・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向・神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向	

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性 (調査結果集計表:P7~P9)

※本調査は、神戸女子大学の「心理学部 心理学科」に対する需要を確認するための調査として設計。神戸女子大学への資料請求者(文学部志望者中心に抽出)と、(株)進研アドが保有するDMリストのうち、文学系統志望者の高校3年生に調査を実施し、1,474人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%、学年は「高校3年生」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「国立」が8人(0.5%)、「公立」が990人(67.2%)、「私立」が451人(30.6%)である。
- 回答者の在籍高校所在地は、神戸女子大学の所在地である「兵庫県」が578人(39.2%)で最も多い。次に隣県の「大阪府」が319人(21.6%)、「京都府」が88人(6.0%)と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が912人(61.9%)で最も多い。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

(調査結果集計表:P10~11)

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が1,097人(74.4%)で最も多い。次いで「国公立大学に進学」が504人(34.2%)、「専門学校・専修学校に進学」が149人(10.1%)と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、神戸女子大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」が433人(29.4%)で最も多い。次いで「生活科学(食物・栄養学、被服学、児童学など含む)」が346人(23.5%)、「教員養成・教育学」が342人(23.2%)と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

(調査結果集計表:P12~P13)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において8割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。」の1,294人(87.8%)であり、僅差で「C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。」が1,292人(87.7%)で続く。
次いで、「B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。」が1,260人(85.5%)と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向・入学意向

(調査結果集計表:P14)

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、430人(29.2%)である。
- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」を「受験したいと思う」と答えた430人のうち、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、385人(89.5%)である。

高校生対象 調査結果まとめ

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向者数

(調査結果集計表:P15)

※ここからは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向者は**385人**(26.1%)で、予定されている入学定員80人を4.8倍以上上回る入学意向者数がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- 「近畿」エリア(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)の高校在籍者からの入学意向者は、1,058人中、**251人**(23.7%)と、予定している入学定員数を3.1倍以上上回る入学意向者数がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 神戸女子大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向者は、1,097人中、**320人**(29.2%)と、予定している入学定員数の4.0倍の入学意向者数がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の学びと関連する「心理学」に興味がある回答者の入学意向者は、433人中、**261人**(60.3%)と、予定している入学定員数を3.2倍以上上回る入学意向者数がみられた。

◇神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度別

- 神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向者は、いずれの特色でも**350人**を超えており、入学意向者数はすべて、予定している入学定員数を4.5倍以上上回っている。新学部の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

高校生対象 調査結果集計表



回答者の属性(性別/学年/高校種別)

■性別

	標本数	男性	女性	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	0.0	100.0	0.0
		0	1,474	0

■学年

	標本数	1年生	2年生	3年生	その他	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		0	0	1,474	0	0

■高校種別

	標本数	国立	公立	私立	無回答
上段:% 下段:件数					
全体	1,474	0.5	67.2	30.6	1.7
		8	990	451	25

回答者の属性(高校所在地)

■高校所在地

上段:% 下段:件数	標本数	北海道	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
		全体	1,474	0.5 8	0.1 1	0.2 3	0.1 1	0.1 2	0.2 3	0.1 2

上段:% 下段:件数	標本数	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
		全体	1,474	0.1 1	0.3 5	0.6 9	1.2 17	1.2 18	0.5 7	0.5 8

上段:% 下段:件数	標本数	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県
		全体	1,474	2.2 32	6.0 88	21.6 319	39.2 578	1.4 21	1.4 20	1.1 16

上段:% 下段:件数	標本数	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県
		全体	1,474	3.1 45	0.6 9	0.7 11	1.6 24	2.2 33	0.5 8	1.6 23

上段:% 下段:件数	標本数	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
		全体	1,474	0.7 11	0.1 2	0.4 6	0.5 7

回答者の属性(所属クラス)

■所属クラス

	標本数	文系クラス (文系コース)	理系クラス (理系コース)	コース 選択はない	その他	無 回答
上段: % 下段: 件数						
全体	1,474	61.9 912	16.6 244	11.1 164	9.0 132	1.5 22

高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

	標本数	国公立大学に進学	私立大学に進学	短期大学に進学	専門学校・専修学校に進学	就職	その他	無回答
上段:%								
下段:件数								
全体	1,474	34.2	74.4	8.9	10.1	2.6	1.2	0.1
		504	1,097	131	149	39	17	1

興味のある学問系統

■興味のある学問系統

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

	標本数	心理学	文学 (考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	語学 (言語学など含む)	法学 (政治学など含む)	経済・経営・商学	社会学	国際関係学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	29.4	16.8	17.1	6.6	14.4	12.3	14.5
		433	248	252	97	212	181	214

	標本数	教員養成・教育学	生活科学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む)	芸術学 (美術・デザイン、音楽など含む)	総合科学	看護・保健学	医・歯・薬学	理学
上段:% 下段:件数								
全体	1,474	23.2	23.5	8.7	3.1	17.5	7.5	2.6
		342	346	128	45	258	110	38

	標本数	工学	農・水産学	その他	まだ決めていない	無回答
上段:% 下段:件数						
全体	1,474	2.2	3.0	4.5	1.8	0.1
		32	44	66	27	1

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

Q3. 神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 国家資格取得を視野に、心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	87.8	35.1	52.6	10.4	1.6	0.2
		1,294	518	776	154	23	3

B. 心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得できます。

上段:% 下段:件数	標本数	魅力度(※)	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
全体	1,474	85.5	29.3	56.2	12.6	1.7	0.2
		1,260	432	828	186	25	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸女子大学「心理学部 心理学科」の 特色に対する魅力度

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」の特色に対する魅力度

C. 心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創りだすスキルを修得できます。

	標本数	魅力度（※）	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない	無回答
			上段：％ 下段：件数				
全体	1,474	87.7	30.9	56.7	10.7	1.5	0.2
		1,292	456	836	157	22	3

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向／ 入学意向

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向

Q4. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。

あなたの気持ちに近い番号1つに〇をつけてください。(1つだけ)

	標本数	受験したいと思う	受験したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	1,474	29.2 430	70.2 1,035	0.6 9

「受験したいと思う」と答えた
430人のみ抽出

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への入学意向

Q5. あなたは、神戸女子大学「心理学部 心理学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。

あなたの気持ちに近い番号1つに〇をつけてください。(1つだけ)

	標本数	入学したいと思う	入学したいと思わない	無回答
上段:% 下段:件数				
全体	430	89.5 385	9.8 42	0.7 3

※母数は、Q4で「受験したいと思う」と答えた430人

神戸女子大学「心理学部 心理学科」への 受験意向別入学意向

■神戸女子大学「心理学部 心理学科」への受験意向別入学意向

※「Q4 受験意向」と「Q5 入学意向」の回答をかけあわせて集計(母数は全回答者)

※神戸女子大学「心理学部 心理学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を神戸女子大学「心理学部 心理学科」の入学意向者と定義する。

入学意向者

		標本数	Q5 「受験したいと思う」 かつ	Q4 「受験したいと思う」 だが	Q4 「受験したいと思わない」	無回答	
上段:% 下段:件数							
全体		1,474	26.1 385	2.8 42	70.2 1,035	0.8 12	
属性別集計	高校所在地別 近畿	1,058	23.7 251	2.6 27	73.1 773	0.7 7	
	高校卒業後の希望進路別 私立大学に進学	1,097	29.2 320	2.9 32	67.1 736	0.8 9	
	興味のある学問系統別 心理学	433	60.3 261	4.4 19	33.7 146	1.6 7	
	「心理学部心理学科」の特色に対する魅力度別	特色A 魅力あり	1,294	29.3 379	3.1 40	66.8 865	0.8 10
		特色B 魅力あり	1,260	29.0 365	3.2 40	67.1 845	0.8 10
		特色C 魅力あり	1,292	28.3 366	3.2 41	67.7 875	0.8 10

卷末資料 調査票



巻末資料 心理学部紹介リーフレット



神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

学科の概要

開設時期：2022年4月
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2
 修業年限：4年
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定
 取得学位：学士（心理学）※予定
 取得資格：認定心理士、情報処理士等
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

設置の理念

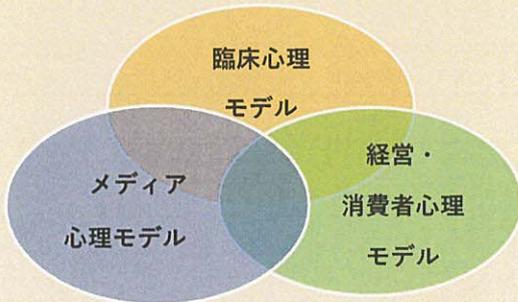
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、
 興味のある進路に向けて、
 以下のような履修モデルがあります。



<臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

<経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

<メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

<心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

アクセス



上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

なんだ、
なんだ。
なんだ。



SHINJO

心と社会をつなぐ。動かす。

2022.4 誕生 心理学部 心理学科 (仮称)

設置構想中

神戸女子大学 心理学部 心理学科 基本情報

開設時期	2022年4月	入学定員	80名※注	取得できる主な資格・免許	■公認心理師受験資格* ■認定心理士(心理調査)など ■上級情報処理士など *受験資格取得には指定科目を履修して卒業し、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実験経験が必要
修業年限	4年	取得学位	学士(心理学)※注		

心理学部心理学科では、次のような人材の育成をめざします。
 ● 心理学に関する知識・言語・認知・人格・社会・福祉などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を家庭的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を有する人材。
 ● 人間における心の相互的な関連を理解し、悩みや苦悶、森羅上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技術を備えた人材。
 ● 企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手段に基づいて調査し、分析することができる人材。
 ● 急速に変化するメディアを介した情報交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材。

Kobe Women's University Open Campus 2021

オープンキャンパス

詳しくはホームページへアクセス!!

イベント 盛りだくさんの1日!

- ◆ バックステージデザイン※ 「たくさん遊べるお菓子のパッケージを考えよう!」
- ◆ パーチャルコンピニ※ 「売上がアップする商品陳列やディスプレイを体験!」 ※3月実施

模擬授業 相談コーナー

内容は変更になる場合があります。必ず公式HPをご確認ください。

ポートアイランドキャンパスへのアクセス

大塚から	姫路から	新神戸から	神戸空港から
JR利用の場合 大塚駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約20分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車 山陽電鉄利用の場合 山陽姫路駅から 山陽電鉄本線(特急電車で約60分) 三宮駅下車 三宮駅下車 山陽電鉄利用の場合 山陽姫路駅から 山陽電鉄本線(特急電車で約60分) 三宮駅下車 三宮駅下車	JR利用の場合 姫路駅から JR山陽本線(神戸線)で(新快速電車で約40分) 三ノ宮駅下車 三ノ宮駅下車 山陽電鉄利用の場合 山陽姫路駅から 山陽電鉄本線(特急電車で約60分) 三宮駅下車 三宮駅下車	JR利用の場合 新神戸駅から 西神・山手線(約2分) 三宮駅下車 三宮駅下車 山陽電鉄利用の場合 山陽姫路駅から 山陽電鉄本線(特急電車で約60分) 三宮駅下車 三宮駅下車	ポートライナー 神戸空港駅から ポートライナーの三宮行き(約9分) 三宮駅下車 三宮駅下車 山陽電鉄利用の場合 山陽姫路駅から 山陽電鉄本線(特急電車で約60分) 三宮駅下車 三宮駅下車
神戸空港・北岸線方面行きなど(約10分)すべての行先のもののみならしに停車します。 みなとじま駅下車			
みなとじま駅より西へ徒歩約5分 神戸女子大学 ポートアイランドキャンパス			



詳細はコチラをCHECK!



オフシャル HP



■ポートアイランドキャンパス
 心理学部(仮称)/健康福祉学部/看護学部/短期大学
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
 ■須磨キャンパス
 文学部/教養学部
 〒654-8585 神戸市須磨区東須磨青島1-1
 ■ホトトライナー
 Tel.078-737-2329 (入試広報課直通)
<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

なんだ、こころ なんだ。

心理学で解き明かせば、世の中がよーく見えてくる。

こんな時、どうするの？

Case 01

「すごいね！」って誰かをほめるとき、あなたならどうする？

- 「すごい！がんばったね」と直接ほめる
- 「あの人がね。すごいってほめてたよ」と伝える

Answer

① ロコミやレビュエなどの第三者から間接的に情報が伝達することによって、より信頼性や信頼感が増す「ウイン-ザ-効果」という心理効果です。

Case 02

カフェでランチの約束。今日こそ彼に告白！どっちがいいかな？

- 運ばれてきた料理を楽しみながら、告白しちゃう
- 大事な話だから、料理が運ばれてくる前に告白する

Answer

① 食事は空腹を満たすだけでなく、人の心にも影響することが解明されています。人はおいしいものを食べると気分がポジティブになる「ランチョクテック」という心理効果です。

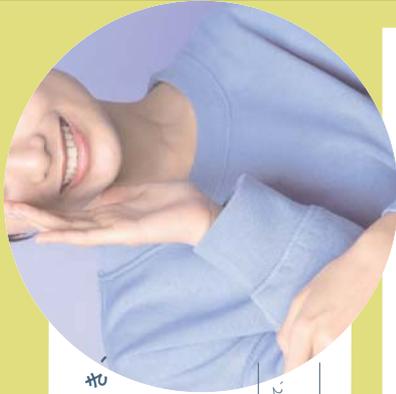
Case 03

めざましインフルエンサー！ SNSへの投稿、あなたならどうする？

- 充実した情報を発信するため、しっかり調べて納得がなければ投稿！
- とにかく発信数を重視！少しの情報でも、毎日定期的投稿！

Answer

① 人間は接触回数が多いほど、親近感がわきやすくなる」という感情の動きは「グイオンズ効果」という心理効果でインフルエンサーマーケティングにおいて重要視されています。

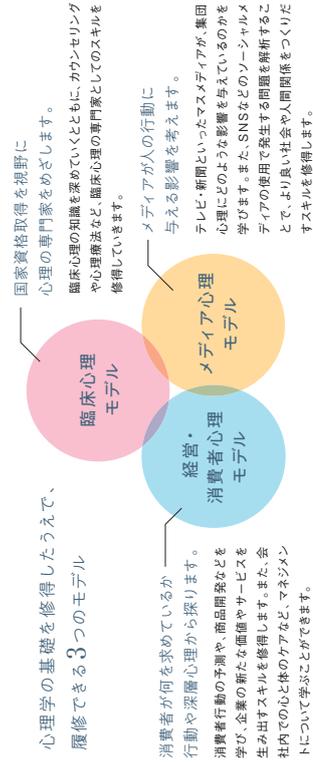


2022年4月 心理学部 心理学科 誕生

人の心と行動の関係など身近なテーマを専門的に探究する心理学。身につけた力は、カウンセラーなどの心理専門職から一般企業まで、あらゆる場で発揮できます。

StudyX

どんなことが学べるの？



Qualification

どんな資格が取れるの？

- 臨床心理
- 公認心理師受験資格*
- 経営・消費心理
- 認定心理士 (心理調査)
- メディア心理
- 上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

- 認定心理士
- 情報処理士
- 認定心理士・情報処理士ともに全員が取得できるカリキュラムです。

*受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学配に必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

Future

将来どこで活躍ができるの？

- 臨床心理
- 公務員(心理職)
- 病院
- 福祉センター
- 児童相談所
- 福祉施設関連企業 など
- 経営・消費心理
- 商品企画
- マーケティング職
- 人事
- 営業職
- 販売関連 など
- メディア心理
- マスコミ
- メディア関係
- 広告業界
- 企業広報 など

※記載の内容は、構想中のため変更になる場合があります。

神戸女子大学文学部・教育学科・国際教養学科の志願状況等

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	4ヵ年平均
文学部 (5学科計)	① 入学定員	385	385	385	385	385
	② 志願者数	2,613	3,304	3,810	2,715	3,111
	③ 受験者数	2,599	3,277	3,791	2,701	3,092
	④ 合格者数	864	1,033	1,077	889	966
	⑤ 入学者数	431	509	424	355	430
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.11	1.32	1.10	0.92	1.11
	⑦ 志願倍率 (②/①)	6.78	8.58	9.89	7.05	8.07
うち 教育学科	① 入学定員	165	165	165	165	165
	② 志願者数	1,182	1,258	1,200	992	1,158
	③ 受験者数	1,178	1,255	1,199	986	1,155
	④ 合格者数	354	377	386	323	360
	⑤ 入学者数	181	185	176	155	174
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.09	1.12	1.06	0.93	1.05
	⑦ 志願倍率 (②/①)	7.16	7.62	7.27	6.01	7.01
うち 国際教養学科 (平成29年度までは 神戸国際教養学科)	① 入学定員	40	40	40	40	40
	② 志願者数	344	458	649	405	464
	③ 受験者数	342	453	646	403	461
	④ 合格者数	105	143	149	113	128
	⑤ 入学者数	55	76	52	44	57
	⑥ 定員充足率 (⑤/①)	1.37	1.90	1.30	1.10	1.41
	⑦ 志願倍率 (②/①)	8.60	11.45	16.22	10.12	11.59

近隣女子大学心理学系の志願者状況

大学名	学部学科名	平成30年度						令和元年						令和2年度								
		定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
武庫川女子大学	文学部 心理・社会福祉学科	160	1,836	1,668	270	143	11.47	0.89	160	1,749	1,551	407	177	10.93	1.10	160	2,020	1,766	452	172	12.62	1.07
神戸学院大学	人間科学部 心理・行動科学科	90	899	828	233	111	9.98	1.23	90	969	897	248	108	10.76	1.20	90	878	763	255	114	9.75	1.26
甲南女子大学	人間科学部心理学科	90	1,379	1,350	538	109	15.32	1.21	90	1,717	1,666	483	110	19.07	1.22	90	1,780	1,737	404	94	19.77	1.04
神戸松蔭女子学院大学	人間科学部 心理学科	70	359	339	272	80	5.12	1.14	70	500	463	296	91	7.14	1.30	70	834	770	286	78	11.91	1.11
神戸親和女子大学	発達教育学部 心理学科	60	244	233	127	50	4.06	0.83	60	261	259	131	47	4.35	0.78	60	295	284	179	71	4.91	1.18
5大学合計		470	4,717	4,418	1,440	493	10.03	1.04	470	5,196	4,836	1,565	533	11.05	1.13	470	5,807	5,320	1,576	529	12.35	1.12

※志願者は、旺文社「大学受験パスナビ 入試結果」より全ての入試の合計数から本学で作成

5大学の平均入学定員は、 $470 \text{人} \div 5 = 94 \text{人}$

神戸女子大学定員充足状況

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率 平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
家政学部		230	252	1.09	230	245	1.06	230	227	0.98	230	213	0.92	1.01
	家政学科	80	85	1.06	80	88	1.10	80	97	1.21	80	85	1.06	1.10
	管理栄養士養成課程	150	167	1.11	150	157	1.04	150	130	0.86	150	128	0.85	0.96
文学部		385	431	1.11	385	509	1.32	385	424	1.10	385	355	0.92	1.11
	日本語日本文学科	60	74	1.23	60	83	1.38	60	66	1.10	60	46	0.76	1.11
	英語英米文学科	60	61	1.01	60	86	1.43	60	61	1.01	60	58	0.96	1.10
	国際教養学科	40	55	1.37	40	76	1.90	40	52	1.30	40	44	1.10	1.41
	史学科	60	60	1.00	60	79	1.31	60	69	1.15	60	52	0.86	1.08
	教育学科	165	181	1.09	165	185	1.12	165	176	1.06	165	155	0.93	1.05
健康福祉学部		160	163	1.01	160	149	0.93	160	160	1.00	160	129	0.80	0.93
	社会福祉学科	80	76	0.95	80	73	0.91	80	76	0.95	80	62	0.77	0.89
	健康スポーツ栄養学科	80	87	1.08	80	76	0.95	80	84	1.05	80	67	0.83	0.97
看護学部	看護学科	80	91	1.13	80	88	1.10	90	87	0.96	90	88	0.97	1.04
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

定員規模別の集計

学部名	学科名	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			定員充足率 平均
		定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	定員	入学者数	定員充足率	
	定員80名未満の学科：4学科 (日本語日本文学科、英語英米文学科、 国際教養学科、史学科)	220	250	1.13	220	324	1.47	220	248	1.12	220	200	0.90	1.15
	定員80名～99名の学科：4学科 (家政学科、社会福祉学科、 健康スポーツ栄養学科、看護学科)	320	339	1.05	320	325	1.01	330	344	1.04	330	302	0.91	1.00
	定員100名超の学科：2学科 (管理栄養士養成課程、教育学科)	315	348	1.10	315	342	1.08	315	306	0.97	315	283	0.89	1.01
大学計		855	937	1.09	855	991	1.15	865	898	1.03	865	785	0.90	1.04

地域別の18歳人口の推移（令和4年～令和14年）

集計	地域	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R4→14 増減率
男女	全国	1,118,555	1,098,898	1,061,074	1,059,128	1,066,954	1,075,000	1,054,736	1,043,969	1,040,723	1,012,766	1,006,691	90.0%
	全国	545,320	536,997	517,942	517,243	520,353	524,514	514,398	508,688	507,489	494,877	492,351	90.3%
	大阪府	37,767	37,284	35,426	35,342	35,910	35,557	35,081	34,627	34,864	34,015	33,715	89.3%
	兵庫県	24,603	24,090	23,289	23,183	23,088	23,638	22,989	22,549	22,628	21,745	21,518	87.5%
女	大阪市	9,673	9,455	9,024	8,998	9,384	9,543	9,341	9,382	9,649	9,607	9,958	102.9%
	尼崎市	1,686	1,628	1,584	1,567	1,607	1,704	1,653	1,620	1,598	1,591	1,667	98.9%
	西宮市	2,335	2,231	2,177	2,120	2,224	2,230	2,122	2,059	2,013	2,078	1,971	84.4%
	芦屋市	411	443	415	441	415	427	408	437	396	377	381	92.7%
	神戸市	6,434	6,196	6,238	6,069	6,068	6,168	5,989	6,051	6,008	5,680	5,630	87.5%
	明石市	1,305	1,322	1,278	1,186	1,297	1,306	1,270	1,268	1,333	1,287	1,330	101.9%
	加古川市	1,269	1,259	1,109	1,198	1,143	1,241	1,208	1,177	1,238	1,108	1,158	91.3%
	姫路市	2,638	2,552	2,480	2,501	2,428	2,453	2,450	2,304	2,389	2,314	2,268	86.0%
	大阪市～姫路市計	25,751	25,086	24,305	24,080	24,566	25,072	24,441	24,298	24,624	24,042	24,363	94.6%

※平成27年国勢調査結果から18歳の人口を記載

高等学校を卒業した女子の大学等進学状況

(単位：人・%)

都道府県名	高等学校卒業女子数			大学等進学者数			大学等進学率			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成30→ 令和2年 増減
全国	524,159	519,975	513,507	302,353	300,392	299,499	57.68	57.77	58.32	0.64
大阪府	37,703	37,082	36,079	23,227	23,258	22,992	61.60	62.72	63.72	2.12
兵庫県	23,418	23,047	22,585	15,135	14,954	14,781	64.62	64.88	65.44	0.82

※「学校基本調査報告書」（平成30から令和2年度）より本学で作成

神戸女子大学既存学科の志願状況

(単位：人、倍)

学部	学科	定員	平成29年度						平成30年度						令和元年度						令和2年度						4年間平均	
			志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	定員充足率	志願倍率	定員充足率	志願倍率
文	日本語 日本文学科	60	460	458	165	74	1.23	7.66	573	567	185	83	1.38	9.55	703	698	173	66	1.10	11.71	446	441	154	46	0.76	7.43	1.11	9.08
	英語 英米文学科	60	344	340	128	61	1.01	5.73	581	576	184	86	1.43	9.68	733	730	174	61	1.01	12.21	407	407	141	58	0.96	6.78	1.10	8.60
文	国際教養 学科	40	344	342	105	55	1.37	8.60	458	453	143	76	1.90	11.45	649	646	149	52	1.30	16.22	405	403	113	44	1.10	10.12	1.41	11.59
	史学科	60	283	281	112	60	1.00	4.71	434	426	144	79	1.31	7.23	525	518	195	69	1.15	8.75	465	464	158	52	0.86	7.75	1.08	7.11
家政	教育学科	165	1,182	1,178	354	181	1.09	7.16	1,258	1,255	377	185	1.12	7.62	1,200	1,199	386	176	1.06	7.27	992	986	323	155	0.93	6.01	1.05	7.01
	家政学科	80	398	394	170	85	1.06	4.97	561	552	201	88	1.10	7.01	526	523	247	97	1.21	6.57	544	542	188	85	1.06	6.80	1.10	6.33
健康 福祉	管理栄養士 養成課程	150	1,616	1,605	316	167	1.11	10.77	1,878	1,867	306	157	1.04	12.52	1,481	1,477	348	130	0.86	9.87	1,008	1,002	277	128	0.85	6.72	0.96	9.97
	社会福祉 学科	80	372	369	158	76	0.95	4.65	369	368	157	73	0.91	4.61	356	355	177	76	0.95	4.45	377	377	164	62	0.77	4.71	0.89	4.60
看護	健康 福祉 学科	80	541	541	142	87	1.08	6.76	614	610	163	76	0.95	7.67	580	578	182	84	1.05	7.25	420	418	130	67	0.83	5.25	0.97	6.73
	看護学科	80 (R1~90)	1,593	1,588	200	91	1.13	19.91	1,865	1,852	192	88	1.10	23.31	1,456	1,454	227	87	0.96	16.17	1,412	1,398	230	88	0.97	15.68	1.04	18.76
計		855 (R1~865)	7,133	7,096	1,850	937	1.09	8.34	8,591	8,526	2,052	991	1.15	10.04	8,209	8,178	2,258	898	1.03	9.49	6,476	6,438	1,878	785	0.90	7.48	1.04	8.83

認定心理士資格取得者数年度別推移

年度	取得者数	取得者累計
平成21年度	3,401	30,004
平成22年度	3,179	33,183
平成23年度	3,138	36,321
平成24年度	3,689	40,010
平成25年度	3,035	43,045
平成26年度	3,002	46,047
平成27年度	3,212	49,259
平成28年度	3,508	52,767
平成29年度	3,510	56,277
平成30年度	3,620	59,897
10年間平均取得者数	3,329	—
10年間増加数	—	29,893

※公益社団法人 日本心理学会HPより本学で作成

公認心理師試験受験者数推移

試験	受験者数	合格者数	合格率 (%)
第1回 (H. 30. 9)	35,020	27,876	79.6
第1回 (H30. 12) 追加	1,083	698	64.5
第2回 (R1. 8)	16,949	7,864	46.4
第3回 (R2. 12)	13,629	7,282	53.4

※一般財団法人 日本心理研修センターHPより本学で作成

学部別の志願者動向

増減率 順位	学部区分	学部名	平成28年度 志願者数	令和2年度 志願者数	増減率 (%)
1	社会科学系	経済経営学部	2,204	7,940	360%
2	社会科学系	国際経営学部	2,547	7,928	311%
3	社会科学系	総合経営学部	1,460	3,573	244%
4	社会科学系	現代社会学部	11,771	28,055	238%
5	その他	情報メディア学部	515	1,188	230%
6	その他	国際コミュニケーション学部	4,871	11,071	227%
7	人文科学系	心理学部	15,051	29,548	196%
8	その他	国際学部	23,860	45,697	191%
9	社会科学系	情報学部	12,240	22,907	187%
10	社会科学系	現代ビジネス学部	4,348	7,918	182%

心理学部の状況

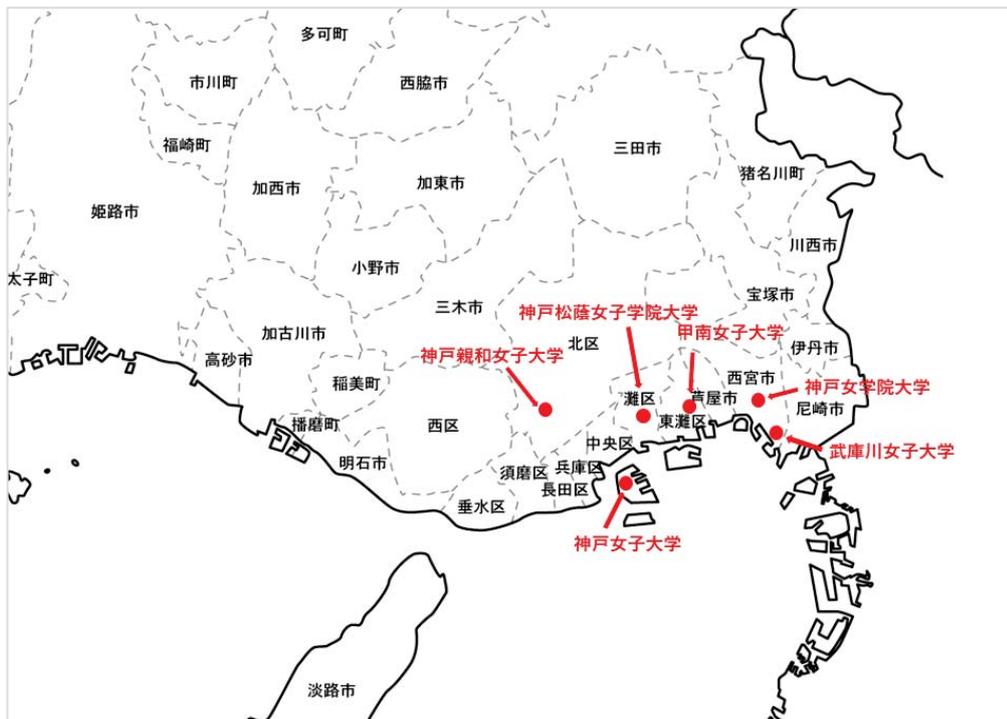
学部名	平成28年度	令和2年度	増減率
志願者	15,051	29,548	196%
入学定員	2,195	2,968	135%
入学者	2,198	3,098	141%
定員充足率	1.00	1.04	
志願倍率	6.85	9.95	

※「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）より本学で作成
 ※平成28年度及び令和2年度の学部区分において一致する学部名を比較

近隣女子大学位置関係（拡大図）



近隣女子大学位置関係（広域図）



神戸女子大学心理学部心理学科(仮称)の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

令和3年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する 企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和4年4月に予定している神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の開設に向けて、神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、1都2府20県（兵庫県、大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、愛知県、東京都、神奈川県、石川県、福井県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、宮崎県、長崎県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の企業等の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、787件の有効回答があった。

(3) 調査方法

神戸女子大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、2,786件の調査対象企業等の採用担当者にアンケート用紙及び神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和2年11月～令和2年12月

(5) 有効回収率等

配布数 : 2,786 件

有効回答数 : 787 件

有効回収率 : 約 28.2% (有効回答 787 件 ÷ 配布数 2,786 件)

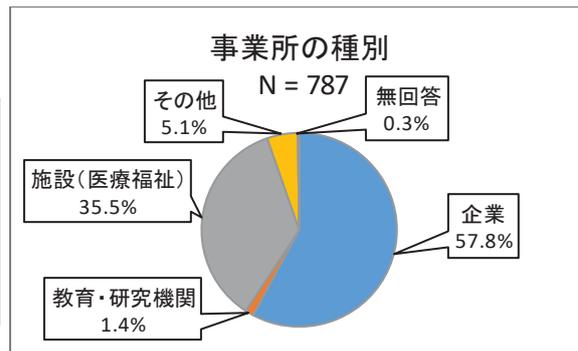
※神戸女子大学が設置を構想している心理学部心理学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「企業」が 455 件 (57.8%) と最も多く、次いで「施設 (医療福祉)」279 件 (35.5%)、「その他」40 件 (5.1%)、「教育・研究機関」11 件 (1.4%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.3%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100

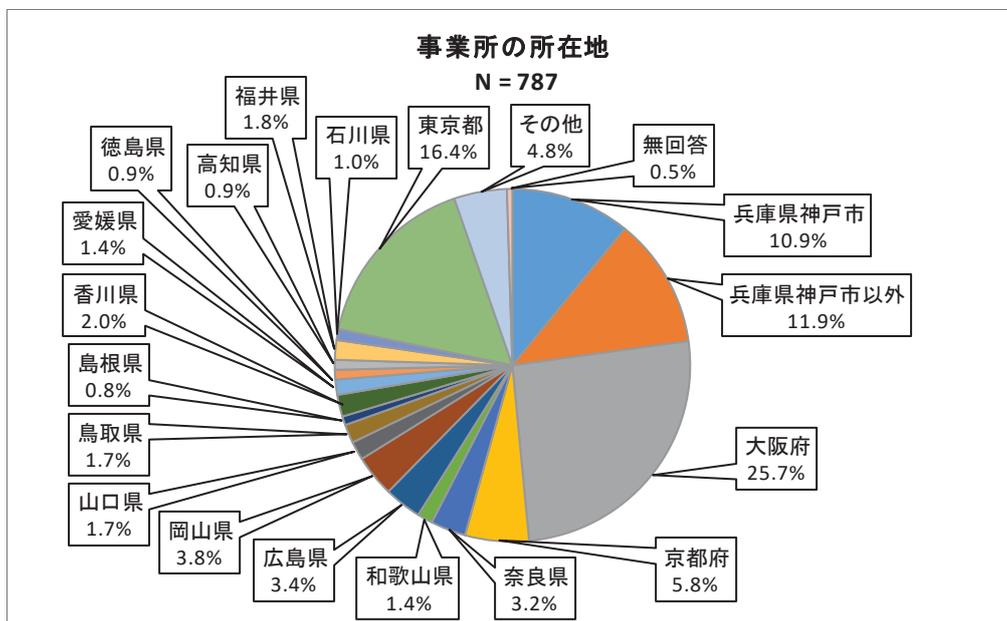


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「大阪府」が 202 件 (25.7%) と最も多く、次いで「東京都」129 件 (16.4%)、「兵庫県神戸市以外」94 件 (11.9%)、「兵庫県神戸市」86 件 (10.9%)、「京都府」46 件 (5.8%)、「その他」38 件 (4.8%)、「岡山県」30 件 (3.8%)、「広島県」27 件 (3.4%)、「奈良県」25 件 (3.2%)、「香川県」16 件 (2.0%)、「福井県」14 件 (1.8%)、「山口県」13 件 (1.7%)、「鳥取県」13 件 (1.7%)、「和歌山県」11 件 (1.4%)、「愛媛県」11 件 (1.4%)、「石川県」8 件 (1.0%)、「徳島県」7 件 (0.9%)、「高知県」7 件 (0.9%)、「島根県」6 件 (0.8%) の順になっている。
 ※「無回答」4 件 (0.5%)

事業所の所在地

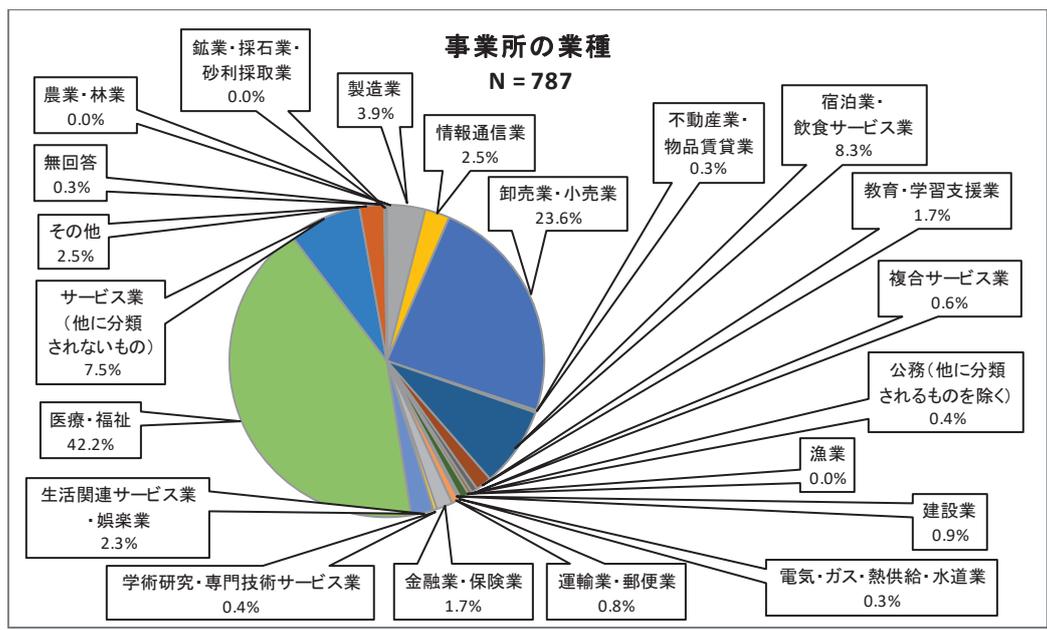
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、10 件以上のものを挙げると、「医療・福祉」が 332 件（42.2%）と最も多く、次いで「卸売業・小売業」186 件（23.6%）、「宿泊業・飲食サービス業」65 件（8.3%）、「サービス業（他に分類されないもの）」59 件（7.5%）、「製造業」31 件（3.9%）、「情報通信業」20 件（2.5%）、「その他」20 件（2.5%）、「生活関連サービス業・娯楽業」18 件（2.3%）、「教育・学習支援業」13 件（1.7%）、「金融業・保険業」13 件（1.7%）の順になっている。 ※「無回答」2 件（0.3%）

事業所の業種			
No.	カテゴリ	(全体)%	
1	農業・林業	0	0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
3	製造業	31	3.9
4	情報通信業	20	2.5
5	卸売業・小売業	186	23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2	0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65	8.3
8	教育・学習支援業	13	1.7
9	複合サービス業	5	0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3	0.4
11	漁業	0	0.0
12	建設業	7	0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3
14	運輸業・郵便業	6	0.8
15	金融業・保険業	13	1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3	0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18	2.3
18	医療・福祉	332	42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59	7.5
20	その他	20	2.5
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	787	100

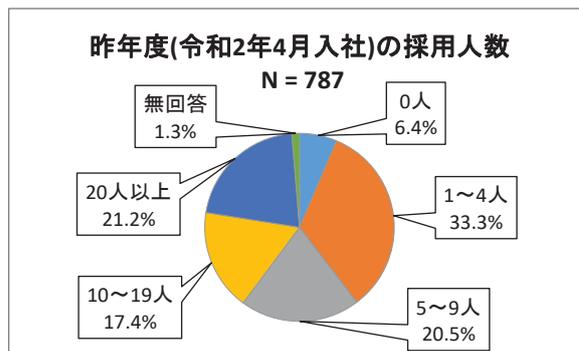


(4) 昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について

昨年度（令和2年4月入社）の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「1～4人」が262件（33.3%）と最も多く、次いで「20人以上」167件（21.2%）、「5～9人」161件（20.5%）、「10～19人」137件（17.4%）、「0人」50件（6.4%）の順になっている。 ※「無回答」10件（1.3%）

昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

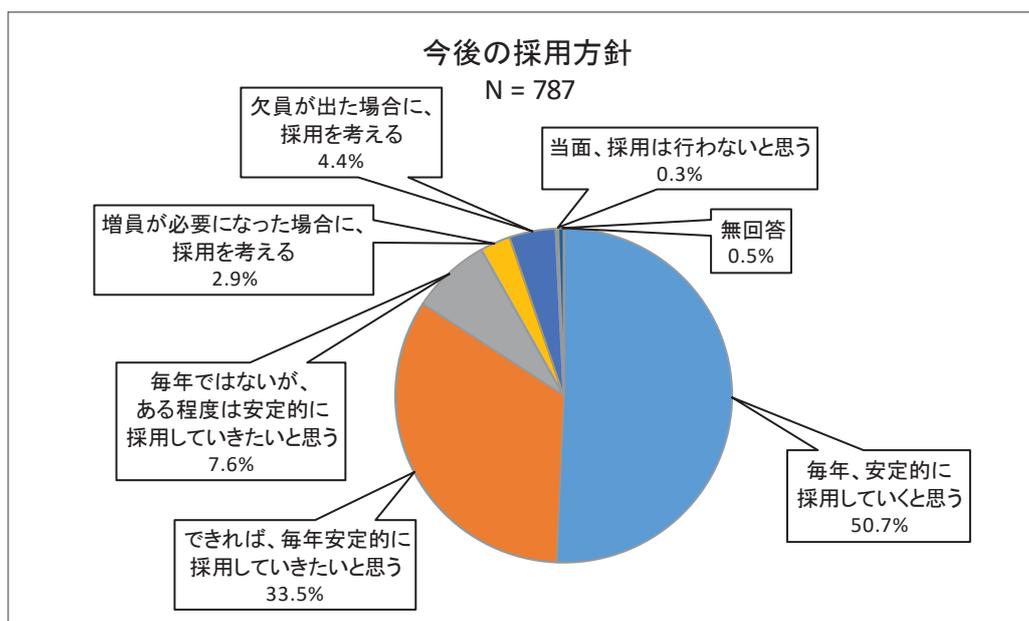
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1～4人	262	33.3
3	5～9人	161	20.5
4	10～19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 399 件 (50.7%) と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」264 件 (33.5%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」60 件 (7.6%)、「欠員が出た場合に、採用を考える」35 件 (4.4%)、「増員が必要になった場合に、採用を考える」23 件 (2.9%)、「当面、採用は行わないと思う」2 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」4 件 (0.5%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



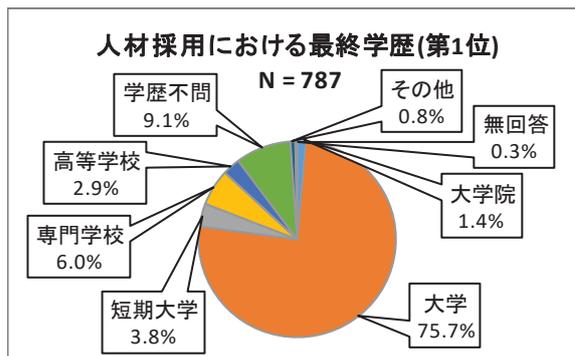
(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「大学」が596件（75.7%）と最も多く、次いで「学歴不問」72件（9.1%）、「専門学校」47件（6.0%）、「短期大学」30件（3.8%）、「高等学校」23件（2.9%）、「大学院」11件（1.4%）、「その他」6件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」2件（0.3%）

人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100



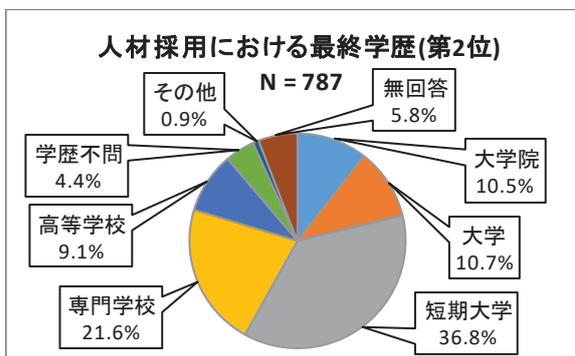
6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「短期大学」が290件（36.8%）と最も多く、次いで「専門学校」170件（21.6%）、「大学」84件（10.7%）、「大学院」83件（10.5%）、「高等学校」72件（9.1%）、「学歴不問」35件（4.4%）、「その他」7件（0.9%）の順になっている。

※「無回答」46件（5.8%）

人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (%ベース)	787	100



(7) 人材を採用する際に重視する点について (第1位)

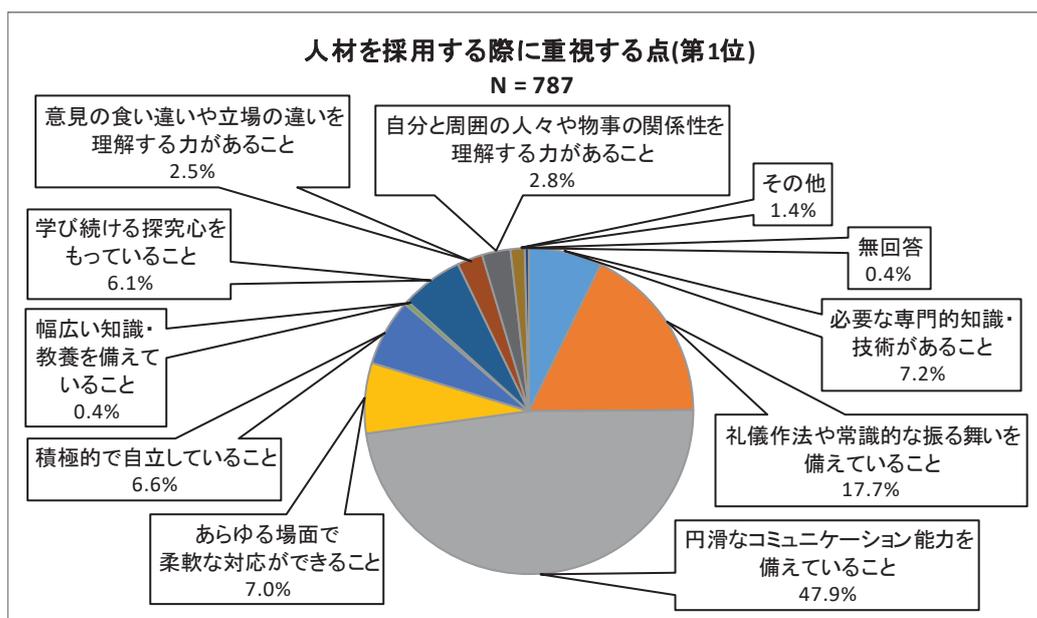
7-1 人材を採用する際に重視する点 (第1位) について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 377 件 (47.9%) と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」139 件 (17.7%)、「必要な専門的知識・技術があること」57 件 (7.2%)、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」55 件 (7.0%)、「積極的に自立していること」52 件 (6.6%)、「学び続ける探究心をもっていること」48 件 (6.1%)、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」22 件 (2.8%)、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」20 件 (2.5%)、「その他」11 件 (1.4%)、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件 (0.4%) の順になっている。

※「無回答」3 件 (0.4%)

人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的に自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



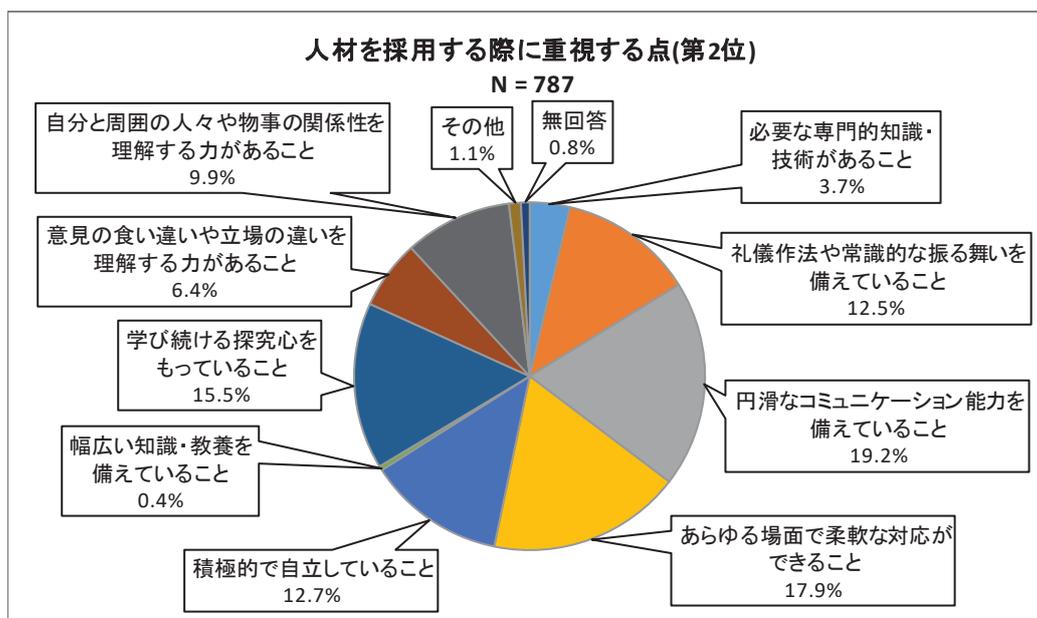
7-2 人材を採用する際に重視する点（第2位）について

人材を採用する際に重視する点について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 151 件（19.2%）と最も多く、次いで「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」141 件（17.9%）、「学び続ける探究心をもっていること」122 件（15.5%）、「積極的で自立していること」100 件（12.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」98 件（12.5%）、「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること」78 件（9.9%）、「意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること」50 件（6.4%）、「必要な専門的知識・技術があること」29 件（3.7%）、「その他」9 件（1.1%）、「幅広い知識・教養を備えていること」3 件（0.4%）の順になっている。

※「無回答」6 件（0.8%）

人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



(8) 神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について

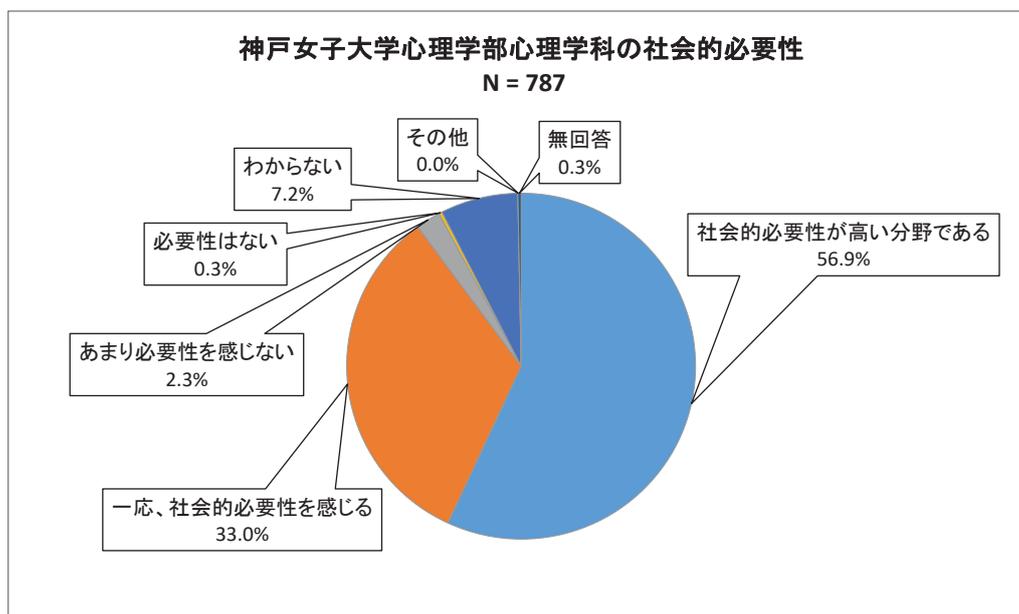
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 448 件 (56.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」260 件 (33.0%)、「わからない」57 件 (7.2%)、「あまり必要性を感じない」18 件 (2.3%)、「必要性はない」2 件 (0.3%) の順になっている。

※「無回答」2 件 (0.3%)

なお、神戸女子大学心理学部心理学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、708 件 (90.0%) となっている。

神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (ベース)	787	100



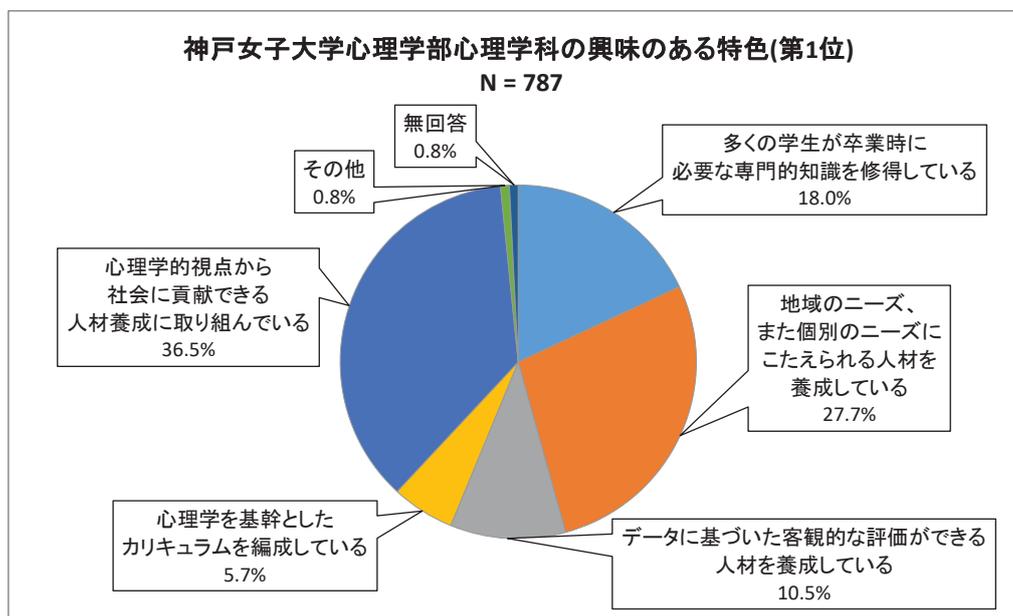
(9) 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色

9-1 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色 (第1位)

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が287件(36.5%)と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」218件(27.7%)、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」142件(18.0%)、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」83件(10.5%)、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」45件(5.7%)、「その他」6件(0.8%)の順になっている。 ※「無回答」6件(0.8%)

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100

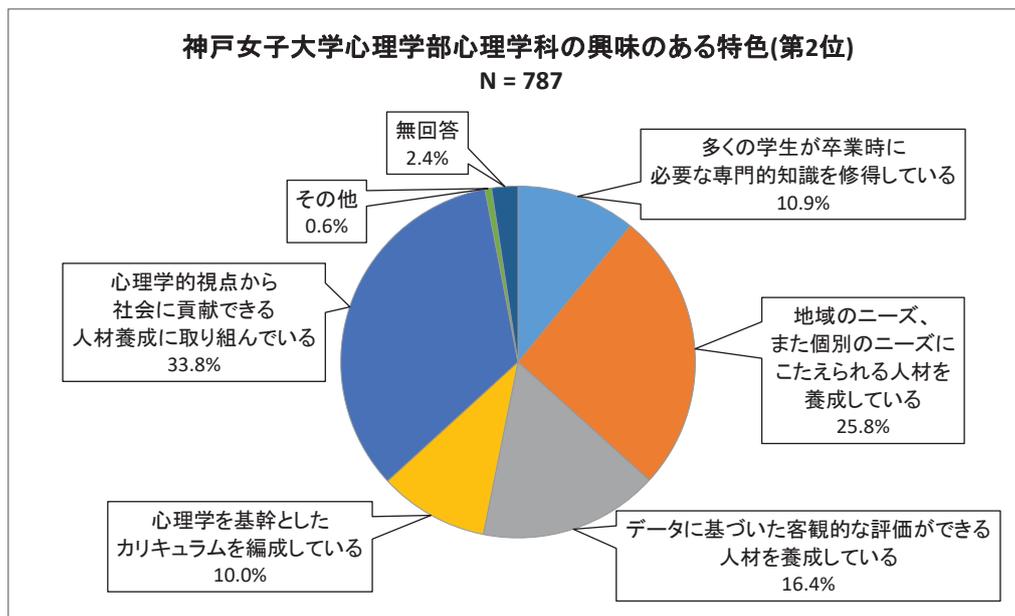


9-2 神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色（第2位）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色について調査した結果、回答のあった企業等787件のうち、「心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる」が266件（33.8%）と最も多く、次いで「地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している」203件（25.8%）、「データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している」129件（16.4%）、「多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している」86件（10.9%）、「心理学を基幹としたカリキュラムを編成している」79件（10.0%）、「その他」5件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」19件（2.4%）

神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100



(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について

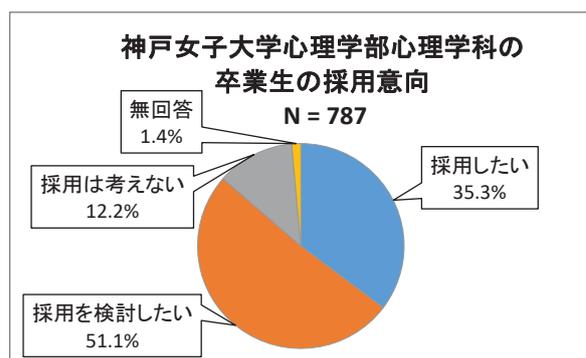
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 787 件のうち、「採用を検討したい」が 402 件 (51.1%) と最も多く、次いで「採用したい」278 件 (35.3%)、「採用は考えない」96 件 (12.2%) の順になっている。

※「無回答」11 件 (1.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、680 件 (86.4%) となっている。

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	278	35.3
2	採用を検討したい	402	51.1
3	採用は考えない	96	12.2
	無回答	11	1.4
	N (%ベース)	787	100

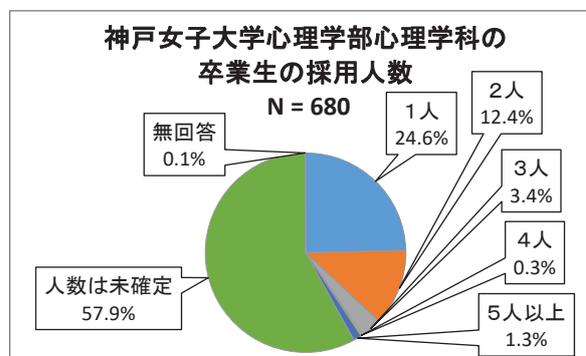


(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について

「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 680 件に対して、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の将来的な採用人数について調査した結果、「人数は未確定」が 394 件 (57.9%) と最も多く、次いで「1 人」167 件 (24.6%)、「2 人」84 件 (12.4%)、「3 人」23 件 (3.4%)、「5 人以上」9 件 (1.3%)、「4 人」2 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.1%)

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1 人	167	24.6
2	2 人	84	12.4
3	3 人	23	3.4
4	4 人	2	0.3
5	5 人以上	9	1.3
6	人数は未確定	394	57.9
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	680	100



3. 調査結果のまとめ

神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(11) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定」(※)）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「5人以上」は最低数である「5人」として計算した。

「人数は未確定」とは、「(10) 神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下表より、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、417人分となる。入学定員は80名であるため、約5.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は851人分となり、これは、入学定員80名に対して、約10.6倍となる。

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計	
1人(A)	58	(a)	(A) × (a)	58
2人(B)	59	(b)	(B) × (b)	118
3人(C)	19	(c)	(C) × (c)	57
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	131	(f)	(F) × (f)	131
無回答	-			

合計採用意向 417人

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討した い」の合計		合計	
1人(A)	167	(a)	(A) × (a)	167
2人(B)	84	(b)	(B) × (b)	168
3人(C)	23	(c)	(C) × (c)	69
4人(D)	2	(d)	(D) × (d)	8
5人以上(E)	9	(e)	(E) × (e)	45
人数は未確定(F)	394	(f)	(F) × (f)	394
無回答	1			

合計採用意向 851人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の企業等への進路も考えられることから、神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

調査票

Q7. 人材を採用する際に、貴社ではどのようなことを重視していますか。
該当する番号を第2位までお選びください。

1. 必要な専門的知識・技術があること
2. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
3. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること
4. あらゆる場面で柔軟な対応ができること
5. 積極的に自立していること
6. 幅広い知識・教養を備えていること
7. 学び続ける探究心をもっていること
8. 意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること
9. 自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること
10. その他（具体的に: _____)

第1位

第2位

〔ここからは、同封の「神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要」リーフレットを〕
ご覧になりながらお答えください

Q8. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である
2. 一応、社会的必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性はない
5. わからない
6. その他（具体的に: _____)

Q9. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の特徴や目指している事柄の中で、興味のあるものはどれですか。あてはまる番号を第2位までお選びください。

1. 多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している
2. 地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している
3. データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している
4. 心理学を基幹としたカリキュラムを編成している
5. 心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる
6. その他（具体的に: _____)

第1位

第2位

Q10. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）卒業生の採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1、2を選ばれた方はQ11へお進みください。
3を選ばれた方はQ12へお進みください。

Q11. 神戸女子大学が設置を計画している心理学部心理学科（仮称）の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. 人数は未確定

番号でご回答ください

Q12. 神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の設置計画について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

学校法人行吉学園 神戸女子大学 学園企画部（担当：三嶋）

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2 電話：(078) 303-4814

計画概要

神戸女子大学心理学部心理学科（仮称）の概要（構想中）

学科の概要

開設時期：2022年4月
 開設場所：神戸市中央区港島中町4-7-2
 修業年限：4年
 入学定員：80名（収容定員320名）※予定
 取得学位：学士（心理学）※予定
 取得資格：認定心理士、情報処理士等
 ※公認心理師の養成カリキュラムに対応予定

設置の理念

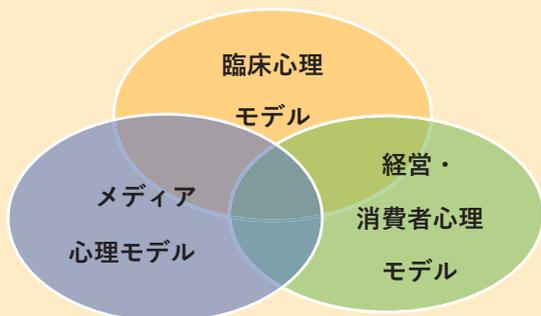
情報が溢れ、価値観が多様化した現代社会において、私たち人間の心や行動がどのような影響を受けているのか心理学の視点から探究する。社会に積極的に参加して他者との対話を通じた相互理解を深め、ものごとを多面的にとらえて行動することができる自立した女性を輩出する。

養成する人材像

心理学における知覚・言語・認知・人格・社会・臨床などの多様な領域と心理学の研究方法についての学びによって、人間の心と行動を実証的な方法に基づき心理学的に理解することができる力を基盤として有した人材を養成する。また、人間における心身の相互的な関連を理解し、悩みや葛藤、発達上の課題などを抱えている人の心理的援助が行える知識と基本的技能を備えた人材を養成する。

そのうえで、企業などの組織における人間の行動や消費者の行動を心理学の視点から理解し、その動向を心理学的手続きに基づいて調査し、分析することができる人材や、急速に発展してきているメディアを介した情報の交流が、人間の心や行動とコミュニケーションのあり方に与える影響を心理学の視点から理解できる人材を育成する。

心理学の基礎を修得したうえで、興味のある進路に向けて、以下のような履修モデルがあります。



<臨床心理モデル>

心理臨床の知識から心理療法まで幅広く学び、臨床心理の専門家としてのスキルを修得

【資格】公認心理師受験資格※、認定心理士（心理調査）
 ※受験資格を得るには規定の単位を修得して卒業後、大学院で必要な科目を修了するか、一定の実務経験が必要

<経営・消費者心理モデル>

心理学の視点から消費者行動の予測や商品開発などを学び、企業などで新たな価値やサービスを生み出すスキルを修得

【資格】認定心理士（心理調査）

<メディア心理モデル>

心理学の視点から新聞・テレビ・SNSなどのメディアが及ぼす影響を学び、より良い社会や人間関係を創り出すスキルを修得

【資格】上級情報処理士

心理学の基礎に関する科目

<心理学の基礎に関する科目>

心理学の基本的理論と人間の心理に関するデータを客観的に分析するスキルを修得

【資格】認定心理士、情報処理士

学費（周辺大学含む）

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年次合計
甲南女子大学 人間科学部心理学科	250,000	1,110,000	1,360,000
武庫川女子大学 文学部心理・社会福祉学科	200,000	1,225,000	1,425,000
京都女子大学 発達教育学部心理学科	250,000	1,090,000	1,340,000
神戸女子大学 心理学部心理学科（仮称）	250,000	※1,120,000	1,370,000

・いずれも諸会費を含みません。
 ・他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報（令和2年5月）に基づきます。
 ※上記費用の他に、教材費・学外実習費等を別途徴収することがあります。

アクセス

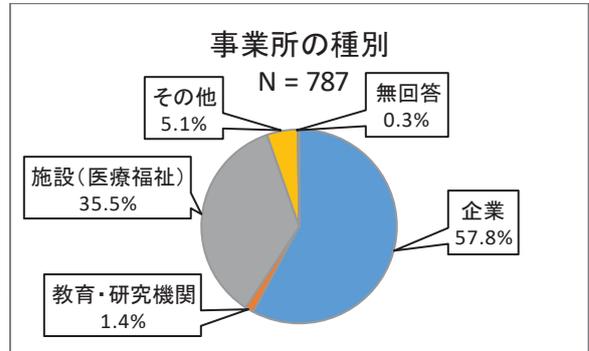


上記の内容は構想中であり、今後変更となる場合があります。

単純集計表

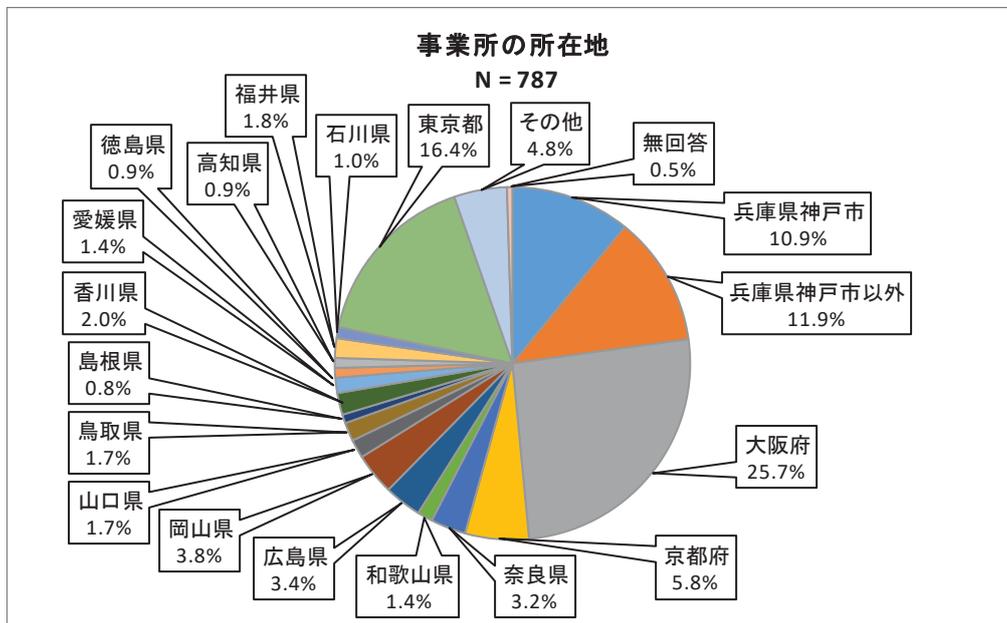
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	企業	455	57.8
2	教育・研究機関	11	1.4
3	施設 (医療福祉)	279	35.5
4	その他	40	5.1
	無回答	2	0.3
	N (% [^] - ^ス)	787	100



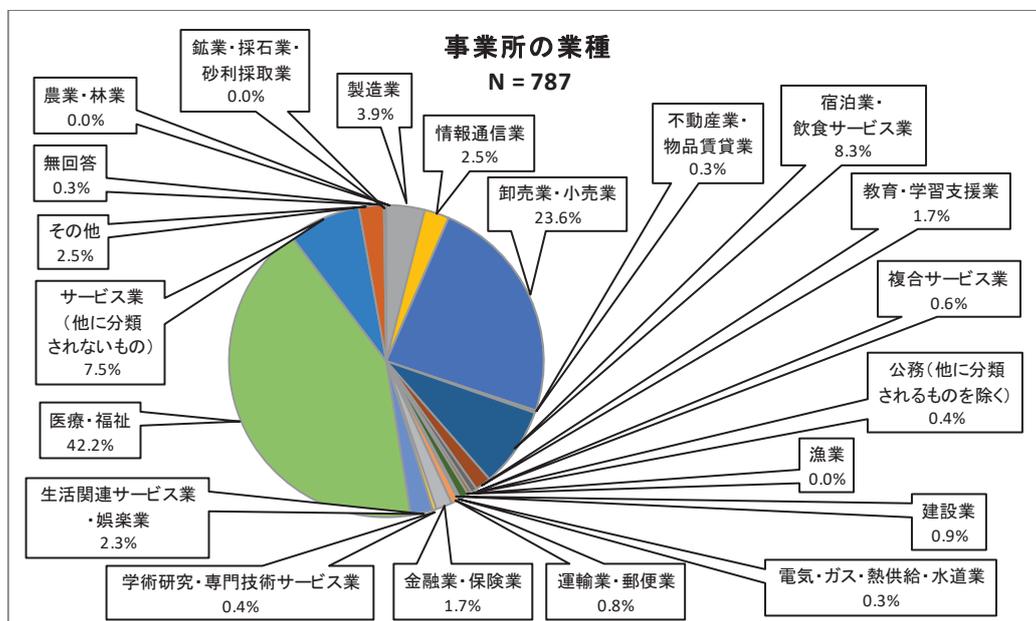
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	兵庫県神戸市	86	10.9
2	兵庫県神戸市以外	94	11.9
3	大阪府	202	25.7
4	京都府	46	5.8
5	奈良県	25	3.2
6	和歌山県	11	1.4
7	広島県	27	3.4
8	岡山県	30	3.8
9	山口県	13	1.7
10	鳥取県	13	1.7
11	島根県	6	0.8
12	香川県	16	2.0
13	愛媛県	11	1.4
14	徳島県	7	0.9
15	高知県	7	0.9
16	福井県	14	1.8
17	石川県	8	1.0
18	東京都	129	16.4
19	その他	38	4.8
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100



事業所の業種

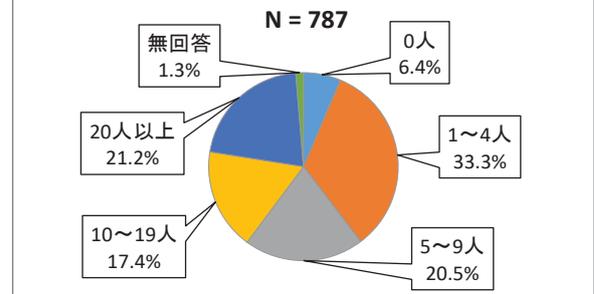
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	0	0.0
2	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
3	製造業	31	3.9
4	情報通信業	20	2.5
5	卸売業・小売業	186	23.6
6	不動産業・物品賃貸業	2	0.3
7	宿泊業・飲食サービス業	65	8.3
8	教育・学習支援業	13	1.7
9	複合サービス業	5	0.6
10	公務（他に分類されるものを除く）	3	0.4
11	漁業	0	0.0
12	建設業	7	0.9
13	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.3
14	運輸業・郵便業	6	0.8
15	金融業・保険業	13	1.7
16	学術研究・専門技術サービス業	3	0.4
17	生活関連サービス業・娯楽業	18	2.3
18	医療・福祉	332	42.2
19	サービス業（他に分類されないもの）	59	7.5
20	その他	20	2.5
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	787	100



昨年度(令和2年4月入社)の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	50	6.4
2	1~4人	262	33.3
3	5~9人	161	20.5
4	10~19人	137	17.4
5	20人以上	167	21.2
	無回答	10	1.3
	N (%ベース)	787	100

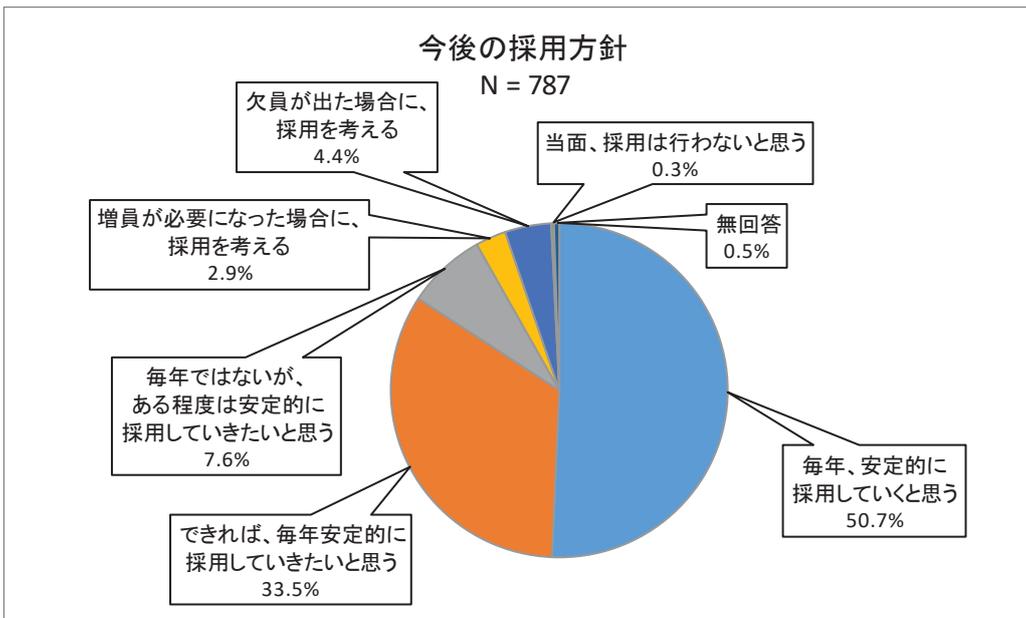
昨年度(令和2年4月入社)の採用人数



今後の採用方針

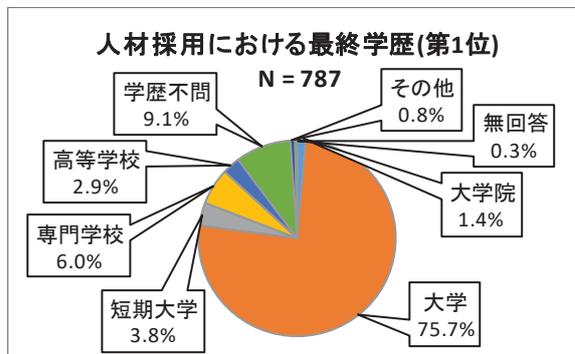
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	399	50.7
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	264	33.5
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	60	7.6
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	23	2.9
5	欠員が出た場合に、採用を考える	35	4.4
6	当面、採用は行わないと思う	2	0.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	787	100

今後の採用方針



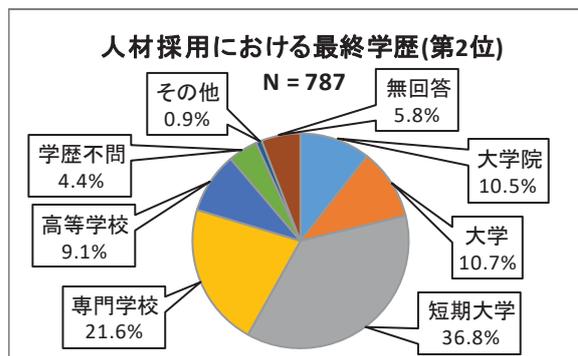
人材採用における最終学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.4
2	大学	596	75.7
3	短期大学	30	3.8
4	専門学校	47	6.0
5	高等学校	23	2.9
6	学歴不問	72	9.1
7	その他	6	0.8
	無回答	2	0.3
	N (% [^] -)	787	100



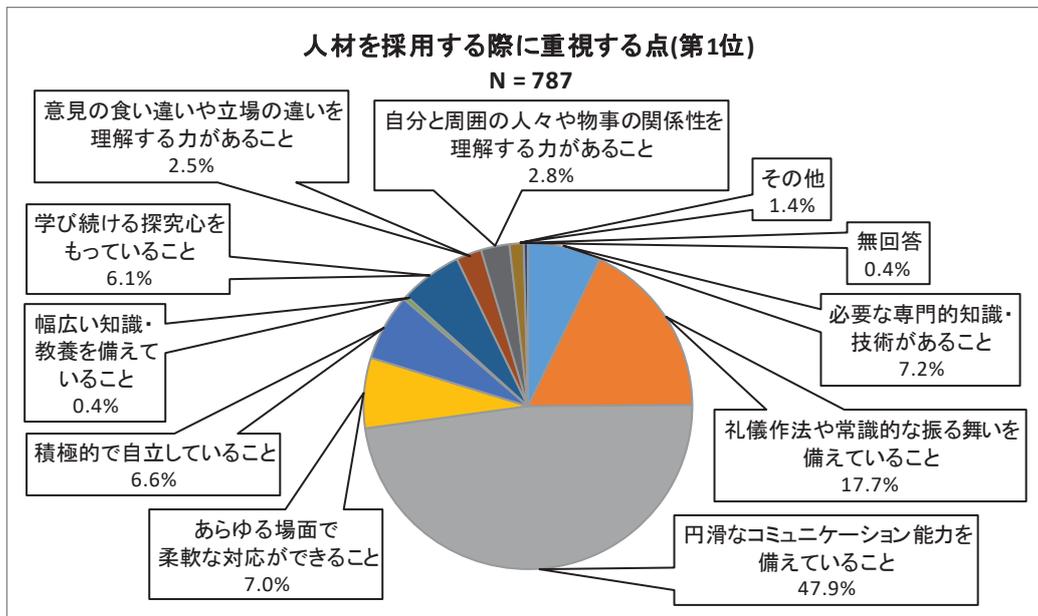
人材採用における最終学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	83	10.5
2	大学	84	10.7
3	短期大学	290	36.8
4	専門学校	170	21.6
5	高等学校	72	9.1
6	学歴不問	35	4.4
7	その他	7	0.9
	無回答	46	5.8
	N (% [^] -)	787	100



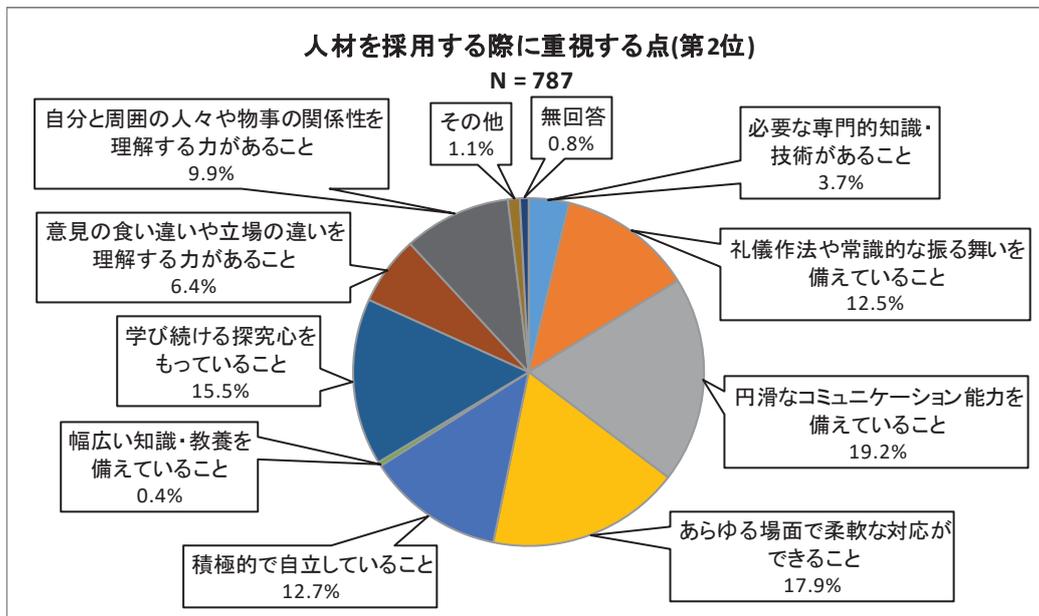
人材を採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	57	7.2
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	139	17.7
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	377	47.9
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	55	7.0
5	積極的で自立していること	52	6.6
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	48	6.1
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	20	2.5
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	22	2.8
10	その他	11	1.4
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	787	100



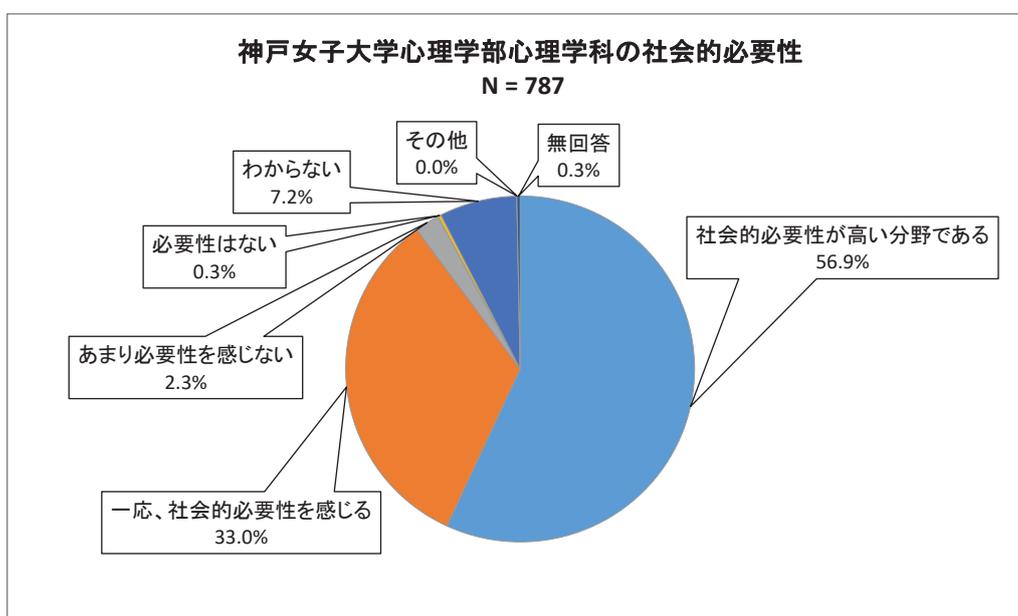
人材を採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	必要な専門的知識・技術があること	29	3.7
2	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	98	12.5
3	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	151	19.2
4	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	141	17.9
5	積極的で自立していること	100	12.7
6	幅広い知識・教養を備えていること	3	0.4
7	学び続ける探究心をもっていること	122	15.5
8	意見の食い違いや立場の違いを理解する力があること	50	6.4
9	自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力があること	78	9.9
10	その他	9	1.1
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



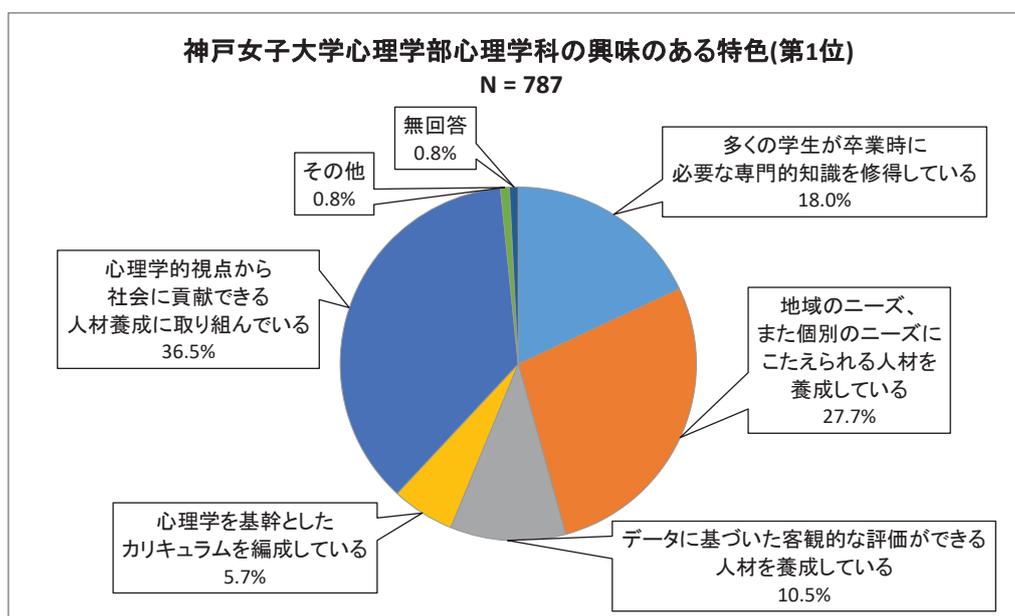
神戸女子大学心理学部心理学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	448	56.9
2	一応、社会的必要性を感じる	260	33.0
3	あまり必要性を感じない	18	2.3
4	必要性はない	2	0.3
5	わからない	57	7.2
6	その他	0	0.0
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	787	100



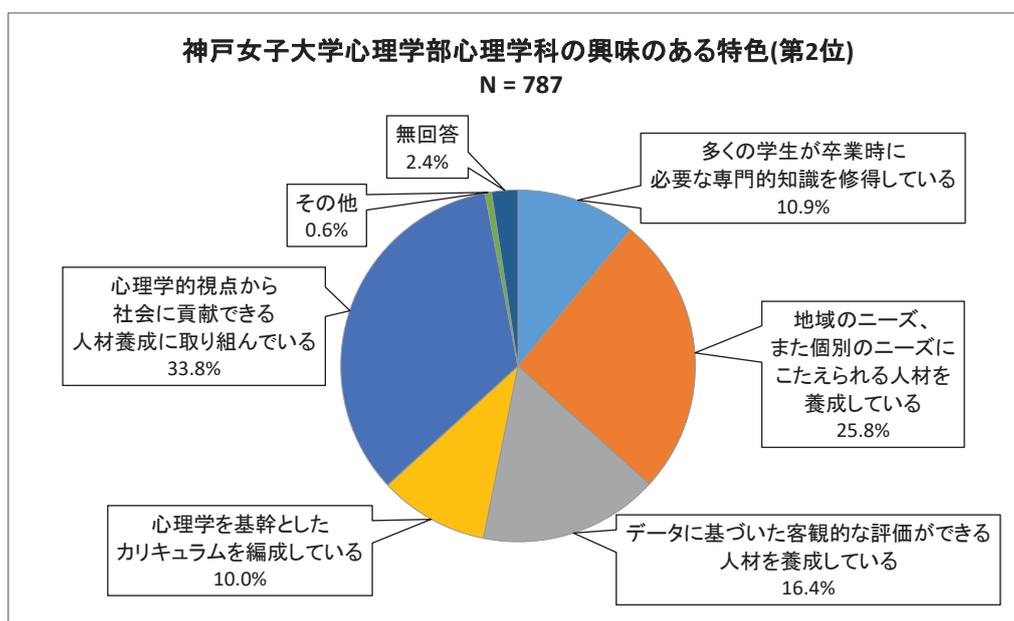
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	142	18.0
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	218	27.7
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	83	10.5
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	45	5.7
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	287	36.5
6	その他	6	0.8
	無回答	6	0.8
	N (%ベース)	787	100



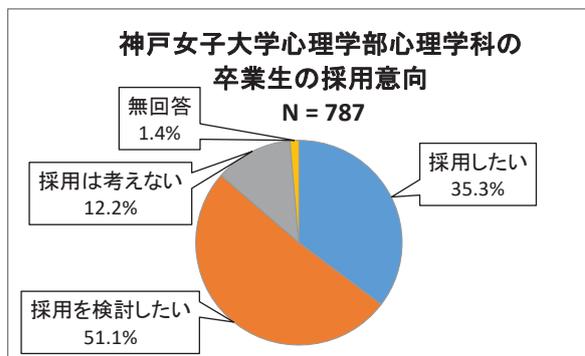
神戸女子大学心理学部心理学科の興味のある特色(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	多くの学生が卒業時に必要な専門的知識を修得している	86	10.9
2	地域のニーズ、また個別のニーズにこたえられる人材を養成している	203	25.8
3	データに基づいた客観的な評価ができる人材を養成している	129	16.4
4	心理学を基幹としたカリキュラムを編成している	79	10.0
5	心理学的視点から社会に貢献できる人材養成に取り組んでいる	266	33.8
6	その他	5	0.6
	無回答	19	2.4
	N (%ベース)	787	100



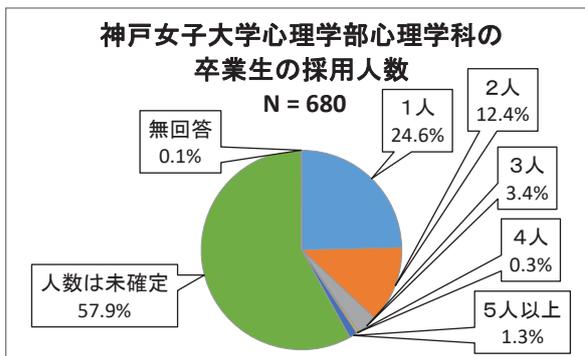
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	278	35.3
2	採用を検討したい	402	51.1
3	採用は考えない	96	12.2
	無回答	11	1.4
	N (%ベース)	787	100



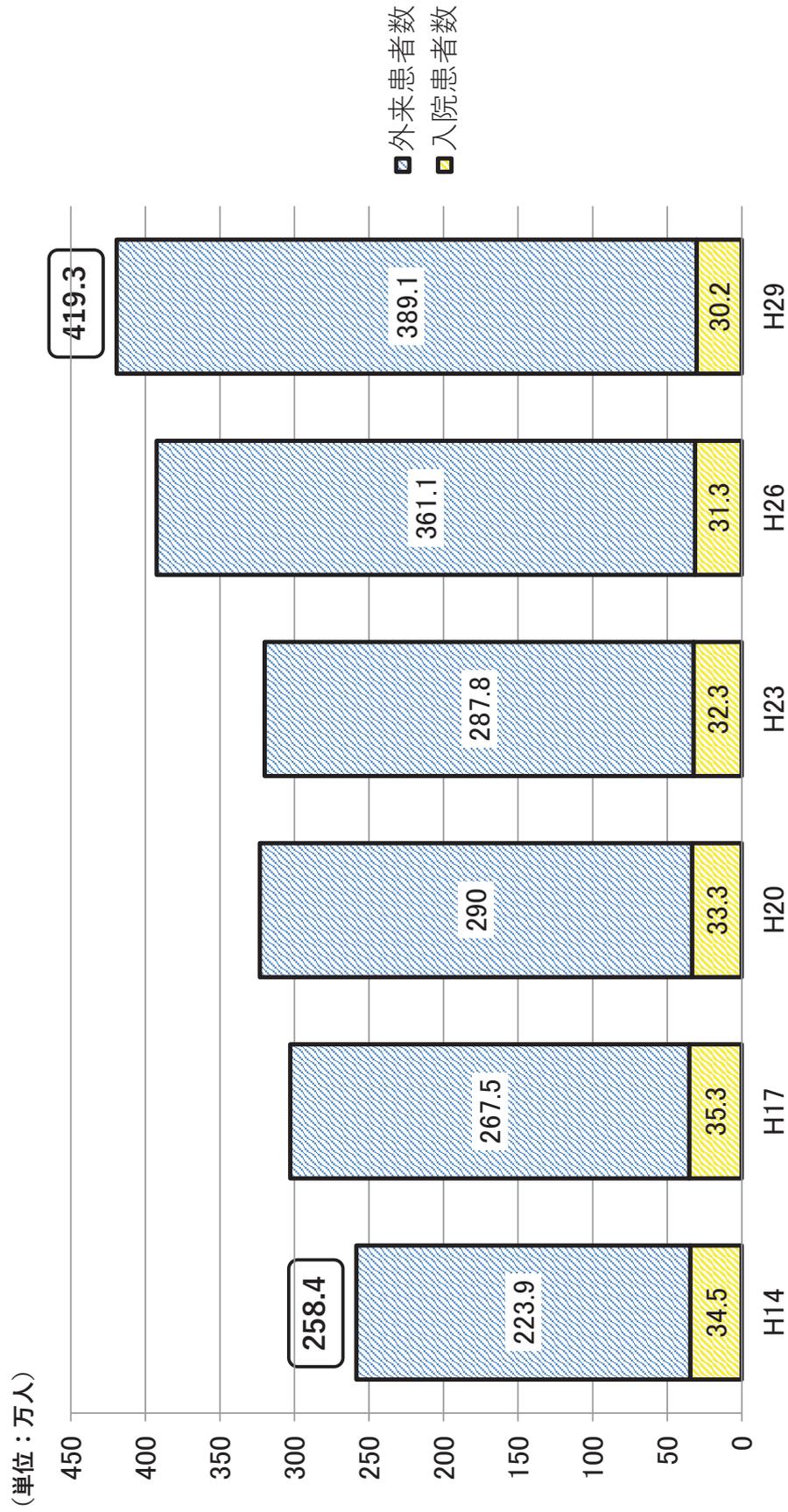
神戸女子大学心理学部心理学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	167	24.6
2	2人	84	12.4
3	3人	23	3.4
4	4人	2	0.3
5	5人以上	9	1.3
6	人数は未確定	394	57.9
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	680	100



精神疾患を有する患者数の推移

- 精神疾患を有する総患者数は約419.3万人であり、増加傾向である。
- 入院患者数は過去15年間で減少傾向である一方、外来患者数は増加傾向である。



※H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている

資料：厚生労働省「患者調査」より
厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課で作成

児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

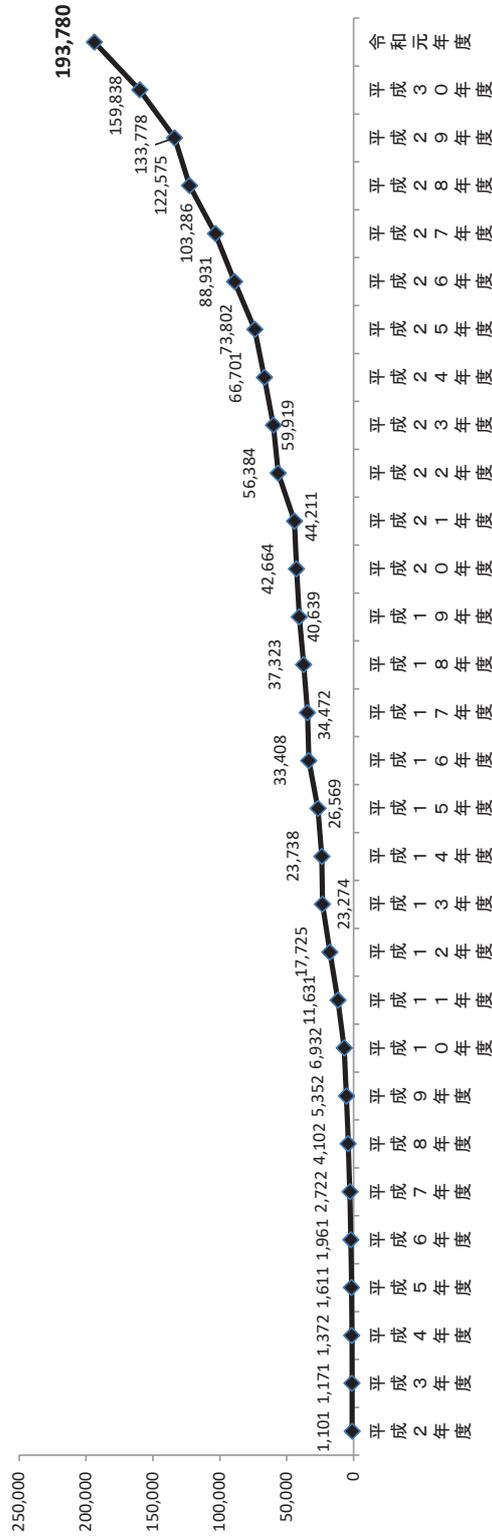
1. 令和元年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

令和元年度中に、全国215か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は193,780件で、過去最多。

※ 対前年度比+21.2% (33,942件の増加)

※ 相談対応件数とは、令和元年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

2. 児童虐待相談対応件数の推移



年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件数	42,664	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780
対前年度比	+5.0%	+3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%

(注) 平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加 (平成30年度：88,391件→令和元年度：109,118件 (+20,727件))
 - 警察等からの通告の増加 (平成30年度：79,138件→令和元年度：96,473件 (+17,335件))
- (平成30年度と比して児童虐待相談対応件数が大幅に増加した自治体からの聞き取り)
- 心理的虐待が増加した要因として、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力がある事案 (面前DV) について、警察からの通告が増加。

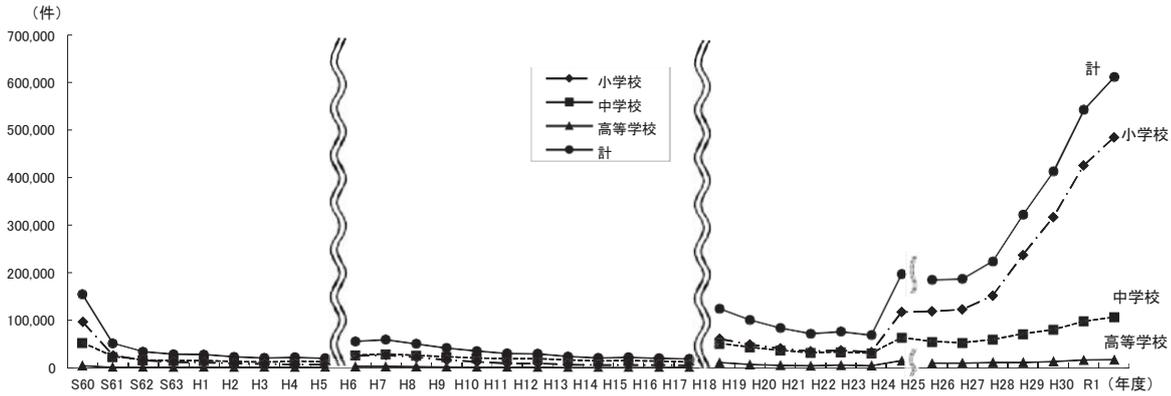
厚生労働省「令和元年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」より

新プランの目標

	計画期間(2019年度から2022年度まで) ※保健師については2020年度を目標とする。			
	2017年度実績		配置目標	増員数
【児童相談所】				
児童福祉司	3,240 人	→	5,260 人	+ 2,020 人程度
うち スーパーバイザー	620 人	→	920 人	+ 300 人程度
うち 里親養育支援児童福祉司			各児童相談所	—
うち 市町村支援児童福祉司			都道府県:30市町村に1人 指定都市:1人	—
児童心理司	1,360 人	→	2,150 人 ^{【注3】}	+ 790 人程度
保健師 ^{【注1】}	100 人 ^{【注2】}	→	各児童相談所 (2020年度まで)	+ 110 人程度
合計	4,690 人	→	7,620 人	+ 2,930 人程度
【市町村、要対協調整機関】				
子ども家庭総合支援拠点 (2018年2月実績)	106 市町村	→	全市町村	—
要対協調整機関調整担当者 (2018年2月実績)	988 市町村	→	全市町村	—
【注1】「保健師」については、児童福祉法の規定上は「医師又は保健師」とされている。				
【注2】複数人配置している児童相談所の人数を含めると、140人				
【注3】2024年度までに2,500人				
【注4】進捗状況等を踏まえ、必要に応じて目標の前倒し等の見直しを行うことがあり得る。				

「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」より

<参考1> いじめの認知(発生)件数の推移



	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
小学校	96,457	26,306	15,727	12,122	11,350	9,035	7,718	7,300	6,390
中学校	52,891	23,690	16,796	15,452	15,215	13,121	11,922	13,632	12,817
高等学校	5,718	2,614	2,544	2,212	2,523	2,152	2,422	2,326	2,391
計	155,066	52,610	35,067	29,786	29,088	24,308	22,062	23,258	21,598

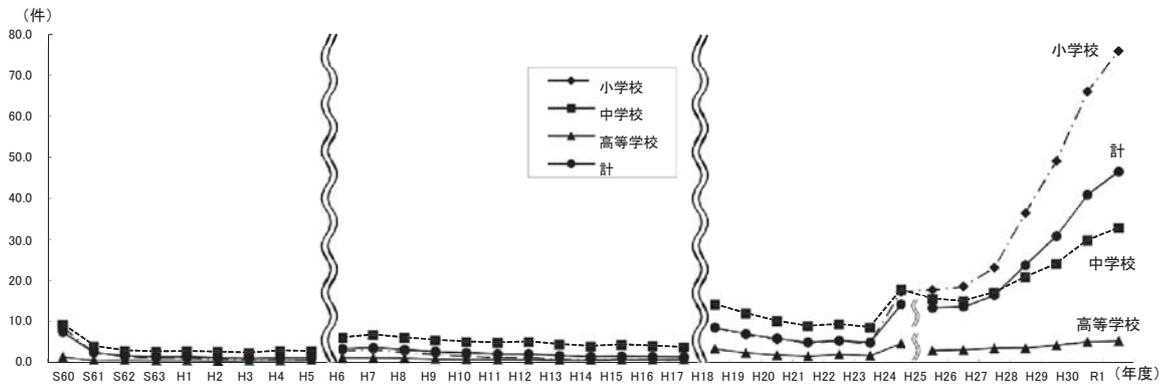
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	25,295	26,614	21,733	16,294	12,858	9,462	9,114	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087
中学校	26,828	29,069	25,862	23,234	20,801	19,383	19,371	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794
高等学校	4,253	4,184	3,771	3,103	2,576	2,391	2,327	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191
特殊教育諸学校	225	229	178	159	161	123	106	77	78	71	84	71
計	56,601	60,096	51,544	42,790	36,396	31,359	30,918	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	60,897	48,896	40,807	34,766	36,909	33,124	117,384	118,748	122,734	151,692	237,256	317,121
中学校	51,310	43,505	36,795	32,111	33,323	30,749	63,634	55,248	52,971	59,502	71,309	80,424
高等学校	12,307	8,355	6,737	5,642	7,018	6,020	16,274	11,039	11,404	12,664	12,874	14,789
特別支援学校(特殊教育諸学校)	384	341	309	259	380	338	817	768	963	1,274	1,704	2,044
計	124,898	101,097	84,648	72,778	77,630	70,231	198,109	185,803	188,072	225,132	323,143	414,378

	30年度	R元年度
小学校	425,844	484,545
中学校	97,704	106,524
高等学校	17,709	18,352
特別支援学校	2,676	3,075
計	543,933	612,496

(注1) 平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。
 (注2) 平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。
 (注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。
 (注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。
 (注5) 小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

<参考2> いじめの認知(発生)率の推移(1,000人当たりの認知件数)



	60年度	61年度	62年度	63年度	H元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
小学校	8.8	2.5	1.6	1.2	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7
中学校	9.2	4.0	2.9	2.7	2.8	2.6	2.4	2.9	2.8
高等学校	1.5	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.7
計	7.6	2.6	1.8	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3

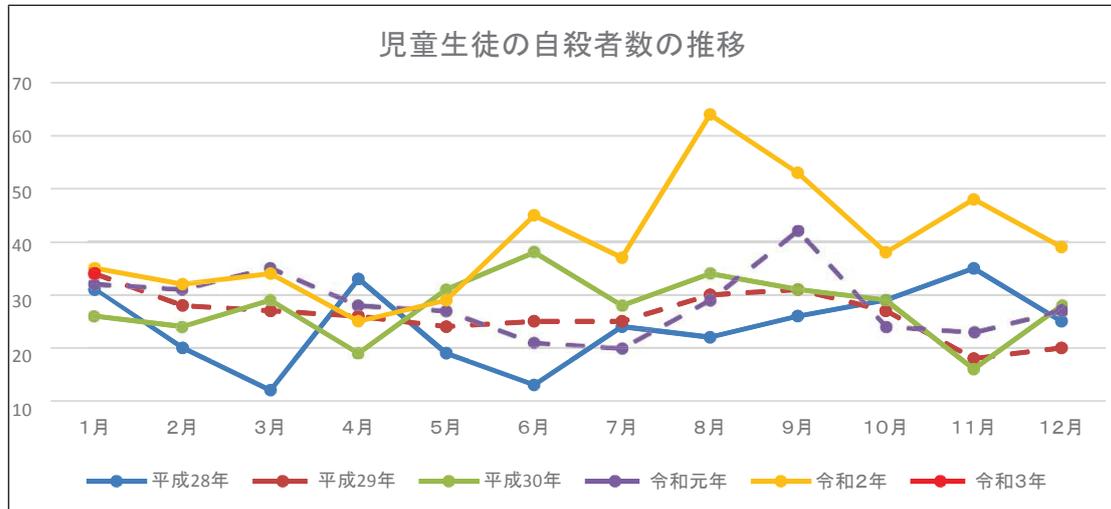
	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	3.0	3.2	2.7	2.1	1.7	1.3	1.3	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7
中学校	6.1	6.8	6.1	5.5	5.1	4.9	5.1	4.5	4.0	4.4	4.1	3.8
高等学校	1.3	1.3	1.2	1.0	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
特殊教育諸学校	2.6	2.6	2.1	1.8	1.8	1.4	1.2	0.8	0.8	0.7	0.9	0.7
計	3.5	3.8	3.3	2.8	2.5	2.2	2.2	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
小学校	8.5	6.9	5.7	4.9	5.3	4.8	17.4	17.8	18.6	23.2	36.5	49.1
中学校	14.2	12.0	10.2	8.9	9.4	8.6	17.8	15.6	15.0	17.1	20.8	24.0
高等学校	3.5	2.5	2.0	1.7	2.1	1.8	4.8	3.1	3.2	3.6	3.7	4.3
特別支援学校(特殊教育諸学校)	3.7	3.2	2.8	2.2	3.1	2.7	6.4	5.9	7.3	9.4	12.4	14.5
計	8.7	7.1	6.0	5.1	5.5	5.0	14.3	13.4	13.7	16.5	23.8	30.9

	30年度	R元年度
小学校	66.0	75.8
中学校	29.8	32.8
高等学校	5.2	5.4
特別支援学校	19.0	21.7
計	40.9	46.5

(注1) 平成5年度までは公立小・中・高等学校を調査。平成6年度からは特殊教育諸学校、平成18年度からは国私立学校を含める。
 (注2) 平成6年度及び平成18年度に調査方法等を改めている。
 (注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数。
 (注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。
 (注5) 小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。

厚生労働省の自殺統計に基づく児童生徒の自殺者数の推移



児童生徒の月別自殺者数の総数(小・中・高)

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
平成29年	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
平成30年	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
令和元年	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
令和2年	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
令和3年	34												34

厚生労働省「自殺の統計:地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
H28	総数	31	20	12	33	19	13	24	22	26	29	35	25	289
	小学生	3	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1	1	12
	中学生	8	6	3	9	3	2	5	10	5	10	9	11	81
	高校生	20	13	9	23	15	11	17	12	20	18	25	13	196
H29	総数	34	28	27	26	24	25	25	30	31	27	18	20	315
	小学生	1	0	1	0	2	1	2	1	0	0	0	1	9
	中学生	9	9	9	7	6	5	11	10	8	10	6	10	100
	高校生	24	19	17	19	16	19	12	19	23	17	12	9	206
H30	総数	26	24	29	19	31	38	28	34	31	29	16	28	333
	小学生	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	6
	中学生	11	8	7	2	6	7	11	15	11	9	7	15	109
	高校生	13	16	22	16	25	31	17	18	20	20	7	13	218
R1	総数	32	31	35	28	27	21	20	29	42	24	23	27	339
	小学生	0	0	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	6
	中学生	11	7	10	7	5	6	6	10	12	2	9	11	96
	高校生	21	24	22	20	22	15	13	19	29	22	14	16	237
R2	総数	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479
	小学生	2	1	1	1	0	1	0	1	2	1	3	1	14
	中学生	12	14	9	7	6	17	9	17	14	9	6	16	136
	高校生	21	17	24	17	23	27	28	46	37	28	39	22	329
R3	総数	34												34
	小学生	0												0
	中学生	9												9
	高校生	25												25

厚生労働省「自殺の統計:地域における自殺の基礎資料」(暫定値)を基に文部科学省において作成

文部科学省「令和2年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」より

3 メンタルヘルス対策に関する事項

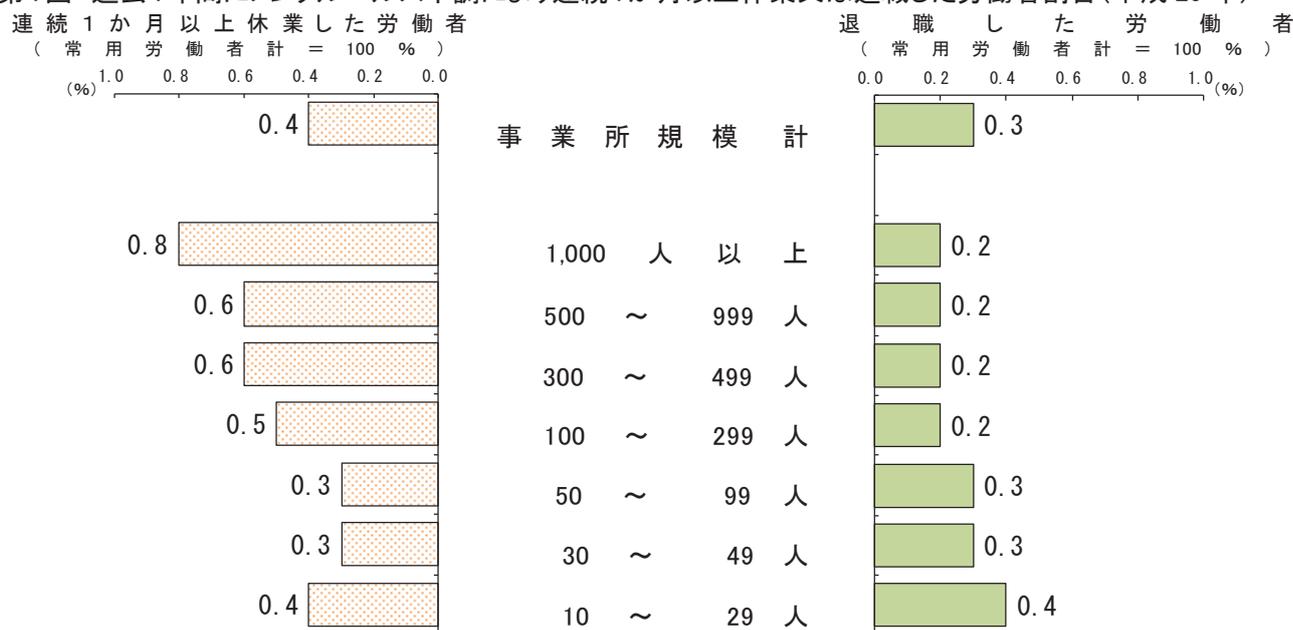
(1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者の状況

過去1年間(平成28年11月1日から平成29年10月31日までの期間。以下同じ。)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者を除く。以下、本項では同じ。)の割合は0.4%[平成28年調査0.4%]、退職した労働者の割合は0.3%[同0.2%]となっている。

事業所規模別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「1,000人以上」が0.8%と最も高く、退職した労働者は「10～29人」が0.4%と最も高くなっている。

産業別にみると、連続1か月以上休業した労働者は「情報通信業」及び「金融業、保険業」が1.2%と最も高く、退職した労働者は「運輸業、郵便業」が0.5%と最も高くなっている。(第1図、第4表)

第1図 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合(平成29年)



注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

第4表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者割合

(単位:%)

区 分	連続1か月以上休業した労働者	退職した労働者
平成29年	0.4	0.3
(産業)		
農業, 林業 (林業に限る。)	0.2	0.1
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.2	0.1
建設業	0.4	0.3
製造業	0.5	0.2
電気・ガス・熱供給・水道業	0.9	0.1
情報通信業	1.2	0.3
運輸業, 郵便業	0.3	0.5
卸売業, 小売業	0.4	0.3
金融業, 保険業	1.2	0.3
不動産業, 物品賃貸業	0.4	0.3
学術研究, 専門・技術サービス業	0.5	0.1
宿泊業, 飲食サービス業	0.3	0.2
生活関連サービス業, 娯楽業	0.2	0.3
教育, 学習支援業	0.3	0.2
医療, 福祉	0.4	0.3
複合サービス事業	0.8	0.2
サービス業 (他に分類されないもの)	0.3	0.4
平成28年	0.4	0.2

注:1) 受け入れている派遣労働者を除いた割合である。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、「退職した労働者」のみに計上している。

厚生労働省「労働安全衛生調査(平成29年)」より

結果の概要

【事業所調査】

1 メンタルヘルス対策に関する事項

(1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業又は退職した労働者がいる事業所の状況

過去1年間(平成29年11月1日から平成30年10月31日までの期間)にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は6.7%、退職者(受け入れている派遣労働者は含まれない。)がいた事業所の割合は5.8%となっている(第1表)。

第1表 過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業
又は退職した労働者数階級別事業所割合

区 分	事業所計	該当する労働者の人数				
		該当する労働者がいた	1人	2人	3人	4人
(単位:%)						
連続1か月以上の休業者 1)	100.0	6.7	4.6	1.0	0.5	0.1
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	91.9	1.7	5.2	4.8	4.6
500～999人	100.0	76.8	14.2	13.2	8.5	5.8
300～499人	100.0	65.6	20.9	14.8	6.2	5.1
100～299人	100.0	37.4	22.8	5.9	5.0	1.2
50～99人	100.0	14.6	10.4	3.1	0.9	-
30～49人	100.0	7.1	5.9	0.9	0.2	-
10～29人	100.0	2.4	2.2	0.2	0.0	-
(再掲)50人以上	100.0	26.4	14.8	4.8	2.7	0.8
退職者 1)2)	100.0	5.8	4.2	1.0	0.3	0.1
(事業所規模)						
1,000人以上	100.0	70.3	19.2	12.5	11.4	3.3
500～999人	100.0	39.9	19.1	10.6	4.3	3.5
300～499人	100.0	31.1	17.1	7.1	1.4	2.5
100～299人	100.0	16.0	11.4	1.8	1.7	0.1
50～99人	100.0	10.6	7.2	1.3	0.9	0.5
30～49人	100.0	7.7	5.0	2.0	0.2	0.4
10～29人	100.0	3.6	2.9	0.5	0.1	0.0
(再掲)50人以上	100.0	14.6	9.4	2.1	1.4	0.6

区 分	該当する労働者の人数				該当する労働者がいなかった
	5人	6～9人	10～29人	30人以上	
連続1か月以上の休業者 1)	0.1	0.2	0.1	0.0	93.3
(事業所規模)					
1,000人以上	2.7	19.7	42.1	11.2	8.1
500～999人	8.0	18.7	8.4	-	23.2
300～499人	6.3	9.5	2.7	-	34.4
100～299人	0.6	1.5	0.4	-	62.6
50～99人	0.1	-	-	-	85.4
30～49人	-	-	-	-	92.9
10～29人	-	-	-	-	97.6
(再掲)50人以上	0.8	1.6	0.9	0.1	73.6
退職者 1)2)	0.1	0.1	0.0	0.0	94.2
(事業所規模)					
1,000人以上	5.1	9.9	8.1	0.9	29.7
500～999人	1.3	0.4	0.7	0.1	60.1
300～499人	0.9	0.9	0.6	0.5	68.9
100～299人	0.4	0.2	0.4	-	84.0
50～99人	0.3	0.4	-	-	89.4
30～49人	0.0	-	-	-	92.3
10～29人	-	-	-	-	96.4
(再掲)50人以上	0.5	0.5	0.3	0.0	85.4

注: 1) 「連続1か月以上の休業者」及び「退職者」には、受け入れている派遣労働者は含まれない。

2) 同じ労働者が連続1か月以上休業した後に退職した場合は、退職者のみに計上している。

厚生労働省「労働安全衛生調査(平成30年)」より